

[続葉有]



会社 知的財産部内 Aichi (JP). 西原 佳佑
(NISHIHARA, Keisuke); 〒4678562 愛知県名古屋
市瑞穂区河岸一丁目 1 番 1 号 ブラザー工
業株式会社 知的財産部内 Aichi (JP).

(74) 代理人: 山 本 尚 (YAMAMOTO, Hisashi);
〒4600011 愛知県名古屋市中区大須 4 丁目 1 0
番 3 2 号 上前津 K D ビル 6 階 Aichi (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保
護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA,
BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN,
CO, CR, CU, CV, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC,
EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR,
HU, ID, IL, IN, IQ, IR, IS, IT, JM, JO, KE, KG, KH,
KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY,
MA, MD, MG, MK, MN, MU, MW, MX, MY, MZ,
NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT,
QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL,
ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG,
US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保
護が可能): ARIPO (BW, CV, GH, GM, KE, LR, LS,
MW, MZ, NA, RW, SC, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG,
ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU,
TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ,
DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS,
IT, LT, LU, LV, MC, ME, MK, MT, NL, NO, PL, PT,
RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF,
CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE,
SN, TD, TG).

添付公開書類:

一 国際調査報告 (条約第21条(3))

storage box (1A), the protective parts (91), (92) prevent the protrusions (861), (851) from coming into contact with a top wall and a bottom wall. A coating part is formed on the back surfaces of the protective parts (91), (92), and paper powder is less likely to be produced even if the protrusions (861), (851) rub against each other.

(57) 要約: テープカセット (8) は保護部材 (9) を装着し、収納箱 (1 A) に収納される。テープカセット (8) のケース (8 1) は上壁 (8 6) と下壁 (8 5) に突起部 (8 6 1), (8 5 1) を有する。保護部材 (9) は位置決部 (9 3) と、位置決部 (9 3) の上端 (9 3 1), 下端 (9 3 2) に接続する保護部 (9 1), (9 2) を有する。位置決部 (9 3) は、ケース (8 1) の前壁 (8 2) に係合する。保護部 (9 1), (9 2) は突起部 (8 6 1), (8 5 1) の形成領域を覆う。収納箱 (1 A) に収納した場合に、保護部 (9 1), (9 2) は突起部 (8 6 1), (8 5 1) が天壁、底壁に接触するのを防ぐ。保護部 (9 1), (9 2) の裏面にはコーティング部が形成されており、突起部 (8 6 1), (8 5 1) と擦れても紙粉を生じにくい。

明 細 書

発明の名称：印刷カセット収納体およびシート

技術分野

[0001] 本発明は、印刷カセット収納体およびシートに関する。

背景技術

[0002] 特許文献1には、印刷に用いられるインクが充填され印刷装置に装着されるインクカートリッジを収納する収納箱が開示されている。インクカートリッジは包装袋に入れられて減圧包装された状態で収納箱に収納される。収納箱はインクカートリッジに限らず、例えば、印刷に用いられる被印刷媒体が収容された印刷カセットを収納するパッケージとしても利用される。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開2009-208785号公報

発明の概要

[0004] 近年、SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の観点から、包装袋を用いずに印刷カセットを収納箱に収納する試みが検討されている。しかしながら、印刷カセットの外面に形成された突起部等が収納箱の壁面に擦れると、紙粉が生ずる場合がある。紙粉が付着した印刷カセットが印刷装置に装着されると、紙粉による印刷結果への影響が生ずる可能性があった。

[0005] 本発明の目的は、印刷カセットが収納箱の内面に擦れないように保護した印刷カセット収納体およびシートを提供することである。

[0006] 本発明の第一態様によれば、印刷装置に装着されて被印刷媒体への印刷に用いられる印刷カセットと、前記印刷カセットを収納する収納箱とを備えた印刷カセット収納体であって、前記収納箱または前記印刷カセットは、前記収納箱の内面から紙粉が発生することを抑制する抑制部材を有することを特徴とする印刷カセット収納体が提供される。よって収納箱は、抑制部材を有

することで紙紛の発生を抑制できるので、内部に収納する印刷カセットに紙粉が付着することによる印刷品質の低下を防ぎ、品質を担保することができる。

[0007] 本発明の第二態様によれば、印刷装置に装着されて被印刷媒体への印刷に用いられる印刷カセットと、前記印刷カセットを収納する紙製の収納箱とを備えた印刷カセット収納体において、前記収納箱が、組み付けられることで形成されるように構成されるシートであって、前記収納箱を組み付けた場合における前記収納箱の内面から紙紛が発生することを抑制する抑制部材を有することを特徴とするシートが提供される。故に、シートを組み付けて形成した収納箱は、抑制部材を有することで紙紛の発生を抑制できるので、内部に収容する印刷カセットに紙粉が付着することによる印刷品質の低下を防ぎ、品質を担保することができる。

図面の簡単な説明

[0008] [図1]印刷装置10とテープカセット8Aを左前上方から見た斜視図である。
[図2]収納箱1Aを右前上方から見た斜視図である。
[図3]収納箱1Aを左後下方から見た斜視図である。
[図4]収納箱1Aの平面図である。
[図5]図4に示すI-I線矢視方向に見た収納箱1Aの断面図である。
[図6]収納箱1Aを展開した台紙100Aを示す展開図である。
[図7]テープカセット8Aと保護部材9を左前上方から見た斜視図である。
[図8]テープカセット8Aと保護部材9を左前下方から見た斜視図である。
[図9]保護部材9を展開した保護台紙200を示す展開図である。
[図10]保護部材9を装着したテープカセット8Aを収納箱1Aに収納する過程を示す図である。
[図11]テープカセット8Aを収納した収納箱1Aの天壁5を組み立てる途中の様子を示す図である。
[図12]収納箱1Bを右前上方から見た斜視図である。
[図13]収納箱1Bを左後下方から見た斜視図である。

[図14]収納箱 1 B の平面図である。

[図15]収納箱 1 B の底面図である。

[図16]台紙 1 O O B を示す展開図である。

[図17]収納箱 1 B の底壁 4 を右後下方から見た斜視図である。

[図18]底壁 4 を組み立てる前の収納箱 1 B を右後下方から見た斜視図である。
。

[図19]図 1 8 の続きであり、底壁 4 を組み立てる途中の収納箱 1 B を右後下方から見た斜視図である。

[図20]図 1 9 の続きであり、底壁 4 を組み立てる途中の収納箱 1 B を右後下方から見た斜視図である。

[図21]天壁 5 を組み立てる前の収納箱 1 B を右前上方から見た斜視図である。
。

[図22]図 2 0 の続きであり、天壁 5 を組み立てる途中の収納箱 1 B を右前上方から見た斜視図である。

[図23]収納箱 1 C を右前上方から見た斜視図である。

[図24]台紙 1 O O C を示す展開図である。

[図25]底壁 4 を組み立てる前の収納箱 1 D を左前下方から見た斜視図である。
。

[図26]底壁 4 を組み立てる途中の収納箱 1 D を左前下方から見た斜視図である。
。

[図27]収納箱 1 E を右前上方から見た斜視図である。

[図28]収納箱 1 E を左後下方から見た斜視図である。

[図29]収納箱 1 E の平面図である。

[図30]収納箱 1 E の底面図である。

[図31]台紙 1 O O D を示す展開図である。

[図32]収納箱 1 E の底壁 4 を右後下方から見た斜視図である。

[図33]底壁 4 を組み立てる前の収納箱 1 E を右後下方から見た斜視図である。
。

[図34]図33の続きであり、底壁4を組み立てる途中の収納箱1Eを右後下方から見た斜視図である。

[図35]図34の続きであり、底壁4を組み立てる途中の収納箱1Eを右後下方から見た斜視図である。

[図36]天壁5を組み立てる前の収納箱1Eを右前上方から見た斜視図である。

[図37]図35の続きであり、天壁5を組み立てる途中の収納箱1Eを右前上方から見た斜視図である。

[図38]収納箱1Fを右前上方から見た斜視図である。

[図39]台紙100Eを示す展開図である。

[図40]収納箱1Gを右前上方から見た斜視図である。

[図41]収納箱1Gを左後下方から見た斜視図である。

[図42]底壁4の平面図である。

[図43]雌フラップ42の底面図である。

[図44]図42に示すⅠーⅠ線矢視方向における収納箱1Gの下部の断面図である。

[図45]収納箱1Gの平面図である。

[図46]台紙100Fを示す展開図である。

[図47]台紙100Fから収納箱1Gを組み立てる流れを示す図である。

[図48]図47の収納箱1Gの背面図である。

[図49]第一の開封方法で開封された収納箱1Gを左後下方から見た斜視図である。

[図50]収納箱1Hを左後下方から見た斜視図である。

[図51]台紙100Gを示す展開図である。

[図52]収納箱1Jを左後下方から見た斜視図である。

[図53]収納箱1Kを左後下方から見た斜視図である。

[図54]収納箱1Lを左後下方から見た斜視図である。

[図55]差込口423が設けられる雌フラップ42の底面図である。

[図56]差込口424が設けられる雌フラップ42の底面図である。

[図57]印刷装置10とテープカセット8を右前下方から見た斜視図である。

[図58]収納箱1Nを右前上方から見た斜視図である。

[図59]収納箱1Nを左後下方から見た斜視図である。

[図60]収納箱1Nの平面図である。

[図61]図60に示すⅠⅠーⅠⅠ線矢視方向に見た収納箱1Nの断面図である。

[図62]収納箱1Nを展開した台紙100Hを示す展開図である。

[図63]テープカセット8を収納箱1Nに収納する過程を示す図である。

[図64]収納箱1Nに収納したテープカセット8に突出片75B, 76Bを挿入した状態を示す図である。

[図65]突出片175A, 176Aの突出長を変更可能な収納箱1Nの斜視図である。

[図66]印刷装置10とテープカセット8を左前上方から見た斜視図である。

[図67]収納箱1Pを右前上方から見た斜視図である。

[図68]収納箱1Pを左後下方から見た斜視図である。

[図69]収納箱1Pの平面図である。

[図70]図69に示すⅠⅤーⅠⅤ線矢視方向に見た収納箱1Pの断面図である。

[図71]収納箱1Pを展開した台紙100Jを示す展開図である。

[図72]テープカセット8を収納箱1Pに収納する過程を示す図である。

[図73]収納箱1Pに収納したテープカセット8を押し付け部70で押し付ける状態を示す図である。

[図74]押し付け部70, 75の長さを説明するための図である。

[図75]押し付け部170, 175, 180を備えた収納箱1Pの斜視図である。

[図76]押し付け部270, 275を備えた収納箱1Pの斜視図である。

[図77]装着部材9Aを展開した装着台紙205を示す展開図である。

[図78]装着部材 9 A を装着したテープカセット 8 を収納箱 1 R に収納する過程を示す図である。

[図79]収納箱 1 R に収納したテープカセット 8 を装着部材 9 A の押し付け部 9 O で押し付ける状態を示す図である。

[図80]装着部材 4 O 9 を装着したテープカセット 8 を収納した収納箱 1 R の斜視図である。

[図81]装着部材 5 O 9 を装着したテープカセット 8 の斜視図である。

発明を実施するための形態

[0009] 以下、本発明の第一実施形態について、図面を参照して説明する。参照する図面は、本発明が採用しうる技術的特徴を説明するために用いられる。すなわち、図面に記載されている構成等は、そのみに限定する趣旨ではなく、単なる説明例である。

[0010] 図 1 を参照し、テープカセット 8 A を説明する。以下説明では、図 1 の上方、下方、右下方、左上方、左下方、右上方をそれぞれ、テープカセット 8 A の上方、下方、前方、後方、左方、右方とする。印刷装置 1 O の方向については、印刷装置 1 O にテープカセット 8 A を装着した状態または非装着の状態の如何にかかわらず、装着状態におけるテープカセット 8 A の方向に倣うものとする。また、後述する収納箱 1 A の方向および保護部材 9 の方向については、保護部材 9 を装着し、収納箱 1 A に収納した状態（図 1 1 参照）におけるテープカセット 8 A の方向に倣うものとする。なお、第一実施形態において、例えば上下方向は、説明のために便宜的に使用され、鉛直方向に限定されない。

[0011] テープカセット 8 A はケース 8 1 と印刷テープ 8 9 とインクリボン 8 7 とを備える。ケース 8 1 は前後方向よりも左右方向に長く、且つ左右方向よりも上下方向に長い略直方体状である。ケース 8 1 は前壁 8 2 と後壁 8 3 と周壁 8 4 とを有する。前壁 8 2 および後壁 8 3 は、それぞれ、前後方向に直交するように延び、且つ前後方向において互いに並ぶ。前壁 8 2 はケース 8 1 の前端に位置する。後壁 8 3 はケース 8 1 の後端に位置する。周壁 8 4 は後

壁 8 3 の周縁 8 3 1 から前壁 8 2 の周縁 8 2 1 まで延びる。周壁 8 4 は四角筒状であり、下壁 8 5 と上壁 8 6 とを含む。下壁 8 5 および上壁 8 6 は、それぞれ、上下方向に直交するように延び、且つ上下方向において互いに並ぶ。下壁 8 5 はケース 8 1 の下端に位置する。上壁 8 6 はケース 8 1 の上端に位置する。上壁 8 6 には、ケース 8 1 に収納された印刷テープ 8 9 をケース 8 1 の外に排出するための排出口 8 8 が設けられる。排出口 8 8 は、上下方向において上壁 8 6 とほぼ同じ高さ位置か、僅かに上方の位置にある。

[0012] 印刷テープ 8 9 は長尺状であり、筒状のテープスプール 8 9 A に巻回されて、ケース 8 1 に収納される。テープスプール 8 9 A はケース 8 1 内の右上部に配置され、両端が前壁 8 2 と後壁 8 3 に支持される。テープスプール 8 9 A の筒穴 8 9 B は、前壁 8 2 と後壁 8 3 においてケース 8 1 の外部に露出される。筒穴 8 9 B は、印刷装置 1 0 の装着部 1 1 内で、テープカセット 8 A の位置決めに使用される。印刷テープ 8 9 の幅方向（短手方向）は前後方向である。このため、テープカセット 8 A の幅方向は前後方向となる。テープカセット 8 A では、印刷テープ 8 9 の幅方向の長さ（テープ幅）が大きくなると、ケース 8 1 の前後方向の幅が大きくなる。

[0013] インクリボン 8 7 は長尺状であり、リボンスプール（図示略）に巻回されて、ケース 8 1 に収納される。インクリボン 8 7 は、印刷テープ 8 9 がテープスプール 8 9 A から排出口 8 8 へ向かう経路の途中において印刷テープ 8 9 と重ね合わせられる経路を通り、筒状の巻取スプール 8 7 A によって巻き取られる。巻取スプール 8 7 A はケース 8 1 内の左下部に配置され、前壁 8 2 と後壁 8 3 に両端が支持される。巻取スプール 8 7 A の筒穴は、インクリボン 8 7 を巻き取るための駆動力が入力されるカムが形成されたカム穴 8 7 B である。カム穴 8 7 B は、前壁 8 2 と後壁 8 3 においてケース 8 1 の外部に露出される。

[0014] また、ケース 8 1 の上壁 8 6 および下壁 8 5 のそれぞれには、突起部 8 6 1, 8 5 1 が設けられている。突起部 8 6 1 は上壁 8 6 の略中央において上方へ向けて突出しつつ左右方向に延びるリブ状であり、上壁 8 6 において最

も上方に突出する構造物である。すなわち突起部 861 は、排出口 88 よりも上方に突出する。突起部 861 の左右両端はそれぞれ前後方向に延びるリブ状に形成されており、平面視で H 字形状である。突起部 851 は下壁 85 の略中央において下方へ向けて突出しつつ左右方向に延びるリブ状であり、下壁 85 において最も下方に突出する構造物である。突起部 851 の左右両端はそれぞれ前後方向に延びるリブ状に形成されており、底面視で H 字形状である。

[0015] ケース 81 の右部で上下方向の中間部には、前壁 82 から右側の周壁 84 にかけて凹部 80 が形成されている。凹部 80 には、テープカセット 8A の情報、例えば、テープ幅、テープ色、テープ種類等を表示したラベルシール 80A が貼付される。

[0016] 印刷装置 10 は、テープカセット 8A を装着する凹部状の装着部 11 を前面側に開口する。装着部 11 内の上部における凹部内壁の近傍には、凹部底壁から前方に延びるフック 12 が形成されている。装着部 11 内の下部における凹部内壁の近傍にも、凹部底壁から前方に延びるフック 13 が形成されている。テープカセット 8A を印刷装置 10 の装着部 11 に装着した場合に、突起部 861、851 は、それぞれフック 12、13 に係合し、テープカセット 8A の位置決めおよび保持がなされる。

[0017] テープカセット 8A は消耗品であり、印刷装置 10 による印刷に使用される。テープカセット 8A が装着部 11 に装着された状態で、印刷装置 10 はケース 81 内から印刷テープ 89 を引き出しながら、印刷ヘッド（図示略）によってインクリボン 87 のインクを印刷テープ 89 に転写し、画像を印刷する。印刷装置 10 は、画像が印刷された印刷テープ 89 を、排出口 88 を介してケース 81 の外に排出する。これにより、印刷テープ 89 に画像が印刷されたラベルが作成される。

[0018] 図 2～図 6 を参照し、収納箱 1A を説明する。収納箱 1A は、例えば図 6 に示す台紙 100A が組み付けられることで形成される。収納箱 1A は箱本体 2 とヘッダ 3 とを備える。箱本体 2 は前後方向よりも左右方向に長く、且

つ左右方向よりも上下方向に長い直方体状であり、テープカセット 8 A を収納する。箱本体 2 は底壁 4 と天壁 5 と周壁 6 とを有する。底壁 4 および天壁 5 は、それぞれ上下方向に直交するように延び、且つ上下方向において互いに並ぶ。底壁 4 は箱本体 2 の下端に位置する。天壁 5 は箱本体 2 の上端に位置する。

[0019] 周壁 6 は底壁 4 の周縁 4 0 から天壁 5 の周縁 5 0 まで延びる。周壁 6 は四角筒状であり、前壁 6 1 と背壁 6 2 と左壁 6 3 と右壁 6 4 とを含む。前壁 6 1 および背壁 6 2 は、それぞれ、前後方向に直交するように延び、且つ前後方向において互いに並ぶ。前壁 6 1 は箱本体 2 の前端に位置する。背壁 6 2 は箱本体 2 の後端に位置する。左壁 6 3 および右壁 6 4 は、それぞれ、左右方向に直交するように延び、且つ左右方向において互いに並ぶ。左壁 6 3 は箱本体 2 の左端に位置する。右壁 6 4 は箱本体 2 の右端に位置する。前壁 6 1 の下端 6 1 1、背壁 6 2 の下端 6 2 1、左壁 6 3 の下端 6 3 1、および右壁 6 4 の下端 6 4 1 は、底壁 4 の周縁 4 0 を構成する（図 3 参照）。前壁 6 1 の上端 6 1 2、背壁 6 2 の上端 6 2 2、左壁 6 3 の上端 6 3 2、および右壁 6 4 の上端 6 4 2 は、天壁 5 の周縁 5 0 を構成する（図 2 参照）。

[0020] 箱本体 2 の内部には空間 7 が形成される。空間 7 は底壁 4 と天壁 5 と周壁 6（前壁 6 1、背壁 6 2、左壁 6 3、右壁 6 4）とによって囲まれる。テープカセット 8 A は、ケース 8 1 の下壁 8 5 が上方から箱本体 2 の底壁 4 と向き合う状態で、空間 7 に配置される。

[0021] ヘッダ 3 は箱本体 2 に設けられる。ヘッダ 3 は壁状であり、ヘッダ片 3 1 とヘッダ片 3 2 とを含む。ヘッダ片 3 1 は背壁 6 2 の上端 6 2 2 に接続し、背壁 6 2 の上端 6 2 2 から上方に延びる。図 3 の仮想線 V 0 は、背壁 6 2 の上端 6 2 2 を示す。ヘッダ片 3 2 はヘッダ片 3 1 の上端 3 1 1 から前方に折り返されて下方に延びる。ヘッダ片 3 2 の下端 3 2 1 は上下方向において天壁 5 の位置にあり、後述の雌フラップ 5 2（図 4 参照）に接続する。

[0022] ヘッダ 3 には孔 3 0 が設けられる。孔 3 0 は正面視で二等辺三角形状であり、ヘッダ 3 の左右方向の中央に配置される。孔 3 0 はヘッダ片 3 1、3 2

を前後方向に貫通する。したがって、孔 30 はヘッダ 3 を前後方向に貫通する。例えば、収納箱 1 A の流通市場において、収納箱 1 A は、商品を吊り下げ陳列するための棒に孔 30 を介して挿入され、吊り下げ陳列されてもよい。

[0023] 図 3、図 6 に示すように、底壁 4 は、いわゆる地獄底であり、雄フラップ 41 と雌フラップ 42 と左フラップ 43 と右フラップ 44 とを含む。雄フラップ 41 は背壁 62 の下端 621 に接続し、背壁 62 の下端 621 から前方に延びる。雄フラップ 41 は前方に向かうにつれて狭まる台形状である。雌フラップ 42 は前壁 61 の下端 611 に接続し、前壁 61 の下端 611 から後方に延びる。雌フラップ 42 は前後方向よりも左右方向に長い長方形状である。雌フラップ 42 には差込口 421 が形成される差込口 421 は前後方向よりも左右方向に長く、雌フラップ 42 を上下方向に貫通する。左フラップ 43 は左壁 63 の下端 631 に接続し、左壁 63 の下端 631 から右方に延びる。右フラップ 44 は右壁 64 の下端 641 に接続し、右壁 64 の下端 641 から左方に延びる。左フラップ 43 および右フラップ 44 は、それぞれ三角形状であり、互いに左右対称である。雌フラップ 42 と、左フラップ 43 および右フラップ 44 と、雄フラップ 41 とは、上方から下方に向かって、その順に並んで積層されることで、底壁 4 を構成する。

[0024] 図 2、図 4～図 6 に示すように、天壁 5 は、雄フラップ 51 と雌フラップ 52 と左フラップ 53 と右フラップ 54 とを含む。雄フラップ 51 は、前壁 61 の上端 612 に接続し、雄本体部 515 と差込部 55 とを有する。雄本体部 515 は前壁 61 の上端 612 から後方に延びる。雄本体部 515 は前後方向よりも左右方向に長い長方形状である。雄本体部 515 の前後方向の長さは、前壁 61 と背壁 62 との間の前後方向の距離と略同じである。雄本体部 515 の後端 511 は、背壁 62 の前方近傍に位置し、左右方向に延びる。雄本体部 515 は雄本体部 515 を上下方向に貫通する開口 513 を有する。開口 513 は、収納箱 1 A を開封する場合にユーザが指を掛ける部分である。

- [0025] 差込部 5 5 は、雄本体部 5 1 5 に接続し、雄本体部 5 1 5 の後端 5 1 1 から下方に突出する。詳細には、差込部 5 5 は土台部 5 7 と返し部 5 8 とを含む。土台部 5 7 は差込部 5 5 のうち雄本体部 5 1 5 から下方に延びる部分である。土台部 5 7 は上下方向よりも左右方向に長い長方形形状である。土台部 5 7 は雄本体部 5 1 5 の後端 5 1 1 のうち、左右方向の中央部分において雄本体部 5 1 5 に接続し、両端部分は雄本体部 5 1 5 から切り離されている。返し部 5 8 は土台部 5 7 の下端 5 7 1 のミシン目で後方に折り返され、上方に延びる。返し部 5 8 は前後方向において背壁 6 2 と土台部 5 7 との間に位置し、背壁 6 2 に接触する。
- [0026] 雌フラップ 5 2 は背壁 6 2 の上端 6 2 2 にヘッダ 3 を介して接続し、ヘッダ片 3 2 の下端 3 2 1（図 6 参照）から前方に延びて、さらに折り返して後方に延びる。雌フラップ 5 2 は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。雌フラップ 5 2 の前端 5 2 0 は前後方向において天壁 5 の略中央に位置する。雌フラップ 5 2 には指掛け部 5 2 2 と差込口 5 2 1（図 6 参照）とが設けられる。指掛け部 5 2 2 は、雌フラップ 5 2 の前端 5 2 0 において、左右方向の中央から後方に凹む。指掛け部 5 2 2 は円弧状であり、平面視で開口 5 1 3 と重なる（図 4 参照）。
- [0027] 差込口 5 2 1 は前後方向よりも左右方向に長く、雌フラップ 5 2 を上下方向に貫通する。差込口 5 2 1 は、前壁 6 1 と背壁 6 2 との前後方向の中央よりも後方に位置し、背壁 6 2 の近傍に位置する。第一実施形態では、差込口 5 2 1 は雌フラップ 5 2 のうちヘッダ片 3 2 との接続部（雌フラップ 5 2 の後端）に位置する。差込口 5 2 1 には差込部 5 5 が差し込まれる。
- [0028] 左フラップ 5 3 は左壁 6 3 の上端 6 3 2 に接続し、左壁 6 3 の上端 6 3 2 から右方に延びる。右フラップ 5 4 は右壁 6 4 の上端 6 4 2 に接続し、右壁 6 4 の上端 6 4 2 から左方に延びる。左フラップ 5 3 および右フラップ 5 4 は、それぞれ、前後方向よりも左右方向に長い長方形形状であり、互いに左右対称である。左フラップ 5 3 には切欠部 5 3 1 が設けられる。切欠部 5 3 1 は左フラップ 5 3 の後端を前方に切り欠く。右フラップ 5 4 には切欠部 5 4

1 が設けられる。切欠部 5 4 1 は右フラップ 5 4 の後端を前方に切り欠く。左フラップ 5 3 および右フラップ 5 4 のそれぞれの左右方向の長さは、左壁 6 3 と右壁 6 4 との左右方向の間の距離よりも小さく、且つ左壁 6 3 と右壁 6 4 との左右方向の間の距離の半分よりも大きい。したがって、左フラップ 5 3 の右端および右フラップ 5 4 の左端の一方は、他方の上に重なる。第一実施形態では、左フラップ 5 3 が右フラップ 5 4 の上に重なる。

[0029] 以下では、雄フラップ 5 1 によって構成される層を「雄フラップ層 5 0 1」という。第一実施形態では、平面視において、雄フラップ層 5 0 1 の外形は、雄本体部 5 1 5 の外形によって規定される。雌フラップ 5 2 によって構成される層を「雌フラップ層 5 0 2」という。第一実施形態では、平面視において、雌フラップ層 5 0 2 の外形は、雌フラップ 5 2 の外形によって規定される。左フラップ 5 3 と右フラップ 5 4 とによって構成される層を「サイドフラップ層 5 0 3」という。第一実施形態では、平面視において、サイドフラップ層 5 0 3 の外形は、左フラップ 5 3 および右フラップ 5 4 の外形によって規定される。

[0030] 図 5 に示すように、天壁 5 では、雄フラップ層 5 0 1、雌フラップ層 5 0 2、およびサイドフラップ層 5 0 3 が、下方から上方に向かって雌フラップ層 5 0 2、サイドフラップ層 5 0 3、雄フラップ層 5 0 1 の順に並んで積層される。差込部 5 5 は、差込口 5 2 1 を介して雌フラップ 5 2 よりも内側に配置される。図 4 に示すように、左フラップ 5 3 および右フラップ 5 4 には、それぞれ、切欠部 5 3 1、5 4 1 が設けられるので、サイドフラップ層 5 0 3 は平面視で差込口 5 2 1 と重ならない。

[0031] 図 6 を参照し、台紙 1 0 0 A を説明する。以下では、図 6 の左方、右方、下方、および上方を、それぞれ、台紙 1 0 0 A の X マイナス方向、X プラス方向、Y マイナス方向、および Y プラス方向とする。図 6 では、仮想線 V 0、V 1、V 2、V 3、V 4、V 5、V 6、V 7、V 8、V 9、V 1 0、V 1 1、V 1 2、V 1 3、V 1 4 は収納箱 1 A の隣り合う各構成要素の境界を示す。例えば仮想線 V 0 は背壁 6 2 とヘッダ片 3 1 との境界を示す。

[0032] 台紙１００Ａは所定形状に切断された１枚のシートであり、厚紙、薄紙、段ボール等、紙材により作製される。なお、第一実施形態の台紙１００Ａには、少なくとも裏面に対してコーティング処理が施されていない。台紙１００Ａの「裏面」は、図６に示す台紙１００Ａのうち紙面奥側を向く面であり、収納箱１Ａを組み立てた場合に、収納箱１Ａの内部の空間７を向く面である。紙材に対するコーティング処理は、例えば、台紙１００Ａの表面にニス塗布する処理、表面に光沢剤を塗布してプレスコートする処理、ラミネート、ＰＰ、ＰＥＴ等のフィルムを貼る処理、塩化ビニール樹脂を塗布する処理等が知られている。台紙１００Ａの表（おもて）面には、コーティング処理が施されてもよいし、施されなくてもよい。台紙１００Ａの「表面」は、図６に示す台紙１００Ａのうち紙面手前側を向く面であり、収納箱１Ａを組み立てた場合に、収納箱１Ａの外部を向く面である。

[0033] 台紙１００Ａは、底壁４、天壁５、周壁６、およびヘッダ３を含む。台紙１００Ａでは、Ｙ方向の中央に周壁６が配置される。周壁６において、前壁６１、背壁６２、左壁６３、および右壁６４は、Ｘプラス方向からＸマイナス方向に向かって右壁６４、前壁６１、左壁６３、背壁６２の順にそれぞれ連なって並ぶ。さらに、背壁６２のＸマイナス方向の隣りに、のり代６５が連なる。

[0034] 底壁４は周壁６のＹマイナス方向に配置される。詳細には、雄フラップ４１は背壁６２のＹマイナス方向に配置され、背壁６２と連なる。雌フラップ４２は前壁６１のＹマイナス方向に配置され、前壁６１と連なる。左フラップ４３は左壁６３のＹマイナス方向に配置され、左壁６３と連なる。右フラップ４４は右壁６４のＹマイナス方向に配置され、右壁６４と連なる。

[0035] 天壁５およびヘッダ３は周壁６のＹプラス方向に配置される。詳細には、ヘッダ３において、ヘッダ片３１は背壁６２のＹプラス方向に配置され、背壁６２と連なる。ヘッダ片３２はヘッダ片３１のＹプラス方向に配置され、ヘッダ片３１と連なる。

[0036] 天壁５において、雌フラップ５２はヘッダ片３１のＹプラス方向に配置さ

れ、ヘッダ片 3 1 と連なる。雄フラップ 5 1 は前壁 6 1 の Y プラス方向に配置され、前壁 6 1 と連なる。左フラップ 5 3 は左壁 6 3 の Y プラス方向に配置され、左壁 6 3 と連なる。右フラップ 5 4 は右壁 6 4 の Y プラス方向に配置され、右壁 6 4 と連なる。

[0037] 図 7 ～図 9 を参照し、保護部材 9 を説明する。保護部材 9 は、例えば図 9 に示す保護台紙 2 0 0 を組み立てることで形成される。保護部材 9 は、テープカセット 8 A を収納箱 1 A に収納する際にテープカセット 8 A に装着し、テープカセット 8 A と共に収納箱 1 A に収納される。保護部材 9 は位置決部 9 3 と保護部 9 1, 9 2 を有する。位置決部 9 3 はテープカセット 8 A の前壁 8 2 と向き合って配置する部分であり、左右方向よりも上下方向に長く延びる矩形の板状である。位置決部 9 3 の左右方向の長さ P 2 はテープカセット 8 A のケース 8 1 の左右方向の長さ C 2 よりも短い。位置決部 9 3 の上下方向の長さ P 1 はテープカセット 8 A のケース 8 1 の上下方向の長さ C 1 よりも長い。

[0038] 位置決部 9 3 は、上下方向の略中央において、右端 9 3 3 から左方へ向けて、左右方向の略中央付近まで凹む矩形状の切欠部 9 4 を有する。切欠部 9 4 の形成位置は、保護部材 9 をテープカセット 8 A に装着して位置決部 9 3 を前方から見た場合に、ラベルシール 8 0 A を貼付する凹部 8 0 の形成位置である。すなわち、テープカセット 8 A を収納箱 1 A に収納する作業を行う作業者は、保護部材 9 をテープカセット 8 A に装着した状態であっても、切欠部 9 4 を介してラベルシール 8 0 A を視認することができる。

[0039] 位置決部 9 3 は、切欠部 9 4 よりも上方で、左右方向の中央寄りも右寄りの位置に、下辺を残し、上辺および左右両辺を厚み方向（前後方向）に切り抜いた切抜部 9 5 A を有する。切抜部 9 5 A は上下方向に長く、上辺と、左右両辺との角部分が R 面取りされている。切抜部 9 5 A の内側の部分は係合部 9 5 であり、下辺に沿って後向きに折り曲げられ、位置決部 9 3 から後方に突出する。保護部材 9 をテープカセット 8 A に装着した場合に、係合部 9 5 は、テープカセット 8 A の前壁 8 2 において開口するテープスプール 8 9

Aの筒穴89Bに挿入される。係合部95の左右方向の長さは、筒穴89Bの内径と同じか、それよりも若干短い。係合部95の前後方向の長さは、テープカセット8Aのケース81の前後方向の長さC3よりも短い。

[0040] 位置決部93は、切欠部94の左下方の位置に、上辺を残し、下辺および左右両辺を厚み方向（前後方向）に切り抜いた切抜部96Aを有する。切抜部96Aは上下方向に長く、下辺と、左右両辺との角部分がR面取りされている。切抜部96Aの内側の部分は係合部96であり、上辺に沿って後向きに折り曲げられ、位置決部93から後方に突出する。保護部材9をテープカセット8Aに装着した場合に、係合部96は、テープカセット8Aの前壁82において開口する巻取スプール87Aのカム穴87Bに挿入される。係合部96の左右方向の長さは、カム穴87Bの内径と同じか、それよりも若干短く、係合部95の左右方向の長さよりも長い。係合部96の前後方向の長さは、テープカセット8Aのケース81の前後方向の長さC3よりも短く、係合部95の前後方向の長さよりも短い。

[0041] 保護部91は、位置決部93の上端931に接続し、位置決部93の上端931から後方に延びる。保護部91は矩形の板状で、後端911と左右両端との角部分がR面取りされている。保護部91の左右方向の長さは位置決部93の左右方向の長さP2と同じ長さP2であり、テープカセット8Aのケース81の左右方向の長さC2よりも短く、且つ上壁86に設けられた突起部861の左右方向の長さH1よりも長い。保護部91の前後方向の長さP3はテープカセット8Aのケース81の前後方向の長さC3よりも短く、テープカセット8Aの上壁86に設けられた突起部861の前後方向の長さH3よりも長い。テープカセット8Aに装着した保護部材9を上方から見た場合に、保護部91は、左右方向および前後方向のそれぞれにおいて、突起部861の形成領域W1の全体を覆う位置に配置される（図7参照）。なお、突起部861の左右両端からそれぞれ前後方向に延びるリブ状の部分は、端の部分が上壁86からの突出方向（上方）に対して面取りされている。面取りされた部分は上壁86において最も上方に突出する部位ではないので、

突起部 8 6 1 の形成領域 W 1 に含まれなくともよく、よって面取りされた部分は、必ずしも保護部 9 1 に覆われなくてもよい。

[0042] 保護部 9 2 は、位置決部 9 3 の下端 9 3 2 に接続し、位置決部 9 3 の下端 9 3 2 から後方に延びる。保護部 9 2 は矩形の板状で、後端 9 2 1 と左右両端との角部分が R 面取りされている。保護部 9 2 の左右方向の長さは位置決部 9 3 および保護部 9 1 の左右方向の長さ P 2 と同じ長さ P 2 であり、テープカセット 8 A のケース 8 1 の左右方向の長さ C 2 よりも短く、且つ下壁 8 5 に設けられた突起部 8 5 1 の左右方向の長さ H 2 よりも長い。保護部 9 2 の前後方向の長さ P 4 はテープカセット 8 A のケース 8 1 の前後方向の長さ C 3 よりも短く、テープカセット 8 A の下壁 8 5 に設けられた突起部 8 5 1 の前後方向の長さ H 4 よりも長い。テープカセット 8 A に装着した保護部材 9 を下方から見た場合に、保護部 9 2 は、左右方向および前後方向のそれぞれにおいて、突起部 8 5 1 の形成領域 W 2 の全体を覆う位置に配置される（図 8 参照）。なお、突起部 8 5 1 の左右両端からそれぞれ前後方向に延びるリブ状の部分は、端の部分が下壁 8 5 からの突出方向（下方）に対して面取りされている。面取りされた部分は下壁 8 5 において最も下方に突出する部位ではないので、突起部 8 5 1 の形成領域 W 2 に含まれなくともよく、よって面取りされた部分は、必ずしも保護部 9 2 に覆われなくてもよい。

[0043] 図 9 を参照し、保護台紙 2 0 0 を説明する。以下では、図 9 の左方、右方、下方、および上方を、それぞれ、台紙 1 0 0 A の X マイナス方向、X プラス方向、Y マイナス方向、および Y プラス方向とする。図 9 では、仮想線 V 2 1、V 2 2、V 2 3、V 2 4 は保護部材 9 の隣り合う各構成要素の境界を示す。例えば仮想線 V 2 1 は位置決部 9 3 と保護部 9 1 との境界を示す。

[0044] 保護台紙 2 0 0 は所定形状に切断された 1 枚のシートであり、厚紙、薄紙、段ボール等、紙材により作製される。第一実施形態の保護台紙 2 0 0 には、裏面にコーティング処理が施されたコーティング部が形成されている。保護台紙 2 0 0 の「裏面」は、図 9 に示す保護台紙 2 0 0 のうち紙面奥側を向く面である。保護部材 9 は、保護部 9 1、9 2 および位置決部 9 3 のそれぞれ

れにおいてコーティング部が形成された裏面 9 1 A, 9 2 A, 9 3 A が、保護部材 9 をテープカセット 8 A に装着した場合のテープカセット 8 A 側を向く向きに、保護台紙 2 0 0 が折り曲げられて組み立てられる。「表（おもて）面」は、図 9 に示す保護台紙 2 0 0 のうち紙面手前側を向く面である。保護部材 9 を組み立ててテープカセット 8 A に装着した場合、表面はテープカセット 8 A の外方を向き、さらに収納箱 1 A に収納された場合に、収納箱 1 A の裏面に対向する向きに、保護台紙 2 0 0 が折り曲げられて組み立てられる。前述したように、紙材に対するコーティング処理は、例えば、保護台紙 2 0 0 の裏面にニス塗布する処理、裏面に光沢剤を塗布してプレスコートする処理、ラミネート、PP、PET 等のフィルムを貼る処理、塩化ビニール樹脂を塗布する処理等が知られている。第一実施形態においてはコーティング処理の種類については問わず、上記いずれの処理が保護台紙 2 0 0 に施されてもよい。また、コーティング部は、保護台紙 2 0 0 の裏面において部分的に形成されてもよい。例えば保護部 9 1, 9 2 の裏面 9 1 A, 9 2 A にコーティング部を形成し、位置決部 9 3 の裏面 9 3 A には形成しなくてもよい。

[0045] 保護台紙 2 0 0 は、位置決部 9 3 および保護部 9 1, 9 2 を含む。保護台紙 2 0 0 では、Y 方向の中央に位置決部 9 3 が配置される。位置決部 9 3 の X プラス方向側の端部には切欠部 9 4 が形成される。切欠部 9 4 は X マイナス方向へむけて矩形に凹む。切欠部 9 4 の Y プラス方向側の部分には係合部 9 5 が形成される。係合部 9 5 の周囲は、Y マイナス方向側の端部を残し、切抜部 9 5 A として切り抜かれる。また、切欠部 9 4 の X マイナス方向側で、Y 方向の中央よりも Y マイナス方向側の部分には、係合部 9 6 が形成される。係合部 9 6 の周囲は、Y プラス方向側の端部を残し、切抜部 9 6 A として切り抜かれる。保護部 9 1 は位置決部 9 3 の Y プラス方向側に配置される。保護部 9 2 は位置決部 9 3 の Y マイナス方向側に配置される。

[0046] 図 6、図 9～図 11 を参照し、保護台紙 2 0 0 から保護部材 9 を組み立ててテープカセット 8 A に装着し、台紙 1 0 0 A から組み立てた収納箱 1 A に

収納する手順について説明する。台紙１００Ａおよび保護台紙２００において、互いに隣り合う一对の構成要素のそれぞれの裏面が互いに向き合う方向に、互いの境界に沿って台紙１００Ａおよび保護台紙２００を折ることを「山折り」という。台紙１００Ａおよび保護台紙２００において互いに隣り合う一对の構成要素のそれぞれの表面が互いに向き合う方向に、互いの境界に沿って台紙１００Ａおよび保護台紙２００を折ることを「谷折り」という。例えば「仮想線Ｖ１に沿って台紙１００Ａを山折りする」とは、右壁６４の裏面と前壁６１の裏面とが互いに向き合う方向に、台紙１００Ａが仮想線Ｖ１に沿って折られることを意味する。第一実施形態では、台紙１００Ａの表面には、仮想線Ｖ０～Ｖ１４に沿って折り目筋が形成される。また、保護台紙２００の表面にも、仮想線Ｖ２１～Ｖ２４に沿って折り目筋が形成される。一方で、台紙１００Ａおよび保護台紙２００の裏面には、折り目筋が形成されない。

[0047] 図６に示すように、台紙１００Ａは仮想線Ｖ１、Ｖ２、Ｖ３、Ｖ４に沿って山折りされ、のり代６５の表面が左壁６３の裏面に貼り付けられる。これにより、周壁６が四角筒状（図２参照）に形成される。この状態で、台紙１００Ａの表面は、各フラップも含め、四角筒状の外側を向く配置となり、裏面が内側、すなわち空間７内側を向く配置となる。

[0048] 台紙１００Ａは仮想線Ｖ５に沿って山折りされる。これにより、雌フラップ４２は、雌フラップ層４０２として、底壁４の最上層に配置される。台紙１００Ａは仮想線Ｖ６、Ｖ７に沿って山折りされる。これにより、左フラップ４３および右フラップ４４は、サイドフラップ層４０３として、雌フラップ層４０２の下側に積層される。台紙１００Ａは仮想線Ｖ８に沿って山折りされる。これにより、雄フラップ４１は、雄フラップ層４０１として、サイドフラップ層４０３の下側に積層され、底壁４の最下層に配置される。この状態で、雄フラップ４１が外側から内側に向けて押し込まれる。

[0049] 雄フラップ４１が外側から内側に向けて押し込まれると、雄フラップ４１、左フラップ４３、および右フラップ４４のそれぞれの先端が、差込口４２

1を介して雌フラップ42よりも内側に差し込まれる。これにより、雄フラップ41、左フラップ43および右フラップ44が、それぞれ、差込口421を介して雌フラップ42に引っかかり、地獄底形態の底壁4が形成される(図3参照)。

[0050] 底壁4が形成された時点では、箱本体2は上方に開口する(図3参照)。この状態で保護部材9が組み立てられて、テープカセット8Aに装着される。なお、保護部材9はあらかじめ収納箱1Aの組み立て前に組み立てておいてもよい。

[0051] 図9に示すように、保護台紙200は仮想線V21、V22に沿って山折りされる。これにより、保護部91、92は後方へ向けて延びる状態に配置される。さらに、保護台紙200は仮想線V23、V24に沿って山折りされる。これにより、係合部95、96は、後方へ向けて延びる状態に配置され、保護部材9の組み立てが完了する。作業者は、保護部材9の位置決部93の裏面93Aをテープカセット8Aの前壁82に向け、係合部95、96をそれぞれ筒穴89B、カム穴87Bに挿入して、保護部材9をテープカセット8Aに装着する。係合部95、96の左右方向の長さが互いに異なるので、作業者は誤って係合部95、96をそれぞれカム穴87B、筒穴89Bに挿入し、保護部材9を誤装着することはない。保護部材9の保護部91、92は、コーティング部が形成された裏面91A、92Aをそれぞれテープカセット8Aの上壁86、下壁85に向けた状態で配置される。

[0052] 図10に示すように、この状態で、箱本体2の上方から空間7に保護部材9を装着したテープカセット8Aが収納される。テープカセット8Aは、後壁83が前方から収納箱1Aの背壁62の裏面と向き合い、下壁85が上方から底壁4の裏面と向き合うようにして、空間7に収納される。作業者は、保護部材9の切欠部94を介してラベルシール80Aを目視し、テープカセット8Aの情報と、収納箱1Aに印刷されている収納物の情報とが一致するか確認することができる。保護部材9の位置決部93は、収納箱1A内でテープカセット8Aの前壁82と収納箱1Aの前壁61との間に配置される。

このため、位置決部 9 3 の上端 9 3 1 は、前後方向において前壁 6 1 と天壁 5 との角部分に配置される。

[0053] 台紙 1 0 0 A は仮想線 V 9 に沿って山折りされ、仮想線 V 1 0 に沿って谷折りされる。これにより、図 1 1 に示すように、ヘッダ 3 が形成され、天壁 5 の最下層に雌フラップ層 5 0 2 が配置される。台紙 1 0 0 A は仮想線 V 1 1、V 1 2 に沿って山折りされる。これにより、天壁 5 において雌フラップ層 5 0 2 の上に左フラップ 4 3 と右フラップ 5 4 とから構成されるサイドフラップ層 5 0 3 が積層される。なお、サイドフラップ層 5 0 3 において、左フラップ 4 3 と右フラップ 5 4 の積層順は任意である。台紙 1 0 0 A は仮想線 V 1 3 に沿って山折りされ、土台部 5 7 の下端 5 7 1 のミシン目に沿って谷折りされる。これにより差込部 5 5 が形成される。

[0054] 台紙 1 0 0 A は仮想線 V 1 4 に沿って山折りされる。差込部 5 5 が差込口 5 2 1 を介して雌フラップ 5 2 よりも内側に差し込まれる。図 5 に示すように、保護部材 9 の保護部 9 1 は、テープカセット 8 A の上壁 8 6 と収納箱 1 A の雌フラップ 5 2 との間に配置される。位置決部 9 3 と保護部 9 1 との接続部分である位置決部 9 3 の上端 9 3 1 は、収納箱 1 A 内において、前後方向において前壁 6 1 と天壁 5 との角部分に位置する。すなわち、収納箱 1 A 内において、背壁 6 2 と天壁 5 との角部分には、保護部材 9 は配置されない。差込部 5 5 が差し込まれる差込口 5 2 1 は、雌フラップ 5 2 の後端に位置する。よって差込部 5 5 は、差込口 5 2 1 に差し込まれる際に、保護部材 9 と干渉しない。これにより、サイドフラップ層 5 0 3 の上に雄フラップ層 5 0 1 が積層され、図 2 に示す天壁 5 が形成される。以上により、収納箱 1 A および保護部材 9 の組み立てと、収納箱 1 A 内へのテープカセット 8 A の収納が完了し、図 1 1 に示す印刷カセット収納体 2 0（ただし図 1 1 の印刷カセット収納体 2 0 は天壁 5 が形成される前の状態）が完成する。

[0055] テープカセット 8 A の上壁 8 6 および下壁 8 5 には、突起部 8 6 1、8 5 1 がそれぞれ設けられている。突起部 8 6 1 は上壁 8 6 よりも上方に突出し、突起部 8 5 1 は下壁 8 5 よりも下方に突出する。突起部 8 6 1、8 5 1 の

形成領域W 1, W 2を、保護部材9の保護部9 1, 9 2がそれぞれ上下方向に覆う。保護部材9の位置決部9 3の設けた係合部9 5, 9 6は、テープカセット8 Aのケース8 1の前壁8 2に開口する筒穴8 9 B, カム穴8 7 Bに係合する。よって位置決部9 3は、テープカセット8 Aに対して保護部材9を位置決めする。故に保護部9 1, 9 2は、突起部8 6 1, 8 5 1に対して位置決めされる。収納箱1 Aへのテープカセット8 A収納後の持ち運び等によって空間7内で振られても、突起部8 6 1, 8 5 1は、保護部9 1, 9 2との位置関係が維持されるので、擦れにくい。

[0056] また、保護部9 1, 9 2の裏面9 1 A, 9 2 Aにはコーティング部が形成されており、突起部8 6 1, 8 5 1はコーティング部に接触する。持ち運び等によって収納箱1 Aが激しく振られ、突起部8 6 1, 8 5 1と保護部9 1, 9 2との位置関係にずれが生じた場合でも、突起部8 6 1, 8 5 1は、収納箱1 Aの天壁5, 底壁4には接触せずに、コーティング部と擦れ合う。保護部9 1, 9 2の裏面9 1 A, 9 2 Aコーティング部が形成されたことによって摩擦による摩耗から十分に保護されているので、擦れによる紙粉等の発生を抑制できる。

[0057] 以上説明したように、第一実施形態においては、テープカセット8 Aに保護部材9を装着し、収納箱1に収納した。保護部材9はテープカセット8 Aと収納箱1 Aとの擦れを防止し、収納箱1 Aの内面から紙紛が発生することを抑制する。よって収納箱1 Aに収納されたテープカセット8 Aは、紙粉の付着による印刷品質の低下を防ぎ、品質を担保することができる。

[0058] 収納箱1 Aは、台紙1 0 0 Aを組み付けて形成される。収納箱1 Aは、保護部材9を有することで紙紛の発生を抑制できるので、内部に収容するテープカセット8 Aに紙粉が付着することによる印刷品質の低下を防ぎ、品質を担保することができる。

[0059] 収納箱1 Aにテープカセット8 Aと保護部材9が収納された場合に、保護部9 1, 9 2は、ケース8 1の上壁8 6, 下壁8 5に設けられた突起部8 6 1, 8 5 1が、収納箱1 Aの内面に直接接触しないように保護する。ケース

８１の上壁８６，下壁８５を向く保護部９１，９２の裏面９１Ａ，９２Ａにはコーティング部が形成されている。故に保護部材９は、突起部８６１，８５１が保護部９１，９２に擦れても紙粉の発生を抑制する。よって収納箱１Ａに収納されたテープカセット８Ａは、紙粉の付着による印刷品質の低下を防ぎ、品質を担保することができる。

[0060] 保護部材９は、保護部９１，９２に接続する位置決部９３を備える。位置決部９３はケース８１の前壁８２に係合することで、突起部８６１，８５１に対して保護部９１，９２を位置決めする。よって保護部材９は、テープカセット８Ａと共に収納箱１Ａに収納された場合に、保護部９１，９２の位置ずれを抑制することができる。輸送等で収納箱１Ａが揺れても、突起部８６１，８５１と保護部９１，９２との位置関係が維持されるので、保護部材９は、突起部８６１，８５１と保護部９１，９２との擦れを抑制することができる。

[0061] 保護部材９は、１枚の保護台紙２００を折り曲げて形成され、位置決部９３が、ケース８１の前壁８２と対向する位置に配置され、保護部９１，９２が、ケース８１の上壁８６，下壁８５と対向する位置に配置される。テープカセット８Ａと保護部材９が収納箱１Ａに収納される場合に、ケース８１の前壁８２は収納箱１Ａの前壁６１側に配置される。よって保護部９１，９２と位置決部９３との接続部分は、前壁６１の上端６１２に近い側に配置される。雌フラップ５２の差込口５２１は、背壁６２の上端６２２の近傍に設けられており、雄フラップ５１の差込部５５を差込口５２１に差し込む場合に、保護部９１，９２と位置決部９３との接続部分と干渉することがない。背壁６２の上端６２２に近い側には、保護部９１，９２の自由端が配置される。故に作業者は、テープカセット８Ａを収納箱１Ａに収納する作業において、適宜、保護部９１，９２を揺動させることで、差込部５５を差込口５２１に差し込む動作をスムーズに行うことができる。

[0062] 保護部材９の保護部９１，９２は、収納箱１Ａの内面とケース８１の突起部８６１，８５１との擦れを防ぐことができる。故に収納箱１Ａの内面に対

してコーティング部を非形成としても、収納箱 1 A は、紙粉の発生を十分に抑制できる。よって収納箱 1 A の製造コストを削減することができる。

[0063] 保護部 9 1, 9 2 の前後方向の長さがケース 8 1 よりも短いので、雄フラップ 5 1 の差込部 5 5 を差込口 5 2 1 に差し込む場合に、差込部 5 5 は保護部 9 1, 9 2 の自由端に干渉しにくい。故に作業者は、テープカセット 8 A を収納箱 1 A に収納する作業において、差込部 5 5 を差込口 5 2 1 に差し込む動作をスムーズに行うことができる。

[0064] 保護部 9 1, 9 2 は、突起部 8 6 1, 8 5 1 の形成領域 W 1, W 2 の全体を覆う大きさであり、且つ、ケース 8 1 の上壁 8 6, 下壁 8 5 より小さい。よって保護部材 9 は、収納箱 1 A の内面とケース 8 1 の突起部 8 6 1, 8 5 1 との擦れを防ぐうえで十分な大きさを確保しつつ、小さくすることができる。故に保護部材 9 の製造コストを削減することができる。

[0065] 作業者は、テープカセット 8 A を収納箱 1 A に収納する作業において、ケース 8 1 に保護部材 9 を組み付けた状態でも、切欠部 9 4 を介してラベルシール 8 0 A を確認することができる。故に作業者は、テープカセット 8 A の取り違えを抑制できる。また、作業者は、収納箱 1 A にテープカセット 8 A を収納する向きを間違えにくく、位置決部 9 3 を収納箱 1 A の前壁 6 1 とケース 8 1 の前壁 8 2 との間に正しく配置することで、差込部 5 5 を差込口 5 2 1 に差し込む動作をスムーズに行うことができる。

[0066] 突起部 8 6 1, 8 5 1 は、テープカセット 8 A を印刷装置 1 0 に装着する上で必要な構成であり、ケース 8 1 の上壁 8 6, 下壁 8 5 において最も外方に突出する部位である。このため、テープカセット 8 A をそのまま収納箱 1 A に収納しても、突起部 8 6 1, 8 5 1 と収納箱 1 A の内面との擦れを防ぐことは難しい。故に保護部材 9 は、保護部 9 1, 9 2 を収納箱 1 A の内面と突起部 8 6 1, 8 5 1 との間に配置することで、擦れによる紙粉の発生を抑制することができる。

[0067] 保護部材 9 は、ケース 8 1 の排出口 8 8 が形成された上壁 8 6 と、その反対側の下壁 8 5 の少なくとも一方の外面に、突起部 8 6 1, 8 5 1 が形成さ

れていれば、その外面を、コーティング部が形成された保護部 9 1 および保護部 9 2 の少なくとも一方で保護することができる。よって収納箱 1 A に収納されたテープカセット 8 A は、紙粉の付着による印刷品質の低下を防ぎ、品質を担保することができる。

[0068] なお、第一実施形態において、印刷テープ 8 9 は、本発明の「被印刷媒体」の一例である。テープカセット 8 A は、本発明の「印刷カセット」の一例である。保護部材 9 は、本発明の「抑制部材」の一例である。上壁 8 6，下壁 8 5 は、本発明の「突起形成面」の一例である。裏面 9 1 A，9 2 A は、本発明の「対向面」の一例である。保護部材 9 を装着したテープカセット 8 A を収納箱 1 A に収納した印刷カセット収納体 2 0 が、本発明の「印刷カセット収納体」の一例である。前壁 8 2 は、本発明の「位置決面」の一例である。筒穴 8 9 B，カム穴 8 7 B は、本発明の「被係合部」の一例である。上下方向は、本発明の「第一方向」の一例である。天壁 5 は、本発明の「第二壁」の一例である。底壁 4 は、本発明の「第一壁」の一例である。前後方向は、本発明の「第二方向」の一例である。前壁 6 1 は、本発明の「第三壁」の一例である。背壁 6 2 は、本発明の「第四壁」の一例である。上方向は、本発明の「第一特定方向」の一例である。上端 6 1 2 は、本発明の「第一接続端」の一例である。後方向は、本発明の「第二特定方向」の一例である。後端 5 1 1 は、本発明の「後端」の一例である。雄フラップ 5 1 は、本発明の「第一雄フラップ」の一例である。雄フラップ層 5 0 1 は、本発明の「第一雄フラップ層」の一例である。上端 6 2 2 は、本発明の「第二接続端」の一例である。雌フラップ 5 2 は、本発明の「第一雌フラップ」の一例である。雌フラップ層 5 0 2 は、本発明の「第一雌フラップ層」の一例である。保護台紙 2 0 0 は、本発明の「シート」の一例である。左右方向は、本発明の「第三方向」の一例である。ラベルシール 8 0 A は、本発明の「ラベル」の一例である。凹部 8 0 は、本発明の「貼付部」の一例である。排出口 8 8 は、本発明の「排出口」の一例である。上壁 8 6 は、本発明の「第二カセット壁」の一例である。下壁 8 5 は、本発明の「第一カセット壁」の一例である。

。

[0069] 本発明は第一実施形態から変更されてもよい。以下説明する第一実施形態の各種変形例は、矛盾が生じない限り、互いに組み合わせられてもよい。突起部861, 851は突起物に限らず、凹凸形状をなすものや凸凹を有する面でもよいし、収納物の角部分やエッジをなす部分など、擦れて紙粉を発生させ得る形状等であってもよい。突起部861, 851は、それぞれ上壁86, 下壁85に形成されているが、どちらか一方に形成されてもよいし、上壁86, 下壁85以外の周壁84や前壁82、後壁83に形成されてもよい。排出口88と突起部861は上壁86に設けられているが、それぞれ異なる壁面に設けられてもよい。

[0070] コーティング部は保護台紙200の裏面91A, 92A, 93Aに形成されとしたが、表面と裏面91A, 92A, 93Aの両方に形成されてもよいし、位置決部93の裏面93Aには形成せず、保護部91, 92の裏面91A, 92Aに形成してもよい。また、保護部91, 92の裏面91A, 92Aの全体ではなく、突起部861, 851の形成領域W1, W2に接触する可能性のある部位に限定的にコーティング部を形成してもよい。

[0071] 位置決部93の係合部95, 96は、2つに限らず、1つでもよいし、3つ以上あってもよい。係合部95, 96が係合する部位は、筒穴89B, カム穴87Bに限らず、他の穴部や凹部でもよい。あるいは、保護部材9をケース81の外面に巻き付けて固定し、保護部91, 92の位置決めをしてもよい。

[0072] 保護部材9は、位置決部93がなく、単に、保護部91, 92からなるものであってもよい。この場合、ケース81の上壁86の突起部861を覆う保護部91と、下壁85の突起部851を覆う保護部92とは、それぞれが別体の保護部材9として、2枚の保護台紙200からそれぞれ形成されてもよい。なお、この変形例における保護部材9は、収納箱1A内でケース81側に向けて配置される保護部91, 92の面に、コーティング部が形成されるものとする。また、保護部91, 92の大きさは、ケース81内で保護部

91, 92が面と水平な方向に移動しても、突起部861, 851の形成領域W1, W2を常に覆う（面と直交する方向に重なる）状態を維持できる大きさであればよい。

[0073] また、複数の保護部が一体に接続され、1枚の保護台紙200からなる保護部材9として形成されてもよい。この場合、複数の保護部は、ケース81の突起部が形成された外面のそれぞれを覆うが、ケース81に対して位置決めをしなくてもよい。例えば、ケース81の隣り合う2つの壁部（例えば上壁86と前壁82）にそれぞれ突起部が設けられている場合、2つの保護部は保護台紙200において隣り合って接続され、コーティング部が形成された面を内側に谷折りすることによって保護部材9が組み立てられてもよい。また、第一実施形態のように上壁86と下壁85に対して保護部91, 92を配置する場合、位置決部93のように前壁82に対向して配置する部分を設けてもよいが、係合部95, 96は形成せず、単なる接続のための部分としてもよい。

[0074] 保護台紙200は、折り曲げることができ、且つ折り曲げた状態を維持できるシートであれば、紙材に限らず、例えばプラスチックシート等が用いられてもよい。保護部材9は、テープカセット8Aに代えて他の収納物を保護してもよい。他の収納物は例えば、印刷に使用される消耗品であり、インクタンク、インクカートリッジ、またはインクリボンカセットである。他の収納物は印刷以外に使用される消耗品であってもよい。他の収納物は消耗品でなくてもよく、食品等であってもよい。

[0075] テープカセット8Aを収納箱1Aに収納する向きは、上下逆さまでであってもよいが、位置決部93が収納箱1Aの前壁82側に配置されるように収納することが好ましい。収納箱1Aのヘッダ3はなくてもよいし、ヘッダ片31, 32のいずれか一方によって構成されてもよい。収納箱1Aの底壁4は地獄底の形態に限らず、例えば、所謂キャラメル箱の形態でもよい。

[0076] 次に、収納物が壁面に擦れることによる紙粉の発生を抑制することができる印刷カセット収納体およびシートを提供するため、本発明の第二実施形態

について、図面を参照して説明する。参照する図面は、本発明が採用しうる技術的特徴を説明するために用いられる。すなわち、図面に記載されている構成等は、そのみに限定する趣旨ではなく、単なる説明例である。

[0077] 図 1 2 および図 1 3 を参照し、収納箱 1 B を説明する。以下では、図 1 2 の左上方、右下方、左下方、右上方、下方、および上方を、それぞれ、収納箱 1 B の左方、右方、前方、後方、下方、および上方とする。なお、第二実施形態において、例えば上下方向は、説明のために便宜的に使用され、鉛直方向に限定されない。

[0078] 収納箱 1 B は、例えば図 1 6 に示す台紙 1 0 0 B が組み付けられることで形成される。第二実施形態の台紙 1 0 0 B には、表（おもて）面にコーティング処理が施されたコーティング部が形成されている。台紙 1 0 0 B の「表面」は、図 1 6 に示す台紙 1 0 0 B のうち紙面手前を向く面である。収納箱 1 B は、天壁 5、底壁 4 および周壁 6 それぞれにおいてコーティング部が形成された表面が外方を向く向きに台紙 1 0 0 B が折り曲げられて組み立てられる。「裏面」は、図 1 6 に示す台紙 1 0 0 B のうち紙面奥を向く面である。収納箱 1 B を組み立てた場合、裏面は箱内部の空間 7 を向く向きに台紙 1 0 0 B が折り曲げられて組み立てられる。

紙に対するコーティング処理は、例えば、台紙 1 0 0 B の表面にニス塗布する処理、表面に光沢剤を塗布してプレスコートする処理、ラミネート、P P、P E T 等のフィルムを貼る処理、塩化ビニール樹脂を塗布する処理等が知られている。第二実施形態においてはコーティング処理の種類については問わず、上記いずれの処理が台紙 1 0 0 B に施されてもよい。なお、台紙 1 0 0 B の構成および台紙 1 0 0 B から収納箱 1 B を組み立てる方法については後述する。

[0079] 収納箱 1 B は箱本体 2 とヘッダ 3 とを備える。箱本体 2 は前後方向よりも左右方向に長く、且つ左右方向よりも上下方向に長い直方体状であり、テープカセット 8 B を収納する。例えば箱本体 2 の前後方向の幅 W_{21} は、テープカセット 8 B の前後方向の幅 W_{81} よりもわずかに大きい。箱本体 2 の前

後方向、左右方向、および上下方向のそれぞれの長さの関係は、テープカセット 8 B の前後方向、左右方向、および上下方向のそれぞれの長さの関係と同じである。

[0080] 箱本体 2 は底壁 4 と天壁 5 と周壁 6 とを有する。底壁 4 および天壁 5 は、それぞれ、上下方向に直交するように延び、且つ上下方向において互いに並ぶ。底壁 4 は箱本体 2 の下端に位置する。天壁 5 は箱本体 2 の上端に位置する。

[0081] 周壁 6 は底壁 4 の周縁 4 0 から天壁 5 の周縁 5 0 まで延びる。周壁 6 は四角筒状であり、前壁 6 1 と背壁 6 2 と左壁 6 3 と右壁 6 4 とを含む。前壁 6 1 および背壁 6 2 は、それぞれ、前後方向に直交するように延び、且つ前後方向において互いに並ぶ。前壁 6 1 は箱本体 2 の前端に位置する。背壁 6 2 は箱本体 2 の後端に位置する。左壁 6 3 および右壁 6 4 は、それぞれ、左右方向に直交するように延び、且つ左右方向において互いに並ぶ。左壁 6 3 は箱本体 2 の左端に位置する。右壁 6 4 は箱本体 2 の右端に位置する。

[0082] 前壁 6 1 の下端 6 1 1、背壁 6 2 の下端 6 2 1、左壁 6 3 の下端 6 3 1、および右壁 6 4 の下端 6 4 1 は、底壁 4 の周縁 4 0 を構成する（図 1 3 参照）。前壁 6 1 の上端 6 1 2、背壁 6 2 の上端 6 2 2、左壁 6 3 の上端 6 3 2、および右壁 6 4 の上端 6 4 2 は、天壁 5 の周縁 5 0 を構成する（図 1 2 参照）。

[0083] 箱本体 2 の内部には空間 7 が形成される。空間 7 は底壁 4 と天壁 5 と周壁 6（前壁 6 1、背壁 6 2、左壁 6 3、右壁 6 4）とによって囲まれる。空間 7 には、テープカセット 8 B が、後述の下壁 8 5 が上方から底壁 4 と向き合う状態で、配置される。

[0084] ヘッダ 3 は箱本体 2 に設けられる。ヘッダ 3 は壁状であり、ヘッダ片 3 1 とヘッダ片 3 2 とを含む。ヘッダ片 3 1 は背壁 6 2 の上端 6 2 2 に接続し、背壁 6 2 の上端 6 2 2 から上方に延びる。図 1 3 は、背壁 6 2 の上端 6 2 2 を仮想線 V 0 によって示す。ヘッダ片 3 2 はヘッダ片 3 1 の上端 3 1 1 から前方に折り返されて下方に延びる。ヘッダ片 3 2 の下端 3 2 1 は上下方向に

において天壁５の位置に位置し、後述の雌フラップ５２（図１４参照）に接続する。

[0085] ヘッダ３には孔３０が設けられる。孔３０は正面視で二等辺三角形形状であり、ヘッダ３の左右方向の中央に配置される。孔３０はヘッダ片３１、３２を前後方向に貫通する。したがって、孔３０はヘッダ３を前後方向に貫通する。例えば、収納箱１Ｂの流通市場において、収納箱１Ｂは、商品を吊り下げ陳列するための棒に孔３０を介して挿入され、吊り下げ陳列されてもよい。

[0086] 図１２、図１４、図１６を参照し、天壁５の詳細構造を説明する。天壁５は、雄フラップ５１と雌フラップ５２と左フラップ５３と右フラップ５４とを含む。雄フラップ５１は、前壁６１の上端６１２に接続し、雄本体部５１５と差込部５５とを有する。雄本体部５１５は前壁６１の上端６１２から後方に延びる。雄本体部５１５は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。雄本体部５１５の前後方向の長さは、前壁６１と背壁６２との間の前後方向の距離と略同じである。

[0087] 雄本体部５１５の後端５１１は、背壁６２の前方近傍に位置し、左右方向に延びる。雄本体部５１５は開口縁５１２を含む。開口縁５１２は開口５１３を規定する。開口５１３は雄本体部５１５を上下方向に貫通する。開口縁５１２は環状に閉じられ、縁５１２１、５１２２を含む。縁５１２１は開口５１３に対して後方に配置される。縁５１２１は左右方向に延び、後方に膨らむ円弧状である。

[0088] 縁５１２２は縁５１２１の左端から前方に延び、右方に延び、後方に延びて縁５１２１の右端に接続する。縁５１２２は前壁６１の上端６１２よりも後方に配置される。このため、天壁５のうち前壁６１の上端６１２の近傍の領域は、左右方向において、開口５１３によって分断されることなく、連なる。

[0089] 雄本体部５１５には一対のミシン目５１６、５１７が設けられる。ミシン目５１６は縁５１２１の左端から雄本体部５１５の後端５１１まで、後方に

向かうにつれて左方に向かって延びる。ミシン目517は縁5121の左端から雄本体部515の後端511まで、後方に向かうにつれて右方に向かって延びる。このため、一对のミシン目516、517は、後方に向かうにつれて互いに左右方向に離れるように延びる。

[0090] 以下では、雄本体部515のうち端5111、ミシン目516、517、および縁5121によって囲まれる領域を「開封領域R22」という。ユーザは、開封領域R22を箱本体2から分断することによって、収納箱1Bを天壁5側から開封することができる。

[0091] 差込部55は、雄本体部515に接続し、雄本体部515の後端511から下方に突出する。詳細には、差込部55は土台部57と返し部58とを含む。土台部57は差込部55のうち雄本体部515から下方に延びる部分である。土台部57は上下方向よりも左右方向に長い長方形形状である。土台部57は雄本体部515の後端511のうち、ミシン目516、517の間の部分に接続する。返し部58は土台部57の下端に形成されるミシン目5722で後方に折り返され、上方に延びる。返し部58は前後方向において背壁62と土台部57との間に位置し、背壁62に接触する。

[0092] 雌フラップ52は背壁62の上端622にヘッダ3を介して接続し、ヘッダ片32の下端321（図16参照）から前方に延び、さらに折り返して後方に延びる。雌フラップ52は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。雌フラップ52は、折返し基部59と折返し先部60を有する。折返し基部59は略矩形形状であり、ヘッダ片32の下端321に接続して前方に延びる。折返し基部59の大きさは、収納箱1Bを組み立てた場合の周壁6の上端612、622、632、642で囲まれた領域とほぼ同じ大きさである。折返し基部59の前端591は前後方向において前壁61の上端612の近傍に位置する。折返し先部60は略矩形形状であり、折返し基部59の前端591に接続して後方に延びる。折返し先部60の左右方向の大きさは、折返し基部59の左右方向の大きさと同じであり、折返し先部60の前後方向の大きさは折返し基部59の左右方向の大きさよりも若干短い。折返し先

部 6 0 は、折返し基部 5 9 の前端 5 9 1 において下方側から折り返した部分であり、天壁 5 を組み立てた状態で折返し基部 5 9 の下側、すなわち空間 7 側に位置する。折返し先部 6 0 の後端 6 0 1 は、前後方向において背壁 6 2 の上端 6 2 2 の前方に位置する。後端 6 0 1 は、平面視で後述する差込口 5 2 1 よりも前方に位置する。

[0093] 雌フラップ 5 2 には指掛け部 5 2 2 と差込口 5 2 1（図 1 6 参照）とが設けられる。指掛け部 5 2 2 は、折返し基部 5 9 の前端 5 9 1 の中点の位置が円形状の中心となる位置に形成される。故に折返し先部 6 0 が折り返された状態の平面視において、指掛け部 5 2 2 は折返し基部 5 9 の前端 5 9 1 から後方へ向けて半円状に凹む形状である。

[0094] 図 1 6 に示すように、差込口 5 2 1 は前後方向よりも左右方向に長く、雌フラップ 5 2 を上下方向に貫通する。差込口 5 2 1 は、前壁 6 1 と背壁 6 2 との前後方向の中央よりも後方に位置し、背壁 6 2 の近傍に位置する。第二実施形態では、差込口 5 2 1 は雌フラップ 5 2 の折返し基部 5 9 がヘッダ片 3 2 と接続する部位（折返し基部 5 9 の後端）に位置する。差込口 5 2 1 には差込部 5 5 が差し込まれる。

[0095] 左フラップ 5 3 は左壁 6 3 の上端 6 3 2 に接続し、左壁 6 3 の上端 6 3 2 から右方に延びる。右フラップ 5 4 は右壁 6 4 の上端 6 4 2 に接続し、右壁 6 4 の上端 6 4 2 から左方に延びる。左フラップ 5 3 および右フラップ 5 4 は、それぞれ、前後方向よりも左右方向に長い長方形状であり、互いに左右対称である。

[0096] 左フラップ 5 3 および右フラップ 5 4 のそれぞれの左右方向の長さは、左壁 6 3 と右壁 6 4 との左右方向の間の距離よりも小さく、且つ左壁 6 3 と右壁 6 4 との左右方向の間の距離の半分よりも大きい。したがって、左フラップ 5 3 の右端および右フラップ 5 4 の左端の一方は、他方の上に重なる。第二実施形態では、左フラップ 5 3 が右フラップ 5 4 の上に重なる。

[0097] 以下では、雄フラップ 5 1 によって構成される層を「雄フラップ層 5 0 1」という。第二実施形態では、平面視において、雄フラップ層 5 0 1 の外形

は、雄本体部515の外形によって規定される。雌フラップ52によって構成される層を「雌フラップ層502」という。第二実施形態では、平面視において、雌フラップ層502の外形は、折返し基部59の外形によって規定される。左フラップ53と右フラップ54とによって構成される層を「サイドフラップ層503」という。第二実施形態では、平面視において、サイドフラップ層503の外形は、左フラップ53および右フラップ54の外形によって規定される。

[0098] 図14に示すように、天壁5では、雄フラップ層501、雌フラップ層502、およびサイドフラップ層503が、下方から上方に向かって雌フラップ層502、サイドフラップ層503、雄フラップ層501の順に並んで積層される。差込部55は、差込口521を介して雌フラップ52よりも内側に配置される。

[0099] 図13、図15～図17を照し、背壁62および底壁4の詳細構造を説明する。背壁62にはミシン目623が設けられる。ミシン目623は上方に膨らむ円弧状であり、背壁62の下部に位置する。ミシン目623の両端は、背壁62の下端621に位置する。以下では、背壁62のうちミシン目623と背壁62の下端621とによって囲まれる領域を「起点領域R11」という。ユーザは、収納箱1Bを底壁4側から開封する場合、起点領域R11を箱本体2内に押し込み、開封領域R12（後述）を箱本体2から分断するための起点とする。

[0100] 底壁4は、いわゆる地獄底であり、雄フラップ41と雌フラップ42と折返しフラップ49と左フラップ43と右フラップ44とを含む。雄フラップ41は背壁62の下端621に接続し、背壁62の下端621から前方に延びる。雄フラップ41は、雄本体部415、差込部416および頭部417を有する。雄本体部415は背壁62の下端621から前方に延びる部分であり、前方に向かうにつれて狭まる台形状である。雄本体部415の前後方向の長さは、箱本体2の前後方向の長さ（左壁63の下端631の長さ）の略半分と同じ長さ、もしくはそれよりも若干短い。

[0101] 差込部416は雄本体部415から前方に突出する部分であり、雄本体部415の延出先端部分における左右方向の長さを維持して前方に延びる。頭部417は差込部416からさらに前方に突出する部分であり、差込部416よりも左右方向に長く延びる。頭部417の左端部は差込部416の左縁よりも左方に突出し、頭部417の右端部は差込部416の右縁よりも右方に突出する。すなわち頭部417の左右方向の長さは、差込部416の左右方向の長さよりも長い。頭部417は差込部416を雌フラップ42の差込口426（後述）に差し込んだ状態で差込口426からの抜けを防止する機能を果たす部分である。

[0102] 雄フラップ41には一对のミシン目411、412が設けられる。ミシン目411は、ミシン目623の両端のうち左方の端から前方に向かうにつれて左方に向かって延びる。ミシン目412は、ミシン目623の両端のうち右方の端から前方に向かうにつれて右方に向かって延びる。以下では、雄フラップ41のうち一对のミシン目411、412、および背壁62の下端621によって囲まれる領域を「開封領域R12」という。ユーザは、開封領域R12を起点領域R11とともに箱本体2から分断することによって、収納箱1Bを底壁4側から開封することができる。

[0103] 雌フラップ42は前壁61の下端611に接続し、前壁61の下端611から後方に延びる。雌フラップ42は、雌本体部425および係合部428、429を有し、雌本体部425に差込口426および案内口427が形成される。雌本体部425は前壁61の下端611から後方に延びる部分であり、前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。雌フラップ42の左右方向の長さは、箱本体2の左右方向の長さ（前壁61の下端611の長さ）よりも係合部428、429の左右方向の長さ分、短い。雌フラップ42の前後方向の長さは、箱本体2の前後方向の長さ（左壁63の下端631の長さ）と略同じ大きさである。係合部428、429は、雌フラップ42の前後方向の前端部で左右両側の側部にそれぞれ設けられる。係合部428、429は、側部が雌本体部425に接続する形態で前壁61の下端611から

後方へ向けて延びる。係合部428, 429の突出先端部分は雌本体部425の左右両側の縁から切り離され、上下方向に撓むことができる。係合部428, 429を含めた雌フラップ42の大きさは、収納箱1Bを組み立てた場合の周壁6の下端611, 621, 631, 641で囲まれた領域とほぼ同じ大きさである。

[0104] 雌フラップ42には差込口426が形成される。差込口426は左右方向に長い矩形状の開口であり、雌フラップ42を上下方向に貫通する。差込口426は、雌フラップ42の前後方向中央よりも後方側に形成される。差込口426の前側の開口縁は、底壁4における前後方向略中央もしくはそれよりも若干後側に位置する。底壁4の組み立てにおいて、差込口426には雄フラップ41の差込部416が挿通される。また、差込口426の左右両端部は、差込部416を挿通させた状態で雄フラップ41の頭部417を引っ掛けることにより、差込部416の抜けを防止する部分として機能する。

[0105] 案内口427は、差込口426の後方側に形成され、差込口426と繋がる。案内口427は差込口426よりも左右方向に長く延び、両端それぞれが円弧状に丸められており、雌フラップ42を上下方向に貫通する。すなわち差込口426と案内口427とは、収納箱1Bの組み立て前の雌フラップ42の略中央において厚み方向に貫通する一つの繋がった開口である。底壁4の組み立てにおいて、雄フラップ41の頭部417は、案内口427の左右両側の縁の間を挿通される。頭部417が案内口427を挿通した状態で、差込部416は、案内口427に繋がる差込口426に案内され、差込口426を挿通した状態となる。よって、案内口427の左右方向の長さは、頭部417の左右方向の長さ以上である。

[0106] 折返しフラップ49は雌フラップ42の後端420に接続して後方に延びる。折返しフラップ49は前後方向よりも左右方向に長い略矩形状である。折返しフラップ49の大きさは、雌フラップ42の雌本体部425の大きさと略同じである。折返しフラップ49の左右両側の縁において、前後方向の略中央よりも前側の位置には、それぞれ前後方向に延びる被係合部498,

４９９が形成される。被係合部４９８，４９９はそれぞれ前方へ向けて突出する形状であり、突出先端部分が折返しフラップ４９の左右両側の縁から切り離され、上下方向に撓むことができる。折返しフラップ４９は雌フラップ４２の後端４２０において上方側に折り返され、底壁４を組み立てた状態で雌フラップ４２の上側、すなわち空間７側に位置する。被係合部４９８，４９９は、それぞれ雌フラップ４２の係合部４２８，４２９と係合する。よって折返しフラップ４９は、雌フラップ４２の上側で、雌フラップ４２に対してほぼ密着した状態に維持される。

[0107] 折返しフラップ４９には切込部４８が形成される。切込部４８は折返しフラップ４９を厚み方向に貫通し、折返しフラップ４９の面に沿って延びる。切込部４８は、折返しフラップ４９の左端部と右端部とにおいてそれぞれ前後方向に延びる一对の第一切込部４８１，４８２と、第一切込部４８１，４８２それぞれの後端部を左右方向に接続する第二切込部４８３とを有する。すなわち切込部４８は、折返しフラップ４９の平面視において矩形の三方を切り込んだ形状である。底壁４の組み立てにおいて、切込部４８は、雄フラップ４１の頭部４１７が案内口４２７に挿入される場合に撓むことで、組み立てを容易に行えるようにする。

[0108] 左フラップ４３は左壁６３の下端６３１に接続し、左壁６３の下端６３１から右方に延びる。右フラップ４４は右壁６４の下端６４１に接続し、右壁６４の下端６４１から左方に延びる。左フラップ４３は、左本体部４３５および左突出部４３６を有する。右フラップ４４は、右本体部４４５および右突出部４４６を有する。左フラップ４３および右フラップ４４は、互いに左右対称形状である。

[0109] 左本体部４３５は、左壁６３の下端６３１から右方に延びる略三角形形状である。左本体部４３５の後側の縁は下端６３１の後端から右方に延び、前側の縁は下端６３１の前端から右斜め後方へ向けて延びる。左本体部４３５の前側の縁の右後端は、底壁４を組み立てた場合に、雌フラップ４２の差込口４２６の左前角部近傍に配置される。

- [0110] 左突出部436は左本体部435の延出先端部分から右方に突出する。左突出部436は左右方向よりも前後方向に長く延びる。左突出部436の前側の端部437は左本体部435の延出先端部分よりも若干、前方に突出する。左フラップ43の左右方向の長さは、箱本体2の左右方向の長さ（背壁62の下端621の長さ）の略半分と同じ長さ、もしくはそれよりも短い。
- [0111] 右本体部445は、右壁64の下端641から左方に延びる略三角形状である。右本体部445の後側の縁は、下端641の後端から左方に延び、前側の縁は、下端641の前端から左斜め後方へ向けて延びる。右本体部445の前側の縁の左後端は、底壁4を組み立てた場合に、雌フラップ42の差込口426の右前角部近傍に配置される。
- [0112] 右突出部446は右本体部445の延出先端部分から左方に突出する。右突出部446は左右方向よりも前後方向に長く延びる。右突出部446の前側の端部447は右本体部445の延出先端部分よりも若干、前方に突出する。右フラップ44の左右方向の長さは、箱本体2の左右方向の長さ（背壁62の下端621の長さ）の略半分と同じ長さ、もしくはそれよりも短い。
- [0113] 以下説明において、雄フラップ41によって構成される層を「雄フラップ層401」という。第二実施形態では、平面視において、雄フラップ層401の外形は、雄本体部415の外形によって規定される。雌フラップ42によって構成される層を「雌フラップ層402」という。第二実施形態では、平面視において、雌フラップ層402の外形は、雌本体部425の外形によって規定される。左フラップ43と右フラップ44とによって構成される層を「サイドフラップ層403」という。第二実施形態では、平面視において、サイドフラップ層403の外形は、左本体部435および右本体部445の外形によって規定される。
- [0114] 底壁4において、雄フラップ層401、雌フラップ層402、およびサイドフラップ層403が、上方から下方に向かって雌フラップ層402、サイドフラップ層403、雄フラップ層401の順に並んで積層される。雄フラップ41の差込部416および頭部417は、差込口426を介して雌フラ

ップ42の雌本体部425よりも上側、すなわち箱本体2の空間7内に配置される。

[0115] 図12を参照し、テープカセット8Bを説明する。テープカセット8Bはケース81と印刷テープ89とを備える。ケース81は前後方向よりも左右方向に長く、且つ左右方向よりも上下方向に長い直方体状である。印刷テープ89は長尺状であり、ケース81に収納される。印刷テープ89の幅方向（短手方向）は前後方向である。このため、テープカセット8Bの幅方向は前後方向となる。テープカセット8Bでは、印刷テープ89の幅方向の長さ（テープ幅）が大きくなると、ケース81の前後方向の幅W81が大きくなる。

[0116] 第二実施形態では、ケース81は前壁82と後壁83と周壁84とを有する。前壁82および後壁83は、それぞれ、前後方向に直交するように延び、且つ前後方向において互いに並ぶ。前壁82はケース81の前端に位置する。後壁83はケース81の後端に位置する。

[0117] 周壁84は後壁83の周縁831から前壁82の周縁821まで延びる。周壁84は四角筒状であり、下壁85と上壁86とを含む。下壁85および上壁86は、それぞれ、上下方向に直交するように延び、且つ上下方向において互いに並ぶ。下壁85はケース81の下端に位置する。上壁86はケース81の上端に位置する。上壁86には、ケース81に収納された印刷テープ89をケース81の外に排出するための排出口88が設けられる。排出口88は上壁86よりも上方に突出する。また、上壁86および下壁85には、テープカセット8Bをプリンタ（図示略）に装着した場合に、装着部に設けられる爪（図示略）によって位置決めおよび保持がなされる突起部861、851がそれぞれ設けられる。突起部861は上壁86よりも上方に突出し、突起部851は下壁85よりも下方に突出する。

[0118] テープカセット8Bは消耗品であり、プリンタによる印刷に使用される。例えば、テープカセット8Bは、プリンタに装着された状態で使用される。プリンタはケース81内から印刷テープ89を引き出しながら、印刷テープ

８９に画像を印刷する。プリンタは、画像が印刷された印刷テープ８９を、排出口８８を介してケース８１の外に排出する。これにより、印刷テープ８９に画像が印刷されたラベルが作成される。

[0119] 図１６を参照し、台紙１００Ｂを説明する。以下では、図１６の左方、右方、下方、および上方を、それぞれ、台紙１００ＢのＸマイナス方向、Ｘプラス方向、Ｙマイナス方向、およびＹプラス方向とする。図１６では、仮想線Ｖ０、Ｖ１、Ｖ２、Ｖ３、Ｖ４、Ｖ５、Ｖ６、Ｖ７、Ｖ８、Ｖ９、Ｖ１０、Ｖ１１、Ｖ１２、Ｖ１３、Ｖ１４、Ｖ１５、Ｖ１６は収納箱１Ｂの隣り合う各構成要素の境界を示す。例えば仮想線Ｖ０は背壁６２とヘッダ片３１との境界を示す。

[0120] 台紙１００Ｂは所定形状に切断された１枚のシートであり、厚紙、薄紙、段ボール等である。台紙１００Ｂは、底壁４、天壁５、周壁６、およびヘッダ３を含む。台紙１００Ｂでは、Ｙ方向の中央に周壁６が配置される。周壁６において、前壁６１、背壁６２、左壁６３、および右壁６４は、Ｘプラス方向からＸマイナス方向に向かって右壁６４、前壁６１、左壁６３、背壁６２の順にそれぞれ連なって並ぶ。さらに、背壁６２のＸマイナス方向の隣りに、のり代６５が連なる。

[0121] 底壁４は周壁６のＹマイナス方向に配置される。詳細には、雄フラップ４１は背壁６２のＹマイナス方向に配置され、背壁６２と連なる。雌フラップ４２は前壁６１のＹマイナス方向に配置され、前壁６１と連なる。左フラップ４３は左壁６３のＹマイナス方向に配置され、左壁６３と連なる。右フラップ４４は右壁６４のＹマイナス方向に配置され、右壁６４と連なる。

[0122] 底壁４において、折返しフラップ４９は雌フラップ４２のＹマイナス方向に配置され、雌フラップ４２と連なる。第一切込部４８１は雌フラップ４２のＸマイナス方向の縁に近い側において、雌フラップ４２の後端４２０から折返しフラップ４９の前端４９１よりも後方に離れた位置にかけて、Ｙ方向に沿って形成される。第一切込部４８２は雌フラップ４２のＸプラス方向の縁に近い側において、雌フラップ４２の後端４２０から折返しフラップ４９

の前端４９１よりも後方に離れた位置にかけて、Ｙ方向に沿って形成される。第二切込部４８３はＸ方向に延び、第一切込部４８１、４８２のそれぞれの端部同士を接続する。よって切込部４８は折返しフラップ４９の中央部分を、前端側を残して矩形状に切り離す。

[0123] 天壁５およびヘッダ３は周壁６のＹプラス方向に配置される。詳細には、ヘッダ３において、ヘッダ片３１は背壁６２のＹプラス方向に配置され、背壁６２と連なる。ヘッダ片３２はヘッダ片３１のＹプラス方向に配置され、ヘッダ片３１と連なる。

[0124] 天壁５において、雌フラップ５２はヘッダ片３１のＹプラス方向に配置され、ヘッダ片３１と連なる。雄フラップ５１は前壁６１のＹプラス方向に配置され、前壁６１と連なる。左フラップ５３は左壁６３のＹプラス方向に配置され、左壁６３と連なる。右フラップ５４は右壁６４のＹプラス方向に配置され、右壁６４と連なる。

[0125] 図１６～図２２を参照し、台紙１００Ｂから収納箱１Ｂを組み立てる方法を説明する。台紙１００Ｂにおいて互いに隣り合う一対の構成要素のそれぞれの裏面が互いに向き合う方向に、互いの境界に沿って台紙１００Ｂを折ることを「山折り」という。台紙１００Ｂにおいて互いに隣り合う一対の構成要素のそれぞれの表面が互いに向き合う方向に、互いの境界に沿って台紙１００Ｂを折ることを「谷折り」という。例えば「仮想線Ｖ１に沿って台紙１００Ｂを山折りする」とは、右壁６４の裏面と前壁６１の裏面とが互いに向き合う方向に、台紙１００Ｂが仮想線Ｖ１に沿って折られることを意味する。第二実施形態では、台紙１００Ｂの表面には、仮想線Ｖ１～Ｖ１６に沿って折り目筋が形成される。一方で、台紙１００Ｂの裏面には、折り目筋が形成されない。

[0126] 図１６に示すように、台紙１００Ｂは仮想線Ｖ１、Ｖ２、Ｖ３、Ｖ４に沿って山折りされる。のり代６５の表面が左壁６３の裏面に貼り付けられる。これにより、図１８に示すように、周壁６が四角筒状に形成される。この状態で、台紙１００Ｂの表面は、各フラップも含め、四角筒状の外側を向く配

置となり、裏面が内側、すなわち空間 7 内側を向く配置となる。

[0127] 台紙 100B は仮想線 V 15 に沿って山折りされる。矢印 S 1 に示すように、折返しフラップ 49 は後方に折り曲げられる。これにより、図 19 に示すように、折返しフラップ 49 が雌フラップ 42 の後側に配置される。折返しフラップ 49 の被係合部 498, 499 は、それぞれ雌フラップ 42 の係合部 428, 429 と係合する。これにより、折返しフラップ 49 における台紙 100B の裏面は、雌フラップ 42 における台紙 100B の裏面と密着した状態に維持される。折返しフラップ 49 における台紙 100B の表面は、後方を向く。

[0128] 台紙 100B は仮想線 V 5 に沿って山折りされる。矢印 S 2 に示すように、雌フラップ 42 および折返しフラップ 49 は後方に折り曲げられ、周壁 6 の下端 611, 621, 631, 641 に囲まれた領域（言い換えると周壁 6 の周縁 40 によって形成され空間 7 に繋がる開口部分）に配置される。これにより、底壁 4 の最上層に、雌フラップ層 402 が配置される。折返しフラップ 49 は、コーティング部が形成された表面を空間 7 内に向け、雌フラップ層 402 を構成する雌フラップ 42 の上面に密着した状態で配置される。すなわち、折返しフラップ 49 においてコーティング部が形成された表面は、空間 7 内の下側の壁面を構成し、空間 7 内で上を向く配置となる。折返しフラップ 49 における表面に形成されたコーティング部には、空間 7 内に収容されるテープカセット 8B の下壁 85 の下面が接触する。

[0129] 台紙 100B は仮想線 V 6、V 7 に沿って山折りされる。左フラップ 43 は右方に折り曲げられ、右フラップ 44 は左方に折り曲げられて、周壁 6 の下端 611, 621, 631, 641 に囲まれた領域に配置される。これにより、左フラップ 43 および右フラップ 44 は、サイドフラップ層 403 として、雌フラップ層 402 の下側に積層される。台紙 100B は仮想線 V 8 に沿って山折りされる。雄フラップ 41 は前方に折り曲げられ、周壁 6 の下端 611, 621, 631, 641 に囲まれた領域に配置される。これにより、雄フラップ 41 は、雄フラップ層 401 として、サイドフラップ層 40

3の下側に積層され、底壁4の最下層に配置される。

[0130] この状態で、図20に示すように、雄フラップ41が外側から内側に向けて押し込まれる。雄フラップ41が押し込まれると、左フラップ43および右フラップ44が雄フラップ41に押されて、外側から内側に向けて押し込まれる。さらに、雌フラップ42が、雄フラップ41、左フラップ43および右フラップ44に押されて、外側から内側に向けて押し込まれる。雄フラップ41、雌フラップ42、左フラップ43および右フラップ44は、それぞれ、周壁6の下端611、621、631、641から斜めに空間7内へ向けて傾斜した状態となる。

[0131] 雄フラップ41の頭部417は、雌フラップ42の案内口427に到達し、案内口427を挿通される。次いで差込部416が案内口427に挿通され、雄フラップ41の押し込みが緩められることで、差込部416は差込口426に案内される。このとき、空間7内へ斜めに傾斜する雄フラップ41の頭部417が折返しフラップ49に接触するが、切込部48に切り離された中央部分が雌フラップ42の後端420側ほど大きく撓むことで、差込部416の差込口426への移動は制限されない。

[0132] 図17に示すように、雄フラップ41、左フラップ43および右フラップ44が、それぞれ、差込口426を介して雌フラップ42に引っかかり、地獄底形態の底壁4が形成される。また、雄フラップ41の押し込みが解除されるので、折返しフラップ49は、台紙100Bにおける表面を空間7内へ向けた状態で、雌フラップ42との間に頭部417および差込部416を挟み、雌フラップ42と密着した状態になる。

[0133] 図21に示すように、底壁4が形成された時点では、箱本体2は上方に開口する。この状態で、下壁85が上方から底壁4の裏面と向き合うように、箱本体2の上方から空間7にテープカセット8Bが収納される。折返しフラップ49は底壁4の最上層の雌フラップ層402において雌フラップ42の上面に密着し、折返しフラップ49においてコーティング部が形成された表面を空間7内に向けた状態で配置されている。テープカセット8Bは空間7

内で折返しフラップ４９における台紙１００Ｂの表面に載置される。テープカセット８Ｂの下壁８５には、突起部８５１が設けられている。突起部８５１は下壁８５よりも下方に突出するので、折返しフラップ４９の表面に形成されたコーティング部に接触する。突起部８５１は、収納箱１Ｂへの収納後の持ち運び等によって空間７内で振られると、コーティング部と擦れ合う。台紙１００Ｂの表面はコーティング部が形成されたことによって摩擦による摩耗から十分に保護されているので、擦れによる紙粉等の発生を抑制することができる。

[0134] 折返しフラップ４９は、収納箱１Ｂを組み立てた場合の周壁６の周縁４０による空間７への開口部分とほぼ同じ大きさである。よって折返しフラップ４９は、テープカセット８Ｂの重量を支え、雄フラップ４１、左フラップ４３、右フラップ４４および雌フラップ４２にかかるテープカセット８Ｂの重量を低減することで、地獄底形態の底抜けを防止する。

[0135] 台紙１００Ｂは仮想線Ｖ１６に沿って山折りされる。矢印Ｓ３に示すように、雌フラップ５２の折返し先部６０は前方に折り曲げられる。これにより、折返し先部６０は折返し基部５９の前側に配置される。円形開口状の指掛け部５２２は、上下方向の中央で折り返されることにより、折返し基部５９の前端５９１から図２１の向きで下方に凹む半円形状になる。図２２に示すように、折返し先部６０における台紙１００Ｂの裏面は、折返し基部５９における台紙１００Ｂの裏面を向く。また、折返し先部６０における台紙１００Ｂの表面は、前方を向く。

[0136] 台紙１００Ｂは仮想線Ｖ１０に沿って谷折りされる。矢印Ｓ４に示すように、折返し先部６０と折返し基部５９は、後方へ向けて折り曲げられる。これにより、折返し先部６０における台紙１００Ｂの表面は、上方を向く。さらに、台紙１００Ｂは仮想線Ｖ９に沿って谷折りされる。矢印Ｓ５に示すように、ヘッダ片３２はヘッダ片３１の前側に配置され、ヘッダ３が形成される。また、折返し先部６０と折返し基部５９は、折返し先部６０が下側に位置する状態で、周壁６の上端６１２，６２２，６３２，６４２に囲まれた領

域（言い換えると周壁 6 の周縁 5 0 によって形成され空間 7 に繋がる開口部分）に配置される。これにより、天壁 5 の最下層に、雌フラップ層 5 0 2 が配置される。折返し先部 6 0 は、コーティング部が形成された表面を空間 7 内に向け、折返し基部 5 9 の下面側に配置される。すなわち、折返し先部 6 0 においてコーティング部が形成された表面は、空間 7 内の上側の壁面を構成し、空間 7 内で下を向く配置となる。折返し先部 6 0 における表面に形成されたコーティング部には、空間 7 内に収容されるテープカセット 8 B の上壁 8 6 の上面が接触する。

[0137] 台紙 1 0 0 B は仮想線 V 1 1、V 1 2 に沿って山折りされる。これにより、天壁 5 において雌フラップ層 5 0 2 の上に左フラップ 4 3 と右フラップ 5 4 とから構成されるサイドフラップ層 5 0 3 が積層される。なお、サイドフラップ層 5 0 3 において、左フラップ 4 3 と右フラップ 5 4 の積層順は任意である。台紙 1 0 0 B は仮想線 V 1 3 に沿って山折りされ、ミシン目 5 7 2 に沿って谷折りされる。これにより差込部 5 5 が形成される。

[0138] 台紙 1 0 0 B は仮想線 V 1 4 に沿って山折りされる。差込部 5 5 が差込口 5 2 1 を介して雌フラップ 5 2 よりも内側に差し込まれる。これにより、サイドフラップ層 5 0 3 の上に雄フラップ層 5 0 1 が積層され、図 1 2 に示す天壁 5 が形成される。以上により、収納箱 1 B の組み立てが完了する。

[0139] テープカセット 8 B の上壁 8 6 には、突起部 8 6 1 と排出口 8 8 が設けられている。突起部 8 6 1 と排出口 8 8 は、いずれも上壁 8 6 よりも上方に突出するので、折返し先部 6 0 の表面に形成されたコーティング部に接触する。突起部 8 6 1 および排出口 8 8 は、収納箱 1 B へのテープカセット 8 B 収納後の持ち運び等によって空間 7 内で振られると、折返し先部 6 0 表面のコーティング部と擦れ合う。台紙 1 0 0 B の表面はコーティング部が形成されたことによって摩擦による摩耗から十分に保護されているので、擦れによる紙粉等の発生を抑制することができる。

[0140] 図 2 3、図 2 4 を参照し、収納箱 1 C および台紙 1 0 0 C を説明する。以下では、収納箱 1 C、台紙 1 0 0 C のうち、収納箱 1 B、台紙 1 0 0 B と異

なる点を主に説明する。なお、収納箱 1 C、台紙 1 0 0 C について、収納箱 1 B、台紙 1 0 0 B と同様の形状または機能を有する構成に同じ符号を付しており、説明を省略または簡略化する。

[0141] 収納箱 1 C には、テープカセット 8 B に代えて、テープカセット 8 C が収納される。テープカセット 8 C のケース 8 1 の前後方向の幅 W 8 2 は、図 1 2 に示すテープカセット 8 B のケース 8 1 の前後方向の幅 W 8 1 よりも小さい。この場合、収納箱 1 C の箱本体 2 の前後方向の幅 W 2 2 は、収納箱 1 B の箱本体 2 の前後方向の幅 W 2 1 よりも小さい。すなわち、収納箱 1 C は、左右方向の長さについては収納箱 1 B と同じであり、前後方向の長さが収納箱 1 B よりも短いだけである。よって、台紙 1 0 0 C を用いて収納箱 1 C を組み立てれば、収納箱 1 B と同様に、テープカセット 8 C の突起部 8 6 1、8 5 1 および排出口 8 8 が形成された上壁 8 6 および下壁 8 5 のそれぞれに対し、コーティング部が形成された折返しフラップ 4 9 の表面と、折返し先部 6 0 の表面とを空間 7 内でそれぞれ向ける配置にすることができる。

[0142] 以上説明した第二実施形態において、収納箱 1 B の主な作用効果を説明する。台紙 1 0 0 B についても、台紙 1 0 0 B から収納箱 1 B が形成されることで、収納箱 1 B と同様の作用効果がいえる。

[0143] 箱本体 2 の空間 7 内にテープカセット 8 B が配置された場合に、空間 7 を囲む壁面のうち、ケース 8 1 において排出口 8 8 が形成された上壁 8 6 の上面に対向する折返し先部 6 0 の表面を覆うコーティング部は、排出口 8 8 が台紙 1 0 0 B に直接接触しないように台紙 1 0 0 B を保護する。故に収納箱 1 B は排出口 8 8 と台紙 1 0 0 B との直接の擦れによる紙粉の発生を抑制し、紙粉の付着による印刷品質の低下を防ぎ、テープカセット 8 B の品質を担保することができる。

[0144] なお、第二実施形態において、印刷テープ 8 9 が本発明の「収容物」の一例である。排出口 8 8 が本発明の「排出口」の一例である。テープカセット 8 B が本発明の「印刷カセット」の一例である。収納箱 1 B、1 C の上下方向が本発明の「第一方向」の一例である。底壁 4 が本発明の「第一壁」の一

例である。天壁 5 が本発明の「第二壁」の一例である。テープカセット 8 B の上壁 8 6 の上面が本発明の「第二カセット壁」の一例である。折返し先部 6 0 の台紙 1 0 0 B における表面が本発明の「第一壁面」の一例である。

[0145] また、本発明に係る印刷カセット収納体は、以下に説明する解決手段によって、収納物が壁面に擦れることによる紙粉の発生を抑制してもよい。例えば、前記ケースの外面は、前記印刷カセットの前記印刷装置への装着に供する突起部を有し、前記収納箱は、前記空間内に前記印刷カセットを配置した場合に、前記第一壁、前記第二壁および前記周壁の各壁面のうち、前記ケースの外面のうち前記突起部が形成された第一カセット壁に対向する第二壁面に、前記コーティング部を有してもよい。この場合、箱本体 2 の空間 7 内にテープカセット 8 B が配置された場合に、空間 7 を囲む壁面のうち、ケース 8 1 において突起部 8 5 1 が形成された下壁 8 5 の下面に対向する折返しフラップ 4 9 の表面を覆うコーティング部は、突起部 8 5 1 が壁面に直接接触しないように壁面を保護する。故に収納箱 1 B は紙粉の発生を抑制し、紙粉の付着による印刷品質の低下を防ぎ、テープカセット 8 B の品質を担保することができる。

[0146] 例えば、前記突起部は、前記排出口が形成された前記第二カセット壁に形成された第一突起部と、前記第二カセット壁に交差する交差方向において前記第二カセット壁とは反対側の外面である前記第一カセット壁に形成された第二突起部とを含み、前記収納箱は、前記空間内に前記印刷カセットを配置した場合に、前記第一壁、前記第二壁および前記周壁の各壁面のうち、前記ケースの前記排出口および前記第一突起部が形成された前記第二カセット壁に対向する前記第一壁面と、前記ケースの前記第二突起部が形成された前記第一カセット壁に対向する前記第二壁面とのそれぞれに、前記コーティング部を有してもよい。この場合において、箱本体 2 の空間 7 内にテープカセット 8 B が配置された場合に、コーティング部は、空間 7 を囲む壁面のうち、ケース 8 1 において排出口 8 8 および突起部 8 6 1 が形成された上壁 8 6 の上面に対向する折返し先部 6 0 の表面と、ケース 8 1 において突起部 8 5 1

が形成された下壁 8 5 の下面に対向する折返しフラップ 4 9 の表面とのそれぞれを覆う。コーティング部は、排出口 8 8、突起部 8 6 1 および突起部 8 5 1 が壁面に直接接触しないように壁面を保護する。故に収納箱 1 B は紙粉の発生を抑制し、紙粉の付着による印刷品質の低下を防ぎ、テープカセット 8 B の品質を担保することができる。

[0147] 例えば、前記収納箱は、前記第一壁、前記第二壁および前記周壁の各壁面のうち、前記第一壁面および前記第二壁面を除く他の壁面において、前記コーティング部を非形成としてもよい。この場合、収納箱 1 B は、箱本体 2 の空間 7 を囲む壁面のうち、テープカセットのケース 8 1 の排出口 8 8 および突起部 8 6 1 が接触する可能性のある折返し先部 6 0 の表面と、突起部 8 5 1 が接触する可能性のある折返しフラップ 4 9 の表面には、コーティングを形成している。一方、周壁 6 の空間 7 側の壁面は、突起部 8 5 1、8 6 1 および排出口 8 8 に接触しない。ゆえにこれらの壁面には、台紙 1 0 0 B の裏面が向けられており、台紙 1 0 0 B の裏面には、コーティング部が形成されていない。このように、突起部 8 5 1、8 6 1 および排出口 8 8 が接触する可能性のない壁面にはコーティング部を非形成とすることで、コーティング材の使用量を抑えることができる。

[0148] 例えば、前記収納箱はシートを折り曲げ箱状に組み立てて構成されたものであり、前記コーティング部は、前記シートの表裏二面のうち、前記シートを箱形態に組み立てた場合に前記空間側とは反対の外側を向く第一面に形成されており、前記第一壁面および前記第二壁面は、前記シートを箱形態に組み立てる場合に前記空間内へ向けて折り曲げられた部分において、前記空間内へ向けて配置された前記シートの前記第一面であってもよい。この場合、台紙 1 0 0 B の表面に文字や画像等を印刷してコーティング部で保護し、その表面を外側にして台紙 1 0 0 B を箱形態に組み立てることで、収納箱 1 B は、化粧箱の外観を形成できる。そして、台紙 1 0 0 B の一部を空間 7 内に折り曲げ、空間 7 内でテープカセット 8 B のケース 8 1 の排出口 8 8、突起部 8 6 1、突起部 8 5 1 が接触する折返し先部 6 0 の表面および折返し

フラップ49の表面として、コーティング部が形成された表面が配置されるように構成する。この構成により、収納箱1Bは、コーティング部を表面にのみ形成することで生産コストを抑えた台紙100Bを用い、紙粉の発生を抑制することができる。

[0149] 例えば、前記第一壁面は、前記第二壁の前記空間内を向く側の壁面であり、前記印刷カセットは、前記ケースの前記排出口が形成された前記第二カセット壁を、前記第二壁の前記第一壁面に向けた状態で、前記空間内に配置されてもよい。この場合、テープカセット8Bは、排出口88を収納箱1Bの天壁5側へ向けた状態で収納箱1Bの空間7内に配置される。このため、仮に収納箱1Bが底壁4側を下にして落下した場合、ケース81の内部と外部とを繋ぐ排出口88の破損を抑制することができ、ケース81内の被印刷媒体の品質を担保することができる。

[0150] 例えば、前記周壁は、前記第一方向に直交する第二方向に互いに並んで配置される第三壁および第四壁と、前記第一方向および前記第二方向に直交する第三方向に互いに並んで配置される第五壁および第六壁とを含み、前記第二壁は、前記第一方向のうち前記第一壁から前記第二壁に向かう第一特定方向における前記第三壁の縁である第一接続端に接続し、前記第二方向のうち前記第三壁から前記第四壁に向かう第二特定方向に延びる第一雄フラップによって構成される第一雄フラップ層と、前記第一特定方向における前記第四壁の縁である第二接続端に接続し、前記第一特定方向に延びる第一ヘッダ片、および前記第一特定方向における前記第一ヘッダ片の縁から折り返されて前記第一特定方向とは反対向きの第三特定方向に延びる第二ヘッダ片を有するヘッダと、前記第一特定方向における前記第五壁の縁である第三接続端に接続し、前記第三方向のうち前記第五壁から前記第六壁に向かう第五特定方向に延びる第三サイドフラップ、および前記第一特定方向における前記第六壁の縁である第四接続端に接続し、前記第五特定方向とは反対向きの第六特定方向に延びる第四サイドフラップの少なくとも一方によって構成される第二中間フラップ層とを含み、前記第一雄フラップ層および前記第二中間フラ

ップ層が、前記第一特定方向に向かって、前記第二中間フラップ層、前記第一雄フラップ層の順に積層されることで構成され、前記第二壁は更に、前記ヘッダ、前記第三サイドフラップおよび前記第四サイドフラップのいずれかの先端に接続しており、折り返されることによって、前記第一特定方向における前記周壁の縁によって形成され前記空間に繋がる開口部分に配置される第一雌フラップを含み、前記第二壁が構成される場合に、前記第一雌フラップは、前記第二壁を構成する各層のうち、最も、前記第三特定方向側の層として構成され、前記第一面を前記空間内に向けた状態で配置されてもよい。この場合において、天壁5にヘッダ3を設けた場合、折返し先部60は、ヘッダ3に接続する折返し基部59に設ける。このように構成することで、折返し先部60のコーティング部が形成された表面を空間7内に向けて配置できるので、紙粉の発生を抑制することができる。

[0151] 例えば、前記第一雌フラップは前記ヘッダの先端に接続して設けられ、周縁部分に、前記第二壁の開封時に指を掛ける指掛け部を有してもよい。この場合において、収納箱1Bを組み立てる場合、天壁5は、サイドフラップ層503よりも先に、ヘッダ3から折り返して形成される。折返し先部60は、ヘッダ片32の下端321に接続される折返し基部59の前端591に接続されている。よって折返し先部60は、表面を確実に、空間7内へ向けて配置することができる。そして、折返し先部60は周縁部分に指掛け部522を有する。このため、天壁5を開いて収納箱1Bを開放する場合、指掛け部522に指を掛けて折返し先部60を引き起こすことで、ユーザは収納箱1Bを容易に開放でき、テープカセット8Bを取り出しやすい。

[0152] 例えば、前記第一壁は、前記第一方向のうち前記第二壁から前記第一壁に向かう第三特定方向における前記周壁の縁に接続し、折り曲げられることで、前記第一方向に積層されて前記第一壁を構成する複数のフラップと、前記複数のフラップのうちの一のフラップの先端に接続しており、折り返されることによって、前記第三特定方向における前記周壁の縁によって形成され前記空間に繋がる開口部分に配置される折返しフラップとを含み、前記第一壁

が構成される場合に、前記折返しフラップは、前記周壁または前記複数のフラップのいずれかに設けられる係合部に係合すること、若しくは前記複数のフラップのいずれかに糊付けされることによって、前記第一壁を構成する各層のうち、最も、前記第三特定方向とは反対向きの第一特定方向側の層として構成され、前記第一面を前記空間内に向けた状態で保持されてもよい。この場合、底壁4において、折返しフラップ49を糊付けまたは雌フラップ42に設けた係合部428、429と係合することによって、折返しフラップ49が底壁4から浮き上がらないように保持できるので、収納箱1Bは、折返しフラップ49のコーティング部が形成された表面を、確実に、空間7内に向けて配置できる。よって収納箱1Bは、テープカセット8Bを空間7内に配置した場合に、確実に表面をテープカセット8Bに接触させることができ、紙粉の発生を抑制することができる。

[0153] 例えば、前記周壁は、前記第一方向に直交する第二方向に互いに並んで配置される第三壁および第四壁と、前記第一方向および前記第二方向に直交する第三方向に互いに並んで配置される第五壁および第六壁とを含み、前記第一壁を構成する前記複数のフラップは、前記第三特定方向における前記第四壁の縁である第五接続端に接続し、前記第二方向のうち前記第四壁から前記第三壁に向かう第四特定方向に延びる第二雄フラップによって構成される第二雄フラップ層と、前記第三特定方向における前記第三壁の縁である第六接続端に接続し、前記第四特定方向とは反対向きの第二特定方向に延びる第二雌フラップによって構成される第二雌フラップ層と、前記第三特定方向における前記第五壁の縁である第七接続端に接続し、前記第三方向のうち前記第五壁から前記第六壁に向かう第五特定方向に延びる第一サイドフラップ、および前記第三特定方向における前記第六壁の縁である第八接続端に接続し、前記第五特定方向とは反対向きの第六特定方向に延びる第二サイドフラップの少なくとも一方によって構成される第一中間フラップ層とであり、前記第一壁は、前記第二雄フラップ層、前記第二雌フラップ層および前記第一中間フラップ層が、前記第三特定方向に向かって、前記第二雌フラップ層、前記

第一中間フラップ層、前記第二雄フラップ層の順に積層されることで構成され、前記折返しフラップは、前記第二雌フラップの先端に接続し、折り返されることによって、前記第三特定方向における前記周壁の縁によって形成され前記空間に繋がる開口部分に配置されてもよい。この場合、底壁４は、雄フラップ層４０１、雌フラップ層４０２およびサイドフラップ層４０３（左フラップ４３および右フラップ４４）を積層して組み立てられる、いわゆる地獄底の形態で構成される。折返しフラップ４９は、雌フラップ４２の後端４２０に接続するので、底壁４の最上層に配置され、空間７内に配置されるテープカセット８Ｂの重量を支えることができる。よって収納箱１Ｂは、底壁４がテープカセット８Ｂの重量によって開放することなく、且つテープカセット８Ｂの下壁８５の下面との接触による紙粉の発生を抑制することができる。

[0154] なお、テープカセット８Ｂの下壁８５の下面が上記解決手段における「第一カセット壁」の一例である。折返しフラップ４９の台紙１００Ｂにおける表面が上記解決手段における「第二壁面」の一例である。突起部８６１が上記解決手段における「第一突起部」の一例である。テープカセット８Ｂの上下方向が上記解決手段における「交差方向」の一例である。突起部８５１が上記解決手段における「第二突起部」の一例である。台紙１００Ｂが上記解決手段における「シート」の一例である。台紙１００Ｂの表（おもて）面が上記解決手段における「第一面」の一例である。収納箱１Ｂ、１Ｃの前後方向が上記解決手段における「第二方向」の一例である。背壁６２が上記解決手段における「第四壁」の一例である。前壁６１が上記解決手段における「第三壁」の一例である。収納箱１Ｂ、１Ｃの左右方向が上記解決手段における「第三方向」の一例である。左壁６３が上記解決手段における「第五壁」の一例である。右壁６４が上記解決手段における「第六壁」の一例である。収納箱１Ｂ、１Ｃの上方が上記解決手段における「第一特定方向」の一例である。前壁６１の上端６１２が上記解決手段における「第一接続端」の一例である。収納箱１Ｂ、１Ｃの後方が上記解決手段における「第二特定方向」

の一例である。雄フラップ 5 1 が上記解決手段における「第一雄フラップ」の一例である。雄フラップ層 5 0 1 が上記解決手段における「第一雄フラップ層」の一例である。収納箱 1 B、1 C の前方が上記解決手段における「第四特定方向」の一例である。背壁 6 2 の上端 6 2 2 が上記解決手段における「第二接続端」の一例である。ヘッダ片 3 1 が上記解決手段における「第一ヘッダ片」の一例である。収納箱 1 B、1 C の下方が上記解決手段における「第三特定方向」の一例である。ヘッダ片 3 2 が上記解決手段における「第二ヘッダ片」の一例である。左壁 6 3 の上端 6 3 2 が上記解決手段における「第三接続端」の一例である。収納箱 1 B、1 C の右方が上記解決手段における「第五特定方向」の一例である。左フラップ 5 3 が上記解決手段における「第三サイドフラップ」の一例である。右壁 6 4 の上端 6 4 2 が上記解決手段における「第四接続端」の一例である。収納箱 1 B、1 C の左方が上記解決手段における「第六特定方向」の一例である。右フラップ 5 4 が上記解決手段における「第四サイドフラップ」の一例である。サイドフラップ層 5 0 3 が上記解決手段における「第二中間フラップ層」の一例である。雌フラップ 5 2 が上記解決手段における「第一雌フラップ」の一例である。ヘッダ片 3 2 の下端 3 2 1 が上記解決手段における「ヘッダの先端」の一例である。

- [0155] 折返しフラップ 4 9 が上記解決手段における「折返しフラップ」の一例である。背壁 6 2 の下端 6 2 1 が上記解決手段における「第五接続端」の一例である。雄フラップ 4 1 が上記解決手段における「第二雄フラップ」の一例である。雄フラップ層 4 0 1 が上記解決手段における「第二雄フラップ層」の一例である。前壁 6 1 の下端 6 1 1 が上記解決手段における「第六接続端」の一例である。雌フラップ 4 2 が上記解決手段における「第二雌フラップ」の一例である。雌フラップ層 4 0 2 が上記解決手段における「第二雌フラップ層」の一例である。左壁 6 3 の下端 6 3 1 が上記解決手段における「第七接続端」の一例である。左フラップ 4 3 が上記解決手段における「第一サイドフラップ」の一例である。右壁 6 4 の下端 6 4 1 が上記解決手段にお

る「第八接続端」の一例である。右フラップ44が上記解決手段における「第二サイドフラップ」の一例である。サイドフラップ層403が上記解決手段における「第一中間フラップ層」の一例である。雌フラップ42の後端420が上記解決手段における「第二雌フラップの先端」の一例である。

[0156] 本発明は第二実施形態から変更されてもよい。以下説明する第二実施形態の各種変形例は、矛盾が生じない限り、互いに組み合わせられてもよく、収納箱1B、1Cのいずれに適用されてもよい。

[0157] 例えば、前記周壁は、前記第一方向に直交する第二方向に互いに並んで配置される第三壁および第四壁と、前記第一方向および前記第二方向に直交する第三方向に互いに並んで配置される第五壁および第六壁とを含み、前記第一壁を構成する前記複数のフラップは、前記第三特定方向における前記第四壁の縁である第五接続端に接続し、前記第二方向のうち前記第四壁から前記第三壁に向かう第四特定方向に延びる第三雄フラップによって構成される第三雄フラップ層と、前記第三特定方向における前記第五壁の縁である第七接続端に接続し、前記第三方向のうち前記第五壁から前記第六壁に向かう第五特定方向に延びる第五サイドフラップ、および前記第三特定方向における前記第六壁の縁である第八接続端に接続し、前記第五特定方向とは反対向きの第六特定方向に延びる第六サイドフラップの少なくとも一方によって構成される第三中間フラップ層とであり、前記第一壁は、前記第三雄フラップ層および前記第三中間フラップ層が、前記第三特定方向に向かって、前記第三中間フラップ層、前記第三雄フラップ層の順に積層されることで構成され、前記折返しフラップは、前記第五サイドフラップおよび前記第六サイドフラップの少なくともいずれか一方の先端に接続し、折り返されることによって、前記第三特定方向における前記周壁の縁によって形成され前記空間に繋がる開口部分に配置されてもよい。

[0158] 当該変形例における解決手段の一例として、図25、図26を参照し、変形例の収納箱1Dについて説明する。収納箱1Dの底壁4は、雄フラップ71Mによって構成される雄フラップ層701と、左フラップ73および右フ

ラップ74によって構成されるサイドフラップ層703とを積層して組み立てられる、いわゆるキャラメル箱の形態で構成される。図25に示すように、雄フラップ71Mは背壁62の下端621に接続し、底壁4の構成時には下端621から前方に延びる。雄フラップ71Mの大きさは、周壁6の周縁40（周壁6の下端611，621，631，641）によって形成され空間7に繋がる開口部分の大きさと略同じである。雄フラップ71Mの先端711には差込部712が設けられる。差込部712は雄フラップ71Mの先端711に沿って左右方向に延びる。差込部712は、下端611，621，631，641による開口部分を閉塞する場合にサイドフラップ層703と前壁61との間に差し込んで雄フラップ71Mを固定するための部分である。

[0159] 左フラップ73は左壁63の下端631に接続し、底壁4の構成時には下端631から右方に延びる。左フラップ73の大きさは、下端611，621，631，641による開口部分の大きさと略同じである。左フラップ73の先端731には、前後方向の略中央において半円状に凹む指掛け部732が形成されている。右フラップ74は右壁64の下端641に接続し、底壁4の構成時には下端641から左方に延びる。右フラップ74の大きさは、下端611，621，631，641による開口部分の大きさと略同じである。右フラップ74の先端741には、折返しフラップ79が設けられている。折返しフラップ79は左フラップ73と略同じ大きさで、先端791の両角部分が面取りされている。右フラップ74と折返しフラップ79の双方にかかる部分で、右フラップ74の先端741の中点の位置を中心に、円形状の指掛け部792が形成されている。指掛け部792は右フラップ74と折返しフラップ79の厚み方向に貫通する。

[0160] 収納箱1Dを台紙（図示略）から組み立てる場合、周壁6を四角筒状に形成する。この状態で、コーティング部が形成された台紙の表面は、四角筒状の外側を向く配置となる。台紙は仮想線V18に沿って山折りされる。矢印S6に示すように、折返しフラップ79は左方に折り曲げられる。これによ

り、図26に示すように、折返しフラップ79が右フラップ74の左側に配置される。折返しフラップ79における台紙の表面は、左方を向く。

[0161] 台紙は仮想線V7に沿って山折りされる。矢印S7に示すように、右フラップ74および折返しフラップ79は左方に折り曲げられ、周壁6の下端611, 621, 631, 641に囲まれた領域（言い換えると周壁6の周縁40によって形成され空間7に繋がる開口部分）に配置される。これにより、底壁4の最上層に、サイドフラップ層703を構成する左フラップ73および右フラップ74のうちの右フラップ74が配置される。折返しフラップ79は、コーティング部が形成された表面を空間7内に向け、右フラップ74の上面側に配置される。すなわち、折返しフラップ79においてコーティング部が形成された表面は空間7内の下側の壁面を構成し、空間7内で上を向く配置となる。折返しフラップ79における表面に形成されたコーティング部には、空間7内に収容されるテープカセット8Bの下壁85の下面が接触する。

[0162] 台紙は仮想線V8に沿って山折りされる。左フラップ73は右方に折り曲げられて、周壁6の下端611, 621, 631, 641に囲まれた領域において右フラップ74と重なり、右フラップ74とともにサイドフラップ層703を構成する。サイドフラップ層703は折返しフラップ79の下側に配置される。台紙は仮想線V17に沿って山折りされる。差込部712は前方に折り曲げられる。台紙は仮想線V6に沿って山折りされる。雄フラップ71Mは前方に折り曲げられ、周壁6の下端611, 621, 631, 641に囲まれた領域に配置される。これにより、雄フラップ71Mは、雄フラップ層701として、サイドフラップ層703の下側に積層され、底壁4の最下層に配置される。差込部712は、サイドフラップ層703と前壁61の間に差し込まれ、下端611, 621, 631, 641に囲まれた領域が閉塞される。キャラメル箱形態の底壁4が構成される。収納箱1Dへのテープカセット8Bの収納と天壁5の構成による収納箱1Dの組み立ては第二実施形態と同様であるので説明を省略する。

- [0163] このように、キャラメル箱形態の収納箱 1 D は、底壁 4 が簡易な形態で開閉でき、且つテープカセット 8 B の下壁 8 5 の下面との接触による紙粉の発生を抑制することができる。なお、折返しフラップ 7 9 は、左フラップ 7 3 の先端 7 3 1 に設けてもよい。指掛け部 7 9 2, 7 3 2 はなくてもよい。
- [0164] なお、上記変形例の解決手段においては、雄フラップ 7 1 M が本発明の「第三雄フラップ」の一例である。雄フラップ層 7 0 1 が本発明の「第三雄フラップ層」の一例である。左フラップ 7 3 が本発明の「第五サイドフラップ」の一例である。右フラップ 7 4 が本発明の「第六サイドフラップ」の一例である。サイドフラップ層 7 0 3 が本発明の「第三中間フラップ層」の一例である。
- [0165] 突起部 2 6 1, 2 5 1 は突起物に限らず、凹凸形状をなすものや凸凹を有する面でもよいし、収容物の角部分やエッジをなす部分など、擦れて紙粉を発生させ得る形状等であってもよい。突起部 2 6 1, 2 5 1 は、それぞれ上壁 8 6, 下壁 8 5 に形成されているが、どちらか一方に形成されてもよいし、上壁 8 6, 下壁 8 5 以外の周壁 8 4 や前壁 8 2, 後壁 8 3 に形成されてもよい。排出口 8 8 も上壁 8 6 に限らず、他の壁面に設けられてもよい。排出口 8 8 と突起部 2 6 1 は上壁 8 6 に設けられているが、それぞれ異なる壁面に設けられてもよい。この場合、排出口 8 8 が設けられた壁面に対向する収納箱 1 B の壁面と、突起部 8 6 1 が設けられた壁面に対向する収納箱 1 B の壁面とのそれぞれにコーティング部が形成されてもよい。
- [0166] 例えば、前記収納箱はシートを折り曲げ箱状に組み立てて構成されたものであり、前記シートの表裏二面のうち、前記シートを箱形態に組み立てた場合に前記空間側とは反対の外側を向く第一面には、前記第一面に施される印刷内容を保護するコーティング処理が施され、前記第一面とは反対側の第二面には、前記コーティング処理による前記コーティング部が形成されてもよい。すなわち、コーティング部は台紙 1 0 0 B の表面に形成されとしたが、裏面に形成されてもよいし、表面と裏面の両方に形成されてもよい。表裏二面のそれぞれにコーティング処理が施された台紙を折り曲げて形成すれば

、収納箱は、空間 7 内に配置されるテープカセット 8 B をコーティング部によって取り囲むことができ、紙粉の発生を抑制することができる。また、台紙において折返しフラップ等を作成せずに済むので、材料費を低減できる。また、台紙 1 0 0 B の表裏二面に対して同じ第二のコーティング処理を施すことで、異なる形態のコーティング処理を施した場合と比べ、生産コストを低減することができる。

[0167] また、コーティング部は、台紙 1 0 0 B のうち、特定の部分の外面に形成されてもよい。例えば、台紙 1 0 0 B において、折返しフラップ 4 9 と折返し先部 6 0 が設けられた部分にのみ、コーティング部を形成してもよい。また、台紙 1 0 0 B において部分的に、例えば雌フラップ 4 2 や折返し基部 5 9 の裏面にコーティング部を設けた場合、折返しフラップ 4 9 や折返し先部 6 0 は設けなくてもよい。

[0168] 折返しフラップ 4 9 に形成した切込部 4 8 の形状は適宜変更可能である。第二実施形態のように、一方向を残し三方向を直線状に切り込んだ矩形状に形成してもよいし、角を面取りした形状、曲線状、U 字状、V 字状など、切込部 4 8 として様々な形状を適用することができる。また、切込部 4 8 は、一对の第一切込部 4 8 1, 4 8 2 が形成され第二切込部 4 8 3 のない構成、第一切込部 4 8 1 および第二切込部 4 8 3 が形成され第一切込部 4 8 2 が無い構成、またはその逆の構成であってもよい。

[0169] 係合部 4 2 8, 4 2 9 および被係合部 4 9 8, 4 9 9 の形状や大きさ、位置関係は適宜変更可能である。例えば、係合部 4 2 8, 4 2 9 と被係合部 4 9 8, 4 9 9 は、突部と、突部を折り曲げて差し込む切込部であってもよい。また、被係合部 4 9 8, 4 9 9 を、左壁 6 3, 右壁 6 4 の下端部に突状に設け、下端 6 1 1, 6 2 1, 6 3 1, 6 4 1 に囲まれた領域に折返しフラップ 4 9 を配置したら引っ掛かることでユーザが手で係合させずとも係合される構成としてもよい。係合部 4 2 8, 4 2 9 および被係合部 4 9 8, 4 9 9 はなくてもよい。また、係合部 4 2 8, 4 2 9 と被係合部 4 9 8, 4 9 9 との組み合わせは、どちらか一組だけでもよいし、もしくは三組以上あっても

よい。

- [0170] 折返しフラップ49は雌フラップ42の後端420に設けたが、左フラップ43の右端または右フラップ44の左端に設けてもよい。また、切込部48のない折返しフラップ49を設けてもよい。
- [0171] 他の変形例を説明する。箱本体2の上下方向、左右方向、および前後方向のそれぞれの長さ関係は、第二実施形態に限定されない。例えば、箱本体2の前後方向の長さは、箱本体2の左右方向の長さよりも大きくてもよい。
- [0172] 第二実施形態において、台紙100Bは、組み付けられることで収納箱1Bが形成されるように構成されれば、第二実施形態の形状に限定されない。折り曲げられることができ、且つ折り曲げられた状態を維持できるシートであれば、台紙100Bに代えてプラスチックシート等が用いられてもよい。
- [0173] 第二実施形態において、空間7にはテープカセット8Bに代えて他の収納物が収納されてもよい。他の収納物は例えば、印刷に使用される消耗品であり、インクタンク、インクカートリッジ、またはインクリボンカセットである。他の収納物は印刷以外に使用される消耗品であってもよい。他の収納物は消耗品でなくてもよく、食品等であってもよい。
- [0174] 第二実施形態では、テープカセット8Bは下壁85が底壁4と向き合う状態で空間7に配置される。これに対し、テープカセット8Bは下壁85とは異なる壁、例えば上壁86が底壁4と向き合う状態で空間7に配置されてもよい。
- [0175] 第二実施形態において、周壁6は、例えば左壁63および右壁64を省略してもよい。すなわち、前壁61の左端と背壁62の左端とが互いに直接接続し、前壁61の右端と背壁62の右端とが互いに直接接続してもよい。この場合、例えば前壁61が前方に膨らむように湾曲し、背壁62が後方に膨らむように湾曲するとよい。周壁6は前壁61、背壁62、左壁63、および右壁64に加えて1または複数の壁をさらに備えてもよい。
- [0176] 第二実施形態では、雌フラップ52はヘッダ3を介して背壁62の上端622に接続する。これに対し、雌フラップ52は背壁62の上端622に直

接接続してもよい。この場合、ヘッダ3は省略されてもよいし、左壁63の上端632または右壁64の上端642に接続してもよい。

[0177] 第二実施形態では、ヘッダ3はヘッダ片31、32を有する。これに対し、ヘッダ3はヘッダ片31およびヘッダ片32のいずれか一方によって構成されてもよい。孔30の個数および形状は第二実施形態に限定されない。ヘッダ3には孔30が設けられなくてもよい。

[0178] 第二実施形態において、左フラップ43および右フラップ44の一方または両方は省略されてもよい。すなわち、サイドフラップ層403は左フラップ43および右フラップ44の一方によって構成されてもよいし、省略されてもよい。また、左フラップ43の右端および右フラップ44の左端は上下方向において互い重なる配置となってもよい。

[0179] ところで、周壁の下端にメスフラップ、サイドフラップおよびオスフラップを設け、メスフラップの差込口にサイドフラップを差し込み、更にオスフラップの差込部を差し込むことで、各フラップを積層して組み立てる、いわゆる地獄底とよばれる底壁の構成が知られている。例えば、特開2000-103422号公報に記載の包装用箱は、箱の底部とほぼ同じ大きさの底パット片を設置している。底パット片は、中段の内側重合用の胴部正面片の真下に連設することで、間の境界線がヒンジの役割を果たし、内容物の重量を支える構成である。

[0180] 上記文献では、底パット片を、内側重合用胴部片に連設して設置する。このため余分な部品点数がかかり、生産コストが増加するという問題がある。また、折返し部分が多くなるため、包装用箱の組立時に底パット片を誤って胴部片と胴部の間に折り込んでしまう可能性がある。

[0181] そこで、底壁を補強する折返しフラップの配置に必要な部品点数を削減してコストを抑えつつ組み付け忘れを防止できる収納箱およびシートを提供するため、本発明の第三実施形態について、図面を参照して説明する。参照する図面は、本発明が採用しうる技術的特徴を説明するために用いられる。すなわち、図面に記載されている構成等は、そのみに限定する趣旨ではなく

、単なる説明例である。

[0182] 図27および図28を参照し、収納箱1Eを説明する。以下では、図27の左上方、右下方、左下方、右上方、下方、および上方を、それぞれ、収納箱1Eの左方、右方、前方、後方、下方、および上方とする。なお、第三実施形態において、例えば上下方向は、説明のために便宜的に使用され、鉛直方向に限定されない。

[0183] 収納箱1Eは、例えば図31に示す台紙100Dが組み付けられることで形成される。台紙100Dの構成および台紙100Dから収納箱1Eを組み立てる方法については後述する。収納箱1Eは箱本体2とヘッダ3とを備える。箱本体2は前後方向よりも左右方向に長く、且つ左右方向よりも上下方向に長い直方体状であり、テープカセット8Dを収納する。

[0184] 例えば箱本体2の前後方向の幅W21は、テープカセット8Dの前後方向の幅W81よりもわずかに大きい。箱本体2の前後方向、左右方向、および上下方向のそれぞれの長さの関係は、テープカセット8Dの前後方向、左右方向、および上下方向のそれぞれの長さの関係と同じである。

[0185] 箱本体2は底壁4と天壁5と周壁6とを有する。底壁4および天壁5は、それぞれ、上下方向に直交するように延び、且つ上下方向において互いに並ぶ。底壁4は箱本体2の下端に位置する。天壁5は箱本体2の上端に位置する。

[0186] 周壁6は底壁4の周縁40から天壁5の周縁50まで延びる。周壁6は四角筒状であり、前壁61と背壁62と左壁63と右壁64とを含む。前壁61および背壁62は、それぞれ、前後方向に直交するように延び、且つ前後方向において互いに並ぶ。前壁61は箱本体2の前端に位置する。背壁62は箱本体2の後端に位置する。左壁63および右壁64は、それぞれ、左右方向に直交するように延び、且つ左右方向において互いに並ぶ。左壁63は箱本体2の左端に位置する。右壁64は箱本体2の右端に位置する。

[0187] 前壁61の下端611、背壁62の下端621、左壁63の下端631、および右壁64の下端641は、底壁4の周縁40を構成する（図28参照

）。前壁 6 1 の上端 6 1 2、背壁 6 2 の上端 6 2 2、左壁 6 3 の上端 6 3 2、および右壁 6 4 の上端 6 4 2 は、天壁 5 の周縁 5 0 を構成する（図 2 7 参照）。

[0188] 箱本体 2 の内部には空間 7 が形成される。空間 7 は底壁 4 と天壁 5 と周壁 6（前壁 6 1、背壁 6 2、左壁 6 3、右壁 6 4）とによって囲まれる。空間 7 には、テープカセット 8 D が、後述の下壁 8 5 が上方から底壁 4 と向き合う状態で、配置される。

[0189] ヘッダ 3 は箱本体 2 に設けられる。ヘッダ 3 は壁状であり、ヘッダ片 3 1 とヘッダ片 3 2 とを含む。ヘッダ片 3 1 は背壁 6 2 の上端 6 2 2 に接続し、背壁 6 2 の上端 6 2 2 から上方に延びる。図 2 8 は、背壁 6 2 の上端 6 2 2 を仮想線 V 0 によって示す。ヘッダ片 3 2 はヘッダ片 3 1 の上端 3 1 1 から前方に折り返されて下方に延びる。ヘッダ片 3 2 の下端 3 2 1 は上下方向において天壁 5 の位置に位置し、後述の雌フラップ 5 2（図 2 9 参照）に接続する。

[0190] ヘッダ 3 には孔 3 0 が設けられる。孔 3 0 は正面視で二等辺三角形形状であり、ヘッダ 3 の左右方向の中央に配置される。孔 3 0 はヘッダ片 3 1、3 2 を前後方向に貫通する。したがって、孔 3 0 はヘッダ 3 を前後方向に貫通する。例えば、収納箱 1 E の流通市場において、収納箱 1 E は、商品を吊り下げ陳列するための棒に孔 3 0 を介して挿入され、吊り下げ陳列されてもよい。

[0191] 図 2 7、図 2 9、図 3 1 を参照し、天壁 5 の詳細構造を説明する。天壁 5 は、雄フラップ 5 1 と雌フラップ 5 2 と左フラップ 5 3 と右フラップ 5 4 とを含む。雄フラップ 5 1 は、前壁 6 1 の上端 6 1 2 に接続し、前壁 6 1 の上端 6 1 2 から後方に延びる。雄フラップ 5 1 は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。雄フラップ 5 1 の前後方向の長さは、前壁 6 1 と背壁 6 2 との間の前後方向の距離と略同じである。

[0192] 雄フラップ 5 1 の後端 5 1 1 は、背壁 6 2 の前方近傍に位置し、左右方向に延びる。雄フラップ 5 1 は開口縁 5 1 2 を含む。開口縁 5 1 2 は開口 5 1

3を規定する。開口513は雄フラップ51を上下方向に貫通する。開口縁512は環状に閉じられ、縁5121、5122を含む。縁5121は開口513に対して後方に配置される。縁5121は左右方向に延び、後方に膨らむ円弧状である。

[0193] 縁5122は縁5121の左端から前方に延び、右方に延び、後方に延びて縁5121の右端に接続する。縁5122は前壁61の上端612よりも後方に配置される。このため、天壁5のうち前壁61の上端612の近傍の領域は、左右方向において、開口513によって分断されることなく、連なる。

[0194] 雄フラップ51には一对のミシン目516、517が設けられる。ミシン目516は縁5121の左端から雄フラップ51の後端511まで、後方に向かうにつれて左方に向かって延びる。ミシン目517は縁5121の左端から雄フラップ51の後端511まで、後方に向かうにつれて右方に向かって延びる。このため、一对のミシン目516、517は、後方に向かうにつれて互いに左右方向に離れるように延びる。

[0195] 以下では、雄フラップ51のうち端5111、ミシン目516、517、および縁5121によって囲まれる領域を「開封領域R22」という。ユーザは、開封領域R22を箱本体2から分断することによって、収納箱1Eを天壁5側から開封することができる。

[0196] 雄フラップ51には差込部55が設けられる。差込部55は、雄フラップ51の後端511から下方に突出する。詳細には、差込部55は土台部57と返し部58とを含む。土台部57は差込部55のうち雄フラップ51から下方に延びる部分である。土台部57は上下方向よりも左右方向に長い長方形形状である。土台部57は雄フラップ51の後端511のうち、ミシン目516、517の間の部分に接続する。返し部58は土台部57の下端に形成されるミシン目5722で後方に折り返され、上方に延びる。返し部58は前後方向において背壁62と土台部57との間に位置し、背壁62に接触する。

[0197] 雌フラップ52は背壁62の上端622にヘッダ3を介して接続し、ヘッダ片32の下端321（図31参照）から前方に延び、さらに折り返して後方に延びる。雌フラップ52は前後方向よりも左右方向に長い長方形状である。雌フラップ52は、折返し基部59と折返し先部60を有する。折返し基部59は略矩形状であり、ヘッダ片32の下端321に接続して前方に延びる。折返し基部59の大きさは、収納箱1Eを組み立てた場合の周壁6の上端612、622、632、642で囲まれた領域とほぼ同じ大きさである。折返し基部59の前端591は前後方向において前壁61の上端612の近傍に位置する。折返し先部60は略矩形状であり、折返し基部59の前端591に接続して後方に延びる。折返し先部60の左右方向の大きさは、折返し基部59の左右方向の大きさと同じであり、折返し先部60の前後方向の大きさは折返し基部59の左右方向の大きさよりも若干短い。折返し先部60は、折返し基部59の前端591において下方側から折り返した部分であり、天壁5を組み立てた状態で折返し基部59の下側、すなわち空間7側に位置する。折返し先部60の後端601は、前後方向において背壁62の上端622の前方に位置する。後端601は、平面視で後述する差込口521よりも前方に位置する。

[0198] 雌フラップ52には指掛け部522と差込口521（図31参照）とが設けられる。指掛け部522は、折返し基部59の前端591の中点の位置が円形状の中心となる位置に形成される。故に折返し先部60が折り返された状態の平面視において、指掛け部522は折返し基部59の前端591から後方へ向けて半円状に凹む形状である。

[0199] 図31に示すように、差込口521は前後方向よりも左右方向に長く、雌フラップ52を上下方向に貫通する。差込口521は、前壁61と背壁62との前後方向の中央よりも後方に位置し、背壁62の近傍に位置する。第三実施形態では、差込口521は雌フラップ52の折返し基部59がヘッダ片32と接続する部位（折返し基部59の後端）に位置する。差込口521には差込部55が差し込まれる。

- [0200] 左フラップ53は左壁63の上端632に接続し、左壁63の上端632から右方に延びる。右フラップ54は右壁64の上端642に接続し、右壁64の上端642から左方に延びる。左フラップ53および右フラップ54は、それぞれ、前後方向よりも左右方向に長い長方形状であり、互いに左右対称である。
- [0201] 左フラップ53および右フラップ54のそれぞれの左右方向の長さは、左壁63と右壁64との左右方向の間の距離よりも小さく、且つ左壁63と右壁64との左右方向の間の距離の半分よりも大きい。したがって、左フラップ53の右端および右フラップ54の左端の一方は、他方の上に重なる。第三実施形態では、左フラップ53が右フラップ54の上に重なる。
- [0202] 図29に示すように、天壁5では、雄フラップ51によって構成される雄フラップ層、雌フラップ52によって構成される雌フラップ層、および左フラップ53および右フラップ54によって構成されるサイドフラップ層が、下方から上方に向かって雌フラップ層、サイドフラップ層、雄フラップ層の順に並んで積層される。差込部55は、差込口521を介して雌フラップ52よりも内側に配置される。
- [0203] 図28、図30～図32を照し、背壁62および底壁4の詳細構造を説明する。背壁62にはミシン目623が設けられる。ミシン目623は上方に膨らむ円弧状であり、背壁62の下部に位置する。ミシン目623の両端は、背壁62の下端621に位置する。以下では、背壁62のうちミシン目623と背壁62の下端621とによって囲まれる領域を「起点領域R11」という。ユーザは、収納箱1Eを底壁4側から開封する場合、起点領域R11を箱本体2内に押し込み、開封領域R12（後述）を箱本体2から分断するための起点とする。
- [0204] 底壁4は、いわゆる地獄底であり、雄フラップ41と雌フラップ42と折返しフラップ49と左フラップ43と右フラップ44とを含む。雄フラップ41は背壁62の下端621に接続し、背壁62の下端621から前方に延びる。雄フラップ41は、雄本体部415、差込部416および頭部417

を有する。雄本体部415は背壁62の下端621から前方に延びる部分であり、前方に向かうにつれて狭まる台形状である。雄本体部415の前後方向の長さは、箱本体2の前後方向の長さ（左壁63の下端631の長さ）の略半分と同じ長さ、もしくはそれよりも若干短い。

[0205] 差込部416は雄本体部415から前方に突出する部分であり、雄本体部415の延出先端部分における左右方向の長さを維持して前方に延びる。頭部417は差込部416からさらに前方に突出する部分であり、差込部416よりも左右方向に長く延びる。頭部417の左端部は差込部416の左縁よりも左方に突出し、頭部417の右端部は差込部416の右縁よりも右方に突出する。すなわち頭部417の左右方向の長さYは、差込部416の左右方向の長さよりも長い。頭部417は差込部416を雌フラップ42の差込口426（後述）に差し込んだ状態で差込口426からの抜けを防止する機能を果たす部分である。

[0206] 雄フラップ41には一対のミシン目411、412が設けられる。ミシン目411は、ミシン目623の両端のうち左方の端から前方に向かうにつれて左方に向かって延びる。ミシン目412は、ミシン目623の両端のうち右方の端から前方に向かうにつれて右方に向かって延びる。以下では、雄フラップ41のうち一対のミシン目411、412、および背壁62の下端621によって囲まれる領域を「開封領域R12」という。ユーザは、開封領域R12を起点領域R11とともに箱本体2から分断することによって、収納箱1Eを底壁4側から開封することができる。

[0207] 雌フラップ42は前壁61の下端611に接続し、前壁61の下端611から後方に延びる。雌フラップ42は、雌本体部425および係合部428、429を有し、雌本体部425に差込口426および案内口427が形成される。雌本体部425は前壁61の下端611から後方に延びる部分であり、前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。雌フラップ42の左右方向の長さは、箱本体2の左右方向の長さ（前壁61の下端611の長さ）よりも係合部428、429の左右方向の長さ分、短い。雌フラップ42の

前後方向の長さは、箱本体 2 の前後方向の長さ（左壁 6 3 の下端 6 3 1 の長さ）と略同じ大きさである。係合部 4 2 8, 4 2 9 は、雌フラップ 4 2 の前後方向の前端部で左右両側の側部にそれぞれ設けられる。係合部 4 2 8, 4 2 9 は、側部が雌本体部 4 2 5 に接続する形態で前壁 6 1 の下端 6 1 1 から後方へ向けて延びる。係合部 4 2 8, 4 2 9 の突出先端部分は雌本体部 4 2 5 の左右両側の縁から切り離され、上下方向に撓むことができる。係合部 4 2 8, 4 2 9 を含めた雌フラップ 4 2 の大きさは、収納箱 1 E を組み立てた場合の周壁 6 の下端 6 1 1, 6 2 1, 6 3 1, 6 4 1 で囲まれた領域とほぼ同じ大きさである。

[0208] 雌フラップ 4 2 には差込口 4 2 6 が形成される。差込口 4 2 6 は左右方向に長い矩形状の開口であり、雌フラップ 4 2 を上下方向に貫通する。差込口 4 2 6 は、雌フラップ 4 2 の前後方向中央よりも後方側に形成される。差込口 4 2 6 の前側の開口縁は、底壁 4 における前後方向略中央もしくはそれよりも若干後側に位置する。底壁 4 の組み立てにおいて、差込口 4 2 6 には雄フラップ 4 1 の差込部 4 1 6 が挿通される。また、差込口 4 2 6 の左右両端部は、差込部 4 1 6 を挿通させた状態で雄フラップ 4 1 の頭部 4 1 7 を引っ掛けることにより、差込部 4 1 6 の抜けを防止する部分として機能する。

[0209] 案内口 4 2 7 は、差込口 4 2 6 の後方側に形成され、差込口 4 2 6 と繋がる。案内口 4 2 7 は差込口 4 2 6 よりも左右方向に長く延び、両端それぞれが円弧状に丸められており、雌フラップ 4 2 を上下方向に貫通する。すなわち差込口 4 2 6 と案内口 4 2 7 とは、収納箱 1 E の組み立て前の雌フラップ 4 2 の略中央において厚み方向に貫通する一つの繋がった開口である。底壁 4 の組み立てにおいて、雄フラップ 4 1 の頭部 4 1 7 は、案内口 4 2 7 の左右両側の縁の間を挿通される。頭部 4 1 7 が案内口 4 2 7 を挿通した状態で、差込部 4 1 6 は、案内口 4 2 7 に繋がる差込口 4 2 6 に案内され、差込口 4 2 6 を挿通した状態となる。よって、案内口 4 2 7 の左右方向の長さは、頭部 4 1 7 の左右方向の長さ Y 以上である。

[0210] 折返しフラップ 4 9 は雌フラップ 4 2 の後端 4 2 0 に接続して後方に延び

る。折返しフラップ４９は前後方向よりも左右方向に長い略矩形状である。折返しフラップ４９の大きさは、雌フラップ４２の雌本体部４２５の大きさと略同じである。折返しフラップ４９の左右両側の縁において、前後方向の略中央よりも前側の位置には、それぞれ前後方向に延びる被係合部４９８，４９９が形成される。被係合部４９８，４９９はそれぞれ前方へ向けて突出する形状であり、突出先端部分が折返しフラップ４９の左右両側の縁から切り離され、上下方向に撓むことができる。折返しフラップ４９は雌フラップ４２の後端４２０において上方側に折り返され、底壁４を組み立てた状態で雌フラップ４２の上側、すなわち空間７側に位置する。被係合部４９８，４９９は、それぞれ雌フラップ４２の係合部４２８，４２９と係合する。よって折返しフラップ４９は、雌フラップ４２の上側で、雌フラップ４２に対してほぼ密着した状態に維持される。

[0211] 折返しフラップ４９には切込部４８が形成される。切込部４８は折返しフラップ４９を厚み方向に貫通し、折返しフラップ４９の面に沿って延びる。切込部４８は、一对の第一切込部４８１，４８２と第二切込部４８３とを有する。第一切込部４８１は折返しフラップ４９の左側の縁に近い部分を厚み方向に貫通しつつ前後方向に延びる。第一切込部４８２は折返しフラップ４９の右側の縁に近い部分を厚み方向に貫通しつつ前後方向に延びる。第一切込部４８１，４８２の前側の端部はそれぞれ、折返しフラップ４９の前端４９１よりも後方に位置する。第一切込部４８１，４８２の後側の端部はそれぞれ、雌フラップ４２の後端４２０、すなわち雌フラップ４２と折返しフラップ４９との接続部分に位置する。第二切込部４８３は折返しフラップ４９の後端を厚み方向に貫通しつつ左右方向に延びる。第二切込部４８３は第一切込部４８１，４８２それぞれの後側の端部を左右方向に接続する。

[0212] 切込部４８は、平面視で折返しフラップ４９の中央部分を、左方、後方および右方において分断しつつ前方側においては切り離さず、矩形の三方を切り込んだ形状としたものである。切込部４８によって切り離された部分は、中央に大きな領域を確保しつつ、折返しフラップ４９に対して撓むことがで

きる。底壁４の組み立てにおいて、雄フラップ４１の頭部４１７および差込部４１６は、差込口４２６を挿通される。底壁４を組み立てた状態で、折返しフラップ４９は雌フラップ４２に密着するが、頭部４１７および差込部４１６の挿入時、切込部４８によって雌フラップ４２から切り離された部分が上方（空間７内）へ向けて撓むことができる。切り離された部分が頭部４１７に対して確実に撓むことができるように、底壁４の平面視で差込口４２６の前側の縁よりも前側の部分において、頭部４１７と切込部４８は、以下の条件を満たす。

[0213] 底壁４が組み立てられた状態の平面視で、第一切込部４８１，４８２のうち差込口４２６の前側の縁から前方に位置する部分の前後方向の長さ X は、頭部４１７および差込部４１６のうち差込口４２６の前側の縁から前方に位置する部分の前後方向の長さ Y 以上であり、（１）式「 $X \geq Y$ 」を満たす。これにより、差込口４２６を介して折返しフラップ４９と雌フラップ４２の間に挿入される頭部４１７および差込部４１６の前後方向の挿入長さよりも切込部４８に切り離された部分が長くなり、撓むことで頭部４１７および差込部４１６の挿入を制限しない。

[0214] また、底壁４が組み立てられた状態の平面視で、第一切込部４８１と第一切込部４８２との間の左右方向の長さ B は、頭部４１７の左右方向の長さ A 以上であり、（２）式「 $B \geq A$ 」を満たす。これにより、これにより、差込口４２６を介して折返しフラップ４９と雌フラップ４２の間に挿入される頭部４１７の左右方向の挿入長さよりも切込部４８に切り離された部分が長くなり、頭部４１７が切込部４８に引っ掛かることがなく、挿入が制限されない。

[0215] 左フラップ４３は左壁６３の下端６３１に接続し、左壁６３の下端６３１から右方に延びる。右フラップ４４は右壁６４の下端６４１に接続し、右壁６４の下端６４１から左方に延びる。左フラップ４３は、左本体部４３５および左突出部４３６を有する。右フラップ４４は、右本体部４４５および右突出部４４６を有する。左フラップ４３および右フラップ４４は、互いに左

右対称形状である。

- [0216] 左本体部435は、左壁63の下端631から右方に延びる略三角形形状である。左本体部435の後側の縁は下端631の後端から右方に延び、前側の縁は下端631の前端から右斜め後方へ向けて延びる。左本体部435の前側の縁の右後端は、底壁4を組み立てた場合に、雌フラップ42の差込口426の左前角部近傍に配置される。
- [0217] 左突出部436は左本体部435の延出先端部分から右方に突出する。左突出部436は左右方向よりも前後方向に長く延びる。左突出部436の前側の端部437は左本体部435の延出先端部分よりも若干、前方に突出する。左フラップ43の左右方向の長さは、箱本体2の左右方向の長さ（背壁62の下端621の長さ）の略半分と同じ長さ、もしくはそれよりも短い。
- [0218] 右本体部445は、右壁64の下端641から左方に延びる略三角形形状である。右本体部445の後側の縁は、下端641の後端から左方に延び、前側の縁は、下端641の前端から左斜め後方へ向けて延びる。右本体部445の前側の縁の左後端は、底壁4を組み立てた場合に、雌フラップ42の差込口426の右前角部近傍に配置される。
- [0219] 右突出部446は右本体部445の延出先端部分から左方に突出する。右突出部446は左右方向よりも前後方向に長く延びる。右突出部446の前側の端部447は右本体部445の延出先端部分よりも若干、前方に突出する。右フラップ44の左右方向の長さは、箱本体2の左右方向の長さ（背壁62の下端621の長さ）の略半分と同じ長さ、もしくはそれよりも短い。
- [0220] 以下説明において、雄フラップ41によって構成される層を「雄フラップ層401」という。第三実施形態では、平面視において、雄フラップ層401の外形は、雄本体部415の外形によって規定される。雌フラップ42によって構成される層を「雌フラップ層402」という。第三実施形態では、平面視において、雌フラップ層402の外形は、雌本体部425の外形によって規定される。左フラップ43と右フラップ44とによって構成される層を「サイドフラップ層403」という。第三実施形態では、平面視において

、サイドフラップ層４０３の外形は、左本体部４３５および右本体部４４５の外形によって規定される。

[0221] 底壁４において、雄フラップ層４０１、雌フラップ層４０２、およびサイドフラップ層４０３が、上方から下方に向かって雌フラップ層４０２、サイドフラップ層４０３、雄フラップ層４０１の順に並んで積層される。雄フラップ４１の差込部４１６および頭部４１７は、差込口４２６を介して雌フラップ４２の雌本体部４２５よりも上側、すなわち箱本体２の空間７内に配置される。

[0222] 図２７を参照し、テープカセット８Ｄを説明する。テープカセット８Ｄはケース８１と印刷テープ８９とを備える。ケース８１は前後方向よりも左右方向に長く、且つ左右方向よりも上下方向に長い直方体状である。印刷テープ８９は長尺状であり、ケース８１に収納される。印刷テープ８９の幅方向（短手方向）は前後方向である。このため、テープカセット８Ｄの幅方向は前後方向となる。テープカセット８Ｄでは、印刷テープ８９の幅方向の長さ（テープ幅）が大きくなると、ケース８１の前後方向の幅Ｗ８１が大きくなる。

[0223] 第三実施形態では、ケース８１は前壁８２と後壁８３と周壁８４とを有する。前壁８２および後壁８３は、それぞれ、前後方向に直交するように延び、且つ前後方向において互いに並ぶ。前壁８２はケース８１の前端に位置する。後壁８３はケース８１の後端に位置する。

[0224] 周壁８４は後壁８３の周縁８３１から前壁８２の周縁８２１まで延びる。周壁８４は四角筒状であり、下壁８５と上壁８６とを含む。下壁８５および上壁８６は、それぞれ、上下方向に直交するように延び、且つ上下方向において互いに並ぶ。下壁８５はケース８１の下端に位置する。上壁８６はケース８１の上端に位置する。上壁８６には、ケース８１に収納された印刷テープ８９をケース８１の外に排出するための排出口８８が設けられる。排出口８８は上壁８６よりも上方に突出する。また、上壁８６および下壁８５には、テープカセット８Ｄをプリンタ（図示略）に装着した場合に、装着部に設

けられる爪（図示略）によって位置決めおよび保持がなされる突起部 8 6 1 , 8 5 1 がそれぞれ設けられる。突起部 8 6 1 は上壁 8 6 よりも上方に突出し、突起部 8 5 1 は下壁 8 5 よりも下方に突出する。

[0225] テープカセット 8 D は消耗品であり、プリンタによる印刷に使用される。例えば、テープカセット 8 D は、プリンタに装着された状態で使用される。プリンタはケース 8 1 内から印刷テープ 8 9 を引き出しながら、印刷テープ 8 9 に画像を印刷する。プリンタは、画像が印刷された印刷テープ 8 9 を、排出口 8 8 を介してケース 8 1 の外に排出する。これにより、印刷テープ 8 9 に画像が印刷されたラベルが作成される。

[0226] 図 3 1 を参照し、台紙 1 0 0 D を説明する。以下では、図 3 1 の左方、右方、下方、および上方を、それぞれ、台紙 1 0 0 D の X マイナス方向、X プラス方向、Y マイナス方向、および Y プラス方向とする。図 3 1 では、仮想線 V 0、V 1、V 2、V 3、V 4、V 5、V 6、V 7、V 8、V 9、V 1 0、V 1 1、V 1 2、V 1 3、V 1 4、V 1 5、V 1 6 は収納箱 1 E の隣り合う各構成要素の境界を示す。例えば仮想線 V 0 は背壁 6 2 とヘッダ片 3 1 との境界を示す。

[0227] 台紙 1 0 0 D は所定形状に切断された 1 枚のシートであり、厚紙、薄紙、段ボール等である。台紙 1 0 0 D は、底壁 4、天壁 5、周壁 6、およびヘッダ 3 を含む。台紙 1 0 0 D では、Y 方向の中央に周壁 6 が配置される。周壁 6 において、前壁 6 1、背壁 6 2、左壁 6 3、および右壁 6 4 は、X プラス方向から X マイナス方向に向かって右壁 6 4、前壁 6 1、左壁 6 3、背壁 6 2 の順にそれぞれ連なって並ぶ。さらに、背壁 6 2 の X マイナス方向の隣りに、のり代 6 5 が連なる。

[0228] 底壁 4 は周壁 6 の Y マイナス方向に配置される。詳細には、雄フラップ 4 1 は背壁 6 2 の Y マイナス方向に配置され、背壁 6 2 と連なる。雌フラップ 4 2 は前壁 6 1 の Y マイナス方向に配置され、前壁 6 1 と連なる。左フラップ 4 3 は左壁 6 3 の Y マイナス方向に配置され、左壁 6 3 と連なる。右フラップ 4 4 は右壁 6 4 の Y マイナス方向に配置され、右壁 6 4 と連なる。

- [0229] 底壁4において、折返しフラップ49は雌フラップ42のYマイナス方向に配置され、雌フラップ42と連なる。第一切込部481は雌フラップ42のXマイナス方向の縁に近い側において、雌フラップ42の後端420から折返しフラップ49の前端491よりも後方に離れた位置にかけて、Y方向に沿って形成される。第一切込部482は雌フラップ42のXプラス方向の縁に近い側において、雌フラップ42の後端420から折返しフラップ49の前端491よりも後方に離れた位置にかけて、Y方向に沿って形成される。第二切込部483はX方向に延び、第一切込部481、482のそれぞれの端部同士を接続する。よって切込部48は折返しフラップ49の中央部分を、前端側を残して矩形状に切り離す。
- [0230] 天壁5およびヘッダ3は周壁6のYプラス方向に配置される。詳細には、ヘッダ3において、ヘッダ片31は背壁62のYプラス方向に配置され、背壁62と連なる。ヘッダ片32はヘッダ片31のYプラス方向に配置され、ヘッダ片31と連なる。
- [0231] 天壁5において、雌フラップ52はヘッダ片31のYプラス方向に配置され、ヘッダ片31と連なる。雄フラップ51は前壁61のYプラス方向に配置され、前壁61と連なる。左フラップ53は左壁63のYプラス方向に配置され、左壁63と連なる。右フラップ54は右壁64のYプラス方向に配置され、右壁64と連なる。
- [0232] 図31～図37を参照し、台紙100Dから収納箱1Eを組み立てる方法を説明する。以下では、各構成要素について、図31に示す台紙100Dのうち紙面手前を向く面を各構成要素の「表（おもて）面」といい、図31に示す台紙100Dのうち紙面奥を向く面を各構成要素の「裏面」という。
- [0233] 台紙100Dにおいて互いに隣り合う一対の構成要素のそれぞれの裏面が互いに向き合う方向に、互いの境界に沿って台紙100Dを折ることを「山折り」という。台紙100Dにおいて互いに隣り合う一対の構成要素のそれぞれの表面が互いに向き合う方向に、互いの境界に沿って台紙100Dを折ることを「谷折り」という。例えば「仮想線V1に沿って台紙100Dを山

折りする」とは、右壁 6 4 の裏面と前壁 6 1 の裏面とが互いに向き合う方向に、台紙 1 0 0 D が仮想線 V 1 に沿って折られることを意味する。第三実施形態では、台紙 1 0 0 D の表面には、仮想線 V 1 ~ V 1 6 に沿って折り目筋が形成される。一方で、台紙 1 0 0 D の裏面には、折り目筋が形成されない。

[0234] 図 3 1 に示すように、台紙 1 0 0 D は仮想線 V 1、V 2、V 3、V 4 に沿って山折りされる。のり代 6 5 の表面が左壁 6 3 の裏面に貼り付けられる。これにより、図 3 3 に示すように、周壁 6 が四角筒状に形成される。この状態で、台紙 1 0 0 D の表面は、各フラップも含め、四角筒状の外側を向く配置となり、裏面が内側、すなわち空間 7 内側を向く配置となる。

[0235] 台紙 1 0 0 D は仮想線 V 1 5 に沿って山折りされる。矢印 S 1 に示すように、折返しフラップ 4 9 は後方に折り曲げられる。これにより、図 3 4 に示すように、折返しフラップ 4 9 が雌フラップ 4 2 の後側に配置される。折返しフラップ 4 9 の被係合部 4 9 8、4 9 9 は、それぞれ雌フラップ 4 2 の係合部 4 2 8、4 2 9 と係合する。これにより、折返しフラップ 4 9 における台紙 1 0 0 D の裏面は、雌フラップ 4 2 における台紙 1 0 0 D の裏面と密着した状態に維持される。折返しフラップ 4 9 における台紙 1 0 0 D の表面は、後方を向く。

[0236] 台紙 1 0 0 D は仮想線 V 5 に沿って山折りされる。矢印 S 2 に示すように、雌フラップ 4 2 および折返しフラップ 4 9 は後方に折り曲げられ、周壁 6 の下端 6 1 1、6 2 1、6 3 1、6 4 1 に囲まれた領域（言い換えると周壁 6 の周縁 4 0 によって形成され空間 7 に繋がる開口部分）に配置される。これにより、底壁 4 の最上層に、雌フラップ層 4 0 2 が配置される。折返しフラップ 4 9 は、折返しフラップ 4 9 における台紙 1 0 0 D の表面を空間 7 内に向け、雌フラップ層 4 0 2 を構成する雌フラップ 4 2 の上面に密着した状態で配置される。

[0237] 台紙 1 0 0 D は仮想線 V 6、V 7 に沿って山折りされる。左フラップ 4 3 は右方に折り曲げられ、右フラップ 4 4 は左方に折り曲げられて、周壁 6 の

下端 6 1 1, 6 2 1, 6 3 1, 6 4 1 に囲まれた領域に配置される。これにより、左フラップ 4 3 および右フラップ 4 4 は、サイドフラップ層 4 0 3 として、雌フラップ層 4 0 2 の下側に積層される。台紙 1 0 0 D は仮想線 V 8 に沿って山折りされる。雄フラップ 4 1 は前方に折り曲げられ、周壁 6 の下端 6 1 1, 6 2 1, 6 3 1, 6 4 1 に囲まれた領域に配置される。これにより、雄フラップ 4 1 は、雄フラップ層 4 0 1 として、サイドフラップ層 4 0 3 の下側に積層され、底壁 4 の最下層に配置される。

[0238] この状態で、図 3 5 に示すように、雄フラップ 4 1 が外側から内側に向けて押し込まれる。雄フラップ 4 1 が押し込まれると、左フラップ 4 3 および右フラップ 4 4 が雄フラップ 4 1 に押されて、外側から内側に向けて押し込まれる。さらに、雌フラップ 4 2 が、雄フラップ 4 1、左フラップ 4 3 および右フラップ 4 4 に押されて、外側から内側に向けて押し込まれる。雄フラップ 4 1、雌フラップ 4 2、左フラップ 4 3 および右フラップ 4 4 は、それぞれ、周壁 6 の下端 6 1 1, 6 2 1, 6 3 1, 6 4 1 から斜めに空間 7 内へ向けて傾斜した状態となる。

[0239] 雄フラップ 4 1 の頭部 4 1 7 は、雌フラップ 4 2 の案内口 4 2 7 に到達し、案内口 4 2 7 を挿通される。次いで差込部 4 1 6 が案内口 4 2 7 に挿通され、雄フラップ 4 1 の押し込みが緩められることで、差込部 4 1 6 は差込口 4 2 6 に案内される。このとき、空間 7 内へ斜めに傾斜する雄フラップ 4 1 の頭部 4 1 7 が折返しフラップ 4 9 に接触するが、切込部 4 8 に切り離された中央部分が雌フラップ 4 2 の後端 4 2 0 側ほど大きく撓むことで、差込部 4 1 6 の差込口 4 2 6 への移動は制限されない。

[0240] 図 3 2 に示すように、雄フラップ 4 1、左フラップ 4 3 および右フラップ 4 4 が、それぞれ、差込口 4 2 6 を介して雌フラップ 4 2 に引っかかり、地獄底形態の底壁 4 が形成される。また、雄フラップ 4 1 の押し込みが解除されるので、折返しフラップ 4 9 は、台紙 1 0 0 D における表面を空間 7 内へ向けた状態で、雌フラップ 4 2 との間に頭部 4 1 7 および差込部 4 1 6 を挟み、雌フラップ 4 2 と密着した状態になる。

[0241] 図36に示すように、底壁4が形成された時点では、箱本体2は上方に開口する。この状態で、下壁85が上方から底壁4の裏面と向き合うように、箱本体2の上方から空間7にテープカセット8Dが収納される。折返しフラップ49は底壁4の最上層の雌フラップ層402において雌フラップ42の上面に密着し、折返しフラップ49における台紙100Dの表面を空間7内に向けた状態で配置されている。テープカセット8Dは空間7内で折返しフラップ49における台紙100Dの表面に載置される。折返しフラップ49は、収納箱1Eを組み立てた場合の周壁6の周縁40による空間7への開口部分とほぼ同じ大きさである。よって折返しフラップ49は、テープカセット8Dの重量を支え、雄フラップ41、左フラップ43、右フラップ44および雌フラップ42にかかるテープカセット8Dの重量を低減することで、地獄底形態の底抜けを防止する。

[0242] 台紙100Dは仮想線V16に沿って山折りされる。矢印S3に示すように、雌フラップ52の折返し先部60は前方に折り曲げられる。これにより、折返し先部60は折返し基部59の前側に配置される。円形開口状の指掛け部522は、上下方向の中央で折り返されることにより、折返し基部59の前端591から図36の向きで下方に凹む半円形状になる。図37に示すように、折返し先部60における台紙100Dの裏面は、折返し基部59における台紙100Dの裏面を向く。また、折返し先部60における台紙100Dの表面は、前方を向く。

[0243] 台紙100Dは仮想線V10に沿って谷折りされる。矢印S4に示すように、折返し先部60と折返し基部59は、後方へ向けて折り曲げられる。これにより、折返し先部60における台紙100Dの表面は、上方を向く。さらに、台紙100Dは仮想線V9に沿って谷折りされる。矢印S5に示すように、ヘッダ片32はヘッダ片31の前側に配置され、ヘッダ3が形成される。また、折返し先部60と折返し基部59は、折返し先部60が下側に位置する状態で、周壁6の上端612、622、632、642に囲まれた領域（言い換えると周壁6の周縁50によって形成され空間7に繋がる開口部

分)に配置される。折返し先部60における台紙100Dの表面は空間7内を向く配置となり、天壁5の最下層に雌フラップ52が配置される。台紙100Dは仮想線V11、V12に沿って山折りされる。これにより、天壁5において雌フラップ52の上に左フラップ43と右フラップ54が積層される。なお、左フラップ43と右フラップ54の積層順は任意である。台紙100Dは仮想線V13に沿って山折りされ、ミシン目5722に沿って谷折りされる。これにより差込部55が形成される。

[0244] 台紙100Dは仮想線V14に沿って山折りされる。差込部55が差込口521を介して雌フラップ52よりも内側に差し込まれる。これにより、左フラップ43および右フラップ54の上に雄フラップ51が積層され、図27に示す天壁5が形成される。以上により、収納箱1Eの組み立てが完了する。

[0245] 図38、図39を参照し、収納箱1Fおよび台紙100Eを説明する。以下では、収納箱1F、台紙100Eのうち、収納箱1E、台紙100Dと異なる点を主に説明する。なお、収納箱1F、台紙100Eについて、収納箱1E、台紙100Dと同様の形状または機能を有する構成に同じ符号を付しており、説明を省略または簡略化する。

[0246] 収納箱1Fには、テープカセット8Dに代えて、テープカセット8Eが収納される。テープカセット8Eのケース81の前後方向の幅W82は、図27に示すテープカセット8Dのケース81の前後方向の幅W81よりも小さい。この場合、収納箱1Fの箱本体2の前後方向の幅W22は、収納箱1Eの箱本体2の前後方向の幅W21よりも小さい。すなわち、収納箱1Fは、左右方向の長さについては収納箱1Eと同じであり、前後方向の長さが収納箱1Eよりも短いだけである。よって収納箱1Fの組み立て前の台紙100Eにおいて、底壁4を構成する雄フラップ41および折返しフラップ49の大きさ関係は、収納箱1Eの台紙100Dにおける底壁4の雄フラップ41および折返しフラップ49と同様のパラメータによって規定することができる。すなわち、長さX、長さY、長さA、長さBのそれぞれ(図30参照)

をパラメータとして（１）式および（２）式が満たされるように設計された台紙１００Ｅを作成する。この台紙１００Ｅを用いて底壁４を組み立てれば、底抜けに対する補強を行いつつも組み立てやすい地獄底形態の底壁４が形成された収納箱１Ｆを得ることができる。

[0247] 以上説明した第三実施形態において、収納箱１Ｅの主な作用効果を説明する。台紙１００Ｄについても、台紙１００Ｄから収納箱１Ｅが形成されることで、収納箱１Ｅと同様の作用効果がいえる。

[0248] 収納箱１Ｅの底壁４は、雌フラップ４２の差込口４２６に雄フラップ４１の差込部４１６が差し込まれ、上方に向かって、雌フラップ４２、サイドフラップ層４０３、雄フラップ４１の順に積層されて構成される、いわゆる地獄底とよばれる形態の壁部である。収納箱１Ｅの空間７内には、雌フラップ４２から折り返された折返しフラップ４９が配置される。折返しフラップ４９は、空間７内にテープカセット８Ｄが配置された場合の重量を支え、地獄底の底抜けを防止することができる。また折返しフラップ４９は、雄フラップ４１およびサイドフラップ層４０３よりも収納箱１Ｅの内部の空間７側に配置される雌フラップ４２の先端に設けられたので、他の部品を設けなくとも、折り返すだけで空間７内に配置することができる。故に収納箱１Ｅは、底壁４を補強する折返しフラップ４９の配置に必要な部品点数を削減してコストを抑えることができつつ、折返しフラップ４９の組み付け忘れを防止できる。

[0249] なお、第三実施形態において、収納箱１Ｅ、１Ｆの上下方向が本発明の「第一方向」の一例である。底壁４が本発明の「第一壁」の一例である。天壁５が本発明の「第二壁」の一例である。テープカセット８Ｄ、８Ｅが本発明の「印刷カセット」の一例である。台紙１００Ｄ、１００Ｅが本発明の「シート」の一例である。

[0250] また、本発明に係る印刷カセット収納体は、以下に説明する解決手段によって、底壁を補強する折返しフラップの配置に必要な部品点数を削減してコストを抑えつつ組み付け忘れを防止してもよい。例えば、前記折返しフラッ

プには、前記折返しフラップの厚みを貫通し、且つ前記折返しフラップの面に沿って延びる少なくとも一つの切込部が形成されてもよい。この場合、収納箱 1 E の組立時、雄フラップ 4 1 の差込部 4 1 6 は、雌本体部 4 2 5 の後端 4 2 0 側が空間 7 内へ向けて押し込まれることによって、頭部 4 1 7 を案内口 4 2 7 に差し込むためのクリアランスを得て、雌フラップ 4 2 の差込口 4 2 6 に差し込まれる。折返しフラップ 4 9 は切込部 4 8 を有することによって上下方向に撓むことができ、雄フラップ 4 1 の押し込みを制限しない。故に収納箱 1 E は、組立時に差込部 4 1 6 および頭部 4 1 7 を差込口 4 2 6 および案内口 4 2 7 に差し込みやすく、組み立てやすい。

[0251] 例えば、前記切込部は、前記第二方向に延び、前記第三方向において互いに離れた位置に形成される一对の第一切込部と、前記第三方向に延び、前記一对の第一切込部それぞれの端部のうち前記第二方向における前記第二雌フラップの先端に近い側の端部同士を接続して形成される第二切込部とを含んでもよい。この場合、切込部 4 8 は、一对の第一切込部 4 8 1, 4 8 2 と第二切込部 4 8 3 によって矩形の三方を切り込んだ形状であり、中央に大きな領域を有する。故に折返しフラップ 4 9 は、空間 7 内にテープカセット 8 D が配置された場合の重量を中央の領域で支え、地獄底の底抜けを防止することができる。また、雄フラップ 4 1 の差込部 4 1 6 が雌フラップ 4 2 の差込口 4 2 6 に差し込まれるとき、雌本体部 4 2 5 は、後端 4 2 0 側が大きく空間 7 内に押し込まれる。折返しフラップ 4 9 は、雌本体部 4 2 5 の後端 4 2 0 に近い側に第二切込部 4 8 3 があるので、雌本体部 4 2 5 の後端 4 2 0 側ほど大きく撓むことができ、雄フラップ 4 1 の押し込みを制限しない。故に収納箱 1 E は、組立時に差込部 4 1 6 および頭部 4 1 7 を差込口 4 2 6 および案内口 4 2 7 に差し込みやすく、組み立てやすい。

[0252] 例えば、前記第一サイドフラップには、前記第一サイドフラップの先端に形成され、前記第四特定方向に突出する第一突出部が設けられ、前記第二サイドフラップには、前記第二サイドフラップの先端に形成され、前記第四特定方向に突出する第二突出部が設けられ、前記第二雄フラップには、前記差

込部の先端に形成され、前記第三方向の長さが前記差込部の前記第三方向の長さよりも長い頭部が設けられ、前記第二雌フラップには、前記雌本体部の先端側の領域において前記差込口と繋がって形成され、前記第三方向の長さが前記差込口の前記第三方向の長さよりも長く、前記差込部が前記差込口に差し込まれる場合に前記頭部を差し込んで前記差込口に案内する案内口が設けられてもよい。この場合、地獄底形態の底壁4は、上方に向かって、雌フラップ42、サイドフラップ層403、雄フラップ41の順に積層されて構成される。雄フラップ41は差込部416と、差込部416より左右方向に大きい頭部417を有する。雌フラップ42は差込部416が挿入される差込口426と、頭部417を通過させて差込口426に案内する案内口427を有する。このような構成の収納箱1Eは、頭部417が案内口427を通過し、案内口427によって差込部416が差込口426に案内されるので、底壁4を組み立てやすい。

[0253] 例えば、前記第一壁が構成された状態で前記第一壁を前記第一方向に見た場合における前記一对の第一切込部のうち前記差込口の位置よりも前記第四特定方向に位置する部分の前記第三方向の長さをX、前記頭部の前記第三方向の長さをYとした場合に、前記第一壁は、 $X \geq Y$ ・・・(1)を満たしてもよい。この場合、差込部416は差込口426から差し込まれた状態で、雌本体部425と折返しフラップ49との間に配置される。頭部417の左右方向の長さY是一对の第一切込部481、482の間の長さX以下の長さであり(1)式「 $X \geq Y$ 」を満たすので、収納箱1Eの組立時に、頭部417が一对の第一切込部481、482に干渉しない。故に収納箱1Eは、組立時に差込部416を差込口426にスムーズに差し込むことができ、組み立てやすい。

[0254] 例えば、前記第一壁が構成された状態で前記第一壁を前記第一方向に見た場合における前記一对の第一切込部のうち前記差込口の前記第四特定方向側の縁の位置よりも前記第四特定方向に位置する部分の前記第二方向の長さをB、前記頭部および前記差込部のうち前記差込口の前記第四特定方向側の縁

の位置よりも前記第四特定方向に位置する部分の前記第二方向の長さを A とした場合に、前記第一壁は、 $B \geq A$. . . (2) を満たしてもよい。この場合、第一切込部 4 8 1, 4 8 2 のうち差込口 4 2 6 の後方側の縁の位置よりも後方側に位置する部分の長さ B は、頭部 4 1 7 および差込部 4 1 6 のうち差込口 4 2 6 の後方側の縁の位置よりも後方側に位置する部分の長さ A 以上の長さであり、(2) 式「 $B \geq A$ 」を満たす。故に底壁 4 が構成された状態で、頭部 4 1 7 および差込部 4 1 6 が位置する領域は、折返しフラップ 4 9 の領域のうち、切込部 4 8 によって切り込まれた中央の領域に対応する領域である。よって収納箱 1 E は、組立時に差込部 4 1 6 と頭部 4 1 7 を雌本体部 4 2 5 と折返しフラップ 4 9 との間にスムーズに差し込むことができ、組み立てやすい。

[0255] 例えば、前記雌本体部または前記周壁は、前記第一壁が構成される場合に前記折返しフラップに係合する少なくとも一つの係合部を有し、前記係合部は、前記折返しフラップが前記雌本体部から折り返されて、前記折返しフラップと前記雌本体部とが前記第一方向に重なる配置となる状態を維持してもよい。この場合、係合部 4 2 8, 4 2 9 は、折返しフラップ 4 9 と係合することで、折返しフラップ 4 9 が雌本体部 4 2 5 から折り返された状態を維持し、空間 7 内に浮き上がらないようにすることができる。故に折返しフラップ 4 9 は、空間 7 内にテープカセット 8 D が配置された場合に確実にテープカセット 8 D と底壁 4 との間に位置してテープカセット 8 D の重量を支え、地獄底の底抜けを防止することができる。

[0256] 例えば、前記折返しフラップは、前記係合部に係合する被係合部を有してもよい。この場合、折返しフラップ 4 9 に被係合部 4 9 8, 4 9 9 を設けたことで、あらかじめ折返しフラップ 4 9 を折り返し、被係合部 4 9 8, 4 9 9 を雌本体部 4 2 5 の係合部 4 2 8, 4 2 9 に係合させておくことができる。よって収納箱 1 E は組立時に、折返しフラップ 4 9 の浮き上がりを防止しつつ、確実に、折返しフラップ 4 9 を空間 7 内に配置することができる。

[0257] 例えば、前記第一壁が構成された状態で前記第一壁を前記第一方向に見た

場合に、前記係合部は、前記第一サイドフラップ、前記第二サイドフラップおよび前記第二雄フラップのうち少なくともいずれかのフラップと前記第一方向に重なる領域に形成されてもよい。この場合、収納箱 1 E は、底壁 4 を組み立てた状態で、係合部 4 2 8, 4 2 9 を左フラップ 4 3、右フラップ 4 4 および雄フラップ 4 1 のうち少なくともいずれかで覆い隠すことができ、外観の見栄えを良くすることができる。また、係合部 4 2 8, 4 2 9 が引っかかりたりすることがないので、収納箱 1 E の破れを防止できる。

[0258] なお、収納箱 1 E、1 F の前後方向が上記解決手段における「第二方向」の一例である。背壁 6 2 が上記解決手段における「第四壁」の一例である。前壁 6 1 が上記解決手段における「第三壁」の一例である。収納箱 1 E、1 F の左右方向が上記解決手段における「第三方向」の一例である。左壁 6 3 が上記解決手段における「第五壁」の一例である。右壁 6 4 が上記解決手段における「第六壁」の一例である。収納箱 1 E、1 F の下方が上記解決手段における「第三特定方向」の一例である。雄フラップ 4 1 が上記解決手段における「第二雄フラップ」の一例である。雄フラップ層 4 0 1 が上記解決手段における「第二雄フラップ層」の一例である。雌フラップ 4 2 が上記解決手段における「第二雌フラップ」の一例である。雌フラップ層 4 0 2 が上記解決手段における「第一雌フラップ層」の一例である。背壁 6 2、前壁 6 1、左壁 6 3、右壁 6 4 の下端 6 2 1, 6 1 1, 6 3 1, 6 4 1 がそれぞれ上記解決手段における「第一接続端」、「第二接続端」、「第三接続端」、「第四接続端」の一例である。

[0259] 左フラップ 4 3 が上記解決手段における「第一サイドフラップ」の一例である。右フラップ 4 4 が上記解決手段における「第二サイドフラップ」の一例である。サイドフラップ層 4 0 3 が上記解決手段における「第一中間フラップ層」の一例である。収納箱 1 E、1 F の前方が上記解決手段における「第四特定方向」の一例である。収納箱 1 E、1 F の後方が上記解決手段における「第二特定方向」の一例である。折返しフラップ 4 9 が上記解決手段における「折返しフラップ」の一例である。左突出部 4 3 6 が上記解決手段に

おける「第一突出部」の一例である。右突出部 4 4 6 が上記解決手段における「第二突出部」の一例である。

[0260] 本発明は第三実施形態から変更されてもよい。以下説明する第三実施形態の各種変形例は、矛盾が生じない限り、互いに組み合わせられてもよく、収納箱 1 E、1 F のいずれに適用されてもよい。

[0261] 折返しフラップ 4 9 に形成した切込部 4 8 の形状は適宜変更可能である。第三実施形態のように、一方向を残し三方向を直線状に切り込んだ矩形状に形成してもよいし、角を面取りした形状、曲線状、U 字状、V 字状など、切込部 4 8 として様々な形状を適用することができる。また、切込部 4 8 は、一对の第一切込部 4 8 1、4 8 2 が形成され第二切込部 4 8 3 のない構成、第一切込部 4 8 1 および第二切込部 4 8 3 が形成され第一切込部 4 8 2 が無い構成、またはその逆の構成であってもよい。

[0262] 係合部 4 2 8、4 2 9 および被係合部 4 9 8、4 9 9 の形状や大きさ、位置関係は適宜変更可能である。例えば、係合部 4 2 8、4 2 9 と被係合部 4 9 8、4 9 9 は、突部と、突部を折り曲げて差し込む切込部であってもよい。また、被係合部 4 9 8、4 9 9 を、左壁 6 3、右壁 6 4 の下端部に突状に設け、下端 6 1 1、6 2 1、6 3 1、6 4 1 に囲まれた領域に折返しフラップ 4 9 を配置したら引っ掛かることでユーザが手で係合させずとも係合される構成としてもよい。係合部 4 2 8、4 2 9 および被係合部 4 9 8、4 9 9 はなくてもよい。また、係合部 4 2 8、4 2 9 と被係合部 4 9 8、4 9 9 との組み合わせは、どちらか一組だけでもよいし、もしくは三組以上あってもよい。

[0263] 折返しフラップ 4 9 は雌フラップ 4 2 の後端 4 2 0 に設けたが、左フラップ 4 3 の右端または右フラップ 4 4 の左端に設けてもよい。また、切込部 4 8 のない折返しフラップ 4 9 を設けてもよい。

[0264] 他の変形例を説明する。箱本体 2 の上下方向、左右方向、および前後方向のそれぞれの長さ関係は、第三実施形態に限定されない。例えば、箱本体 2 の前後方向の長さは、箱本体 2 の左右方向の長さよりも大きくてもよい。

- [0265] 第三実施形態において、台紙１００Ｄは、組み付けられることで収納箱１Ｅが形成されるように構成されれば、第三実施形態の形状に限定されない。折り曲げられることができ、且つ折り曲げられた状態を維持できるシートであれば、台紙１００Ｄに代えてプラスチックシート等が用いられてもよい。
- [0266] 第三実施形態において、空間７にはテープカセット８Ｄに代えて他の収納物が収納されてもよい。他の収納物は例えば、印刷に使用される消耗品であり、インクタンク、インクカートリッジ、またはインクリボンカセットである。他の収納物は印刷以外に使用される消耗品であってもよい。他の収納物は消耗品でなくてもよく、食品等であってもよい。
- [0267] 第三実施形態では、テープカセット８Ｄは下壁８５が底壁４と向き合う状態で空間７に配置される。これに対し、テープカセット８Ｄは下壁８５とは異なる壁、例えば上壁８６が底壁４と向き合う状態で空間７に配置されてもよい。
- [0268] 第三実施形態において、周壁６は、例えば左壁６３および右壁６４を省略してもよい。すなわち、前壁６１の左端と背壁６２の左端とが互いに直接接続し、前壁６１の右端と背壁６２の右端とが互いに直接接続してもよい。この場合、例えば前壁６１が前方に膨らむように湾曲し、背壁６２が後方に膨らむように湾曲するとよい。周壁６は前壁６１、背壁６２、左壁６３、および右壁６４に加えて１または複数の壁をさらに備えてもよい。
- [0269] 第三実施形態では、雌フラップ５２はヘッダ３を介して背壁６２の上端６２２に接続する。これに対し、雌フラップ５２は背壁６２の上端６２２に直接接続してもよい。この場合、ヘッダ３は省略されてもよいし、左壁６３の上端６３２または右壁６４の上端６４２に接続してもよい。
- [0270] 第三実施形態では、ヘッダ３はヘッダ片３１、３２を有する。これに対し、ヘッダ３はヘッダ片３１およびヘッダ片３２のいずれか一方によって構成されてもよい。孔３０の個数および形状は第三実施形態に限定されない。ヘッダ３には孔３０が設けられなくてもよい。
- [0271] 第三実施形態において、左フラップ４３および右フラップ４４の一方また

は両方は省略されてもよい。すなわち、サイドフラップ層403は左フラップ43および右フラップ44の一方によって構成されてもよいし、省略されてもよい。また、左フラップ43の右端および右フラップ44の左端は上下方向において互い重なる配置となってもよい。

[0272] 次に、特開2009-208785号公報に記載の紙箱は、正面板、背面板、および下面板を備える。下面板は、正面板と背面板とに接続する。背面板と下面板とが接続する辺には、折り目が設けられる。背面板には、ミシン目線が設けられる。ミシン目線は、折り目の両端と接続し且つ折り目から離れる方向へ膨らむ形状に形成される。紙箱が開封される場合に、折り目とミシン目線とで区画された領域がユーザの指で押し込まれる。ミシン目線が裂かれることで背面板と下面板とが分断され、紙箱が開封される。

[0273] 特開2013-095047号公報に記載のカートリッジは、テープおよびカートリッジ筐体を備える。テープは、例えばラベルを作成するための基材テープである。カートリッジ筐体は、テープを収納する。カートリッジ筐体には、収納したテープを排出する排出口が設けられる。

[0274] 上記紙箱に、上記カートリッジが収納されることが考えられる。紙箱では、折り目とミシン目線とで区画された領域がユーザの指で押し込まれることで、開封される。このとき、押し込まれた指が、例えば排出口の近傍にあるテープに触れた場合、カートリッジが使用されて作成されるラベルの品質が損なわれる可能性がある。このように、カートリッジのようなカセットを収納する紙箱において、紙箱から取り出されたカセットの品質が損なわれる可能性がある。

[0275] そこで、カセットの品質が損なわれることを抑制することに貢献する収納箱およびシートを提供するため、本発明の第四実施形態について、図面を参照して説明する。参照する図面は、本発明が採用しうる技術的特徴を説明するために用いられる。すなわち、図面に記載されている構成等は、そのみに限定する趣旨ではなく、単なる説明例である。

[0276] 図40および図41を参照し、収納箱1Gを説明する。以下では、図40

の左上方、右下方、左下方、右上方、下方、および上方を、それぞれ、収納箱 1 G の左方、右方、前方、後方、下方、および上方とする。なお、第四実施形態において、例えば上下方向は、説明のために便宜的に使用され、鉛直方向に限定されない。

[0277] 収納箱 1 G は、例えば図 4 6 に示す台紙 1 0 0 F が組み付けられることで形成される。台紙 1 0 0 F の構成および台紙 1 0 0 F から収納箱 1 G を組み立てる方法については後述する。収納箱 1 G は箱本体 2 とヘッダ 3 とを備える。箱本体 2 は前後方向よりも左右方向に長く、且つ左右方向よりも上下方向に長い直方体状であり、テープカセット 8 F を収納する。

[0278] 例えば箱本体 2 の前後方向の幅 W 2 1 は、テープカセット 8 F の前後方向の幅 W 8 1 よりもわずかに大きい。箱本体 2 の前後方向、左右方向、および上下方向のそれぞれの長さの関係は、テープカセット 8 F の前後方向、左右方向、および上下方向のそれぞれの長さの関係と同じである。

[0279] 箱本体 2 は底壁 4 と天壁 5 と周壁 6 とを有する。底壁 4 および天壁 5 は、それぞれ、上下方向に直交するように延び、且つ上下方向において互いに並ぶ。底壁 4 は箱本体 2 の下端に位置する。天壁 5 は箱本体 2 の上端に位置する。

[0280] 周壁 6 は底壁 4 の周縁 4 0 から天壁 5 の周縁 5 0 まで延びる。周壁 6 は四角筒状であり、前壁 6 1 と背壁 6 2 と左壁 6 3 と右壁 6 4 とを含む。前壁 6 1 および背壁 6 2 は、それぞれ、前後方向に直交するように延び、且つ前後方向において互いに並ぶ。前壁 6 1 は箱本体 2 の前端に位置する。背壁 6 2 は箱本体 2 の後端に位置する。左壁 6 3 および右壁 6 4 は、それぞれ、左右方向に直交するように延び、且つ左右方向において互いに並ぶ。左壁 6 3 は箱本体 2 の左端に位置する。右壁 6 4 は箱本体 2 の右端に位置する。

[0281] 前壁 6 1 の下端 6 1 1、背壁 6 2 の下端 6 2 1、左壁 6 3 の下端 6 3 1、および右壁 6 4 の下端 6 4 1 は、底壁 4 の周縁 4 0 を構成する（図 4 1 参照）。前壁 6 1 の上端 6 1 2、背壁 6 2 の上端 6 2 2、左壁 6 3 の上端 6 3 2、および右壁 6 4 の上端 6 4 2 は、天壁 5 の周縁 5 0 を構成する（図 4 0 参

照)。

[0282] 箱本体 2 の内部には空間 7 が形成される。空間 7 は底壁 4 と天壁 5 と周壁 6 (前壁 6 1、背壁 6 2、左壁 6 3、右壁 6 4) とによって囲まれる。空間 7 には、テープカセット 8 F が、後述の下壁 8 5 が上方から底壁 4 と向き合う状態で、配置される。

[0283] ヘッダ 3 は箱本体 2 に設けられる。ヘッダ 3 は壁状であり、ヘッダ片 3 1 とヘッダ片 3 2 とを含む。ヘッダ片 3 1 は背壁 6 2 の上端 6 2 2 に接続し、背壁 6 2 の上端 6 2 2 から上方に延びる。図 4 1 は、背壁 6 2 の上端 6 2 2 を仮想線 V 2 1 によって示す。ヘッダ片 3 2 はヘッダ片 3 1 の上端 3 1 1 から前方に折り返されて下方に延びる。ヘッダ片 3 2 の下端 3 2 1 は上下方向において天壁 5 の位置に位置し、後述の雌本体部 5 2 5 (図 4 5 参照) に接続する。

[0284] ヘッダ 3 には孔 3 0 が設けられる。孔 3 0 は正面視で二等辺三角形状であり、ヘッダ 3 の左右方向の中央に配置される。孔 3 0 はヘッダ片 3 1、3 2 を前後方向に貫通する。したがって、孔 3 0 はヘッダ 3 を前後方向に貫通する。例えば、収納箱 1 G の流通市場において、収納箱 1 G は、商品を吊り下げ陳列するための棒に孔 3 0 を介して挿入され、吊り下げ陳列されてもよい。

[0285] 図 4 1 ~ 図 4 3 を参照し、背壁 6 2 および底壁 4 の詳細構造を説明する。図 4 2 は空間 7 から下方に向かって底壁 4 を見た平面図である。図 4 4 はテープカセット 8 F の図示を省略する。

[0286] 図 4 1 に示すように、背壁 6 2 は左右方向よりも上下方向に長い長方形状である。背壁 6 2 の下端 6 2 1 は左右方向に延びる。背壁 6 2 にはミシン目 6 2 3 が設けられる。ミシン目 6 2 3 は上方に膨らむ円弧状であり、背壁 6 2 の下部に位置する。

[0287] 点 P 1 はミシン目 6 2 3 の左端を示す。点 P 2 はミシン目 6 2 3 の右端を示す。点 P 1、P 2 は背壁 6 2 の下端 6 2 1 に位置する。点 P 1 1 は背壁 6 2 の下端 6 2 1 の左端を示す。点 P 1 2 は背壁 6 2 の下端 6 2 1 の右端を示す。

す。点P 1は左右方向において背壁6 2の下端6 2 1の中心と点P 1 1の間に位置する。点P 2は左右方向において背壁6 2の下端6 2 1の中心と点1 2との間に位置する。

[0288] 以下では、背壁6 2のうちミシン目6 2 3と背壁6 2の下端6 2 1とによって囲まれる領域を「起点領域R 1 1」という。起点領域R 1 1は、後述の第一の開封方法において、ユーザによって押し込まれる。

[0289] 底壁4は、いわゆる地獄底であり、雄フラップ4 1と雌フラップ4 2と左フラップ4 3と右フラップ4 4とを含む。雄フラップ4 1は雄本体部4 1 5と差込部4 1 6とを有する。雄本体部4 1 5は背壁6 2の下端6 2 1に接続し、背壁6 2の下端6 2 1から前方に延びる。雄本体部4 1 5は前端4 1 0と周縁4 1 3、4 1 4とを含む。

[0290] 前端4 1 0は左右方向に延びる。仮想線V 2 2は前端4 1 0を示す。点P 3は前端4 1 0の左端を示す。点P 4は前端4 1 0の右端を示す。点P 3は点P 1 1よりも右方に位置し、且つ点P 1よりも左方に位置する。点P 4は点P 1 2よりも左方に位置し、且つ点P 2よりも右方に位置する。周縁4 1 3は点1 1と点P 3とを結ぶ。周縁4 1 4は点1 2と点P 4とを結ぶ。すなわち、雄本体部4 1 5は前方に向かうにつれて狭まる台形状である。

[0291] 雄本体部4 1 5には一対のミシン目4 1 1、4 1 2が設けられる。ミシン目4 1 1は、点P 1から周縁4 1 3上の点P 3に向かって左前方に延びる。ミシン目4 1 2は、点P 2から周縁4 1 4上の点P 4に向かって右前方に延びる。すなわち、ミシン目4 1 1の上端はミシン目6 2 3の左端に接続し、ミシン目4 1 2の上端は、ミシン目6 2 3の右端に接続する。また、底壁4は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状であり、ミシン目4 1 1、4 1 2は底壁4の短手方向である前後方向に沿って延びる。

[0292] 点P 1、P 2、P 3、P 4の互いの位置関係から、ミシン目4 1 1とミシン目4 1 2とは互いに交差することなく、前方に向かうにつれて互いの間隔が広がるように延びる。以下では、雄本体部4 1 5のうち一対のミシン目4 1 1、4 1 2、前端4 1 0、および背壁6 2の下端6 2 1によって囲まれる

領域を「開封領域 R 1 2」という。開封領域 R 1 2 は、後述の第一の開封方法において、ユーザによって箱本体 2 から分断される。

[0293] 図 4 2 に示すように、差込部 4 1 6 は雄本体部 4 1 5 と接続し、延出部 4 1 0 0 と突出部 4 1 0 1、4 1 0 2 とを含む。延出部 4 1 0 0 は前後方向よりも左右方向に長い長方形状であり、雄本体部 4 1 5 の前端 4 1 0 から前方に延びる。突出部 4 1 0 1 は、延出部 4 1 0 0 の左前端から左方に突出する三角形状である。突出部 4 1 0 2 は、延出部 4 1 0 0 の右前端から右方に突出する三角形状である。

[0294] 図 4 3 に示すように、雌フラップ 4 2 は前壁 6 1 の下端 6 1 1 に接続し、雌本体部 4 2 5 を有する。雌本体部 4 2 5 は、雌フラップ 4 2 の全体であり、前壁 6 1 の下端 6 1 1 から後方に延びる。雌フラップ 4 2 は前後方向よりも左右方向に長い長方形状である。雌本体部 4 2 5 の左右方向の長さは、底壁 4 の左右方向の長さと同様である。雌本体部 4 2 5 の後端 4 2 0 は、底壁 4 と接続する背壁 6 2 の下端 6 2 1 と、底壁 4 の前後方向の中心との間に位置する。

[0295] 雌本体部 4 2 5 には差込口 4 2 1 と突出部 4 2 2 1、4 2 2 2 とが設けられる。差込口 4 2 1 は雌本体部 4 2 5 の後端 4 2 0 と、雌本体部 4 2 5 の前後方向の中心との間に位置する。差込口 4 2 1 は前後方向よりも左右方向に長く、雌本体部 4 2 5 を上下方向に貫通する。底壁 4 において、差込口 4 2 1 には差込部 4 1 6 が差し込まれる（図 4 4 参照）。差込口 4 2 1 の左右方向の長さは、差込部 4 1 6 における突出部 4 1 0 1 の左端から突出部 4 1 0 2 の右端までの距離と同様である（図 4 2 参照）。

[0296] 差込口 4 2 1 は差込口縁 4 2 1 0 により規定される。差込口縁 4 2 1 0 は雌本体部 4 2 5 の内側で閉じた環状である。ここで特定の部位「内側」とは、特定の部位の外周よりも内側の領域を意味する。例えば「雌本体部 4 2 5 の内側」とは、雌フラップ 4 2 の外周 4 2 A よりも内側の領域である。

[0297] 差込口縁 4 2 1 0 は縁 4 2 1 1 を含む。縁 4 2 1 1 は差込口 4 2 1 に対して前方に配置され、左右方向に延びる。点 P 5 は縁 4 2 1 1 の左端を示す。

点 P 6 は縁 4 2 1 1 の右端を示す。点 P 5 は差込口 4 2 1 の左端と雌本体部 4 2 5 の左右方向の中心との間に位置する。点 P 6 は差込口 4 2 1 の右端と雌本体部 4 2 5 の左右方向の中心との間に位置する。

[0298] 縁 4 2 1 1 の左右方向の長さは、差込部 4 1 6 における延出部 4 1 0 0 の左右方向の長さと略同じであり、突出部 4 1 0 1 の左端から突出部 4 1 0 2 の右端までの距離よりも短い（図 4 2 参照）。突出部 4 2 2 1 は点 P 5 から後方に突出する。突出部 4 2 2 2 は点 P 6 から後方に突出する。

[0299] 図 4 2 に示すように、左フラップ 4 3 は左本体部 4 3 5 と左突出部 4 3 6 とを含む。左本体部 4 3 5 は延出部 4 3 1、4 3 2 を含む。延出部 4 3 1 は左壁 6 3 の下端 6 3 1 に接続し、左壁 6 3 の下端 6 3 1 から右方に延びる。より詳細に、延出部 4 3 1 は左端と右端とが底辺となる台形状である。延出部 4 3 1 の後端は、下端 6 3 1 の後端から右方に延びる。延出部 4 3 1 の前端は、下端 6 3 1 の前端から右後方に延びる。延出部 4 3 1 の左右方向の長さは、差込口 4 2 1 の左端から雌本体部 4 2 5 の左端までの距離と略同じである。

[0300] 延出部 4 3 2 は延出部 4 3 1 の右端に接続し、延出部 4 3 1 の右端から右方に延びる。延出部 4 3 2 は、左右方向よりも前後方向に長い長方形状である。延出部 4 3 2 の右端は、底壁 4 の左右方向の中心よりも左方に位置する。

[0301] 左突出部 4 3 6 は延出部 4 3 2 の前端に接続し、延出部 4 3 2 の前端から前方に延びる三角形状である。左突出部 4 3 6 は差込口 4 2 1 に差し込まれる。左突出部 4 3 6 の前後方向の長さは、差込部 4 1 6 の前後方向の長さよりも短い。

[0302] 右フラップ 4 4 と左フラップ 4 3 とは、互いに左右対称である（図 4 2 参照）。右フラップ 4 4 は右本体部 4 4 5 と右突出部 4 4 6 とを含む。右本体部 4 4 5 は延出部 4 4 1、4 4 2 を含む。延出部 4 4 1、4 4 2、右突出部 4 4 6 は、それぞれ、延出部 4 3 1、4 3 2、左突出部 4 3 6 に対応する構成であり、説明を簡略化する。

- [0303] 延出部４４１は右壁６４の下端６４１に接続し、右壁６４の下端６４１から左方に延びる台形状である。延出部４４２は延出部４４１の左端に接続し、延出部４４１の左端から左方に延びる長形状である。延出部４３２の左端は、底壁４の左右方向の中心よりも右方に位置する。すなわち、左本体部４３５と、右本体部４４５とは上下方向において互いに重ならない。
- [0304] 右突出部４４６は延出部４４２の前端に接続し、延出部４４２の前端から前方に延びる三角形状である。右突出部４４６は差込口４２１に差し込まれる。
- [0305] 図４４に示すように、以下では、雄フラップ４１によって構成される層を「雄フラップ層４０１」という。雌フラップ４２によって構成される層を「雌フラップ層４０２」という。左フラップ４３および右フラップ４４によって構成される層を「サイドフラップ層４０３」という。
- [0306] 図４０および図４５を参照し、天壁５の詳細構造を説明する。天壁５は、雄フラップ５１と雌フラップ５２と左フラップ５３と右フラップ５４とを含む。雄フラップ５１は、前壁６１の上端６１２に接続し、雄本体部５１５と図４５に示す差込部５５とを有する。雄本体部５１５は前壁６１の上端６１２から後方に延びる。雄本体部５１５は前後方向よりも左右方向に長い長形状である。雄本体部５１５の前後方向の長さは、前壁６１と背壁６２との間の前後方向の距離と略同じである。
- [0307] 雄本体部５１５の後端５１１は、背壁６２の前方近傍に位置し、左右方向に延びる。雄本体部５１５の後端５１１は、端５１１１と端５１１２とを含む。端５１１１は後端５１１の一部であり、左右方向において、後端５１１の左端よりも右方の位置から後端５１１の右端よりも左方の位置まで延びる。
- [0308] 点Ｐ２１は端５１１１の左端を示す。点Ｐ２２は端５１１１の右端を示す。点Ｐ２１は後端５１１上において、後端５１１の左右方向の中心と、後端５１１の左端との間の位置である。点Ｐ２２は後端５１１上において、後端５１１の左右方向の中心と、後端５１１の右端との間の位置である。端５１

1 2は後端5 1 1のうち端5 1 1 1とは異なる他の一部であり、後端5 1 1の左端と点P 2 1との間の部分と、後端5 1 1の右端と点P 2 2との間の部分とを含む。

[0309] 端5 1 1 1および端5 1 1 2は前後方向において互いにずれた位置に配置される。第四実施形態では、端5 1 1 1が端5 1 1 2に対して前方にずれる。したがって、前後方向において、背壁6 2と端5 1 1 1の間には隙間G 1が形成される。

[0310] 雄本体部5 1 5は開口縁5 1 2を含む。開口縁5 1 2は開口5 1 3を規定する。開口5 1 3は雄本体部5 1 5を上下方向に貫通する。開口縁5 1 2は雄本体部5 1 5の内側で環状に閉じられる。

[0311] 雄本体部5 1 5には一対のミシン目5 1 6、5 1 7が設けられる。ミシン目5 1 6は開口5 1 3の左端から点P 2 1まで延びる。ミシン目5 1 7は開口5 1 3の右端から点P 2 2まで延びる。差込部5 5は、雄本体部5 1 5に接続し、雄本体部5 1 5の後端5 1 1のうち端5 1 1 1から下方に突出する。

[0312] 以下では、雄本体部5 1 5のうち端5 1 1 1、ミシン目5 1 6、5 1 7、および開口縁5 1 2によって囲まれる領域を「開封領域R 2 2」という。開封領域R 2 2は、後述の第二の開封方法において、ユーザによって箱本体2から分断される。

[0313] 雌フラップ5 2は背壁6 2の上端6 2 2にヘッダ3を介して接続し、雌本体部5 2 5を有する。雌本体部5 2 5は、雌フラップ5 2の全体であり、ヘッダ片3 2の下端3 2 1から前方に延びる。雌本体部5 2 5は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。雌本体部5 2 5の前端5 2 0は前後方向において天壁5の略中央に位置する。雌本体部5 2 5には指掛け部5 2 2と差込口5 2 1とが設けられる。指掛け部5 2 2は雌本体部5 2 5の前端5 2 0において、左右方向の中央から後方に凹む。指掛け部5 2 2は円弧状であり、平面視で開口5 1 3と重なる（図4 5参照）。

[0314] 差込口5 2 1は雌本体部5 2 5のうちヘッダ片3 2との接続部（雌本体部

５２５の後端）に位置する。差込口５２１は前後方向よりも左右方向に長く、雌本体部５２５を上下方向に貫通する。差込口５２１には差込部５５が差し込まれる。

[0315] 左フラップ５３は左壁６３の上端６３２に接続し、左本体部５３５を有する。左本体部５３５は、左フラップ５３の全体であり、左壁６３の上端６３２から右方に延びる。右フラップ５４は右壁６４の上端６４２に接続し、右本体部５４５を有する。右本体部５４５は、右フラップ５４の全体であり、右壁６４の上端６４２から左方に延びる。左本体部５３５および右本体部５４５は、それぞれ、前後方向よりも左右方向に長い長方形状であり、互いに左右対称である。

[0316] 左本体部５３５および右本体部５４５のそれぞれの左右方向の長さは、左壁６３と右壁６４との左右方向の間の距離よりも小さく、且つ左壁６３と右壁６４との左右方向の間の距離の半分よりも大きい。したがって、左本体部５３５の右端および右本体部５４５の左端の一方は、他方の上に重なる。第四実施形態では、左本体部５３５が右本体部５４５の上に重なる。

[0317] 以下では、雄フラップ５１によって構成される層を「雄フラップ層５０１」という。雌フラップ５２によって構成される層を「雌フラップ層５０２」という。左フラップ５３と右フラップ５４とによって構成される層を「サイドフラップ層５０３」という。平面視において、サイドフラップ層５０３の外形は、左本体部５３５および右本体部５４５の外形によって規定される。

[0318] 第四実施形態において、天壁５では、雄フラップ層５０１、雌フラップ層５０２、およびサイドフラップ層５０３が、下方から上方に向かって雌フラップ層５０２、サイドフラップ層５０３、雄フラップ層５０１の順に並んで積層される。差込部５５は、差込口５２１を介して雌本体部５２５よりも内側に配置される。

[0319] 図４５に示すように、開口５１３の全部は平面視でサイドフラップ層５０３と重なる。このため、サイドフラップ層５０３は開口５１３の全部を下方から覆う。サイドフラップ層５０３は平面視で差込口５２１と重ならない。

[0320] 図40を参照し、テープカセット8Fを説明する。テープカセット8Fはケース81と印刷テープ89とを備える。ケース81は前後方向よりも左右方向に長く、且つ左右方向よりも上下方向に長い直方体状である。印刷テープ89は長尺状であり、ケース81に収納される。印刷テープ89の幅方向（短手方向）は前後方向である。このため、テープカセット8Fの幅方向は前後方向となる。

[0321] 第四実施形態では、ケース81は前壁82と後壁83と周壁84とを有する。前壁82および後壁83は、それぞれ、前後方向に直交するように延び、且つ前後方向において互いに並ぶ。前壁82はケース81の前端に位置する。後壁83はケース81の後端に位置する。

[0322] 周壁84は後壁83の周縁831から前壁82の周縁821まで延びる。周壁84は四角筒状であり、下壁85と上壁86とを含む。下壁85および上壁86は、それぞれ、上下方向に直交するように延び、且つ上下方向において互いに並ぶ。下壁85はケース81の下端に位置する。上壁86はケース81の上端に位置する。上壁86には、ケース81に収納された印刷テープ89をケース81の外に排出するための排出口88が設けられる。

[0323] テープカセット8Fは消耗品であり、プリンタ（図示略）による印刷に使用される。例えば、テープカセット8Fは、プリンタに装着された状態で使用される。プリンタはケース81内から印刷テープ89を引き出しながら、印刷テープ89に画像を印刷する。プリンタは、画像が印刷された印刷テープ89を、排出口88を介してケース81の外に排出する。これにより、印刷テープ89に画像が印刷されたラベルが作成される。

[0324] 図46を参照し、台紙100Fを説明する。以下では、図46の左方、右方、下方、および上方を、それぞれ、台紙100FのXマイナス方向、Xプラス方向、Yマイナス方向、およびYプラス方向とする。図46では、仮想線V1、V2、V3、V4、V5、V6、V7、V8、V9、V10、V11、V12、V13、V14、V21、V22は収納箱1Gの隣り合う各構成要素の境界を示す。例えば仮想線V21は背壁62とヘッダ片31との境

界を示す。

- [0325] 台紙１００Ｆは所定形状に切断された１枚のシートであり、厚紙、薄紙、段ボール等である。台紙１００Ｆは、底壁４、天壁５、周壁６、およびヘッダ３を含む。台紙１００Ｆでは、Ｙ方向の中央に周壁６が配置される。周壁６において、前壁６１、背壁６２、左壁６３、および右壁６４は、Ｘプラス方向からＸマイナス方向に向かって右壁６４、前壁６１、左壁６３、背壁６２の順にそれぞれ連なって並ぶ。さらに、背壁６２のＸマイナス方向の隣りに、のり代６５が連なる。
- [0326] 底壁４は周壁６のＹマイナス方向に配置される。詳細には、雄フラップ４１は背壁６２のＹマイナス方向に配置され、背壁６２と連なる。雌フラップ４２は前壁６１のＹマイナス方向に配置され、前壁６１と連なる。左フラップ４３は左壁６３のＹマイナス方向に配置され、左壁６３と連なる。右フラップ４４は右壁６４のＹマイナス方向に配置され、右壁６４と連なる。
- [0327] 天壁５およびヘッダ３は周壁６のＹプラス方向に配置される。詳細には、ヘッダ３において、ヘッダ片３１は背壁６２のＹプラス方向に配置され、背壁６２と連なる。ヘッダ片３２はヘッダ片３１のＹプラス方向に配置され、ヘッダ片３１と連なる。
- [0328] 天壁５において、雌フラップ５２はヘッダ片３１のＹプラス方向に配置され、ヘッダ片３１と連なる。雄フラップ５１は前壁６１のＹプラス方向に配置され、前壁６１と連なる。左フラップ５３は左壁６３のＹプラス方向に配置され、左壁６３と連なる。右フラップ５４は右壁６４のＹプラス方向に配置され、右壁６４と連なる。
- [0329] 図４６～図４８を参照し、台紙１００Ｆから収納箱１Ｇを組み立てる方法を説明する。以下では、各構成要素について、図４６に示す台紙１００Ｆのうち紙面手前を向く面を各構成要素の「表（おもて）面」といい、図４６に示す台紙１００Ｆのうち紙面奥を向く面を各構成要素の「裏面」という。
- [0330] 台紙１００Ｆにおいて互いに隣り合う一対の構成要素のそれぞれの裏面が互いに向き合う方向に、互いの境界に沿って台紙１００Ｆを折ることを「山

折り」という。台紙１００Ｆにおいて互いに隣り合う一対の構成要素のそれぞれの表面が互いに向き合う方向に、互いの境界に沿って台紙１００Ｆを折ることを「谷折り」という。例えば「仮想線Ｖ１に沿って台紙１００Ｆを山折りする」とは、右壁６４の裏面と前壁６１の裏面とが互いに向き合う方向に、台紙１００Ｆが仮想線Ｖ１に沿って折られることを意味する。第四実施形態では、台紙１００Ｆの表面には、仮想線Ｖ１～Ｖ１４に沿って折り目筋が形成される。一方で、台紙１００Ｆの裏面には、折り目筋が形成されない。

[0331] 図４６に示すように、台紙１００Ｆは仮想線Ｖ１、Ｖ２、Ｖ３、Ｖ４に沿って山折りされる。のり代６５の表面が左壁６３の裏面に貼り付けられる。これにより、図４７、図４８に示すように、周壁６が四角筒状に形成される。台紙１００Ｆは仮想線Ｖ５に沿って山折りされる。台紙１００Ｆは仮想線Ｖ６、Ｖ７（図４６参照）に沿って山折りされる。台紙１００Ｆは仮想線Ｖ８（図４６参照）に沿って山折りされる。この状態で、雄フラップ４１が外側から内側に向けて押し込まれる。

[0332] 雄フラップ４１が外側から内側に向けて押し込まれると、差込部４１６、左突出部４３６、および右突出部４４６のそれぞれが、差込口４２１を介して雌本体部４２５よりも内側に差し込まれる（図４４参照）。これにより、雄フラップ４１、左フラップ４３、および右フラップ４４が、それぞれ、差込口４２１を介して雌フラップ４２に引っかかり、図４１に示す底壁４がいわゆる地獄底として形成される。図４４に示すように、雄フラップ層４０１、雌フラップ層４０２、およびサイドフラップ層４０３が、上方から下方に向かって、雌フラップ層４０２、サイドフラップ層４０３、雄フラップ層４０１の順に並ぶ。

[0333] 底壁４が形成された時点では、箱本体２は上方に開口する。この状態で、下壁８５が上方から底壁４の裏面と向き合うように、箱本体２の上方から空間７にテープカセット８Ｆが収納される。

[0334] 台紙１００Ｆは仮想線Ｖ９に沿って山折りされ、仮想線Ｖ１０に沿って谷

折りされる。これにより、ヘッダ3が形成され、天壁5の最下層に雌フラップ層502が配置される。台紙100Fは仮想線V11、V12に沿って山折りされる。これにより、天壁5において雌フラップ層502の上にサイドフラップ層503が積層される。台紙100Fは仮想線V13に沿って山折りされる。

[0335] 台紙100Fは仮想線V14に沿って山折りされる。差込部55が差込口521を介して雌本体部525よりも内側に差し込まれる。これにより、サイドフラップ層503の上に雄フラップ層501が積層され、図40に示す天壁5が形成される。以上により、収納箱1Gの組み立てが完了する。

[0336] 図41、図49を参照し、収納箱1Gの第一の開封方法を説明する。ユーザは起点領域R11を前方に向かって指で押し込んでミシン目623を裂きながら、ミシン目411、412に沿って開封領域R12を箱本体2から分断する。ここで、差込部416の突出部4101は差込口421の突出部4221に引っかかりやすく、差込部416の突出部4102は差込口421の突出部4222に引っかかりやすい。よって、ユーザは起点領域R11、開封領域R12を保持し、そのまま下方に引くことで、左フラップ43の左突出部436および右フラップ44の右突出部446が差込口421から抜ける。このように、起点領域R11が押し込まれてからの一連の動作で、雄フラップ層401、雌フラップ層402、およびサイドフラップ層403の組み合わせが解除され、箱本体2が下方に開口した状態になる（図49参照）。ユーザは空間7から下方にテープカセット8Fを取り出す。

[0337] 図40を参照し、収納箱1Gの第二の開封方法を説明する。ユーザは開口縁512に指を引っかける。この状態でユーザは開封領域R22を後方に押し込みながら、または開封領域R22を後方に引き上げながら、ミシン目516、517に沿って開封領域R22を箱本体2から分断する。これにより、箱本体2が上方に開口した状態になる。なお、開口513の全部は平面視でサイドフラップ層503と重なるので、ユーザは開口縁512に指を引っかけにくい。したがって、第一の開封方法は第二の開封方法に比べて箱本体

2を開封しやすい方法である。第四実施形態において、ユーザは第一の開封方法でテープカセット8Fを取り出す。

[0338] 例えば、ユーザは第一の開封方法によってテープカセット8Fを収納箱1Gから取り出した後、第二の開封方法を行うことで、箱本体2を上方および下方の両方に開口させてもよい。この場合、箱本体2が上方および下方の両方に開口するので、ユーザは容易に箱本体2を畳むことができる。よって、収納箱1Gは、テープカセット8Fが箱本体2から取り出された後、箱本体2が嵩張ることを抑制することに貢献する。

[0339] 不正開封が行われる場合を説明する。不正開封の一例として、雄本体部515を前方につれて上方に向かう方向に移動し、ミシン目516、517を裂くことなく、差込部55を差込口521から抜こうとする場合が考えられる。ここで、差込部55が差込口521に差し込まれ、雄フラップ層501と雌フラップ層502とが係合している。これにより、ユーザは差込部55を差込口521から抜くことが困難である。このように、収納箱1Gは、雄フラップ層501と雌フラップ層502とが係合することで、箱本体2の不正開封を困難にする。

[0340] 以上説明した第四実施形態において、収納箱1Gの主な作用効果を説明する。台紙100Fについても、台紙100Fから収納箱1Gが形成されることで、収納箱1Gと同様の作用効果がいえる。

[0341] 収納箱1Gでは、第一の開封方法において、ユーザはミシン目411、412に沿って開封領域R12を箱本体2から分断し、空間7から下方にテープカセット8Fを取り出す。テープカセット8Fの下壁85は上下方向においてケース81の中心に対して排出口88とは反対に位置し、且つ底壁4には下壁85が上方から対向する。このため、排出口88が底壁4から比較的離れた位置に位置する。よって、第一の開封方法では、開封領域R12が箱本体2から分断される場合に、排出口88内に存在する印刷テープ89にユーザの指および開封領域R12が当たりにくい。よって、収納箱1Gは、例えば印刷テープ89が損傷する等、取り出されたテープカセット8Fの品質

が損なわれることを抑制することに貢献する。

[0342] 収納箱 1 G では、底壁 4 は背壁 6 2 の下端 6 2 1 と接続する。ミシン目 4 1 1、4 1 2 は背壁 6 2 の下端 6 2 1 上の点 P 1、P 2 から延びる。背壁 6 2 にはミシン目 6 2 3 が設けられる。ミシン目 6 2 3 は点 P 1 から点 P 2 まで上方に膨らむ円弧状に延びる。これによれば、収納箱 1 G の第一の開封方法において、ミシン目 6 2 3 と背壁 6 2 の下端 6 2 1 とによって囲まれる起点領域 R 1 1 が押し込まれ、ミシン目 6 2 3、ミシン目 4 1 1、4 1 2 が裂かれる。このとき、起点領域 R 1 1 は、ミシン目 4 1 1、4 1 2 が延びる方向である前方に沿って押し込まれる。よって、収納箱 1 G は容易にテープカセット 8 F を取出可能な状態とすることに貢献する。

[0343] 収納箱 1 G では、ヘッダ 3 を有する。ヘッダ 3 のヘッダ片 3 1 は背壁 6 2 の上端 6 2 2 に接続し、背壁 6 2 の上端 6 2 2 から上方に延びる。これによれば、例えば、収納箱 1 G は、商品を吊り下げ陳列するための棒にヘッダ 3 の孔 3 0 を介して挿入されることで、吊り下げ陳列されてもよい。よって、収納箱 1 G は収納箱 1 G の陳列態様を多様化することに貢献する。

[0344] 収納箱 1 G では、ミシン目 6 2 3 は背壁 6 2 に設けられる。これによれば、例えば、収納箱 1 G が吊り下げ陳列される場合に、前壁 6 1 は背壁 6 2 と比較して視認されやすい位置に配置される。故に、前壁 6 1 は背壁 6 2 と比較してテープカセット 8 F の情報が表示されやすい。よって、収納箱 1 G は、ミシン目 6 2 3 が前壁 6 1 に設けられる場合と比較して、多くのテープカセット 8 F の情報を表示することに貢献する。

[0345] 収納箱 1 G では、底壁 4 は雄フラップ層 4 0 1 と雌フラップ層 4 0 2 とサイドフラップ層 4 0 3 とを含む。雄フラップ層 4 0 1 は雄フラップ 4 1 によって構成される。雄フラップ 4 1 は雄本体部 4 1 5 と差込部 4 1 6 とを有する。差込部 4 1 6 は雄本体部 4 1 5 と接続し、雄本体部 4 1 5 の前端 4 1 0 から前方に延びる。雌フラップ層 4 0 2 は雌フラップ 4 2 によって構成される。雌フラップ 4 2 は雌本体部 4 2 5 と差込口 4 2 1 とを有する。差込口 4 2 1 は雌本体部 4 2 5 に設けられる。底壁 4 では、雄フラップ層 4 0 1、雌

フラップ層４０２、およびサイドフラップ層４０３が、上方から下方に向かって、雌フラップ層４０２、サイドフラップ層４０３、雄フラップ層４０１の順に並び、且つ差込口４２１に差込部４１６が差し込まれて構成される。雄フラップ層４０１の雄本体部４１５には一対のミシン目４１１、４１２が形成される。このように、底壁４はいわゆる地獄底であり、底壁４を構成する雄フラップ層４０１に第一の開封方法のためのミシン目４１１、４１２が形成される。よって、収納箱１Ｇは底壁４が地獄底であってもテープカセット８Ｆを容易に取出可能な状態とすることに貢献する。

[0346] 収納箱１Ｇでは、ミシン目４１１、４１２は雄フラップ層４０１の雄本体部４１５に設けられる。例えば、ミシン目４１１、４１２がサイドフラップ層４０３に設けられる場合がある。この場合、ミシン目４１１、４１２が裂かれても、雄フラップ層４０１と雌フラップ層４０２との組み合わせが解除されない。一方、収納箱１Ｇでは、ミシン目６２３が裂かれたときに、ユーザの指が雌本体部４２５にかかりやすい。ユーザの指が雌本体部４２５にかかった状態で、ユーザが指を下方に引き抜くと、底壁４を構成する雄フラップ層４０１、サイドフラップ層４０３、および雌フラップ層４０２が互いに分離される（図４９参照）。このように、収納箱１Ｇは容易にテープカセット８Ｆを取出可能な状態とすることに貢献する。

[0347] 収納箱１Ｇでは、左フラップ４３は左突出部４３６を含む。右フラップ４４は右突出部４４６を含む。左突出部４３６、右突出部４４６は、それぞれ差込口４２１を介して雌本体部４２５よりも内側に差し込まれる。これにより、収納箱１Ｇは、簡単な構成で底壁４の強度を確保することに貢献する。

[0348] 収納箱１Ｇでは、底壁４は前後方向よりも左右方向に長い長方形状であり、ミシン目４１１、４１２は前方に延びる。これによれば、収納箱１Ｇは、ミシン目４１１、４１２の長さを短くすることができる。よって、収納箱１Ｇはテープカセット８Ｆを容易に取出可能な状態とすることに貢献する。

[0349] 収納箱１Ｇでは、底壁４は雄フラップ層４０１と雌フラップ層４０２とサイドフラップ層４０３とを含む。雄フラップ層４０１は雄フラップ４１によ

って構成される。雄フラップ４１は雄本体部４１５と差込部４１６とを有する。差込部４１６は雄本体部４１５と接続し、雄本体部４１５の前端４１０から前方に延びる。雌フラップ層４０２は雌フラップ４２によって構成される。雌フラップ４２は雌本体部４２５と差込口４２１とを有する。差込口４２１は雌本体部４２５に設けられ、４２１０により規定される。差込口縁４２１０は雌本体部４２５の内側で環状に閉じられる。底壁４では、雄フラップ層４０１、雌フラップ層４０２、およびサイドフラップ層４０３が、上方から下方に向かって、雌フラップ層４０２、サイドフラップ層４０３、雄フラップ層４０１の順に並び、且つ差込口４２１に差込部４１６が差し込まれて構成される。このように、底壁４はいわゆる地獄底であり、差込口４２１を規定する差込口縁４２１０は雌本体部４２５の内側で環状に閉じられる。差込口縁４２１０が雌本体部４２５の内側で環状に閉じられているので、雌フラップ４２は変形しにくい。よって、収納箱１Ｇは箱本体２の強度を向上させることに貢献する。

[0350] 不正開封の一例として、雄本体部５１５を前方につれて上方に向かう方向に移動し、ミシン目５１６、５１７を裂くことなく、差込部５５を差込口５２１から抜こうとする場合が考えられる。ここで、収納箱１Ｇでは差込部５５が差込口５２１に差し込まれ、雄フラップ層５０１と雌フラップ層５０２とが係合している。これにより、ユーザは差込部５５を差込口５２１から抜くことが困難である。このように、収納箱１Ｇは、雄フラップ層５０１と雌フラップ層５０２とが係合することで、箱本体２の不正開封を困難にする。

[0351] 収納箱１Ｇはテープカセット８Ｆを備える。これによれば、収納箱１Ｇは、箱本体２によってテープカセット８Ｆを保護することに貢献する。

[0352] 収納箱１Ｇでは、ミシン目４１１の上端はミシン目６２３の左端に接続し、ミシン目４１２の上端は、ミシン目６２３の右端に接続する。ミシン目４１１、４１２とミシン目６２３とが接続しているので、第一の開封方法においてミシン目４１１、４１２とミシン目６２３とが連続して裂かれる。よって、収納箱１Ｇはテープカセット８Ｆを容易に取出可能な状態とすることに

貢献する。

[0353] 収納箱 1 G では、ミシン目 4 1 1 は、背壁 6 2 の下端 6 2 1 上の点 P 1 から周縁 4 1 3 上の点 3 に向かって左前方に延びる。ミシン目 4 1 2 は、背壁 6 2 の下端 6 2 1 上の点 P 2 から周縁 4 1 4 上の点 P 4 に向かって右前方に延びる。この場合、第一の開封方法においてミシン目 4 1 1、4 1 2 が裂かれると、差込部 4 1 6 が差込口 4 2 1 に引っかかる。ここで、ユーザは起点領域 R 1 1、開封領域 R 1 2 を保持し、そのまま下方に引くことで、雄フラップ層 4 0 1、雌フラップ層 4 0 2、およびサイドフラップ層 4 0 3 の組み合わせが解除され、箱本体 2 が下方に開口した状態になる（図 4 9 参照）。このように、収納箱 1 G は少ない操作でテープカセット 8 F を取出可能な状態とすることに貢献する。

[0354] 差込部 4 1 6 は延出部 4 1 0 0 と突出部 4 1 0 1、4 1 0 2 とを含む。延出部 4 1 0 0 は雄本体部 4 1 5 の前端 4 1 0 から前方に延びる。突出部 4 1 0 1 は、延出部 4 1 0 0 の左前端から左方に突出する。突出部 4 1 0 2 は、延出部 4 1 0 0 の右前端から右方に突出する。差込口縁 4 2 1 0 は縁 4 2 1 1 を含む。縁 4 2 1 1 は差込口 4 2 1 に対して前方に配置され、左右方向に延びる。突出部 4 2 2 1 は縁 4 2 1 1 の左端である点 P 5 から後方に突出する。突出部 4 2 2 2 は縁 4 2 1 1 の右端である点 P 6 から後方に突出する。これによれば、差込部 4 1 6 が差込口 4 2 1 から引き抜かれようとした場合、突出部 4 1 0 1、4 1 0 2 がそれぞれ 4 2 2 1、4 2 2 2 に引っかかりやすい。よって、収納箱 1 G は底壁 4 の強度を向上させることに貢献する。

[0355] なお、第四実施形態において、下壁 8 5 が本発明の「第一カセット壁」の一例である。上壁 8 6 が本発明の「第二カセット壁」の一例である。ケース 8 1 が本発明の「ケース」の一例である。印刷テープ 8 9 が本発明の「被印刷媒体」の一例である。排出口 8 8 が本発明の「排出口」の一例である。テープカセット 8 F が本発明の「印刷カセット」の一例である。

[0356] 収納箱 1 G の上下方向が本発明の「第一方向」の一例である。底壁 4 が本発明の「第一壁」の一例である。天壁 5 が本発明の「第二壁」の一例である。

。周壁 6 が本発明の「周壁」の一例である。箱本体 2 が本発明の「箱本体」の一例である。空間 7 が本発明の「空間」の一例である。ミシン目 4 1 1、4 1 2 が本発明の「第一ミシン目」の一例である。

[0357] ミシン目 6 2 3 が本発明の「第二ミシン目」の一例である。収納箱 1 G の上方が本発明の「第一特定方向」の一例である。収納箱 1 G の前後方向が本発明の「第二方向」の一例である。前壁 6 1 が本発明の「第三壁」の一例である。背壁 6 2 が本発明の「第四壁」の一例である。ヘッダ 3 が本発明の「ヘッダ」の一例である。

[0358] 収納箱 1 G の左右方向が本発明の「第三方向」の一例である。左壁 6 3 が本発明の「第五壁」の一例である。右壁 6 4 が本発明の「第六壁」の一例である。収納箱 1 G の下方が本発明の「第三特定方向」の一例である。雄フラップ 4 1 が本発明の「第二雄フラップ」の一例である。雌フラップ 4 2 が本発明の「第二雌フラップ」の一例である。差込口 4 2 1 が本発明の「差込口」の一例である。差込部 4 1 6 が本発明の「第一差込部」の一例である。サイドフラップ層 4 0 3 が本発明の「第一中間フラップ層」の一例である。左突出部 4 3 6、右突出部 4 4 6 が本発明の「第二差込部」の一例である。台紙 1 0 0 F が本発明の「シート」の一例である。収納箱 1 G の後方が本発明の「第二特定方向」の一例である。収納箱 1 G の前方が本発明の「第四特定方向」の一例である。雌フラップ層 4 0 2 が本発明の「第二雌フラップ層」の一例である。雄フラップ層 4 0 1 が本発明の「第二雄フラップ層」の一例である。左フラップ 4 3 が本発明の「第一サイドフラップ」の一例である。右フラップ 4 4 が本発明の「第二サイドフラップ」の一例である。雌本体部 4 2 5 が本発明の「雌本体部」の一例である。雄本体部 4 1 5 が本発明の「雄本体部」の一例である。

[0359] 本発明は第四実施形態から変更されてもよい。以下説明する各種変形例は、矛盾が生じない限り、互いに組み合わせられてもよい。

[0360] 図 5 O を参照し、変形例の収納箱 1 H を説明する。収納箱 1 H は、例えば図 5 1 に示す台紙 1 0 0 G が組み付けられることで形成される。以下変形例

では、第四実施形態と同様の形状または機能を有する構成には同じ符号を付して説明を省略または簡略化する。

[0361] 収納箱 1 H の箱本体 2 B はいわゆるキャラメル箱であり、底壁 4 の代わりに底壁 4 0 0 0 が設けられる。すなわち、箱本体 2 の底壁 4 のように地獄底に限定されない。底壁 4 0 0 0 は本体部 4 0 1 0 と延出部 4 1 6 1（図 5 1 参照）を有する。本体部 4 0 1 0 は背壁 6 2 の下端 6 2 1 に接続し、背壁 6 2 の下端 6 2 1 から前方に延びる。本体部 4 0 1 0 は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。

[0362] 本体部 4 0 1 0 には、ミシン目 4 1 1 1、4 1 2 1 が設けられる。ミシン目 4 1 1 1 は、点 P 1 から点 P 3 1 に向かって延びる。ミシン目 4 1 2 は、点 P 2 から点 P 4 1 に向かって延びる。点 P 3 1、P 4 1 は本体部 4 0 1 0 の前端 4 1 5 1 上に位置する。点 P 3 1 は、点 P 1 よりも左方に位置し且つ前端 4 1 5 1 の左端よりも右方に位置する。点 P 4 1 は、点 P よりも右方に位置し且つ前端 4 1 5 1 の右端よりも左方に位置する。図 5 1 では前端 4 1 5 1 のうち点 P 3 1 と点 P 4 1 との間を仮想線 V 2 3 で示す。

[0363] 本体部 4 0 1 0 のうち一对のミシン目 4 1 1 1、4 1 2 1、および前端 4 1 5 1 によって囲まれる領域を「開封領域 R 1 2 1」という。開封領域 R 1 2 1 は第四実施形態の開封領域 R 1 2 に対応する構成であり、第一の開封方法においてユーザによって箱本体 2 B から分断される。

[0364] 図 5 1 に示すように、延出部 4 1 6 1 は本体部 4 0 1 0 の前端 4 1 5 1 に接続し、本体部 4 0 1 0 の前端 4 1 5 1 から上方に延びる（図 5 0 では省略）。延出部 4 1 6 1 は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。延出部 4 1 6 1 には、切り込み 4 1 7 1、4 1 7 2 が設けられる。切り込み 4 1 7 1 は前端 4 1 5 1 の左端から点 P 3 1 まで左方に延びる。切り込み 4 1 7 2 は前端 4 1 5 1 の右端から点 P 4 1 まで右方に延びる。

[0365] ミシン目 4 1 1、4 1 2、6 2 3 は第四実施形態に限定されない。図 5 2 に示す収納箱 1 J、図 5 3 に示す収納箱 1 K、図 5 4 に示す収納箱 1 L はミシン目 4 1 1、4 1 2、6 2 3 の変形例である。

[0366] 図5 2に示すように、変形例の収納箱1 Jはミシン目4 1 1、4 1 2の代わりにミシン目4 1 1 2が設けられる点で収納箱1 Gと異なる。ミシン目4 1 1 2は、底壁4に設けられる。ミシン目4 1 1 2は点P 1から点P 2に向かって上方に膨らむ円弧状である。すなわち、底壁4に設けられるミシン目は第四実施形態のように2本に限定されず、1本でもよいし、3本以上でもよい。底壁4に設けられるミシン目の端は周縁4 1 3、4 1 4上に位置しなくてもよい。

[0367] 図5 3に示すように、変形例の収納箱1 Kは、ミシン目6 2 3の代わりに、ミシン目6 2 3 0が設けられる点、およびミシン目4 1 1、4 1 2の代わりにミシン目4 1 1 3が設けられる点で収納箱1 Gと異なる。

[0368] ミシン目6 2 3 0は背壁6 2に設けられる。ミシン目6 2 3 0は点P 1から点P 1 0まで上方に延び、点P 1 0から点P 2 0まで右方に延び、点2 0から点3 0まで下方に延びる。点1 0、2 0、3 0は、いずれも背壁6 2の内側に位置する。すなわち、ミシン目6 2 3 0は背壁6 2を略J字状に延びる。このように、背壁6 2に設けられるミシン目は上方に膨らんでいけばよく、第四実施形態のように円弧状に限定されない。背壁6 2に設けられるミシン目は、例えば背壁6 2を略L字状に延びてもよい。また、ミシン目6 2 3 0の点2 0のように、背壁6 2に設けられるミシン目の端は背壁6 2の下端6 2 1上に位置しなくてもよい。

[0369] ミシン目4 1 1 3は底壁4の雄本体部4 1 5に設けられる。ミシン目4 1 1 3は雄本体部4 1 5上を点4 0から点5 0まで延びる。点4 0は、背壁6 2の下端6 2 1上の点1とは異なる位置にある。点5 0は、雄本体部4 1 5の周縁4 1 3上の点3とは異なる位置にある。このように、底壁4に設けられるミシン目と背壁6 2に設けられるミシン目とは互いに接続していなくてもよい。底壁4に設けられるミシン目の一端は周縁4 1 3、4 1 4上において点P 3、P 4以外の位置にあってもよい。

[0370] 図5 4に示すように、変形例の収納箱1 Lは、背壁6 2にミシン目6 2 3が設けられない点、およびミシン目4 1 1、4 1 2の代わりにミシン目4 1

14が設けられる点で収納箱1Gと異なる。

[0371] ミシン目4114は底壁4の雄本体部415に設けられる。ミシン目4114は点P3から点P60まで上方に延び、点P60から点P70まで右方に延び、点70から点4まで下方に延びる。点60、70は、例えば雄本体部415の内側に位置し且つ前後方向において雌本体部425の後端420よりも後方に位置する。このように、底壁4にミシン目が設けられていればよく、背壁62にミシン目が設けられなくてもよい。

[0372] 図示はしないが、ミシン目411、412の他の変形例として、ミシン目411、412は雌フラップ層402に設けられてもよい。これによれば、第一の開封方法において裂かれたミシン目411、412により雌本体部425に隙間が形成される。ユーザは形成された隙間に指を入れ、上方から雌本体部425を引っかける。ユーザが指を下方に引き抜くと、底壁4を構成する雄フラップ層401、サイドフラップ層403、および雌フラップ層402が互いに分離される。このように、ミシン目411、412が雌フラップ層402に設けられる場合でも、収納箱1Gは容易にテープカセット8Fを取出可能な状態とすることに貢献する。

[0373] ミシン目411、412はサイドフラップ層403に設けられてもよい。例えばミシン目411が左フラップ43の左本体部435に設けられ、ミシン目412が右フラップ44の右本体部445に設けられてもよい。

[0374] 一对のミシン目411、412は前方に向かって互いに平行に延びてもよいし、前方に向かうにつれて互いに近づくように延びてもよい。一对のミシン目411、412は直線状に延びることに限定されず、例えば円弧状または波状に延びてもよい。一对のミシン目411、412が延びる方向は前後方向に沿っていなくてもよく、例えば収納箱1Gにおいて一对のミシン目411、412が左右方向に延びてもよい。すなわち一对のミシン目411、412が延びる方向は底壁4の形状と対応関係がなくてもよい。

[0375] 雄フラップ層401を含む底壁4にはミシン目411、412が設けられなくてもよい。この場合、箱本体2は第一の開封方法および第二の開封方法

とは異なる方法で開封されるように構成されてもよい。例えば、底壁４の雌本体部４２５には下方に延びる紐が接続されてもよい。この場合、ユーザは紐を下方に引くことで、底壁４を構成する雄フラップ層４０１、サイドフラップ層４０３、および雌フラップ層４０２が互いに分離され、箱本体２が開封される。

[0376] ミシン目６２３は周壁６のいずれかに設けられればよい。ミシン目６２３は上方に膨らんで延びることに限定されず、例えば下方に膨らんで延びてもよいし、直線状または波状に延びてもよい。背壁６２を含む周壁６にはミシン目６２３が設けられなくてもよい。

[0377] 差込口４２１は第四実施形態に限定されない。図５５に示す差込口４２３、図５６に示す差込口４２４は差込口４２１の変形例である。

[0378] 図５５に示すように、変形例の差込口４２３は、差込口縁４２３０により規定される。差込口縁４２３０は雌本体部４２５の後端４２０上の点Ｐ５１から、後端４２０上の点６１まで延びる。

[0379] より詳細に、差込口縁４２３０は点Ｐ５１から点Ｐ５２まで後方に延び、点Ｐ５１から点Ｐ６２まで右方に延び、点６２から点６１まで前方に延びる。点Ｐ５１は、後端４２０の左端と後端４２０の中心との間に位置する。点６１は、後端４２０の右端と後端４２０の中心との間に位置する。点５２、６２は、雌本体部４２５の内側に位置する。すなわち、差込口４２３は、差込口縁４２３０が後方に開いた溝である。

[0380] これによれば、収納箱１Ｇでは差込口４２３は溝であるので、孔である差込口４２１と比べて差込部４１６が抜けやすくなる。したがって、ユーザは容易に箱本体２を畳むことができる。よって、収納箱１Ｇはテープカセット８Ｆが箱本体２から取り出された後、箱本体２が嵩張ることを抑制することに貢献する。ここで、差込口縁４２３０は、後方に開いていればよく、例えば後方および右方に開いてもよい。この場合、差込口４２３は、雌本体部４２５の右後端に設けられる切り欠きである。

[0381] 図５６に示すように、変形例の差込口４２４は、差込口縁４２４０により

規定される。差込口縁４２３０は点Ｐ５３から点６３まで左右方向に延びる。点５３、６３は、雌本体部４２５の内側に位置する。すなわち、差込口４２４は、切り込みである。

[0382] これによれば、収納箱１Ｇでは差込口４２４は切り込みであるので、孔である差込口４２１と比べて、差込部４１６と雌本体部４２５との間の摩擦力を向上させることができる。収納箱１Ｇは底壁４の強度を向上させることに貢献する。ここで、差込口縁４２３０は雌本体部４２５の内側で左右方向に延びていればよく、例えばＬ字状に延びてもよいし、Ｕ字状に延びてもよい。

[0383] 図示しないが、差込口４２１を規定する差込口縁４２１０は雌本体部４２５の内側で環状に閉じていればよく、差込口縁４２１０を以下のように変形させてもよい。差込口縁４２１０は左右方向に延びることに限定されず、例えば前後方向に延びてもよい。差込口縁４２１０により規定される差込口４２１は例えば平面視で円形状や三角形状の孔でもよい。雌本体部４２５には差込口４２１から延びる切り込みが設けられてもよい。

[0384] 雌本体部４２５には突出部４２２１、４２２２のいずれか一方が設けられなくてもよい。雌本体部４２５には突出部４２２１、４２２２が設けられなくてもよい。雌本体部４２５には、点Ｐ５、Ｐ６以外の差込口縁４２１０から突出する突出部が設けられてもよい。

[0385] 他の変形例を説明する。差込部４１６の形状は第四実施形態に限定されない。差込部４１６は突出部４１０１、４１０２のいずれか一方を含まなくてもよい。差込部４１６は突出部４１０１、４１０２を含まなくてもよい。突出部４１０１、４１０２の形状は適宜変更してもよく、例えば前後方向よりも左右方向に長い長方形状であってもよい。延出部４１００に対する突出部４１０１、４１０２の位置は適宜変更してもよい。例えば、突出部４１０１は延出部４１００の左後端に設けられてもよい。延出部４１００の形状は適宜変更してもよい。例えば、延出部４１００は前方に向かうにつれて左右方向の幅が狭まる台形状であってもよい。

- [0386] 左フラップ43は左突出部436を含まなくてもよい。右フラップ44は右突出部446を含まなくてもよい。左本体部435と右本体部445とが上下方向において互いに重なってもよい。左フラップ43および右フラップ44の一方または両方は省略されてもよい。すなわち、サイドフラップ層403は左フラップ43および右フラップ44の一方によって構成されてもよいし、両方が省略されてもよい。
- [0387] 箱本体2の上下方向、左右方向、および前後方向のそれぞれの長さ関係は、第四実施形態に限定されない。例えば、箱本体2の前後方向の長さは、箱本体2の左右方向の長さよりも大きくてもよい。箱本体2の形状は第四実施形態のような直方体状に限定されず、例えば円柱状、八面体状、いわゆるピローカートン状などでもよい。
- [0388] 第四実施形態において、台紙100Fは、組み付けられることで収納箱1Gが形成されるように構成されれば、第四実施形態の形状に限定されない。折り曲げられることができ、且つ折り曲げられた状態を維持できるシートであれば、台紙100Fに代えてプラスチックシート等が用いられてもよい。
- [0389] 第四実施形態において、空間7にはテープカセット8Fに代えて他の収納物が収納されてもよい。他の収納物は例えば、印刷に使用される消耗品であり、インクタンク、インクカートリッジ、またはインクリボンカセットである。他の収納物は印刷以外に使用される消耗品であってもよい。他の収納物は消耗品でなくてもよく、食品等であってもよい。
- [0390] 第四実施形態では、テープカセット8Fは下壁85が底壁4と向き合う状態で空間7に配置される。これに対し、テープカセット8Fは下壁85とは異なる壁、例えば上壁86が底壁4と向き合う状態で空間7に配置されてもよい。
- [0391] 第四実施形態において、周壁6は、例えば左壁63および右壁64を省略してもよい。すなわち、前壁61の左端と背壁62の左端とが互いに直接接続し、前壁61の右端と背壁62の右端とが互いに直接接続してもよい。この場合、例えば前壁61が前方に膨らむように湾曲し、背壁62が後方に膨

らむように湾曲するとよい。周壁6は前壁61、背壁62、左壁63、および右壁64に加えて1または複数の壁をさらに備えてもよい。

[0392] 天壁5の構成は適宜変更してもよい。天壁5は例えば底壁4と同様に地獄底に形成されてもよい。第四実施形態では、差込部55が差込口521に差し込まれ、雄フラップ層501と雌フラップ層502とが係合した。これに対し、雄フラップ層501と雌フラップ層502とが係合しなくてもよい。この場合、雄フラップ51に差込部55を有していなくてもよい。

[0393] 第四実施形態では、雌本体部525はヘッダ3を介して背壁62の上端622に接続する。これに対し、雌本体部525は背壁62の上端622に直接接続してもよい。この場合、ヘッダ3は省略されてもよいし、左壁63の上端632または右壁64の上端642に接続してもよい。

[0394] 第四実施形態では、ヘッダ3はヘッダ片31、32を有する。これに対し、ヘッダ3はヘッダ片31およびヘッダ片32のいずれか一方によって構成されてもよい。孔30の個数および形状は第四実施形態に限定されない。ヘッダ3には孔30が設けられなくてもよい。

[0395] 次に、特開平8-258883号公報には、カセットテープを収納するカセットテープ用ケースが開示されている。カセットテープ用ケースはカセットテープの平面形状同大の平面部を有し、平面部に一对の第1切り起こし片が切り込み線により形成されている。一对の第1切り起こし片は、ハブ止めピースに切り込みによって形成された一对の第2の切り起こし片と互いに押し合うように組み合わされ、ハブ止めとして形成される。ハブ止めは、カセットテープ用ケース内に格納されたカセットテープのハブ穴にはめ込まれ、リールの回転並びにテープの緩みが防止される。

[0396] カセットテープをカセットテープ用ケースから取り出す場合、第1切り起こし片と第2切り起こし片とが互いに押し合うためハブ止めが倒れにくく、カセットテープが取り出しにくいという問題がある。

[0397] そこで、収納箱内に収納する印刷カセットを取り出しやすい印刷カセット収納体を提供するため、本発明の第五実施形態について、図面を参照して説

明する。参照する図面は、本発明が採用しうる技術的特徴を説明するために用いられる。すなわち、図面に記載されている構成等は、そのみに限定する趣旨ではなく、単なる説明例である。

[0398] 図57を参照し、テープカセット8を説明する。以下説明では、図57の上方、下方、右下方、左上方、左下方、右上方をそれぞれ、テープカセット8の上方、下方、前方、後方、左方、右方とする。印刷装置10の方向については、印刷装置10にテープカセット8を装着した状態または非装着の状態の如何にかかわらず、装着状態におけるテープカセット8の方向に倣うものとする。また、後述する収納箱1Nの方向については、収納箱1Nに収納した状態(図64参照)におけるテープカセット8の方向に倣うものとする。なお、第五実施形態において、例えば上下方向は、説明のために便宜的に使用され、鉛直方向に限定されない。

[0399] テープカセット8はケース81と印刷テープ89とインクリボン87とを備える。ケース81は前後方向よりも左右方向に長く、且つ左右方向よりも上下方向に長い略直方体状である。ケース81は前壁82と後壁83と周壁84とを有する。前壁82および後壁83は、それぞれ、前後方向に直交するように延び、且つ前後方向において互いに並ぶ。前壁82はケース81の前端に位置する。後壁83はケース81の後端に位置する。周壁84は後壁83の周縁831から前壁82の周縁821まで延びる。周壁84は四角筒状であり、下壁85と上壁86とを含む。下壁85および上壁86は、それぞれ、上下方向に直交するように延び、且つ上下方向において互いに並ぶ。下壁85はケース81の下端に位置する。上壁86はケース81の上端に位置する。下壁85には、ケース81に収納された印刷テープ89をケース81の外に排出するための排出口88が設けられる。排出口88は、上下方向において下壁85とほぼ同じ高さ位置か、僅かに下方の位置にある。

[0400] 印刷テープ89は長尺状であり、筒状のテープスプール89Aに巻回されて、ケース81に収納される。テープスプール89Aはケース81内の左下部に配置され、両端が前壁82と後壁83に支持される。テープスプール8

9 Aの筒穴8 9 Bは、前壁8 2と後壁8 3においてケース8 1の外部に露出される。筒穴8 9 Bは、印刷装置1 0の装着部1 1内で、テープカセット8の位置決めに使用される。印刷テープ8 9の幅方向（短手方向）は前後方向である。このため、テープカセット8の幅方向は前後方向となる。テープカセット8では、印刷テープ8 9の幅方向の長さ（テープ幅）が大きくなると、ケース8 1の前後方向の幅が大きくなる。

[0401] インクリボン8 7は長尺状であり、リボンスプール（図示略）に巻回されて、ケース8 1に収納される。インクリボン8 7は、印刷テープ8 9がテープスプール8 9 Aから排出口8 8へ向かう経路の途中において印刷テープ8 9と重ね合わせられる経路を通り、筒状の巻取スプール8 7 Aによって巻き取られる。巻取スプール8 7 Aはケース8 1内の右上部に配置され、前壁8 2と後壁8 3に両端が支持される。巻取スプール8 7 Aの筒穴は、インクリボン8 7を巻き取るための駆動力が入力されるカムが形成されたカム穴8 7 Bである。カム穴8 7 Bは、前壁8 2と後壁8 3においてケース8 1の外部に露出される。

[0402] また、ケース8 1の上壁8 6および下壁8 5のそれぞれには、突起部8 6 1、8 5 1が設けられている。突起部8 6 1は上壁8 6の略中央において上方へ向けて突出しつつ左右方向に延びるリブ状であり、上壁8 6において最も上方に突出する構造物である。突起部8 6 1の左右両端はそれぞれ前後方向に延びるリブ状に形成されており、平面視でH字形状である。突起部8 5 1は下壁8 5の略中央において下方へ向けて突出しつつ左右方向に延びるリブ状であり、下壁8 5において最も下方に突出する構造物である。すなわち突起部8 5 1は、排出口8 8よりも下方に突出する。突起部8 5 1の左右両端はそれぞれ前後方向に延びるリブ状に形成されており、底面視でH字形状である。

[0403] ケース8 1の左部で上下方向の中間部には、前壁8 2から左方の周壁8 4にかけて凹部8 0が形成されている。凹部8 0には、テープカセット8の情報、例えば、テープ幅、テープ色、テープ種類等を表示したラベルシールが

貼付される。

[0404] 印刷装置 10 は、テープカセット 8 を装着する凹部状の装着部 11 を前面に開口する。装着部 11 内の下部における凹部内壁の近傍には、凹部底壁から前方に延びるフック 12 が形成されている。装着部 11 内の上部における凹部内壁の近傍にも、凹部底壁から前方に延びるフック 13 が形成されている。テープカセット 8 を印刷装置 10 の装着部 11 に装着した場合に、突起部 851, 861 は、それぞれフック 12, 13 に係合し、テープカセット 8 の位置決めおよび保持がなされる。

[0405] テープカセット 8 は消耗品であり、印刷装置 10 による印刷に使用される。テープカセット 8 が装着部 11 に装着された状態で、印刷装置 10 はケース 81 内から印刷テープ 89 を引き出しながら、印刷ヘッド（図示略）によってインクリボン 87 のインクを印刷テープ 89 に転写し、画像を印刷する。印刷装置 10 は、画像が印刷された印刷テープ 89 を、排出口 88 を介してケース 81 の外に排出する。これにより、印刷テープ 89 に画像が印刷されたラベルが作成される。

[0406] 図 58～図 62 を参照し、収納箱 1N を説明する。収納箱 1N は、例えば図 62 に示す台紙 100H が組み付けられることで形成される。収納箱 1N は箱本体 2 とヘッダ 3 とを備える。箱本体 2 は前後方向よりも左右方向に長く、且つ左右方向よりも上下方向に長い直方体状であり、テープカセット 8 を収納する。箱本体 2 は底壁 4 と天壁 5 と周壁 6 とを有する。底壁 4 および天壁 5 は、それぞれ上下方向に直交するように延び、且つ上下方向において互いに並ぶ。底壁 4 は箱本体 2 の下端に位置する。天壁 5 は箱本体 2 の上端に位置する。

[0407] 周壁 6 は底壁 4 の周縁 40 から天壁 5 の周縁 50 まで延びる。周壁 6 は四角筒状であり、前壁 61 と背壁 62 と左壁 63 と右壁 64 とを含む。前壁 61 および背壁 62 は、それぞれ、前後方向に直交するように延び、且つ前後方向において互いに並ぶ。前壁 61 は箱本体 2 の前端に位置する。前壁 61 には、収納箱 1N 内に収納するテープカセット 8 の情報、例えば、テープ幅

、テープ色、テープ種類等を表示したラベルシール 6 9 が貼付される。背壁 6 2 は箱本体 2 の後端に位置する。左壁 6 3 および右壁 6 4 は、それぞれ、左右方向に直交するように延び、且つ左右方向において互いに並ぶ。左壁 6 3 は箱本体 2 の左端に位置する。右壁 6 4 は箱本体 2 の右端に位置する。前壁 6 1 の下端 6 1 1、背壁 6 2 の下端 6 2 1、左壁 6 3 の下端 6 3 1、および右壁 6 4 の下端 6 4 1 は、底壁 4 の周縁 4 0 を構成する（図 5 9 参照）。前壁 6 1 の上端 6 1 2、背壁 6 2 の上端 6 2 2、左壁 6 3 の上端 6 3 2、および右壁 6 4 の上端 6 4 2 は、天壁 5 の周縁 5 0 を構成する（図 5 8 参照）。

[0408] 箱本体 2 の内部には空間 7 が形成される。空間 7 は底壁 4 と天壁 5 と周壁 6（前壁 6 1、背壁 6 2、左壁 6 3、右壁 6 4）とによって囲まれる。テープカセット 8 は、ケース 8 1 の下壁 8 5 が上方から箱本体 2 の底壁 4 と向き合う状態で、空間 7 に配置される。

[0409] ヘッダ 3 は箱本体 2 に設けられる。ヘッダ 3 は壁状であり、ヘッダ片 3 1 とヘッダ片 3 2 とを含む。ヘッダ片 3 1 は背壁 6 2 の上端 6 2 2 に接続し、背壁 6 2 の上端 6 2 2 から上方に延びる。図 5 9 の仮想線 V 0 は、背壁 6 2 の上端 6 2 2 を示す。ヘッダ片 3 2 はヘッダ片 3 1 の上端 3 1 1 から前方に折り返されて下方に延びる。ヘッダ片 3 2 の下端 3 2 1 は上下方向において天壁 5 の位置にあり、後述の雌フラップ 5 2（図 6 0 参照）に接続する。

[0410] ヘッダ 3 には孔 3 0 が設けられる。孔 3 0 は正面視で二等辺三角形状であり、ヘッダ 3 の左右方向の中央に配置される。孔 3 0 はヘッダ片 3 1、3 2 を前後方向に貫通する。したがって、孔 3 0 はヘッダ 3 を前後方向に貫通する。例えば、収納箱 1 N の流通市場において、収納箱 1 N は、商品を吊り下げ陳列するための棒に孔 3 0 を介して挿入され、吊り下げ陳列されてもよい。

[0411] 図 5 9、図 6 2 に示すように、底壁 4 は、いわゆる地獄底であり、雄フラップ 4 1 と雌フラップ 4 2 と左フラップ 4 3 と右フラップ 4 4 とを含む。雄フラップ 4 1 は背壁 6 2 の下端 6 2 1 に接続し、背壁 6 2 の下端 6 2 1 から

前方に延びる。雄フラップ4 1は前方に向かうにつれて狭まる台形状である。雌フラップ4 2は前壁6 1の下端6 1 1に接続し、前壁6 1の下端6 1 1から後方に延びる。雌フラップ4 2は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。雌フラップ4 2には差込口4 2 1が形成される差込口4 2 1は前後方向よりも左右方向に長く、雌フラップ4 2を上下方向に貫通する。左フラップ4 3は左壁6 3の下端6 3 1に接続し、左壁6 3の下端6 3 1から右方に延びる。右フラップ4 4は右壁6 4の下端6 4 1に接続し、右壁6 4の下端6 4 1から左方に延びる。左フラップ4 3および右フラップ4 4は、それぞれ三角形形状であり、互いに左右対称である。雌フラップ4 2と、左フラップ4 3および右フラップ4 4と、雄フラップ4 1とは、上方から下方に向かって、その順に並んで積層されることで、底壁4を構成する。

[0412] 図5 8、図6 0～図6 2に示すように、天壁5は、雄フラップ5 1と雌フラップ5 2と左フラップ5 3と右フラップ5 4とを含む。雄フラップ5 1は、前壁6 1の上端6 1 2に接続し、雄本体部5 1 5と差込部5 5とを有する。雄本体部5 1 5は前壁6 1の上端6 1 2から後方に延びる。雄本体部5 1 5は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。雄本体部5 1 5の前後方向の長さは、前壁6 1と背壁6 2との間の前後方向の距離と略同じである。雄本体部5 1 5の後端5 1 1は、背壁6 2の前方近傍に位置し、左右方向に延びる。雄本体部5 1 5は雄本体部5 1 5を上下方向に貫通する開口5 1 3を有する。開口5 1 3は、収納箱1 Nを開封する場合にユーザが指を掛ける部分である。雄フラップ5 1には、開口5 1 3の位置を指す指標6 8が形成される。指標6 8は、例えば「開け口」と表示した矢印で開口5 1 3を指すことによって、天壁5が収納箱1 Nを開封するための開封面であることをユーザに示す。これにより、指標6 8は、ユーザが開口5 1 3に指を掛けて天壁5を破り、収納箱1 Nを開封するように誘導する。

[0413] 差込部5 5は、雄本体部5 1 5に接続し、雄本体部5 1 5の後端5 1 1から下方に突出する。詳細には、差込部5 5は土台部5 7と返し部5 8とを含む。土台部5 7は差込部5 5のうち雄本体部5 1 5から下方に延びる部分で

ある。土台部 5 7 は上下方向よりも左右方向に長い長方形形状である。土台部 5 7 は雄本体部 5 1 5 の後端 5 1 1 のうち、左右方向の中央部分において雄本体部 5 1 5 に接続し、両端部分は雄本体部 5 1 5 から切り離されている。返し部 5 8 は土台部 5 7 の下端 5 7 1 のミシン目で後方に折り返され、上方に延びる。返し部 5 8 は前後方向において背壁 6 2 と土台部 5 7 との間に位置し、背壁 6 2 に接触する。

[0414] 雌フラップ 5 2 は背壁 6 2 の上端 6 2 2 にヘッダ 3 を介して接続し、ヘッダ片 3 2 の下端 3 2 1 (図 6 2 参照) から前方に延びて、さらに折り返して後方に延びる。雌フラップ 5 2 は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。雌フラップ 5 2 の前端 5 2 3 は前後方向において天壁 5 の略中央に位置する。雌フラップ 5 2 には指掛け部 5 2 2 と差込口 5 2 1 (図 6 2 参照) とが設けられる。指掛け部 5 2 2 は、雌フラップ 5 2 の前端 5 2 3 において、左右方向の中央から後方に凹む。指掛け部 5 2 2 は円弧状であり、平面視で開口 5 1 3 と重なる (図 6 0 参照)。

[0415] 差込口 5 2 1 は前後方向よりも左右方向に長く、雌フラップ 5 2 を上下方向に貫通する。差込口 5 2 1 は、前壁 6 1 と背壁 6 2 との前後方向の中央よりも後方に位置し、背壁 6 2 の近傍に位置する。第五実施形態では、差込口 5 2 1 は雌フラップ 5 2 のうちヘッダ片 3 2 との接続部 (雌フラップ 5 2 の後端) に位置する。差込口 5 2 1 には差込部 5 5 が差し込まれる。

[0416] 左フラップ 5 3 は左壁 6 3 の上端 6 3 2 に接続し、左壁 6 3 の上端 6 3 2 から右方に延びる。右フラップ 5 4 は右壁 6 4 の上端 6 4 2 に接続し、右壁 6 4 の上端 6 4 2 から左方に延びる。左フラップ 5 3 および右フラップ 5 4 は、それぞれ、前後方向よりも左右方向に長い長方形形状であり、互いに左右対称である。左フラップ 5 3 には切欠部 5 3 1 が設けられる。切欠部 5 3 1 は左フラップ 5 3 の後端を前方に切り欠く。右フラップ 5 4 には切欠部 5 4 1 が設けられる。切欠部 5 4 1 は右フラップ 5 4 の後端を前方に切り欠く。左フラップ 5 3 および右フラップ 5 4 のそれぞれの左右方向の長さは、左壁 6 3 と右壁 6 4 との左右方向の間の距離よりも小さく、且つ左壁 6 3 と右壁

6 4 との左右方向の間の距離の半分よりも大きい。したがって、左フラップ 5 3 の右端および右フラップ 5 4 の左端の一方は、他方の上に重なる。第五実施形態では、左フラップ 5 3 が右フラップ 5 4 の上に重なる。

[0417] 以下では、雄フラップ 5 1 によって構成される層を「雄フラップ層 5 0 1」という。第五実施形態では、平面視において、雄フラップ層 5 0 1 の外形は、雄本体部 5 1 5 の外形によって規定される。雌フラップ 5 2 によって構成される層を「雌フラップ層 5 0 2」という。第五実施形態では、平面視において、雌フラップ層 5 0 2 の外形は、雌フラップ 5 2 の外形によって規定される。左フラップ 5 3 と右フラップ 5 4 とによって構成される層を「サイドフラップ層 5 0 3」という。第五実施形態では、平面視において、サイドフラップ層 5 0 3 の外形は、左フラップ 5 3 および右フラップ 5 4 の外形によって規定される。

[0418] 図 6 1 に示すように、天壁 5 では、雄フラップ層 5 0 1、雌フラップ層 5 0 2、およびサイドフラップ層 5 0 3 が、下方から上方に向かって雌フラップ層 5 0 2、サイドフラップ層 5 0 3、雄フラップ層 5 0 1 の順に並んで積層される。差込部 5 5 は、差込口 5 2 1 を介して雌フラップ 5 2 よりも内側に配置される。図 6 0 に示すように、左フラップ 5 3 および右フラップ 5 4 には、それぞれ、切欠部 5 3 1、5 4 1 が設けられるので、サイドフラップ層 5 0 3 は平面視で差込口 5 2 1 と重ならない。

[0419] 図 6 2 を参照し、台紙 1 0 0 H を説明する。以下では、図 6 2 の左方、右方、下方、および上方を、それぞれ、台紙 1 0 0 H の X マイナス方向、X プラス方向、Y マイナス方向、および Y プラス方向とする。図 6 2 では、仮想線 V 0、V 1、V 2、V 3、V 4、V 5、V 6、V 7、V 8、V 9、V 1 0、V 1 1、V 1 2、V 1 3、V 1 4 は収納箱 1 N の隣り合う各構成要素の境界を示す。例えば仮想線 V 0 は背壁 6 2 とヘッダ片 3 1 との境界を示す。

[0420] 台紙 1 0 0 H は所定形状に切断された 1 枚のシートであり、厚紙、薄紙、段ボール等、紙材により作製される。台紙 1 0 0 H の「裏面」は、図 6 2 に示す台紙 1 0 0 H のうち紙面奥を向く面であり、収納箱 1 N を組み立てた場

合に、収納箱 1 N の内部の空間 7 を向く面である。台紙 1 0 0 H の「表面」は、図 6 2 に示す台紙 1 0 0 H のうち紙面手前を向く面であり、収納箱 1 N を組み立てた場合に、収納箱 1 N の外部を向く面である。

[0421] 台紙 1 0 0 H は、底壁 4、天壁 5、周壁 6、およびヘッダ 3 を含む。台紙 1 0 0 H では、Y 方向の中央に周壁 6 が配置される。周壁 6 において、前壁 6 1、背壁 6 2、左壁 6 3、および右壁 6 4 は、X プラス方向から X マイナス方向に向かって右壁 6 4、前壁 6 1、左壁 6 3、背壁 6 2 の順にそれぞれ連なって並ぶ。さらに、背壁 6 2 の X マイナス方向の隣りに、のり代 6 5 が連なる。

[0422] 底壁 4 は周壁 6 の Y マイナス方向に配置される。詳細には、雄フラップ 4 1 は背壁 6 2 の Y マイナス方向に配置され、背壁 6 2 と連なる。雌フラップ 4 2 は前壁 6 1 の Y マイナス方向に配置され、前壁 6 1 と連なる。左フラップ 4 3 は左壁 6 3 の Y マイナス方向に配置され、左壁 6 3 と連なる。右フラップ 4 4 は右壁 6 4 の Y マイナス方向に配置され、右壁 6 4 と連なる。

[0423] 天壁 5 およびヘッダ 3 は周壁 6 の Y プラス方向に配置される。詳細には、ヘッダ 3 において、ヘッダ片 3 1 は背壁 6 2 の Y プラス方向に配置され、背壁 6 2 と連なる。ヘッダ片 3 2 はヘッダ片 3 1 の Y プラス方向に配置され、ヘッダ片 3 1 と連なる。

[0424] 天壁 5 において、雌フラップ 5 2 はヘッダ片 3 1 の Y プラス方向に配置され、ヘッダ片 3 1 と連なる。雄フラップ 5 1 は前壁 6 1 の Y プラス方向に配置され、前壁 6 1 と連なる。雄フラップ 5 1 には開口 5 1 3 が形成され、且つ指標 6 8 が印刷されている。左フラップ 5 3 は左壁 6 3 の Y プラス方向に配置され、左壁 6 3 と連なる。右フラップ 5 4 は右壁 6 4 の Y プラス方向に配置され、右壁 6 4 と連なる。

[0425] 前壁 6 1 には切込部 7 5 A、7 6 A が形成されている。切込部 7 5 A は、前壁 6 1 の中央よりも X プラス方向および Y プラス方向の位置に形成された切り込み部分である。切込部 7 6 A は、前壁 6 1 の中央よりも X マイナス方向および Y マイナス方向の位置に形成された切り込み部分である。切込部 7

5 A, 7 6 AはY方向に延びる略U字状で、それぞれYマイナス方向の辺を残し、Yプラス方向の辺およびX方向の両辺が台紙1 0 0 Hの厚み方向に切り込まれる。切込部7 5 A, 7 6 Aの内側の部分は突出片7 5 B, 7 6 Bであり、Yマイナス方向の辺に沿って折り曲げられて使用される。突出片7 5 B, 7 6 BのYマイナス方向の辺を基端7 5 5, 7 6 5と定義し、Yプラス方向の辺を自由端7 5 6, 7 6 6と定義する。基端7 5 5, 7 6 5は前壁6 1から切り離されない。突出片7 5 B, 7 6 Bは、折り曲げられる前の初期状態において、基端7 5 5, 7 6 5のYプラス方向に位置する。すなわち初期状態において、突出片7 5 B, 7 6 Bは、基端7 5 5, 7 6 5のYプラス方向に自由端7 5 6, 7 6 6が位置する状態であり、前壁6 1の一部を構成する。

[0426] 突出片7 5 B, 7 6 Bは、それぞれ土台部7 5 3, 7 6 3、差込部7 5 2, 7 6 2、案内部7 5 1, 7 6 1を有する。土台部7 5 3, 7 6 3はそれぞれ基端7 5 5, 7 6 5からYプラス方向に延びる部分である。差込部7 5 2, 7 6 2はそれぞれ土台部7 5 3, 7 6 3から自由端7 5 6, 7 6 6へ向けて延びる部分である。案内部7 5 1, 7 6 1は、それぞれ差込部7 5 2, 7 6 2のYプラス方向の端部であり、自由端7 5 6, 7 6 6を含む。案内部7 5 1, 7 6 1は、Yプラス方向に徐々に縮小する。

[0427] 土台部7 5 3, 7 6 3における突出片7 5 B, 7 6 Bの幅を幅B 1と定義する。差込部7 5 2, 7 6 2の案内部7 5 1, 7 6 1を除く部分における突出片7 5 B, 7 6 Bの幅を幅B 2と定義する。案内部7 5 1, 7 6 1における突出片7 5 B, 7 6 Bの幅を幅B 3と定義する。この場合に、土台部7 5 3, 7 6 3の幅B 1は、差込部7 5 2, 7 6 2の幅B 2よりも大きく、且つ、案内部7 5 1, 7 6 1の幅B 3よりも大きい。すなわち、土台部7 5 3, 7 6 3の幅B 1は、突出片7 5 B, 7 6 Bにおいてもっとも大きい。後述するが、収納箱1 Nが組み立てられ空間7内にテープカセット8が収納された状態において、突出片7 5 Bは、テープカセット8の前壁8 2において開口する巻取スプール8 7 Aのカム穴8 7 Bに挿入される。また、突出片7 6 B

は、テープスプール 89 A の筒穴 89 B に挿入される。ここで、テープカセット 8 の巻取スプール 87 A のカム穴 87 B およびテープスプール 89 A の筒穴 89 B の内径を、内径 A と定義する（図 63 参照）。土台部 753, 763 における突出片 75 B, 76 B の幅 B1 は、カム穴 87 B および筒穴 89 B の内径 A よりも大きい。このため土台部 753, 763 は、カム穴 87 B および筒穴 89 B に突出片 75 B, 76 B が挿入された状態において、テープカセット 8 の位置決め且つ巻取スプール 87 A およびテープスプール 89 A の回り止めとして機能する。

[0428] 次に、突出片 75 B, 76 B の Y 方向の長さを、突出片 75 B, 76 B の突出長 T と定義する。また、前壁 61 の Y 方向の長さを L2 と定義する。テープカセット 8 のケース 81 の上下方向の長さを L1 と定義する（図 63 参照）。なお、長さ L1 は、突起部 851, 861 を含むケース 81 の最大長さである。この場合に、突出長 T は、長さ L2 から長さ L1 を引いた距離 L よりも長い。収納箱 1 N が組み立てられ、テープカセット 8 が空間 7 内に収納された状態において、前壁 61 の上下方向の長さ L2 からケース 81 の上下方向の長さ L1 を差し引いた距離 L は、テープカセット 8 のケース 81 が底壁 4 に当接する場合における天壁 5 とケース 81 との隙間の最大の長さである。突出長 T が距離 L よりも長いことで、テープカセット 8 が空間 7 内で上下方向に移動しても、突出片 75 B, 76 B がカム穴 87 B および筒穴 89 B から抜けてしまうことを抑制できる。

[0429] 図 62～図 64 を参照し、台紙 100 H から組み立てた収納箱 1 N にテープカセット 8 を収納する手順について説明する。台紙 100 H において、互いに隣り合う一対の構成要素のそれぞれの裏面が互いに向き合う方向に、互いの境界に沿って台紙 100 H を折ることを「山折り」という。台紙 100 H において、互いに隣り合う一対の構成要素のそれぞれの表面が互いに向き合う方向に、互いの境界に沿って台紙 100 H を折ることを「谷折り」という。例えば「仮想線 V1 に沿って台紙 100 H を山折りする」とは、右壁 64 の裏面と前壁 61 の裏面とが互いに向き合う方向に、台紙 100 H が仮想

線V 1 に沿って折られることを意味する。第五実施形態では、台紙1 0 0 Hの表面には、仮想線V 0 ~ V 1 4 に沿って折り目筋が形成される。一方で、台紙の裏面には、折り目筋が形成されない。

[0430] 図6 2 に示すように、台紙1 0 0 Hは仮想線V 1、V 2、V 3、V 4 に沿って山折りされ、のり代6 5の表面が左壁6 3の裏面に貼り付けられる。これにより、周壁6 が四角筒状（図5 8 参照）に形成される。この状態で、台紙1 0 0 Hの表面は、各フラップも含め、四角筒状の外側を向く配置となり、裏面が内側、すなわち空間7 内を向く配置となる。

[0431] 台紙1 0 0 Hは仮想線V 5 に沿って山折りされる。これにより、雌フラップ4 2 は、雌フラップ層4 0 2 として、底壁4 の最上層に配置される。台紙1 0 0 Hは仮想線V 6、V 7 に沿って山折りされる。これにより、左フラップ4 3 および右フラップ4 4 は、サイドフラップ層4 0 3 として、雌フラップ層4 0 2 の下に積層される。台紙1 0 0 Hは仮想線V 8 に沿って山折りされる。これにより、雄フラップ4 1 は、雄フラップ層4 0 1 として、サイドフラップ層4 0 3 の下に積層され、底壁4 の最下層に配置される。この状態で、雄フラップ4 1 が外側から内側に向けて押し込まれる。

[0432] 雄フラップ4 1 が外側から内側に向けて押し込まれると、雄フラップ4 1、左フラップ4 3、および右フラップ4 4 のそれぞれの先端が、差込口4 2 1 を介して雌フラップ4 2 よりも内側に差し込まれる。これにより、雄フラップ4 1、左フラップ4 3 および右フラップ4 4 が、それぞれ、差込口4 2 1 を介して雌フラップ4 2 に引っかかり、地獄底形態の底壁4 が形成される（図5 9 参照）。

[0433] 底壁4 が形成された時点では、箱本体2 は上方に開口する（図5 9 参照）。箱本体2 は、前壁6 1 に形成された切込部7 5 A、7 6 A 内部の突出片7 5 B、7 6 B が内部に押し込まれる。突出片7 5 B、7 6 B は、基端7 5 5、7 6 5 を軸に自由端7 5 6、7 6 6 が回動して空間7 内に配置される。自由端7 5 6、7 6 6 は、それぞれ、基端7 5 5、7 6 5 の後方斜め上方に配置される。

[0434] 図63に示すように、この状態で、箱本体2の上方から空間7にテープカセット8が収納される。テープカセット8は、後壁83が前方から収納箱1Nの背壁62の裏面と向き合い、下壁85が上方から底壁4の裏面と向き合うようにして、空間7に収納される。すなわちテープカセット8は、排出口88を収納箱1Nの底壁4へ向けた状態で、収納箱1Nに収納される。テープカセット8は、ケース81の前壁82と、収納箱1Nの前壁61の裏面との隙間を確保しつつ収納箱1Nに対して下方に移動される。突出片75B、76Bの案内部751、761がそれぞれ巻取スプール87Aのカム穴87Bおよびテープスプール89Aの筒穴89Bに挿入される。カム穴87Bおよび筒穴89Bの内径Aが案内部751、761の幅B3より大きいので、案内部751、761はそれぞれスムーズにカム穴87Bおよび筒穴89Bに挿入される。テープカセット8は収納箱1Nに対して下方に移動されつつ、前方にも若干移動される。これにより、収納箱1Nの前壁61の裏面とケース81の前壁82との隙間が小さくなり、案内部751、761によって差込部752、762がカム穴87Bおよび筒穴89B内に案内される。

[0435] 突出片75B、76Bの土台部753、763の幅B1は、カム穴87Bおよび筒穴89Bの内径Aより大きい。よって土台部753、763は、カム穴87Bおよび筒穴89B内に押し込まれる。テープカセット8が収納箱1Nに収納された状態で、突出片75B、76Bの自由端756、766は基端755、765の後方に位置する。突出片75B、76Bの土台部753、763がカム穴87Bおよび筒穴89Bに嵌め込まれた状態となるので、テープカセット8は収納箱1N内で位置決められつつ保持される。また、2つの突出片75B、76Bによって位置決められるので、テープカセット8は空間7内で、例えば突出片75B、76Bの一方を軸に回転することも抑制される。テープカセット8は、突出片75B、76Bによって収納箱1N内で位置決め保持されることにより、例えば輸送時の振動等の影響を受けても、収納箱1Nの内面に擦れることが抑制される。よって印刷カセット収納体20は、紙粉の発生を抑制することができる。

- [0436] 台紙100Hは仮想線V9に沿って山折りされ、仮想線V10に沿って谷折りされる。これにより、図64に示すように、ヘッダ3が形成され、天壁5の最下層に雌フラップ層502が配置される。台紙100Hは仮想線V11、V12に沿って山折りされる。これにより、天壁5において雌フラップ層502の上に左フラップ53と右フラップ54とから構成されるサイドフラップ層503が積層される。なお、サイドフラップ層503において、左フラップ53と右フラップ54の積層順は任意である。台紙100Hは仮想線V13に沿って山折りされ、土台部57の下端571のミシン目に沿って谷折りされる。これにより差込部55が形成される。
- [0437] 台紙100Hは仮想線V14に沿って山折りされる。差込部55が差込口521を介して雌フラップ52よりも内側に差し込まれる。これにより、サイドフラップ層503の上に雄フラップ層501が積層され、図58に示す天壁5が形成される。
- [0438] 図58に示すように、収納箱1Nの前壁61に、ラベルシール69が貼付される。ラベルシール69は、突出片75B、76Bの押し込みによって切込部75A、76Aに形成された穴を塞ぐ。以上により、収納箱1Nの組み立てと、収納箱1N内へのテープカセット8の収納が完了し、印刷カセット収納体20が完成する。
- [0439] テープカセット8を収納箱1Nから取り出す場合、ユーザは、指標68に従って開口513に指を掛けて天壁5を破り、収納箱1Nを開封する。テープカセット8の排出口88は収納箱1Nの底壁4と向き合う位置に配置されている。故にユーザは、天壁5が開封された収納箱1N内に指を入れてテープカセット8のケース81を指で掴んだとき、排出口88や印刷テープ89に触れることはない。ユーザはテープカセット8を収納箱1Nから上方に引き出す。このとき、突出片75B、76Bは、テープカセット8の上方への移動に伴い、自由端756、766が基端755、765の上方へ移動する。よって突出片75B、76Bは初期状態に向かうので、テープカセット8の取り出しを妨げない。

[0440] 以上説明したように、印刷カセット収納体 20 は、収納箱 1 N の突出片 75 B, 76 B がテープカセット 8 のケース 81 のカム穴 87 B, 筒穴 89 B に挿入されていることにより、収納箱 1 N 内でのテープカセット 8 の移動を抑制する。テープカセット 8 の取り出し時、天壁 5 が開封され、テープカセット 8 は収納箱 1 N から取り出される。その際に、突出片 75 B, 76 B は初期状態に向かうため、テープカセット 8 の取り出しを妨げないので、印刷カセット収納体 20 は、収納箱 1 N 内に収納するテープカセット 8 を取り出しやすい。

[0441] なお、第五実施形態において、印刷テープ 89 は本発明の「被印刷媒体」の一例である。前壁 82 は本発明の「特定面」の一例である。カム穴 87 B, 筒穴 89 B は本発明の「凹部」の一例である。天壁 5 は本発明の「開封面」の一例である。前壁 61 は本発明の「対向面」の一例である。収納箱 1 N の空間 7 は本発明の収納箱の「内部」の一例である。

[0442] また、本発明に係る印刷カセット収納体は、以下に説明する解決手段によって、収納箱内に収納する印刷カセットを取り出しやすくしてもよい。例えば、前記印刷カセットの前記ケースは、複数の前記凹部を有し、前記収納箱は、複数の前記凹部のそれぞれに対応する複数の前記突出片を有してもよい。この場合、2つの突出片 75 B, 76 B でテープカセット 8 を位置決め保持することで、印刷カセット収納体 20 は、例えば運搬時の振動などによるテープカセット 8 の前壁 82 の面方向への移動（例えば回転）を抑制することができる。よって印刷カセット収納体 20 は、テープカセット 8 と収納箱 1 N とが相対的に擦れることを抑制し、紙粉の発生を抑制することができる。

[0443] 例えば、前記突出片の部分のうち、もっとも幅の大きな部分の幅は、前記凹部の内径 A 以上の大きさであってもよい。この場合、突出片 75 B, 76 B の最大幅がカム穴 87 B, 筒穴 89 B の内径 A 以上の大きさであるので、印刷カセット収納体 20 は、テープカセット 8 を収納箱 1 N に収納した場合に、突出片 75 B, 76 B がカム穴 87 B, 筒穴 89 B に嵌め込まれること

によって、テープカセット 8 を収納箱 1 N 内で位置決めして保持し、テープカセット 8 の厚み方向（前後方向）への移動を制限することができる。

[0444] 例えば、前記突出片は、前記基端側に位置する部分である土台部と、前記土台部から前記自由端へ向けて延びる部分である差込部とを有し、前記土台部における前記突出片の幅 B 1 は、前記差込部における前記突出片の幅 B 2 よりも大きく、且つ前記凹部の内径 A 以上であってもよい。この場合、土台部 7 5 3, 7 6 3 の幅 B 1 がカム穴 8 7 B, 筒穴 8 9 B の内径 A 以上であるので、印刷カセット収納体 2 0 は、テープカセット 8 を収納箱 1 N に収納した場合に、土台部 7 5 3, 7 6 3 がカム穴 8 7 B, 筒穴 8 9 B に嵌め込まれることによって、テープカセット 8 を収納箱 1 N 内で位置決めして保持し、テープカセット 8 の厚み方向（前後方向）への移動を制限することができる。

[0445] 例えば、前記突出片の前記差込部は、前記自由端側の端部に、前記印刷カセットの前記凹部への挿入を案内する案内部を有し、前記案内部における前記突出片の幅 B 3 は、前記案内部を除く部分の前記差込部の幅 B 2 よりも小さく、且つ前記凹部の内径 A よりも小さくてもよい。この場合、案内部 7 5 1, 7 6 1 の幅 B 3 がカム穴 8 7 B, 筒穴 8 9 B の内径 A よりも小さいので、印刷カセット収納体 2 0 は、テープカセット 8 を収納箱 1 N に収納する場合に、先ず案内部 7 5 1, 7 6 1 をカム穴 8 7 B, 筒穴 8 9 B に挿入することで、突出片 7 5 B, 7 6 B をカム穴 8 7 B, 筒穴 8 9 B に挿入しやすくてできる。

[0446] 例えば、前記収納箱の前記対向面には、少なくとも前記突出片の形成部分を覆うラベルが貼設されてもよい。この場合、印刷カセット収納体 2 0 は、少なくとも突出片 7 5 B, 7 6 B の形成部分をラベルシール 6 9 によって覆うことで、突出片 7 5 B, 7 6 B の形成位置を介して異物等が収納箱 1 N 内に進入することを防止することができる。

[0447] 例えば、前記ラベルには、前記収納箱に収納される前記印刷カセットに関する情報が印刷されていてもよい。この場合、印刷カセット収納体 2 0 は、

テープカセット 8 に関する情報を収納箱 1 N に印刷せず、ラベルシール 6 9 に印刷することで、異なる種類のテープカセット 8 を収納箱 1 N に収納した場合でも、同一の収納箱 1 N を用いることができる。

[0448] 例えば、前記突出片の前記基端と前記自由端との間の長さである突出長 T は、前記収納箱の内部で前記開封面に向かう方向において、前記印刷カセットと前記開封面との間の距離 L よりも長くてよい。この場合、突出片 7 5 B, 7 6 B の突出長 T は、収納箱 1 N の前壁 6 1 の上下方向の長さ L 2 からテープカセット 8 のケース 8 1 の上下方向の長さ L 1 を引いた距離 L よりも長い。よって収納箱 1 N 内でテープカセット 8 の位置が多少ずれた場合でも、突出片 7 5 B, 7 6 B はカム穴 8 7 B, 筒穴 8 9 B から抜けてしまうことがない。

[0449] 例えば、前記収納箱は、前記開封面を指示する指標を有してもよい。この場合、印刷カセット収納体 2 0 は、収納箱 1 N からのテープカセット 8 の取り出し時に、指標 6 8 によって天壁 5 が開封されるように誘導する。これにより、テープカセット 8 の取り出しは突出片 7 5 B, 7 6 B が初期状態に戻る向きとなるので、突出片 7 5 B, 7 6 B に阻害されず、テープカセット 8 を取り出しやすくなる。

[0450] 例えば、前記印刷カセットは、前記被印刷媒体にインクが転写されたインクリボンを取り巻く巻取スプールを前記ケース内に備え、前記凹部は、前記巻取スプールの軸穴を含んでもよい。この場合、突出片 7 5 B, 7 6 B が巻取スプール 8 7 A のカム穴 8 7 B に挿入されることで、印刷カセット収納体 2 0 は、例えば運搬時の振動などによる巻取スプール 8 7 A の回転を抑制することができる。

[0451] 例えば、前記突出片は、前記特定面における前記巻取スプールの前記軸穴の位置に対応する前記対向面の位置に形成されてもよい。この場合、突出片 7 5 B, 7 6 B が巻取スプール 8 7 A のカム穴 8 7 B に挿入されることで、印刷カセット収納体 2 0 は、例えば運搬時の振動などによる巻取スプールの回転によるインクリボンの弛みを抑制することができる。

[0452] 例えば、前記印刷カセットは、前記特定面に接続する前記ケースの外面の1つである排出面に、前記印刷装置によって印刷された前記被印刷媒体を前記ケースの外部に排出する排出口を備え、前記印刷カセットは、前記収納箱の内部を介して前記開封面とは反対側の面である閉鎖面に前記排出面を向けた状態で前記収納箱の内部に収納されてもよい。この場合、テープカセット8の取り出し時に天壁5が開封されるが、排出口88は天壁5とは反対側の底壁4に配置されているので、印刷カセット収納体20は、ユーザによる排出口88への接触を抑制することができる。

[0453] なお、土台部753、763は上記解決手段における「土台部」の一例である。差込部752、762は上記解決手段における「差込部」の一例である。案内部751、761は上記解決手段における「案内部」の一例である。ラベルシール69は上記解決手段における「ラベル」の一例である。背壁62は上記解決手段における「裏側面」の一例である。後壁83は上記解決手段における「反対面」の一例である。カム穴87Bは上記解決手段における請求項12における「軸穴」の一例である。下壁85は上記解決手段における「排出面」の一例である。底壁4は上記解決手段における「閉鎖面」の一例である。

[0454] 本発明は第五実施形態から変更されてもよい。以下説明する各種変形例は、矛盾が生じない限り、互いに組み合わされてもよい。例えば、前記収納箱は、前記対向面に対して前記収納箱の内部を介して対向する裏側面を有し、前記印刷カセットは、前記特定面に交差する方向における前記特定面とは反対側の外面である反対面を有し、複数の前記凹部のうちの一部の前記凹部は、前記反対面に設けられ、複数の前記突出片のうちの一部の前記突出片は、前記裏側面に形成されてもよい。すなわち、当該変形例における解決手段の一例として、突出片75B、76Bは、収納箱1Nの前壁61に形成されたが、背壁62に形成されてもよい。テープカセット8の巻取スプール87Aおよびテープスプール89Aには印刷装置10の駆動軸が挿通されるため、それぞれケース81の前壁82と後壁83に開口する。よって、突出片を収

納箱 1 N の背壁 6 2 に設けた場合、ケース 8 1 の後壁 8 3 において開口する巻取スプール 8 7 A のカム穴 8 7 B およびテープスプール 8 9 A の筒穴 8 9 B に突出片を挿入すればよい。印刷カセット収納体 2 0 をこのような構成とすれば、テープカセット 8 を収納箱 1 N 内により確実に保持することができる。もちろん突出片 7 5 B, 7 6 B は、収納箱 1 N の前壁 6 1 においていずれか一方が設けられてもよいし、2 つに限らず 3 つ以上設けられてもよい。

[0455] 例えば、前記収納箱は、前記印刷カセットの前記特定面に交差する方向の厚みであるカセット厚が異なる複数種類の前記印刷カセットを収納可能であり、前記突出片は、前記基端と前記自由端との間の長さを、前記カセット厚に応じた長さに変更可能であってもよい。すなわち、当該変形例における解決手段の一例として、図 6 5 に示す突出片 1 7 5 A, 1 7 6 A のように、突出長 T を変更できるようにしてもよい。図 6 5 (A) は、突出長 T を変更できる突出片 1 7 5 A, 1 7 6 A が設けられた収納箱 1 0 1 に、前後方向の厚みがテープカセット 8 よりも薄いテープカセット 1 0 8 を収納した状態である。テープカセット 1 0 8 の前壁 8 2 と収納箱 1 0 1 の前壁 6 1 の裏面との間隙は大きい。突出片 1 7 5 A は、基部にて空間 7 内に折り曲げた場合の前後方向において、基端から前後方向略中央までの部分である基部 1 7 5 C と、前後方向略中央から自由端までの部分である先部 1 7 5 B とが、屈曲することなく前後方向に延びる。突出片 1 7 6 A も同様の構成である。突出片 1 7 5 A, 1 7 6 A の突出長 T 1 は、収納箱 1 0 1 の厚み L 3 からテープカセット 1 0 8 の厚み L 4 を引いた長さよりも長い。故に突出片 1 7 5 A, 1 7 6 A は、前後方向においてテープカセット 1 0 8 のカム穴 1 8 7 B, 筒穴 1 8 9 B に届き、それぞれ挿入することができる。

[0456] 図 6 5 (B) は、収納箱 1 0 1 に、前後方向の厚みがテープカセット 1 0 8 よりも厚いテープカセット 2 0 8 を収納した状態である。この場合、テープカセット 2 0 8 の前壁 8 2 と収納箱 1 0 1 の前壁 6 1 の裏面との間隙は、テープカセット 1 0 8 を収納した場合よりも小さい。突出片 1 7 5 A は、前後方向の略中央において先部 1 7 5 B を基部 1 7 5 C へ向けて折り返し、略

半分の長さに変更することができる。突出片 176A も同様の構成である。先部 175B を折り曲げた状態の突出長 T2 は、収納箱 101 の厚み L3 からテープカセット 108 の厚み L4 を引いた長さよりは短い、厚み L3 からテープカセット 208 の厚み L5 を引いた長さよりは長い。故に突出片 175A, 176A は、前後方向においてテープカセット 208 のカム穴 287B, 筒穴 289B に届き、それぞれ挿入することができる。

[0457] このように、突出片 175A, 176A の長さを可変とすることで、印刷カセット収納体 20 は、前後方向の厚み（カセット厚）の異なるテープカセット 108, 208 を同一の収納箱 101 に収納しても、突出片 175A, 176A でテープカセット 108, 208 を収納箱 101 内において位置決めして保持することができる。なお、突出片 175A, 176A は、例えば先部 175B を切り取ることで、長さを変更できてもよい。

[0458] 収納箱 1N は、テープカセット 8 に代えて他の収納物を収納してもよい。他の収納物は例えば、印刷に使用される消耗品であり、インクタンク、インクカートリッジ、またはインクリボンカセットである。他の収納物は印刷以外に使用される消耗品であってもよい。他の収納物は消耗品でなくともよく、食品等であってもよい。

[0459] 収納箱 1N は、排出口 88 を底壁 4 に向けてテープカセット 8 を収納したが、排出口 88 を天壁 5 へ向けて収納してもよい。この場合、底壁 4 を開封口とし、指標 68 で底壁 4 の開封を促してもよい。また、この場合、突出片 75B, 76B は初期状態において、基端 755, 765 に対して自由端 756, 766 が下方に位置する構成であるとよい。収納箱 1N のヘッダ 3 はなくてもよいし、ヘッダ片 31, 32 のいずれか一方によって構成されてもよい。収納箱 1N の底壁 4 は地獄底の形態に限らず、例えば、所謂キャラメル箱の形態でもよい。

[0460] 突出片 75B, 76B はテープカセット 8 のカム穴 87B, 筒穴 89B に挿入されたが、挿入対象の穴は、カム穴 87B, 筒穴 89B のようにテープカセット 8 を厚み方向に貫通する穴に限らず、例えば凹部であってもよい。

[0461] 次に、印刷カセットと収納箱とが擦れにくくした印刷カセット収納体を提供するため、本発明の第六実施形態について、図面を参照して説明する。参照する図面は、本発明が採用しうる技術的特徴を説明するために用いられる。すなわち、図面に記載されている構成等は、そのみに限定する趣旨ではなく、単なる説明例である。

[0462] 図66を参照し、テープカセット8を説明する。以下説明では、図66の上方、下方、右下方、左上方、左下方、右上方をそれぞれ、テープカセット8の上方、下方、前方、後方、左方、右方とする。印刷装置10の方向については、印刷装置10にテープカセット8を装着した状態または非装着の状態の如何にかかわらず、装着状態におけるテープカセット8の方向に倣うものとする。また、後述する収納箱1Pの方向については、収納箱1Pに収納した状態（図76参照）におけるテープカセット8の方向に倣うものとする。なお、第六実施形態において、例えば上下方向は、説明のために便宜的に使用され、鉛直方向に限定されない。

[0463] テープカセット8はケース81と印刷テープ89とインクリボン87とを備える。ケース81は前後方向よりも左右方向に長く、且つ左右方向よりも上下方向に長い略直方体状である。ケース81は前壁82と後壁83と周壁84とを有する。前壁82および後壁83は、それぞれ、前後方向に直交するように延び、且つ前後方向において互いに並ぶ。前壁82はケース81の前端に位置する。後壁83はケース81の後端に位置する。周壁84は後壁83の周縁831から前壁82の周縁821まで延びる。周壁84は四角筒状であり、左壁84A、右壁84B、下壁85および上壁86を含む。左壁84Aおよび右壁84Bは、それぞれ、左右方向に直交するように延び、且つ左右方向において互いに並ぶ。左壁84Aはケース81の左端に位置する。右壁84Bはケース81の右端に位置する。下壁85および上壁86は、それぞれ、上下方向に直交するように延び、且つ上下方向において互いに並ぶ。下壁85はケース81の下端に位置する。上壁86はケース81の上端に位置する。上壁86には、ケース81に収納された印刷テープ89をケー

ス 8 1 の外に排出するための排出口 8 8 が設けられる。排出口 8 8 は、上下方向において上壁 8 6 とほぼ同じ高さ位置か、僅かに上方の位置にある。印刷テープ 8 9 は、左壁 8 4 A の上部においてケース 8 1 から引き出されて露出され、排出口 8 8 に案内される。

[0464] 印刷テープ 8 9 は長尺状であり、筒状のテープスプール 8 9 A に巻回されて、ケース 8 1 に収納される。テープスプール 8 9 A はケース 8 1 内の右上部に配置され、両端が前壁 8 2 と後壁 8 3 に支持される。テープスプール 8 9 A の筒穴 8 9 B は、前壁 8 2 と後壁 8 3 においてケース 8 1 の外部に露出される。筒穴 8 9 B は、印刷装置 1 0 の装着部 1 1 内で、テープカセット 8 の位置決めで使用される。印刷テープ 8 9 の幅方向（短手方向）は前後方向である。このため、テープカセット 8 の幅方向は前後方向となる。テープカセット 8 では、印刷テープ 8 9 の幅方向の長さ（テープ幅）が大きくなると、ケース 8 1 の前後方向の幅が大きくなる。

[0465] インクリボン 8 7 は長尺状であり、リボンスプール（図示略）に巻回されて、ケース 8 1 に収納される。インクリボン 8 7 は、印刷テープ 8 9 がテープスプール 8 9 A から排出口 8 8 へ向かう経路の途中において印刷テープ 8 9 と重ね合わせられる経路を通り、筒状の巻取スプール 8 7 A によって巻き取られる。巻取スプール 8 7 A はケース 8 1 内の左下部に配置され、前壁 8 2 と後壁 8 3 に両端が支持される。巻取スプール 8 7 A の筒穴は、インクリボン 8 7 を巻き取るための駆動力が入力されるカムが形成されたカム穴 8 7 B である。カム穴 8 7 B は、前壁 8 2 と後壁 8 3 においてケース 8 1 の外部に露出される。

[0466] また、ケース 8 1 の上壁 8 6 および下壁 8 5 のそれぞれには、突起部 8 6 1, 8 5 1 が設けられている。突起部 8 6 1 は上壁 8 6 の略中央において上方へ向けて突出しつつ左右方向に延びるリブ状であり、上壁 8 6 において最も上方に突出する構造物である。すなわち突起部 8 6 1 は、排出口 8 8 よりも上方に突出する。突起部 8 6 1 の左右両端はそれぞれ前後方向に延びるリブ状に形成されており、平面視で H 字形状である。突起部 8 5 1 は下壁 8 5

の略中央において下方へ向けて突出しつつ左右方向に延びるリブ状であり、下壁 8 5 において最も下方に突出する構造物である。突起部 8 5 1 の左右両端はそれぞれ前後方向に延びるリブ状に形成されており、底面視で H 字形状である。

[0467] ケース 8 1 の右部で上下方向の中間部には、前壁 8 2 から右方の周壁 8 4 にかけて凹部 8 0 が形成されている。凹部 8 0 には、テープカセット 8 の情報、例えば、テープ幅、テープ色、テープ種類等を表示したラベルシールが貼付される。

[0468] 印刷装置 1 0 は、テープカセット 8 を装着する凹部状の装着部 1 1 を前面に開口する。装着部 1 1 内の上部における凹部内壁の近傍には、凹部底壁から前方に延びるフック 1 2 が形成されている。装着部 1 1 内の下部における凹部内壁の近傍にも、凹部底壁から前方に延びるフック 1 3 が形成されている。テープカセット 8 を印刷装置 1 0 の装着部 1 1 に装着した場合に、突起部 8 6 1, 8 5 1 は、それぞれフック 1 2, 1 3 に係合し、テープカセット 8 の位置決めおよび保持がなされる。

[0469] テープカセット 8 は消耗品であり、印刷装置 1 0 による印刷に使用される。テープカセット 8 が装着部 1 1 に装着された状態で、印刷装置 1 0 は左壁 8 4 A の露出部分においてケース 8 1 内から印刷テープ 8 9 を引き出しながら、印刷ヘッド（図示略）によってインクリボン 8 7 のインクを印刷テープ 8 9 に転写し、画像を印刷する。印刷装置 1 0 は、画像が印刷された印刷テープ 8 9 を、排出口 8 8 を介してケース 8 1 の外に排出する。これにより、印刷テープ 8 9 に画像が印刷されたラベルが作成される。

[0470] 図 6 7 ～図 7 1 を参照し、収納箱 1 P を説明する。収納箱 1 P は、例えば図 7 1 に示す台紙 1 0 0 J が組み付けられることで形成される。収納箱 1 P は箱本体 2 とヘッダ 3 とを備える。箱本体 2 は前後方向よりも左右方向に長く、且つ左右方向よりも上下方向に長い直方体状であり、テープカセット 8 を収納する。箱本体 2 は底壁 4 と天壁 5 と周壁 6 とを有する。底壁 4 および天壁 5 は、それぞれ上下方向に直交するように延び、且つ上下方向において

互いに並ぶ。底壁４は箱本体２の下端に位置する。天壁５は箱本体２の上端に位置する。

[0471] 周壁６は底壁４の周縁４０から天壁５の周縁５０まで延びる。周壁６は四角筒状であり、前壁６１と背壁６２と左壁６３と右壁６４とを含む。前壁６１および背壁６２は、それぞれ、前後方向に直交するように延び、且つ前後方向において互いに並ぶ。前壁６１は箱本体２の前端に位置する。背壁６２は箱本体２の後端に位置する。左壁６３および右壁６４は、それぞれ、左右方向に直交するように延び、且つ左右方向において互いに並ぶ。左壁６３は箱本体２の左端に位置する。右壁６４は箱本体２の右端に位置する。前壁６１の下端６１１、背壁６２の下端６２１、左壁６３の下端６３１、および右壁６４の下端６４１は、底壁４の周縁４０を構成する（図６８参照）。前壁６１の上端６１２、背壁６２の上端６２２、左壁６３の上端６３２、および右壁６４の上端６４２は、天壁５の周縁５０を構成する（図６７参照）。

[0472] 箱本体２の内部には空間７が形成される。空間７は底壁４と天壁５と周壁６（前壁６１、背壁６２、左壁６３、右壁６４）とによって囲まれる。テープカセット８は、ケース８１の下壁８５が上方から箱本体２の底壁４と向き合う状態で、空間７に配置される。

[0473] ヘッダ３は箱本体２に設けられる。ヘッダ３は壁状であり、ヘッダ片３１とヘッダ片３２とを含む。ヘッダ片３１は背壁６２の上端６２２に接続し、背壁６２の上端６２２から上方に延びる。図６８の仮想線Ｖ０は、背壁６２の上端６２２を示す。ヘッダ片３２はヘッダ片３１の上端３１１から前方に折り返されて下方に延びる。ヘッダ片３２の下端３２１は上下方向において天壁５の位置にあり、後述の雌フラップ５２（図６９参照）に接続する。

[0474] ヘッダ３には孔３０が設けられる。孔３０は正面視で二等辺三角形形状であり、ヘッダ３の左右方向の中央に配置される。孔３０はヘッダ片３１、３２を前後方向に貫通する。したがって、孔３０はヘッダ３を前後方向に貫通する。例えば、収納箱１Ｐの流通市場において、収納箱１Ｐは、商品を吊り下げ陳列するための棒に孔３０を介して挿入され、吊り下げ陳列されてもよい。

。

[0475] 図68、図71に示すように、底壁4は、いわゆる地獄底であり、雄フラップ41と雌フラップ42と左フラップ43と右フラップ44とを含む。雄フラップ41は背壁62の下端621に接続し、背壁62の下端621から前方に延びる。雄フラップ41は前方に向かうにつれて狭まる台形状である。雌フラップ42は前壁61の下端611に接続し、前壁61の下端611から後方に延びる。雌フラップ42は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。雌フラップ42には差込口421が形成される差込口421は前後方向よりも左右方向に長く、雌フラップ42を上下方向に貫通する。左フラップ43は左壁63の下端631に接続し、左壁63の下端631から右方に延びる。右フラップ44は右壁64の下端641に接続し、右壁64の下端641から左方に延びる。左フラップ43および右フラップ44は、それぞれ三角形形状であり、互いに左右対称である。雌フラップ42と、左フラップ43および右フラップ44と、雄フラップ41とは、上方から下方に向かって、その順に並んで積層されることで、底壁4を構成する。

[0476] 図67、図69～図71に示すように、天壁5は、雄フラップ51と雌フラップ52と左フラップ53と右フラップ54とを含む。雄フラップ51は、前壁61の上端612に接続し、雄本体部515と差込部55とを有する。雄本体部515は前壁61の上端612から後方に延びる。雄本体部515は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。雄本体部515の前後方向の長さは、前壁61と背壁62との間の前後方向の距離と略同じである。雄本体部515の後端511は、背壁62の前方近傍に位置し、左右方向に延びる。雄本体部515は雄本体部515を上下方向に貫通する開口513を有する。開口513は、収納箱1Pを開封する場合にユーザが指を掛ける部分である。

[0477] 差込部55は、雄本体部515に接続し、雄本体部515の後端511から下方に突出する。詳細には、差込部55は土台部57と返し部58とを含む。土台部57は差込部55のうち雄本体部515から下方に延びる部分で

ある。土台部 5 7 は上下方向よりも左右方向に長い長方形形状である。土台部 5 7 は雄本体部 5 1 5 の後端 5 1 1 のうち、左右方向の中央部分において雄本体部 5 1 5 に接続し、両端部分は雄本体部 5 1 5 から切り離されている。返し部 5 8 は土台部 5 7 の下端 5 7 1 のミシン目で後方に折り返され、上方に延びる。返し部 5 8 は前後方向において背壁 6 2 と土台部 5 7 との間に位置し、背壁 6 2 に接触する。

[0478] 雌フラップ 5 2 は背壁 6 2 の上端 6 2 2 にヘッダ 3 を介して接続し、ヘッダ片 3 2 の下端 3 2 1 (図 7 1 参照) から前方に延びて、さらに折り返して後方に延びる。雌フラップ 5 2 は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。雌フラップ 5 2 の前端 5 2 3 は前後方向において天壁 5 の略中央に位置する。雌フラップ 5 2 には指掛け部 5 2 2 と差込口 5 2 1 (図 7 1 参照) とが設けられる。指掛け部 5 2 2 は、雌フラップ 5 2 の前端 5 2 3 において、左右方向の中央から後方に凹む。指掛け部 5 2 2 は円弧状であり、平面視で開口 5 1 3 と重なる (図 6 9 参照)。

[0479] 差込口 5 2 1 は前後方向よりも左右方向に長く、雌フラップ 5 2 を上下方向に貫通する。差込口 5 2 1 は、前壁 6 1 と背壁 6 2 との前後方向の中央よりも後方に位置し、背壁 6 2 の近傍に位置する。第六実施形態では、差込口 5 2 1 は雌フラップ 5 2 のうちヘッダ片 3 2 との接続部 (雌フラップ 5 2 の後端) に位置する。差込口 5 2 1 には差込部 5 5 が差し込まれる。

[0480] 左フラップ 5 3 は左壁 6 3 の上端 6 3 2 に接続し、左壁 6 3 の上端 6 3 2 から右方に延びる。左フラップ 5 3 は前後方向よりも左右方向に長い長方形形状である。左フラップ 5 3 には切欠部 5 3 1 が設けられる。切欠部 5 3 1 は左フラップ 5 3 の後端を前方に切り欠く。左フラップ 5 3 の左右方向の長さは、左壁 6 3 との左右方向の間の距離よりも小さく、且つ左壁 6 3 との左右方向の間の距離の半分よりも大きい。右フラップ 5 4 は右壁 6 4 の上端 6 4 2 に接続し、右壁 6 4 の上端 6 4 2 から左方に延びる。右フラップ 5 4 は前後方向の長さが左フラップ 5 3 と略同じである。右フラップ 5 4 には切欠部 5 4 1 が設けられる。切欠部 5 4 1 は右フラップ 5 4 の後端を前方に切り欠

く。右フラップ54の左右方向の長さは、右壁64との左右方向の間の距離よりも小さく、且つ右壁64との左右方向の間の距離の略半分である。したがって、左フラップ53の右端および右フラップ54の左端の一方は、他方の上に重なる。第六実施形態では、左フラップ53が右フラップ54の上に重なる。

[0481] 以下では、雄フラップ51によって構成される層を「雄フラップ層501」という。第六実施形態では、平面視において、雄フラップ層501の外形は、雄本体部515の外形によって規定される。雌フラップ52によって構成される層を「雌フラップ層502」という。第六実施形態では、平面視において、雌フラップ層502の外形は、雌フラップ52の外形によって規定される。左フラップ53と右フラップ54とによって構成される層を「サイドフラップ層503」という。第六実施形態では、平面視において、サイドフラップ層503の外形は、左フラップ53および右フラップ54の外形によって規定される。

[0482] 図70に示すように、天壁5では、雄フラップ層501、雌フラップ層502、およびサイドフラップ層503が、下方から上方に向かって雌フラップ層502、サイドフラップ層503、雄フラップ層501の順に並んで積層される。差込部55は、差込口521を介して雌フラップ52よりも内に配置される。図69に示すように、左フラップ53および右フラップ54には、それぞれ、切欠部531、541が設けられるので、サイドフラップ層503は平面視で差込口521と重ならない。

[0483] 収納箱1Pは、テープカセット8の収納時にテープカセット8を収納箱1Pの内面に押し付ける押し付け部70を有する（図73参照）。押し付け部70は、右フラップ54の先端部分に設けられ、折り曲げられることによって、右フラップ54を含む天壁5と、空間7内に収納されるテープカセット8の上壁86との隙間に配置される。押し付け部70は、上壁86に接触することで、テープカセット8の下壁85を収納箱1Pの底壁4の内面に押し付ける。押し付け部70は、接続部71と当接部72を有する。接続部71

は右フラップ54の天壁5を構成する部分から上下方向に延び、テープカセット8の上壁86に接触する部分である。当接部72は接続部71のテープカセット8に接触する部分に接続し、接続部71に対して上壁86に沿う方向（例えば左右方向）に折り曲げられる部分である。当接部72は、接続部71が上壁86に接触する部分において上壁86に沿って折り曲げられることで、押し付け部70と上壁86との接触面積を広げ、収納箱1P内で接続部71が接触する部分を軸にテープカセット8が回転することを抑制する。

[0484] 図71を参照し、台紙100Jを説明する。以下では、図71の左方、右方、下方、および上方を、それぞれ、台紙100JのXマイナス方向、Xプラス方向、Yマイナス方向、およびYプラス方向とする。図71では、仮想線V0、V1、V2、V3、V4、V5、V6、V7、V8、V9、V10、V11、V12、V13、V14、V15、V16は収納箱1Pの隣り合う各構成要素の境界を示す。例えば仮想線V0は背壁62とヘッダ片31との境界を示す。

[0485] 台紙100Jは所定形状に切断された1枚のシートであり、厚紙、薄紙、段ボール等、紙材により作製される。台紙100Jの「裏面」は、図71に示す台紙100Jのうち紙面奥を向く面であり、収納箱1Pを組み立てた場合に、収納箱1Pの内部の空間7を向く面である。台紙100Jの表（おもて）面には、コーティング処理が施されてもよいし、施されなくてもよい。台紙100Jの「表面」は、図71に示す台紙100Jのうち紙面手前を向く面であり、収納箱1Pを組み立てた場合に、収納箱1Pの外部を向く面である。

[0486] 台紙100Jは、底壁4、天壁5、周壁6、およびヘッダ3を含む。台紙100Jでは、Y方向の中央に周壁6が配置される。周壁6において、前壁61、背壁62、左壁63、および右壁64は、Xプラス方向からXマイナス方向に向かって右壁64、前壁61、左壁63、背壁62の順にそれぞれ連なって並ぶ。さらに、背壁62のXマイナス方向の隣りに、のり代65が連なる。

- [0487] 底壁４は周壁６のＹマイナス方向に配置される。詳細には、雄フラップ４１は背壁６２のＹマイナス方向に配置され、背壁６２と連なる。雌フラップ４２は前壁６１のＹマイナス方向に配置され、前壁６１と連なる。左フラップ４３は左壁６３のＹマイナス方向に配置され、左壁６３と連なる。右フラップ４４は右壁６４のＹマイナス方向に配置され、右壁６４と連なる。
- [0488] 天壁５およびヘッダ３は周壁６のＹプラス方向に配置される。詳細には、ヘッダ３において、ヘッダ片３１は背壁６２のＹプラス方向に配置され、背壁６２と連なる。ヘッダ片３２はヘッダ片３１のＹプラス方向に配置され、ヘッダ片３１と連なる。
- [0489] 天壁５において、雌フラップ５２はヘッダ片３１のＹプラス方向に配置され、ヘッダ片３１と連なる。雄フラップ５１は前壁６１のＹプラス方向に配置され、前壁６１と連なる。左フラップ５３は左壁６３のＹプラス方向に配置され、左壁６３と連なる。右フラップ５４は右壁６４のＹプラス方向に配置され、右壁６４と連なる。押し付け部７０は右フラップ５４のＹプラス方向に配置される。押し付け部７０の接続部７１は、右フラップ５４のＹプラス方向に配置され、右フラップ５４と連なる。押し付け部７０の当接部７２は、接続部７１のＹプラス方向に配置され、接続部７１と連なる。押し付け部７０のＸマイナス方向の端は、右フラップ５４のＸマイナス方向の端とＸ方向において同じ位置にある。押し付け部７０のＸプラス方向の端は、右フラップ５４のＸプラス方向の端よりもＸマイナス方向に位置する。この構成により、押し付け部７０は、収納箱１Ｐの組み立てにおいて雌フラップ５２と干渉しない。
- [0490] 図７１～図７３を参照し、台紙１００Ｊから組み立てた収納箱１Ｐにテープカセット８を収納する手順について説明する。台紙１００Ｊにおいて、互いに隣り合う一対の構成要素のそれぞれの裏面が互いに向き合う方向に、互いの境界に沿って台紙１００Ｊを折ることを「山折り」という。台紙１００Ｊにおいて、互いに隣り合う一対の構成要素のそれぞれの表面が互いに向き合う方向に、互いの境界に沿って台紙１００Ｊを折ることを「谷折り」とい

う。例えば「仮想線V 1 に沿って台紙1 0 0 J を山折りする」とは、右壁6 4 の裏面と前壁6 1 の裏面とが互いに向き合う方向に、台紙1 0 0 J が仮想線V 1 に沿って折られることを意味する。第六実施形態では、台紙1 0 0 J の表面には、仮想線V 0 ～V 1 6 に沿って折り目筋が形成される。一方で、台紙1 0 0 J の裏面には、折り目筋が形成されない。

[0491] 図7 1 に示すように、台紙1 0 0 J は仮想線V 1、V 2、V 3、V 4 に沿って山折りされ、のり代6 5 の表面が左壁6 3 の裏面に貼り付けられる。これにより、周壁6 が四角筒状（図6 7 参照）に形成される。この状態で、台紙1 0 0 J の表面は、各フラップも含め、四角筒状の外を向く配置となり、裏面が内部、すなわち空間7 内を向く配置となる。

[0492] 台紙1 0 0 J は仮想線V 5 に沿って山折りされる。これにより、雌フラップ4 2 は、雌フラップ層4 0 2 として、底壁4 の最上層に配置される。台紙1 0 0 J は仮想線V 6、V 7 に沿って山折りされる。これにより、左フラップ4 3 および右フラップ4 4 は、サイドフラップ層4 0 3 として、雌フラップ層4 0 2 の下に積層される。台紙1 0 0 J は仮想線V 8 に沿って山折りされる。これにより、雄フラップ4 1 は、雄フラップ層4 0 1 として、サイドフラップ層4 0 3 の下に積層され、底壁4 の最下層に配置される。この状態で、雄フラップ4 1 が外から内に向けて押し込まれる。

[0493] 雄フラップ4 1 が外から内に向けて押し込まれると、雄フラップ4 1、左フラップ4 3、および右フラップ4 4 のそれぞれの先端が、差込口4 2 1 を介して雌フラップ4 2 よりも内に差し込まれる。これにより、雄フラップ4 1、左フラップ4 3 および右フラップ4 4 が、それぞれ、差込口4 2 1 を介して雌フラップ4 2 に引っかかり、地獄底形態の底壁4 が形成される（図6 8 参照）。

[0494] 底壁4 が形成された時点では、箱本体2 は上方に開口する（図6 8 参照）。図7 2 に示すように、この状態で、箱本体2 の上方から空間7 にテープカセット8 が収納される。テープカセット8 は、後壁8 3 が前方から収納箱1 P の背壁6 2 の裏面と向き合い、下壁8 5 が上方から底壁4 の裏面と向き合

うようにして、空間 7 に収納される。台紙 100 J は仮想線 V 9 に沿って山折りされ、仮想線 V 10 に沿って谷折りされる。これにより図 73 に示すように、ヘッダ 3 が形成され、天壁 5 の最下層に雌フラップ層 502 が配置される。

[0495] 台紙 100 J は仮想線 V 16、V 15 に沿って山折りされる。これにより、右フラップ 54 の先端部分に、前方から視て略 U 字状に折り曲げられた状態の押し付け部 70 が形成される。さらに台紙 100 J は仮想線 V 12 に沿って山折りされる。右フラップ 54 は、天壁 5 の最下層を構成する雌フラップ層 502 の上に配置される。押し付け部 70 の接続部 71 は、右フラップ 54 の左端から下方に延びる配置となり、下端がテープカセット 8 のケース 81 の上壁 86 に接触する。押し付け部 70 の当接部 72 は、接続部 71 の下端から右方に延びる配置となり、下面がケース 81 の上壁 86 に接触する。押し付け部 70 の後端は、右フラップ 54 の後端よりも前方に位置する。よって押し付け部 70 は、先に折り曲げられて天壁 5 の最下層に配置された雌フラップ 52 に接触しない。

[0496] 台紙 100 J は仮想線 V 11 に沿って山折りされる。左フラップ 53 は右端部が右フラップ 54 の左端部の上に配置される。左フラップ 53 と右フラップ 54 はサイドフラップ層 503 を構成し、天壁 5 の最下層を構成する雌フラップ層 502 の上に積層される。台紙 100 J は仮想線 V 13 に沿って山折りされ、土台部 57 の下端 571 のミシン目に沿って谷折りされる。これにより差込部 55 が形成される。台紙 100 J は仮想線 V 14 に沿って山折りされる。差込部 55 が差込口 521 を介して雌フラップ 52 よりも内に差し込まれる。これにより、サイドフラップ層 503 の上に雄フラップ層 501 が積層され、図 67 に示す天壁 5 が形成される。以上により、収納箱 1 P の組み立てと、収納箱 1 P 内へのテープカセット 8 の収納が完了し、印刷カセット収納体 20（ただし図 73 の印刷カセット収納体 20 は天壁 5 が形成される前の状態）が完成する。

[0497] ところで、台紙 100 J は、押し付け部 70 の構成によって、台紙 100

Jを作製するための材料の使用量を減らすことが可能である。例えば、図74（A）に示すように、第六実施形態の押し付け部70は、接続部71が収納箱1Pの天壁5とケース81の上壁86との隙間に配置されることで、収納箱1P内でテープカセット8を底壁4の内面に押し付ける形態である。台紙100Jにおいて押し付け部70を折り曲げる前の右フラップ54および押し付け部70のY方向の長さについて検討する。収納箱1Pの左右方向の長さをX1、収納箱1Pの上下方向の長さをY1、テープカセット8のケース81の左右方向の長さをX2、ケース81の上下方向の長さをY2とする。収納箱1Pにおいて、折り曲げ後の右フラップ54は、右壁64の上端から左方向に延び、収納箱1Pの左右方向の長さX1に対して $1/a$ の位置に、左端がある。接続部71は右フラップ54の左端から下方に折り曲げられる。接続部71は、収納箱1Pの上下方向の長さY1とケース81の上下方向の長さY2との差分である $(Y1 - Y2)$ の長さを有することで、ケース81の上壁86に接触し、テープカセット8を底壁4の内面に押し付けることができる。よって、右フラップ54および押し付け部70の長さは、 $\{X1/a + (Y1 - Y2)\}$ と表すことができる。

[0498] 一方、収納箱1Pに収納するテープカセット8の向きあるいは形状が異なり、例えば図74（B）に示すように、ケース81の左壁84Aを下向きにして収納箱1Pに収納する場合、収納箱1Pの形状は、上下方向よりも左右方向に長くなる。この場合に押し付け部70のように収納箱1Pの天壁5とケース81の上壁86との隙間に接続部71を配置する場合、右フラップ54の長さ $X1/a$ が長くなるので、台紙100Jの材料の使用量は多くなる。そこで押し付け部75のように、収納箱1Pの右壁64と、その右壁64と向き合うケース81の下壁85との隙間に押し付け部75を配置する形態を検討する。押し付け部75は、右フラップ54に接続部77と接続部76とが順に連なり、そのうちの接続部76が収納箱1Pの右壁64とケース81の下壁85との隙間に配置されることで、収納箱1P内でテープカセット8を左壁63の内面に押し付ける形態である。収納箱1Pにおいて、折り曲

げ後の右フラップ54は、右壁64の上端から左方向に延び、収納箱1Pの左右方向の長さ $X1$ とケース81の左右方向の長さ $X2$ との差分である($X1 - X2$)の長さに達する位置に、左端がある。接続部77は右フラップ54の左端から下方に折り曲げられる。接続部77は、収納箱1Pの上下方向の長さ $Y1$ に対して $1/a$ の位置に延び、接続部77に連なる接続部76が右方に折り曲げられる。接続部76は、長さ($X1 - X2$)を有することで、収納箱1Pの右壁64とケース81の下壁85とに接触し、テープカセット8を左壁63の内面に押し付けることができる。よって、右フラップ54および押し付け部75の長さは、 $\{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\}$ と表すことができる。

[0499] $\{X1/a + (Y1 - Y2)\} > \{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\}$ を満たす場合、押し付け部70よりも押し付け部75の方が、台紙100Jの材料の使用量が少ない。よってこの場合、押し付け部75を採用する。押し付け部75を折り曲げる前の右フラップ54および押し付け部75の長さは、 $\{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\}$ となる。 $\{X1/a + (Y1 - Y2)\} \leq \{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\}$ を満たす場合、押し付け部75よりも押し付け部70の方が、台紙100Jの材料の使用量が少ない。よってこの場合、押し付け部70を採用する。押し付け部70を折り曲げる前の右フラップ54および押し付け部70の長さは、 $\{X1/a + (Y1 - Y2)\}$ となる。

[0500] なお、押し付け部70、75は、それぞれ当接部72、78を備えてもよい。当接部72、78の長さを C とする。 $\{X1/a + (Y1 - Y2)\} > \{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\}$ を満たす場合に採用する押し付け部75の長さは、 $\{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\} + C$ となる。 $\{X1/a + (Y1 - Y2)\} \leq \{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\}$ を満たす場合に採用する押し付け部70の長さは、 $\{X1/a + (Y1 - Y2)\} + C$ となる。

[0501] 以上説明したように、第六実施形態の押し付け部70は、テープカセット8を収納箱1Pの内面に押し付ける。よって印刷カセット収納体20は、テ

ープカセット 8 と収納箱 1 P との間隙をなくすことにより、輸送振動等によって収納箱 1 P とテープカセット 8 とを擦れにくくし、紙粉の発生を抑制することができる。また、押し付け部 70 は収納箱 1 P の一部分であり、別部品ではないので、収納箱 1 P の生産コストを抑制することができる。

[0502] なお、第六実施形態において、収納箱 1 P は、本発明における「収納箱」の一例である。テープカセット 8 は、本発明における「印刷カセット」の一例である。

[0503] また、本発明に係る印刷カセット収納体は、以下に説明する解決手段によって、印刷カセットと収納箱とが擦れにくくしてもよい。例えば、前記印刷カセットは、前記印刷装置による印刷に用いられる前記被印刷媒体を収容し、前記押し付け部は、前記印刷カセットの外面のうち、前記被印刷媒体が露出する露出面とは異なる非露出面と接触して前記印刷カセットを前記収納箱の内面に押し付けてもよい。この場合、押し付け部 70 は、収納箱 1 P 内でテープカセット 8 のケース 81 の上壁 86 に接触し、印刷テープ 89 が露出する左壁 84 A には接触しないので、印刷テープ 89 に接触しない。よって印刷カセット収納体 20 は、輸送振動等による印刷テープ 89 の損傷を防止できる。

[0504] 例えば、前記印刷カセットは、前記印刷装置による印刷に用いられる前記被印刷媒体を収容し、前記押し付け部は、前記印刷カセットの外面のうち、前記被印刷媒体が露出する露出面とは異なる非露出面を前記収納箱の内面に押し付けてもよい。この場合、押し付け部 70 は、収納箱 1 P の底壁 4 の内面にテープカセット 8 の下壁 85 を押し付け、印刷テープ 89 が露出する左壁 84 A を収納箱 1 P の左壁 63 に押し付けない。よって印刷カセット収納体 20 は、輸送振動等による印刷テープ 89 の損傷を防止できる。

[0505] 例えば、前記押し付け部は、前記収納箱の縁に接続するフラップを折り曲げて形成されてもよい。この場合、押し付け部 70 は収納箱 1 P の右フラップ 54 を折り曲げて形成する。収納箱 1 P の外面に例えば U 字状の切り込み部分を形成して内部に折り返す場合と比べ、収納箱 1 P に穴等が形成されず

に済む。また、右フラップ54のテープカセット8に当接する部分を更に折り曲げて当接部72を設け、テープカセット8に対して当接部72を面当てすることで、テープカセット8をより確実に押し付けることができる。

[0506] 例えば、前記収納箱は、上下方向と交差するように延び且つ前記上下方向において互いに並んで配置される天壁および底壁と、前記上下方向に直交する前後方向と交差するように延び且つ前記前後方向において互いに並んで配置される前壁および後壁と、前記上下方向および前記前後方向に直交する左右方向と交差するように延び且つ前記左右方向において互いに並んで配置される左壁および右壁とを含み、前記第四押し付け部は、前記左壁または前記右壁の上方向の縁に接続しており、前記収納箱の前記左右方向の長さを $X1$ 、前記上下方向の長さを $Y1$ とし、前記収納箱の内部に配置した前記印刷カセットの前記左右方向の長さを $X2$ 、前記上下方向の長さを $Y2$ とした場合において、 $\{X1/a + (Y1 - Y2)\} > \{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\}$ を満たす場合、前記第四押し付け部の折り曲げる前の長さを $\{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\}$ とし、且つ、前記第四押し付け部を、前記左壁または前記右壁の前記上方向の縁から右方向または左方向に延び、下方向に折り返して、前記収納箱の前記左右方向の辺に対して $1/a$ の位置で前記左方向または前記右方向に折り返して前記左壁または前記右壁に当接する形態で、前記左壁または前記右壁と前記印刷カセットとの間に配置するとともに、前記第一押し付け部を、前記天壁と前記印刷カセットとの間に配置する一方、 $\{X1/a + (Y1 - Y2)\} \leq \{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\}$ を満たす場合、前記第四押し付け部の折り曲げる前の長さを $\{X1/a + (Y1 - Y2)\}$ とし、且つ、前記第四押し付け部を、前記左壁または前記右壁の前記上方向の縁から前記右方向または前記左方向に延び、前記収納箱の前記上下方向の辺に対して $1/a$ の位置で前記下方向に折り返して前記印刷カセットに当接する形態で、前記天壁と前記印刷カセットとの間に配置するとともに、前記第一押し付け部を、前記左壁または前記右壁と前記印刷カセットとの間に配置してもよい。この場合、収納箱1Pおよびテープカセット8の左

右方向の長さおよび上下方向の長さに応じて押し付け部 70 または押し付け部 75 を適宜採用し、配置位置を設定することで、押し付け部 70, 75 および右フラップ 54 の長さをより短くできるので、印刷カセット収納体 20 を組み立てやすい。

[0507] 例えば、前記第四押し付け部は、先端部分に長さ C の当接部を備え、 $\{X1/a + (Y1 - Y2)\} > \{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\}$ を満たす場合、前記第四押し付け部の折り曲げる前の長さを $\{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\} + C$ とし、且つ、前記第四押し付け部を、前記左壁または前記右壁の前記上方向の縁から前記右方向または前記左方向に延び、前記下方向に折り返して、前記収納箱の前記左右方向の辺に対して $1/a$ の位置で前記左方向または前記右方向に折り返して前記左壁または前記右壁に接触する部分で更に前記当接部を折り返し、前記当接部が前記左壁または前記右壁に当接した状態で前記印刷カセットとの間に配置する一方で、 $\{X1/a + (Y1 - Y2)\} \leq \{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\}$ を満たす場合、前記第四押し付け部の折り曲げる前の長さを $\{X1/a + (Y1 - Y2)\} + C$ とし、且つ、前記第四押し付け部を、前記左壁または前記右壁の前記上方向の縁から前記右方向または前記左方向に延び、前記収納箱の前記上下方向の辺に対して $1/a$ の位置で前記下方向に折り返して前記天壁に接触する部分で更に前記当接部を折り返し、前記当接部が前記天壁に当接した状態で前記印刷カセットとの間に配置してもよい。この場合、押し付け部 70, 75 は当接部 72, 78 をそれぞれテープカセット 8 の上壁 86 (天壁 5 との対向面), 下壁 85 (右壁 64 との対向面) に当接した状態にすることができるので、テープカセット 8 をより確実に押し付けることができる。

[0508] 第六実施形態は、各種変更がなされてもよい。以下説明する各種変形例は、矛盾が生じない限り、互いに組み合わせられてもよい。押し付け部 70 は右フラップ 54 に限らず、左フラップ 53 に形成されてもよい。あるいは底壁 4 の右フラップ 44 もしくは左フラップ 43 に形成されてもよい。押し付け部 70, 75 の当接部 72, 78 はなくてもよい。

[0509] 例えば、前記押し付け部は、前記収納箱の内面の一つである第一内面と、前記第一内面に対向する第二内面とが対向する第一方向に延び、前記第一内面と前記印刷カセットとの隙間に配置され、前記第一方向において前記第二内面に対して前記印刷カセットを押し付ける第一押し付け部と、前記第一内面および前記第二内面とは異なる第三内面と、前記第三内面に対向する第四内面とが対向する第三方向に延び、前記第三内面と前記印刷カセットとの隙間に配置され、前記第三方向において前記第四内面に対して前記印刷カセットを押し付ける第二押し付け部と、前記第一内面、前記第二内面、前記第三内面および前記第四内面とは異なる第五内面と、前記第五内面に対向する第六内面とが対向する第二方向に延び、前記第五内面と前記印刷カセットとの隙間に配置され、前記第二方向において前記第六内面に対して前記印刷カセットを押し付ける第三押し付け部とのうち少なくとも2つの部分を有してもよい。

[0510] すなわちその一例として、図75に示すように、上下方向、左右方向、前後方向のそれぞれにおいてテープカセット8を収納箱1Pの内面に押し付ける押し付け部170、175、180を備えてもよい。押し付け部170は、押し付け部70と同様の構成であり、左フラップ53に連ねて設ける。収納箱1Pにおいて、折り曲げ後の左フラップ53は、左壁63の上端から右方向に延び、収納箱1Pの左右方向の略中央に左端がある。接続部171は左フラップ53の左端から下方に折り曲げられて、テープカセット8の上壁86に接触する。当接部172は接続部171の下端から左方に折り曲げられて、下面が上壁86に接触する。

[0511] 押し付け部175は、押し付け部75と同様の構成であり、右フラップ54に連ねて設ける。収納箱1Pにおいて、折り曲げ後の右フラップ54は、右壁64の上端から左方に長さ $(X1 - X2)$ で延びた位置に左端がある。接続部177は右フラップ54の左端から下方に延び、収納箱1Pの上下方向の略中央に下端がある。接続部176は、接続部177の下端から右方に長さ $(X1 - X2)$ で延び、右壁64に接触する。当接部178は接続部1

76の右端から上方に折り曲げられて、右面が右壁64に接触する。

[0512] 押し付け部180は、押し付け部175に連ねて設ける。収納箱1Pにおいて、押し付け部175の前端は、収納箱1Pの前壁82の内面に接触する。押し付け部180の接続部181は、押し付け部175の接続部177の前端から左方に延び、収納箱1Pの左右方向の略中央に左端がある。接続部182は、接続部181の左端から後方、収納箱1Pの前後方向の長さからテープカセット8のケース81の前後方向の長さを差し引いた長さ分延び、後端がテープカセット8の前壁61に接触する。当接部183は接続部182の後端から右方に折り曲げられて、後面が前壁61に接触する。

[0513] このように、印刷カセット収納体20は、押し付け部170, 175, 180のそれぞれを用いて、テープカセット8を収納箱1Pの底壁4, 左壁63, 背壁62の各々の内面に押し付けてもよい。もちろん、印刷カセット収納体20は、押し付け部170, 175, 180のすべてを備えずともよく、いずれか1つまたは2つを備えてもよい。また、押し付け部170を右フラップ54に設け、押し付け部175, 180を左フラップ53に設けてもよい。押し付け部170, 175, 180は、テープカセット8を複数の方向において収納箱1Pの内面に押し付けるので、輸送振動等によって収納箱1Pとテープカセット8とを擦れにくくし、紙粉の発生を抑制することができる。

[0514] 例えば、前記押し付け部は、前記収納箱の外面の一部に形成された切り込み部分を前記収納箱の内部に折り曲げて形成されてもよい。その一例として、図76に示すように、押し付け部270, 275を、フラップではなく、収納箱1Pの外面の一部に形成してもよい。押し付け部270, 275は、収納箱1Pの右壁64に形成した切込部270A, 275Aの内側の部分である。切込部270Aは、右壁84Bの上下方向中央よりも上方に形成された略U字状の切り込み部分であり、上下方向よりも前後方向に長い。切込部275Aは、右壁84Bの上下方向中央よりも下方に形成された略U字状の切り込み部分であり、上下方向よりも前後方向に長い。切込部270A, 2

75Aの上下方向の長さは、収納箱1Pの左右方向の長さからテープカセット8のケース81の左右方向の長さを差し引いた長さ($X1 - X2$)である。押し付け部270, 275は、収納箱1Pの内部に押し込まれることによって、右壁64とテープカセット8のケース81の右壁84Bとの隙間に配置される。押し付け部270, 275の右端は、それぞれ右壁84Bに接触する。収納箱1Pの右壁64に形成した切込部270A, 275Aの内側部分を押し付け部270, 275として形成することで、収納箱1Pを組み立てる前の台紙100Jにおいて、押し付け部270, 275をフラップで形成した場合と比べて展開面積が小さくて済むので、収納箱1Pの生産コストを抑制することができる。

[0515] 例えば、前記押し付け部は、前記収納箱の1つの外面において2カ所以上の部分に形成されてもよい。押し付け部270, 275のいずれか一方のみが右壁64に形成された場合、テープカセット8は輸送振動等によって押し付け部270または275の左端に当接する部分を支点に収納箱1P内で傾く可能性がある。押し付け部270, 275を右壁64に形成することで、押し付け部270, 275はテープカセット8を収納箱1Pの左壁63の内面に押し当てるようにして2カ所以上で押さえることができ、収納箱1P内におけるテープカセット8の傾きを抑制することができる。

[0516] 押し付け部270, 275は、収納箱1Pの右壁64に限らず、左壁63や前壁61など、他の外面に形成されてもよい。また、押し付け部270, 275の組を、右壁64と前壁61のそれぞれに形成する等、複数箇所に設けてもよい。

[0517] なお、印刷テープ89は、上記解決手段における「非印刷媒体」の一例である。左壁84Aは上記解決手段における「露出面」の一例である。前壁82、後壁83、右壁84B、下壁85、上壁86は、上記解決手段における「非露出面」の一例である。天壁5の内面は、上記解決手段における「第一内面」の一例である。底壁4の内面は、上記解決手段における「第二内面」の一例である。上下方向は、上記解決手段における「第一方向」の一例であ

る。押し付け部 170 は、上記解決手段における「第一押し付け部」の一例である。右壁 64 の内面は、上記解決手段における「第三内面」の一例である。左壁 63 の内面は、上記解決手段における「第四内面」の一例である。左右方向は、上記解決手段における「第三方向」の一例である。押し付け部 175 は、上記解決手段における「第二押し付け部」の一例である。前壁 61 の内面は、上記解決手段における「第五内面」の一例である。背壁 62 の内面は、上記解決手段における「第六内面」の一例である。前後方向は、上記解決手段における「第二方向」の一例である。押し付け部 180 は、上記解決手段における「第三押し付け部」の一例である。切込部 270A, 275A は、上記解決手段における「切り込み部分」の一例である。

[0518] 次に、本発明の第七実施形態について説明する。第七実施形態の印刷カセット収納体 20 は、収納箱 1R に押し付け部を設けず、テープカセット 8 に装着する装着部材 9A に押し付け部 90 を設けたものである。テープカセット 8 と装着部材 9A とを収納箱 1R に収納することで、押し付け部 90 がテープカセット 8 を収納箱 1R の内面に押し付け、テープカセット 8 と収納箱 1R との擦れを抑制する。よって収納箱 1R は、収納箱 1P の構成に対し、押し付け部 70 がないことを除き、他の部位については同様の構成である。よって以下の説明では、収納箱 1R の構成については第六実施形態の収納箱 1P の構成を準用するものとし、構成および組み立ての説明を省略する。

[0519] 図 77 を参照し、装着部材 9A を説明する。装着部材 9A は、テープカセット 8 を収納箱 1R に収納する際にテープカセット 8 に装着し（図 78 参照）、テープカセット 8 と共に収納箱 1R に収納される。装着部材 9A は、図 77 に示す装着台紙 205 を組み立てることによって形成される。以下では、図 77 の左方、右方、下方、および上方を、それぞれ、装着台紙 205 の X マイナス方向、X プラス方向、Y マイナス方向、および Y プラス方向とする。図 77 では、仮想線 V21、V22、V23、V24、V25 は装着部材 9A の隣り合う各構成要素の境界を示す。例えば仮想線 V21 は接続部 92M と接続部 93M との境界を示す。装着台紙 205 は所定形状に切断された 1 枚

のシートであり、厚紙、薄紙、段ボール等、紙材により作製される。装着台紙 205 の「裏面」は、図 77 に示す装着台紙 205 のうち紙面奥を向く面である。装着台紙 205 の「表（おもて）面」は、図 77 に示す装着台紙 205 のうち紙面手前を向く面である。

[0520] 装着部材 9A は位置決部 91M と押し付け部 90 を有する。位置決部 91M はテープカセット 8 の前壁 82 と向き合って配置する部分であり、矩形の板状である。位置決部 91M が前壁 82 と向き合って配置された場合、位置決部 91M の右端は、前方から視てケース 81 の右壁 84B と同じ位置にある。位置決部 91M には、切込部 97A、98A が形成されている。切込部 98A は位置決部 91M の中央よりも X マイナス方向および Y マイナス方向の位置に形成された切り込み部分である。切込部 98A は Y 方向に延びる略 U 字状で、Y マイナス方向の辺を残し、Y プラス方向の辺および X 方向の両辺が装着台紙 205 の厚み方向に切り込まれる。切込部 98A の内側の部分は突出片 98 であり、Y マイナス方向の辺（仮想線 V24）に沿って裏面に折り曲げられて使用される。装着部材 9A をテープカセット 8 に装着した場合に、突出片 98 は、テープカセット 8 の前壁 82 において開口する巻取スプール 87A のカム穴 87B に挿入される。

[0521] 切込部 97A は位置決部 91M の中央よりも X プラス方向および Y プラス方向の位置に形成された切り込み部分である。切込部 97A は Y 方向に延びる略 U 字状で、Y プラス方向の辺を残し、Y マイナス方向の辺および X 方向の両辺が装着台紙 205 の厚み方向に切り込まれる。切込部 97A の内側の部分は突出片 97 であり、Y プラス方向の辺（仮想線 V25）に沿って裏面に折り曲げられて使用される。装着部材 9A をテープカセット 8 に装着した場合に、突出片 97 は、テープカセット 8 の前壁 82 において開口するテープスプール 89A の筒穴 89B に挿入される。

[0522] 押し付け部 90 は、位置決部 91M の X プラス方向に配置される。押し付け部 90 は接続部 92M、93M、94M および当接部 95M を有する。接続部 92M は、位置決部 91M の X プラス方向に配置され、位置決部 91M

と同一な面で形成される。接続部 9 2 M の X 方向の長さは、収納箱 1 R の左右方向の長さからテープカセット 8 のケース 8 1 の左右方向の長さを差し引いた長さ ($X1 - X2$) である。接続部 9 3 M は、接続部 9 2 M の X プラス方向に配置され、接続部 9 2 M に連なる。接続部 9 3 M の X 方向の長さは、テープカセット 8 のケース 8 1 の前後方向の長さより短く、例えばケース 8 1 の前後方向の長さの略半分の長さである。接続部 9 4 M は、接続部 9 3 M の X プラス方向に配置され、接続部 9 3 M に連なる。接続部 9 4 M の X 方向の長さは、収納箱 1 R の左右方向の長さからテープカセット 8 のケース 8 1 の左右方向の長さを差し引いた長さ ($X1 - X2$) である。当接部 9 5 M は、接続部 9 4 M の X プラス方向に配置され、接続部 9 4 M に連なる。当接部 9 5 M の X 方向の長さは、接続部 9 4 M の X 方向の長さより短い。

[0523] 装着部材 9 A は、装着台紙 2 0 5 を折り曲げて組み立ててから、テープカセット 8 に装着する。図 7 7、図 7 8 に示すように、装着台紙 2 0 5 は仮想線 V 2 3、V 2 2 に沿って山折りされる。これにより、当接部 9 5 M と接続部 9 4 M は、接続部 9 3 M の右端に、上方から視て略 U 字状に折り曲げられた状態となる。さらに装着台紙 2 0 5 は仮想線 V 2 1 に沿って山折りされる。接続部 9 2 M は、位置決部 9 1 M と同一な面であるので、テープカセット 8 への装着時には位置決部 9 1 M の右方へ向けて、テープカセット 8 の右壁 8 4 B よりも長さ ($X1 - X2$) 分、突出する。接続部 9 3 M は、接続部 9 2 M の右端から後方へ向けて、ケース 8 1 の前後方向の略半分の長さ分、延びる。接続部 9 4 M は接続部 9 3 M の後端から左方へ向けて、長さ ($X1 - X2$) 分、延びる。当接部 9 5 M は接続部 9 4 M の左端から前方へ向けて延びる。位置決部 9 1 M の突出片 9 7、9 8 は、それぞれ仮想線 V 2 4、V 2 5 で山折りされる。この状態で、装着部材 9 A はテープカセット 8 に装着され、突出片 9 7、9 8 がカム穴 8 7 B、筒穴 8 9 B に挿入される (図 7 7 参照)。これにより、位置決部 9 1 M はテープカセット 8 の前壁 8 2 に対して位置決めされる。接続部 9 4 M の左端はケース 8 1 の右壁 8 4 B に接触する。当接部 9 5 M は、左面がケース 8 1 の右壁 8 4 B に接触する。

[0524] 図78に示すように、収納箱1Rは、第六実施形態と同様に、底壁4が形成され、天壁5が開放する状態に組み立てられる。装着部材9Aを装着したテープカセット8は、収納箱1Rの上方から空間7内に収納される。装着部材9Aの位置決部91Mは、テープカセット8の前壁82と収納箱1Rの前壁61の内面との間に配置される。位置決部91Mと同一な面で形成されている接続部92Mは、右端が収納箱1Rの右壁84Bの内面に接触する。接続部93Mも右面が収納箱1Rの右壁84Bの内面に接触する。接続部94Mの右端は収納箱1Rの右壁84Bの内面に接触し、左端はケース81の右壁84Bに接触する。当接部95Mはケース81の右壁84Bに接触する。よって押し付け部90の接続部94Mは、収納箱1R内でテープカセット8を左壁84Aの内面に押し付ける。

[0525] 以降、第六実施形態と同様に、台紙100Jは仮想線V9に沿って山折りされ、仮想線V10に沿って谷折りされる。これによりヘッダ3が形成され、天壁5の最下層に雌フラップ層502が配置される。台紙100Jは仮想線V11、V12に沿って山折りされる。これにより、天壁5において雌フラップ層502の上に左フラップ43と右フラップ54とから構成されるサイドフラップ層503が積層される。なお、サイドフラップ層503において、左フラップ43と右フラップ54の積層順は任意である。台紙100Jは仮想線V13に沿って山折りされ、土台部57の下端571のミシン目に沿って谷折りされる。これにより差込部55が形成される。

[0526] 台紙100Jは仮想線V14に沿って山折りされる。差込部55が差込口521を介して雌フラップ52よりも内側に差し込まれる。これにより、サイドフラップ層503の上に雄フラップ層501が積層され、天壁5が形成される。以上により、収納箱1Rおよび装着部材9Aの組み立てと、収納箱1R内へのテープカセット8の収納が完了し、図79に示す印刷カセット収納体20が完成する。

[0527] 以上説明したように、第七実施形態の装着部材9Aをテープカセット8に装着して収納箱1Rに収納すると、押し付け部90は、テープカセット8と

右壁 84 B の内面との隙間に配置される。よって印刷カセット収納体 20 は、テープカセット 8 と収納箱 1 R との隙間をなくすことにより、輸送振動等によって収納箱 1 R とテープカセット 8 とを擦れにくくし、紙粉の発生を抑制することができる。また、予め押し付け部 90 を組み立てた装着部材 9 A をテープカセット 8 に装着して収納箱 1 R に収納するので、フラップを折り返して押し付け部 90 を形成する場合と比べ、印刷カセット収納体 20 の組み立てが容易である。

[0528] なお、第七実施形態において、収納箱 1 R は、本発明の「収納箱」の一例である。テープカセット 8 は、本発明の「印刷カセット」の一例である。右壁 64 は、本発明の「第一内面」の一例である。左壁 63 は、本発明の「第二内面」の一例である。

[0529] また、本発明に係る印刷カセット収納体は、以下に説明する解決手段によって、印刷カセットと収納箱とが擦れにくくしてもよい。例えば、前記印刷カセットは、外面の 1 つである特定面に形成された少なくとも 1 つの凹部を備え、前記装着部材は、前記特定面に対向する対向面に形成され、前記印刷カセットの前記少なくとも 1 つの凹部に挿入される少なくとも 1 つの挿入片を備え、前記押し付け部は、前記対向面に接続し、且つ前記対向面と同一な面で形成され、前記印刷カセットと前記第一内面との隙間に対応する位置に配置される第一接続面を有してもよい。この場合、1 枚のシートである装着台紙 205 から装着部材 9 A を作製し、突出片 97, 98 をテープカセット 8 のカム穴 87 B, 筒穴 89 B に挿入するだけで、シートの折り曲げ等の加工を行わなくても、収納箱 1 R 内でテープカセット 8 と右壁 84 B の内面との隙間に対応する位置に接続部 92 M を配置することができる。

[0530] 例えば、前記押し付け部は、前記第一接続面に直接または間接的に接続して折り返されて、前記印刷カセットまたは前記第一接続面に当接する第二接続面を備えてもよい。この場合、接続部 92 M に接続部 93 M を介して接続する接続部 94 M が折り返されてテープカセット 8 に当接することで、押し付け部 90 は接続部 92 M と接続部 94 M とによって支持される。よって押

し付け部 90 は輸送振動等によって変形しにくく、装着部材 9A は、収納箱 1R とテープカセット 8 とを擦れにくくし、紙粉の発生を抑制することができる。

[0531] 第七実施形態は、各種変更がなされてもよい。以下説明する各種変形例は、矛盾が生じない限り、互いに組み合わせられてもよい。第七実施形態の第一変形例においては、例えば図 80 に示す装着部材 409 のように、1 つの装着部材 409 で 2 方向、例えば左右方向と前後方向においてテープカセット 8 を収納箱 1R の内面に押し付けてもよい。装着部材 409 は、位置決部 491M と、押し付け部 490 を有する。位置決部 491M は、突出片 97, 98 をそれぞれテープカセット 8 のカム穴 87B, 筒穴 89B に挿入することによって、テープカセット 8 の前壁 82 に対して位置決めされる。押し付け部 490 は、接続部 492, 493, 494, 495 と当接部 496 を有する。接続部 492 は位置決部 491M の右方に配置され、位置決部 491M と同一な面で形成される。接続部 492 の右端は収納箱 1R の右壁 64 の内面に接触する。接続部 493 は接続部 492 の右端から後方へ向けて収納箱 1R の前後方向の長さ分、延びる。接続部 493 の後端は収納箱 1R の背壁 62 の内面に接触する。接続部 494 は接続部 493 の後端から左方へ向けて収納箱 1R の左右方向の略半分の長さ分、延びる。接続部 495 は接続部 494 の左端から前方へ向けて収納箱 1R の前後方向の長さからテープカセット 8 のケース 81 の前後方向の長さ分を差し引いた長さ分、延びる。よって接続部 495 の後端は収納箱 1R の背壁 62 の内面に接触し、前端はケース 81 の後壁 83 に接触する。当接部 496 は接続部 495 の前端から右方に延び、前面がケース 81 の後壁 83 に接触する。

[0532] この構成により、装着部材 409 は、接続部 492 によってテープカセット 8 を収納箱 1R の左壁 63 の内面に押し付けつつ、接続部 495 によってテープカセット 8 を収納箱 1R の前壁 61 の内面に押し付ける。よって装着部材 409 は、テープカセット 8 を左右方向および前後方向において収納箱 1R の内面に押し付けることができる。

[0533] 例えば、前記印刷カセットは、前記印刷装置による印刷に用いられる前記被印刷媒体と、前記被印刷媒体を巻回するスプールとを収容し、前記装着部材は、前記スプールに係合することによって前記印刷カセットに装着され、前記押し付け部は、前記印刷カセットの外面のうち、前記被印刷媒体が露出する露出面を覆ってもよい。第一変形例では、テープカセット 8 の上下方向を逆さにして収納箱 1 R に収納し、左壁 8 4 A を収納箱 1 R の右壁 6 4 の内面に対向させている。印刷テープ 8 9 は、テープカセット 8 の左壁 8 4 A において外部に露出する。装着部材 4 0 9 は、印刷テープ 8 9 の露出部分を押し付け部 4 9 0 の接続部 4 9 2, 4 9 3, 4 9 4 で前後方向および右方から覆うことができる。よってテープカセット 8 から露出している印刷テープ 8 9 が収納箱 1 R の内面に接触しないので、印刷カセット収納体 2 0 は、輸送振動等による印刷テープ 8 9 の損傷を防止できる。また、収納箱 1 R からテープカセット 8 を取り出す際に、装着部材 4 0 9 を装着した状態ではユーザーが印刷テープ 8 9 に触れにくいので、印刷テープ 8 9 の損傷を防止できる。

[0534] 例えば、前記装着部材の前記押し付け部は、前記収納箱の前記第一内面と接触することにより前記印刷カセットを前記第二内面に押し付ける第一押し付け部であり、前記収納箱は、前記収納箱の一部が折り曲げられることによって形成され、前記収納箱の前記第一内面および前記第二内面とは異なる第五内面と接触することにより、前記印刷カセットを前記第五内面に対向する第六内面に押し付ける第四押し付け部を備えてもよい。第一変形例では、収納箱 1 R の左フラップ 5 3 に、第六実施形態と同様の押し付け部 4 7 0 を有する。左フラップ 5 3 は左壁 6 3 の上端から右方に延び、左右方向の略中央に右端がある。押し付け部 4 7 0 は接続部 4 7 1 と当接部 4 7 2 を有する。接続部 4 7 1 は左フラップ 5 3 の右端から下方へ向けて、収納箱 1 R の上下方向の長さからケース 8 1 の上下方向の長さ分を差し引いた長さ ($Y1 - Y2$) 分、延びる。よって接続部 4 7 1 の上端は収納箱 1 R の天壁 5 の内面に接触し、下端は、上下逆さまに収納したテープカセット 8 のケース 8 1 の下壁 8 5 に接触する。当接部 4 7 2 は接続部 4 7 1 の下端から左方に延び、下

面がケース 81 の下壁 85 に接触する。このように、装着部材 409 に設けた押し付け部 490 と、左フラップ 53 に設けた押し付け部 470 とを組み合わせ使用し、テープカセット 8 を複数の方向（第一変形例では 3 方向）において収納箱 1R の内面に押し付けてもよい。

[0535] 押し付け部 490 は収納箱 1R の右壁 64 の内面と接触し、テープカセット 8 を左壁 63 の内面に押し付ける。押し付け部 470 は収納箱 1R の天壁 5 の内面と接触し、テープカセット 8 を底壁 4 の内面に押し付ける。よって印刷カセット収納体 20 は、少なくとも 2 方向において、テープカセット 8 と収納箱 1R との隙間をなくすことにより、輸送振動等によって収納箱 1R とテープカセット 8 とを擦れにくくし、紙粉の発生を抑制することができる。また、押し付け部 490 が左壁 63 の内面への押し付けを行い、押し付け部 470 が底壁 4 への押し付けを行うことで、装着部材 9A の押し付け部 490 および左フラップ 53 の押し付け部 470 のそれぞれを複雑な形状にしないで済むので、印刷カセット収納体 20 の組み立てが容易である。

[0536] 例えば、前記印刷カセットは、前記印刷装置による印刷に用いられる前記被印刷媒体と、前記被印刷媒体を巻回するスプールとを収容し、前記装着部材は、前記スプールに係合することによって前記印刷カセットに装着され、前記押し付け部は、前記印刷カセットの外面のうち、前記被印刷媒体が露出する露出面とは異なる非露出面を前記収納箱の前記第二内面に押し付けてもよい。第一変形例のように、テープカセット 8 を逆さまにして収納箱 1R に収納することで、印刷テープ 89 が露出する左壁 84A ではなく、印刷テープ 89 が露出しない右壁 84B を収納箱 1R の左壁 63 の内面に押し付けることができる。よってテープカセット 8 から露出している印刷テープ 89 が収納箱 1R の左壁 63 の内面に押し付けられないので、印刷カセット収納体 20 は、輸送振動等による印刷テープ 89 の損傷を防止できる。

[0537] 例えば、前記装着部材の前記押し付け部は、前記収納箱の前記第一内面と接触することにより前記印刷カセットを前記第二内面に押し付ける第一押し付け部と、前記収納箱の前記第一内面および前記第二内面とは異なる第三内

面と接触することにより前記印刷カセットを前記収納箱の前記第三内面と対向する第四内面に押し付ける第二押し付け部と、前記収納箱の前記第一内面、前記第二内面、前記第三内面および前記第四内面とは異なる第五内面と接触することにより前記印刷カセットを前記収納箱の前記第五内面と対向する第六内面に押し付ける第三押し付け部とのうち少なくとも2つの部分を有してもよい。その一例として、第七実施形態の第二変形例において、例えば図81に示す装着部材509のように、1つのシートを折り曲げて、上下方向、左右方向および前後方向の3方向において、テープカセット8を収納箱1Rの内面に押し付けてもよい。装着部材509は、位置決部591Mと、押し付け部590、690、790を有する。位置決部591Mは、突出片97、98をそれぞれテープカセット8のカム穴87B、筒穴89Bに挿入することによって、テープカセット8の前壁82に対して位置決めされる。

[0538] 押し付け部590は、接続部592、593、594と当接部595を有する。接続部592は位置決部591Mの右方に配置され、位置決部591Mと同一な面で形成される。接続部592の右端は収納箱1Rの右壁64の内面に接触する。接続部593は接続部592の右端から後方へ向けてケース81の前後方向の略半分の長さ分、延びる。接続部594は接続部593の後端から左方へ向けて、収納箱1Rの左右方向の長さからテープカセット8のケース81の左右方向の長さ分を差し引いた長さ分、延びる。よって接続部594の右端は収納箱1Rの背壁62の内面に接触し、左端はケース81の右壁84Bに接触する。当接部595は接続部594の左端から前方に延び、左面がケース81の右壁84Bに接触する。よって押し付け部590は、テープカセット8を収納箱1Rの左壁63の内面に押し付ける。

[0539] 押し付け部690は、接続部692、693、694と当接部695を有する。接続部692は位置決部591Mの上方に配置され、位置決部591Mと同一な面で形成される。接続部692の上端は収納箱1Rの天壁5の内面に接触する。接続部693は接続部692の上端から後方へ向けてケース81の前後方向の略半分の長さ分、延びる。接続部694は接続部693の

後端から下方へ向けて、収納箱 1 R の上下方向の長さからテープカセット 8 のケース 8 1 の上下方向の長さ分を差し引いた長さ分、延びる。よって接続部 6 9 4 の上端は収納箱 1 R の天壁 5 の内面に接触し、下端はケース 8 1 の上壁 8 6 に接触する。当接部 6 9 5 は接続部 6 9 4 の下端から前方に延び、下面がケース 8 1 の上壁 8 6 に接触する。よって押し付け部 6 9 0 は、テープカセット 8 を収納箱 1 R の底壁 4 の内面に押し付ける。

[0540] 押し付け部 7 9 0 は、接続部 7 9 2 M, 7 9 3, 7 9 4 と当接部 7 9 5 を有する。接続部 7 9 2 M は位置決部 5 9 1 M の下端から後方へ向けて、収納箱 1 R の前後方向の長さからテープカセット 8 のケース 8 1 の前後方向の長さ分を差し引いた長さ分、延びる。接続部 7 9 2 M の前端は収納箱 1 R の前壁 8 2 の内面に接触する。接続部 7 9 3 は接続部 7 9 2 M の前端から上方へ向けてケース 8 1 の上下方向の略半分の長さ分、延びる。接続部 7 9 4 は接続部 7 9 3 の上端から後方へ向けて、収納箱 1 R の前後方向の長さからテープカセット 8 のケース 8 1 の前後方向の長さ分を差し引いた長さ分、延びる。よって接続部 7 9 4 の前端は収納箱 1 R の前壁 6 1 の内面に接触し、後端はケース 8 1 の前壁 8 2 に接触する。当接部 7 9 5 は接続部 7 9 4 の後端から下方に延び、後面がケース 8 1 の前壁 8 2 に接触する。よって押し付け部 7 9 0 は、テープカセット 8 を収納箱 1 R の背壁 6 2 の内面に押し付ける。

[0541] このように、第二変形例の装着部材 5 0 9 は、テープカセット 8 を複数の方向（第二変形例では 3 方向）において収納箱 1 R の内面に押し付けるので、輸送振動等によって収納箱 1 R とテープカセット 8 とを擦れにくくし、紙粉の発生を抑制することができる。

[0542] 第七実施形態のその他の変形例において、位置決部 9 1 M の突出片 9 7, 9 8 は、2 つに限らず、1 つでもよいし、3 つ以上あってもよい。突出片 9 7, 9 8 が差し込まれる部位は、筒穴 8 9 B, カム穴 8 7 B に限らず、他の穴部や凹部でもよい。

[0543] また、第六実施形態の変形例と適宜組み合わせてもよい。例えば、第七実施形態の第一変形例において、押し付け部 4 7 0 を左フラップ 5 3 に設けた

が、第六実施形態で説明したフラップおよび押し付け部の長さが $\{X1/a + (Y1 - Y2)\} > \{Y1/a + 2 \times (X1 - X2)\}$ を満たすか否かに応じて、押し付け部470の配置位置と長さを設定してもよい。

[0544] また、第六実施形態および第七実施形態の共通の変形例として、例えば、収納箱1Rは、テープカセット8に代えて他の収納物を収納してもよい。他の収納物は例えば、印刷に使用される消耗品であり、インクタンク、インクカートリッジ、またはインクリボンカセットである。他の収納物は印刷以外に使用される消耗品であってもよい。他の収納物は消耗品でなくてもよく、食品等であってもよい。収納箱1P、1Bのヘッダ3はなくてもよいし、ヘッダ片31、32のいずれか一方によって構成されてもよい。収納箱1P、1Bの底壁4は地獄底の形態に限らず、例えば、所謂キャラメル箱の形態でもよい。

[0545] なお、印刷テープ89は、上記解決手段における「被印刷媒体」の一例である。テープスプール89Aは、上記解決手段における「スプール」の一例である。ケース81の左壁84Aは、上記解決手段における「露出面」の一例である。前壁82、後壁83、右壁84B、下壁85、上壁86は、上記解決手段における「非露出面」の一例である。押し付け部90、490、590は、上記解決手段における「第一押し付け部」の一例である。天壁5は、上記解決手段における「第三内面」の一例である。底壁4は、上記解決手段における「第四内面」の一例である。押し付け部490、690は、上記解決手段における「第二押し付け部」の一例である。前壁61は、上記解決手段における「第五内面」の一例である。背壁62は、上記解決手段における「第六内面」の一例である。押し付け部490、790は、上記解決手段における「第三押し付け部」の一例である。前壁82は、上記解決手段における「特定面」の一例である。位置決部91Mは、上記解決手段における「対向面」の一例である。突出片97、98は、上記解決手段における「挿入片」の一例である。接続部92Mは、上記解決手段における「第一接続面」の一例である。接続部94Mは、上記解決手段における「第二接続面」の一

例である。押し付け部 470 は、上記解決手段における「第四押し付け部」の一例である。

請求の範囲

- [請求項1] 印刷装置に装着されて被印刷媒体への印刷に用いられる印刷カセットと、
- 前記印刷カセットを収納する収納箱と
- を備えた印刷カセット収納体であって、
- 前記収納箱または前記印刷カセットは、前記収納箱の内面から紙紛が発生することを抑制する抑制部材を有すること
- を特徴とする印刷カセット収納体。
- [請求項2] 前記印刷カセットは、
- 前記被印刷媒体と、
- 前記被印刷媒体を収容するケースと、
- 前記ケースの外面に設けられ、前記ケースの外側へ向けて突起する突起部と
- を備え、
- 前記抑制部材は紙材であり、
- 前記収納箱内で、前記ケースの前記突起部が形成された突起形成面に対向する位置に配置される保護部と、
- 前記保護部の表面のうち、前記ケースの前記突起形成面に対向する対向面に形成され、当該対向面を覆うコーティング部と
- を備えたこと
- を特徴とする請求項1に記載の印刷カセット収納体。
- [請求項3] 前記抑制部材は、
- 前記収納箱内で、前記ケースの前記突起形成面とは異なる外面である位置決面に対向する位置に配置され、前記保護部に接続し、前記収納箱内で前記保護部を位置決めする位置決部を備えたこと
- を特徴とする請求項2に記載の印刷カセット収納体。
- [請求項4] 前記印刷カセットは、
- 前記被印刷媒体と、

前記被印刷媒体を収容するケースと、
前記ケースの外面に設けられ、前記ケースの外側へ向けて突起する突起部と
を備え、
前記抑制部材は紙材であり、
前記収納箱内で、前記ケースの前記突起部が形成された突起形成面に対向する位置に配置される保護部と、
前記収納箱内で、前記ケースの前記突起形成面とは異なる外面である位置決面に対向する位置に配置され、前記保護部に接続し、前記収納箱内で前記保護部を位置決めする位置決部と、
前記位置決部に形成され、前記ケースの前記位置決面に係合する少なくとも1つの係合部と
を備え、
前記ケースの前記位置決面には、前記係合部に係合する少なくとも1つの被係合部が形成されていること
を特徴とする請求項1に記載の印刷カセット収納体。

[請求項5]

前記収納箱は、
第一方向と交差するように延び且つ前記第一方向に互いに並んで配置される第一壁および第二壁と、前記第一方向に交差する第二方向と交差するように延び且つ前記第二方向に互いに並んで配置される第三壁および第四壁を少なくとも含み、前記第二壁の周縁から前記第一壁の周縁まで延びる周壁と、を有し、前記第二壁と前記第一壁と前記周壁とで囲まれた空間に前記印刷カセットと前記抑制部材が配置され、
前記第二壁は、
前記第一方向のうち前記第一壁から前記第二壁に向かう第一特定方向における前記第三壁の第一接続端に接続し、前記第一接続端から、前記第二方向のうち前記第三壁から前記第四壁に向かう第二特定方

向に延びる雄本体部と、前記雄本体部の前記第二特定方向の端部から、前記第一方向のうち前記第一特定方向とは反対方向に突出する差込部とを有する第一雄フラップによって構成される第一雄フラップ層と、

前記第一特定方向における前記第四壁の第二接続端に直接または間接的に接続し、前記差込部が差し込まれる差込口が前記第二接続端の近傍に設けられる第一雌フラップによって構成される第一雌フラップ層と

を少なくとも含み、前記第一雄フラップ層および前記第一雌フラップ層が、前記第一特定方向に向かって、前記第一雌フラップ層、前記第一雄フラップ層の順に積層されることで構成され、

前記抑制部材は1枚のシートからなり、前記保護部と前記位置決部とが接続する接続部分において前記シートを折り曲げて構成されており、

前記印刷カセットと前記抑制部材とが前記収納箱に収納される場合に、

前記位置決部は、前記ケースと前記第三壁との間に配置され、

前記保護部は前記ケースと前記第二壁および前記第一壁の少なくとも一方との間に配置され、

前記保護部と前記位置決部との接続部分は、前記第二特定方向とは反対側に位置すること

を特徴とする請求項3または4に記載の印刷カセット収納体。

[請求項6]

前記収納箱は板状の紙材を折り曲げ箱状に組み立てて構成されたものであり、少なくとも前記収納箱の内面には、紙材の表面を覆って保護するためのコーティング部が非形成であること

を特徴とする請求項5に記載の印刷カセット収納体。

[請求項7]

前記印刷カセットと前記抑制部材とが前記収納箱に収納された場合において、

前記保護部は、前記第一方向に交差する面が前記突起部の形成領域の全体を覆い、且つ、前記第二方向において、前記保護部の長さは前記ケースの長さよりも短いこと

を特徴とする請求項5に記載の印刷カセット収納体。

[請求項8] 前記印刷カセットと前記抑制部材とが前記収納箱に収納された場合において、

前記保護部は、前記第一方向に交差する面が前記突起部の形成領域の全体を覆い、且つ、前記第一方向および前記第二方向に交差する第三方向において、前記保護部の長さは前記ケースの長さよりも短いことを特徴とする請求項5に記載の印刷カセット収納体。

[請求項9] 前記印刷カセットは、前記ケースの前記位置決面に、ラベルを貼付するための貼付部を有し、

前記位置決部は、前記位置決面に対向する位置に配置された場合に、前記貼付部を露出するための切欠部を有することを特徴とする請求項5に記載の印刷カセット収納体。

[請求項10] 前記突起部は、

前記印刷カセットを前記印刷装置に装着した場合に、前記印刷装置が備えるフックに掛け留められる部分であり、

前記ケースの前記突起形成面において、前記突起形成面を構成する部位のうち、最も外方に突出する部位であることを特徴とする請求項5に記載の印刷カセット収納体。

[請求項11] 前記ケースは、

前記ケースの内部に収容する前記被印刷媒体を前記ケースの外部へ排出する排出口を備え、

前記突起形成面は、

前記ケースの外面のうち、前記排出口が形成された第二カセット壁および前記第二カセット壁とは反対側の第一カセット壁の少なくとも一方の外面であること

を特徴とする請求項10に記載の印刷カセット収納体。

[請求項12] 前記印刷カセットは、前記被印刷媒体を内部に收容するケースを備え、
前記ケースには、前記被印刷媒体を外部に排出する排出口が形成され、
前記収納箱は、
第一方向と交差するように延び且つ前記第一方向において互いに並んで配置される第一壁および第二壁と、
前記第一壁の周縁から前記第二壁の周縁まで延びる周壁と
を有し、
前記第一壁と前記第二壁と前記周壁とで囲まれた空間に前記印刷カセットを配置した場合に、前記第一壁、前記第二壁および前記周壁の各壁面のうち、少なくとも、前記印刷カセットの外面のうち前記排出口が形成された第二カセット壁に対向する第一壁面に、当該第一壁面を覆うコーティング部を有すること
を特徴とする請求項1に記載の印刷カセット収納体。

[請求項13] 前記収納箱は、
第一方向と交差するように延び且つ前記第一方向において互いに並んで配置される第一壁および第二壁と、
前記第一壁の周縁から前記第二壁の周縁まで延びる周壁と
を有し、
前記印刷カセットは、
前記収納箱は、
前記第一壁と前記第二壁と前記周壁とで囲まれた空間に配置され、
前記周壁は、
前記第一方向に直交する第二方向と交差するように延び且つ前記第二方向において互いに並んで配置される第三壁および第四壁と、

前記第一方向および前記第二方向に直交する第三方向と交差するように延び且つ前記第三方向において互いに並んで配置される第五壁および第六壁と

を含み、

前記第一壁は、

前記第一方向のうち前記第二壁から前記第一壁に向かう第三特定方向における前記第四壁の縁である第一接続端に接続する第二雄フラップによって構成される第二雄フラップ層と、

前記第三特定方向における前記第三壁の縁である第二接続端に接続する第二雌フラップによって構成される第二雌フラップ層と、

前記第三特定方向における前記第五壁の縁である第三接続端に接続する第一サイドフラップと前記第三特定方向における前記第六壁の縁である第四接続端に接続する第二サイドフラップとのうちの少なくとも一方によって構成される第一中間フラップ層と

を含み、

前記第三特定方向における前記周壁の縁が折り曲げられ、前記第三特定方向に向かって、前記第二雌フラップ層、前記第一中間フラップ層、前記第二雄フラップ層の順に積層されることで構成され、

前記第二雄フラップは、

前記第四壁の前記第一接続端から、前記第二方向のうち前記第四壁から前記第三壁に向かう第四特定方向に延びる雄本体部と、

前記雄本体部の先端に形成され、前記第四特定方向に突出する差込部と

を有し、

前記第二雌フラップは、

前記第三壁の前記第二接続端から、前記第二方向のうち前記第三壁から前記第四壁に向かう第二特定方向に延びる雌本体部

を有し、

前記雌本体部には、

前記雌本体部の先端側の領域に形成され、前記差込部が差し込まれる差込口

が設けられ、

前記収納箱は、前記第二雌フラップの先端に形成され、且つ前記第二雌フラップの先端から折り返されて前記第四特定方向に延び、前記空間内に配置される折返しフラップを有すること

を特徴とする請求項 1 に記載の印刷カセット収納体。

[請求項14]

前記印刷カセットは、互いに向かい合う第一カセット壁および第二カセット壁を含むケースと、前記ケースに収納される前記被印刷媒体とを有し、前記第二カセット壁には、前記被印刷媒体を排出する排出口が設けられており、

前記収納箱は、第一方向と交差するように延び且つ前記第一方向において互いに並んで配置される第一壁および第二壁と、前記第一壁の周縁から前記第二壁の周縁まで延びる周壁とを有しており、

前記印刷カセットは、前記第一方向において前記第一カセット壁が前記第一壁と対向する状態で、前記第一壁と前記第二壁と前記周壁とで囲まれた空間に配置され、

前記第一壁には、前記空間に配置された前記印刷カセットを前記収納箱から取り出すための第一ミシン目が設けられること

を特徴とする請求項 1 に記載の印刷カセット収納体。

[請求項15]

前記第一ミシン目は、前記第一壁の周縁から延び、

前記周壁には、前記空間に配置された前記印刷カセットを前記収納箱から取り出すための第二ミシン目が設けられ、

前記第二ミシン目は、前記第一壁の周縁にある前記第一ミシン目の端に接続し且つ前記第一方向のうち前記第一壁から前記第二壁に向かう第一特定方向に膨らむこと

を特徴とする請求項 1 4 に記載の印刷カセット収納体。

[請求項16] 前記周壁には、前記第一方向に直交する第二方向と交差するように延びる第三壁と、前記第二方向と交差するように延び且つ前記第三壁よりも前記第二方向において前記第三壁と並んで配置される第四壁とが含まれ、

前記第四壁における前記第一特定方向の端に接続するヘッダを備えること

を特徴とする請求項15に記載の印刷カセット収納体。

[請求項17] 前記第二ミシン目は、前記第四壁に設けられること

を特徴とする請求項16に記載の印刷カセット収納体。

[請求項18] 前記周壁には、前記第一方向に直交する第二方向と交差するように延び且つ前記第二方向において互いに並んで配置される第三壁および第四壁と、前記第一方向と前記第二方向とに直交する第三方向と交差するように延び且つ前記第三方向において互いに並んで配置される第五壁および第六壁とが含まれ、

前記第一壁は、

前記第一方向のうち前記第二壁から前記第一壁に向かう第三特定方向における前記第三壁の端に接続する第二雌フラップで構成される第二雌フラップ層と、

前記第四壁における前記第三特定方向の端に接続する第二雄フラップで構成される第二雄フラップ層と、

前記第五壁における前記第三特定方向の端に接続する第一サイドフラップ、および前記第六壁における前記第三特定方向の端に接続する第二サイドフラップによって構成される第一中間フラップ層とを含み、

前記第二雌フラップ層、前記第一中間フラップ層、および前記第二雄フラップ層が、前記第三特定方向に向かって、前記第二雌フラップ層、前記第一中間フラップ層、前記第二雄フラップ層の順に積層されることで構成され、

前記第二雌フラップには、

前記第三壁における前記第三特定方向の端から、前記第二方向のうち前記第三壁から前記第四壁に向かう第二特定方向に延びる雌本体部と、

前記雌本体部に形成される差込口とが設けられ、

前記第二雄フラップには、

前記第四壁における前記第三特定方向の端から、前記第二特定方向とは反対の第四特定方向に延びる雄本体部と、

前記雄本体部における前記第三特定方向の端から、前記第四特定方向に延び、且つ前記差込口に差し込まれる第一差込部が設けられること

を特徴とする請求項 14 に記載の印刷カセット収納体。

[請求項19]

前記第一ミシン目は、前記第一壁の周縁から延び、

前記周壁には、前記空間に配置された前記印刷カセットを前記収納箱から取り出すための第二ミシン目が設けられ、

前記第二ミシン目は、前記第一壁の周縁にある前記第一ミシン目の端に接続し且つ前記第三特定方向とは反対の第一特定方向に膨らむこと

を特徴とする請求項 18 に記載の印刷カセット収納体。

[請求項20]

前記第一ミシン目は、前記第二雄フラップ層および前記第二雌フラップ層の少なくとも一方に設けられること

を特徴とする請求項 19 に記載の印刷カセット収納体。

[請求項21]

前記第一中間フラップ層には、前記差込口に差し込まれる第二差込部が設けられること

を特徴とする請求項 18 に記載の印刷カセット収納体。

[請求項22]

前記印刷カセットは、

前記被印刷媒体を収容するケースと、

前記ケースの外面の 1 つである特定面に形成された少なくとも 1

つの凹部と

を備え、

前記収納箱は、

開封時に開放される外面である開封面と、

前記開封面に接続する外面の1つで、前記ケースの前記特定面に対向する対向面と、

前記対向面から前記収納箱の内部に突出し、前記ケースの前記少なくとも1つの凹部に挿入される少なくとも1つの突出片と

を備え、

前記凹部に挿入されている全ての前記突出片は、

前記対向面を構成する初期状態から前記収納箱の内部に折り曲げられることにより形成され、

前記対向面に接続する基端と、

前記基端から延び、前記収納箱の内部に配置される自由端とを有し、

前記開封面を開放して前記印刷カセットを前記収納箱から取り出す際に、前記初期状態に向かう方向に移動可能であり、

前記初期状態では、前記突出片の前記自由端は前記基端よりも前記開封面側にあること

を特徴とする請求項1に記載の印刷カセット収納体。

[請求項23]

前記収納箱は、

前記収納箱の一部が折り曲げられることによって形成され、前記印刷カセットと接触して前記印刷カセットを前記収納箱の内面に押し付ける押し付け部を備えること

を特徴とする請求項1に記載の印刷カセット収納体。

[請求項24]

前記印刷カセットに装着された装着部材を備え

前記装着部材は、

前記収納箱の第一内面と接触することにより前記印刷カセットを

前記収納箱の前記第一内面と対向する第二内面に押し付ける押し付け部を備えること

を特徴とする請求項 1 に記載の印刷カセット収納体。

[請求項25] 印刷装置に装着されて被印刷媒体への印刷に用いられる印刷カセットと、前記印刷カセットを収納する紙製の収納箱とを備えた印刷カセット収納体において、前記収納箱が、組み付けられることで形成されるように構成されるシートであって、

前記収納箱を組み付けた場合における前記収納箱の内面から紙紛が発生することを抑制する抑制部材を有すること

を特徴とするシート。

[請求項26] 前記印刷カセットは、

内部に収容する収容物を外部に排出する排出口が形成されたケースを備え、

前記収納箱は、

第一方向と交差するように延び且つ前記第一方向において互いに並んで配置される第一壁および第二壁と、

前記第一壁の周縁から前記第二壁の周縁まで延びる周壁と

を有し、

前記第一壁と前記第二壁と前記周壁とで囲まれた空間に前記印刷カセットを配置した場合に、前記第一壁、前記第二壁および前記周壁の各壁面のうち、少なくとも、前記印刷カセットの外面のうち前記排出口が形成された第二カセット壁に対向する第一壁面に、当該第一壁面を覆うコーティング部を有すること

を特徴とする請求項 25 に記載のシート。

[請求項27] 前記収納箱は、

第一方向と交差するように延び且つ前記第一方向において互いに並んで配置される第一壁および第二壁と、前記第一壁の周縁から前記第二壁の周縁まで延びる周壁とを有し、前記第一壁と前記第二壁と前記

周壁とで囲まれた空間に前記印刷カセットが配置され、

前記周壁は、

前記第一方向に直交する第二方向と交差するように延び且つ前記第二方向において互いに並んで配置される第三壁および第四壁と、

前記第一方向および前記第二方向に直交する第三方向と交差するように延び且つ前記第三方向において互いに並んで配置される第五壁および第六壁と

を含み、

前記第一壁は、

前記第一方向のうち前記第二壁から前記第一壁に向かう第三特定方向における前記第四壁の縁である第一接続端に接続する第二雄フラップによって構成される第二雄フラップ層と、

前記第三特定方向における前記第三壁の縁である第二接続端に接続する第二雌フラップによって構成される第二雌フラップ層と、

前記第三特定方向における前記第五壁の縁である第三接続端に接続する第一サイドフラップと前記第三特定方向における前記第六壁の縁である第四接続端に接続する第二サイドフラップとのうちの少なくとも一方によって構成される第一中間フラップ層と

を含み、

前記第三特定方向における前記周壁の縁が折り曲げられ、前記第三特定方向に向かって、前記第二雌フラップ層、前記第一中間フラップ層、前記第二雄フラップ層の順に積層されることで構成され、

前記第二雄フラップは、

前記第四壁の前記第一接続端から、前記第二方向のうち前記第四壁から前記第三壁に向かう第四特定方向に延びる雄本体部と、

前記雄本体部の先端に形成され、前記第四特定方向に突出する差込部と

を有し、

前記第二雌フラップは、

前記第三壁の前記第二接続端から、前記第二方向のうち前記第三壁から前記第四壁に向かう第二特定方向に延びる雌本体部

を有し、

前記雌本体部には、

前記雌本体部の先端側の領域に形成され、前記差込部が差し込まれる差込口

が設けられ、

前記収納箱は、前記第二雌フラップの先端に形成され、且つ前記第二雌フラップの先端から折り返されて前記第四特定方向に延び、前記空間内に配置される折返しフラップを有すること
を特徴とする請求項 25 に記載のシート。

[請求項28]

前記収納箱は、

組み付けられることで第一方向と交差するように延び且つ前記第一方向において互いに並んで配置される第一壁および第二壁と、前記第一壁の周縁から前記第二壁の周縁まで延びる周壁とを有し、

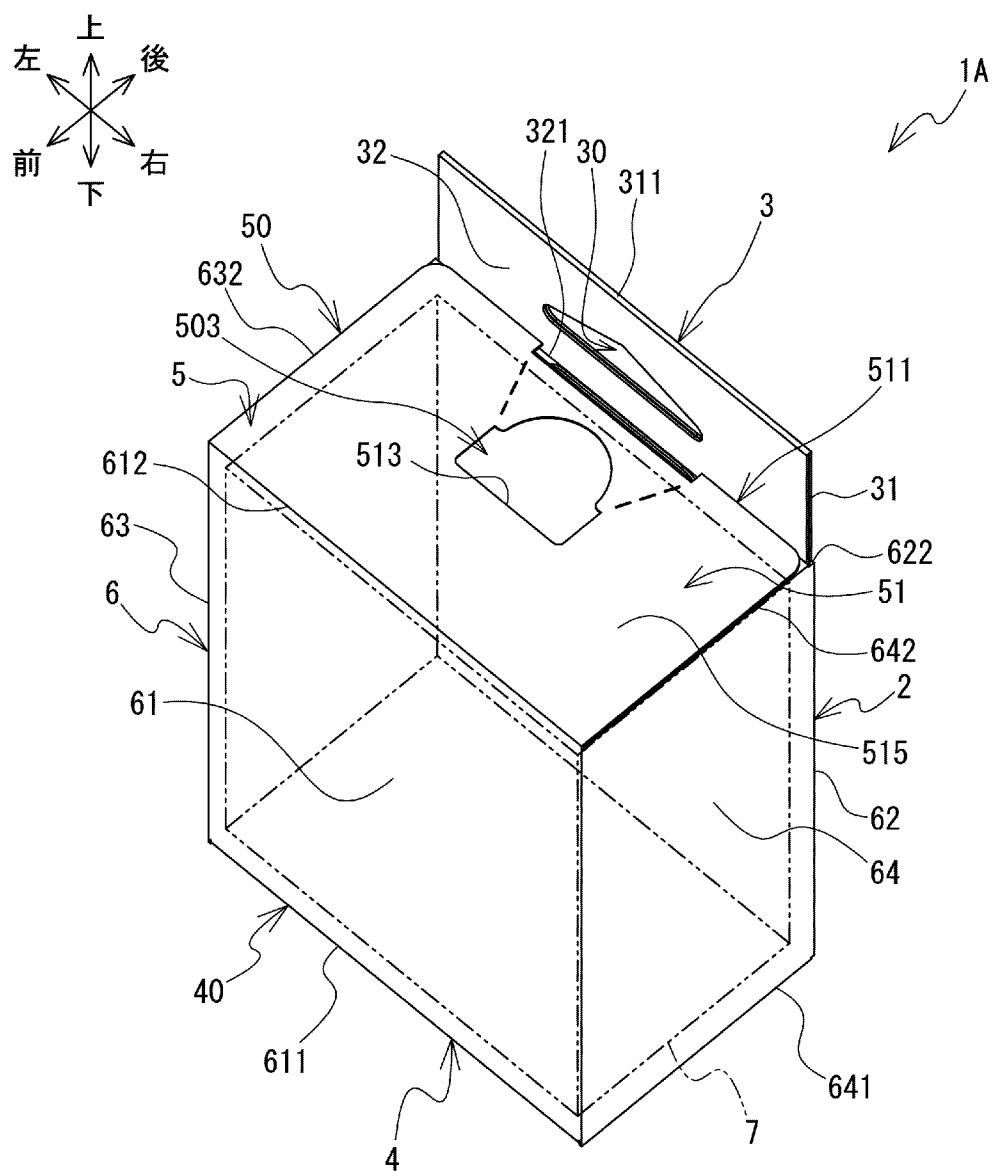
前記印刷カセットは、互いに向かい合う第一カセット壁および第二カセット壁を含むケースと、前記ケースに収納される前記被印刷媒体とを有し、前記第二カセット壁に前記被印刷媒体を排出する排出口が設けられ、

前記収納箱または前記印刷カセットは、前記抑制部材を有し、

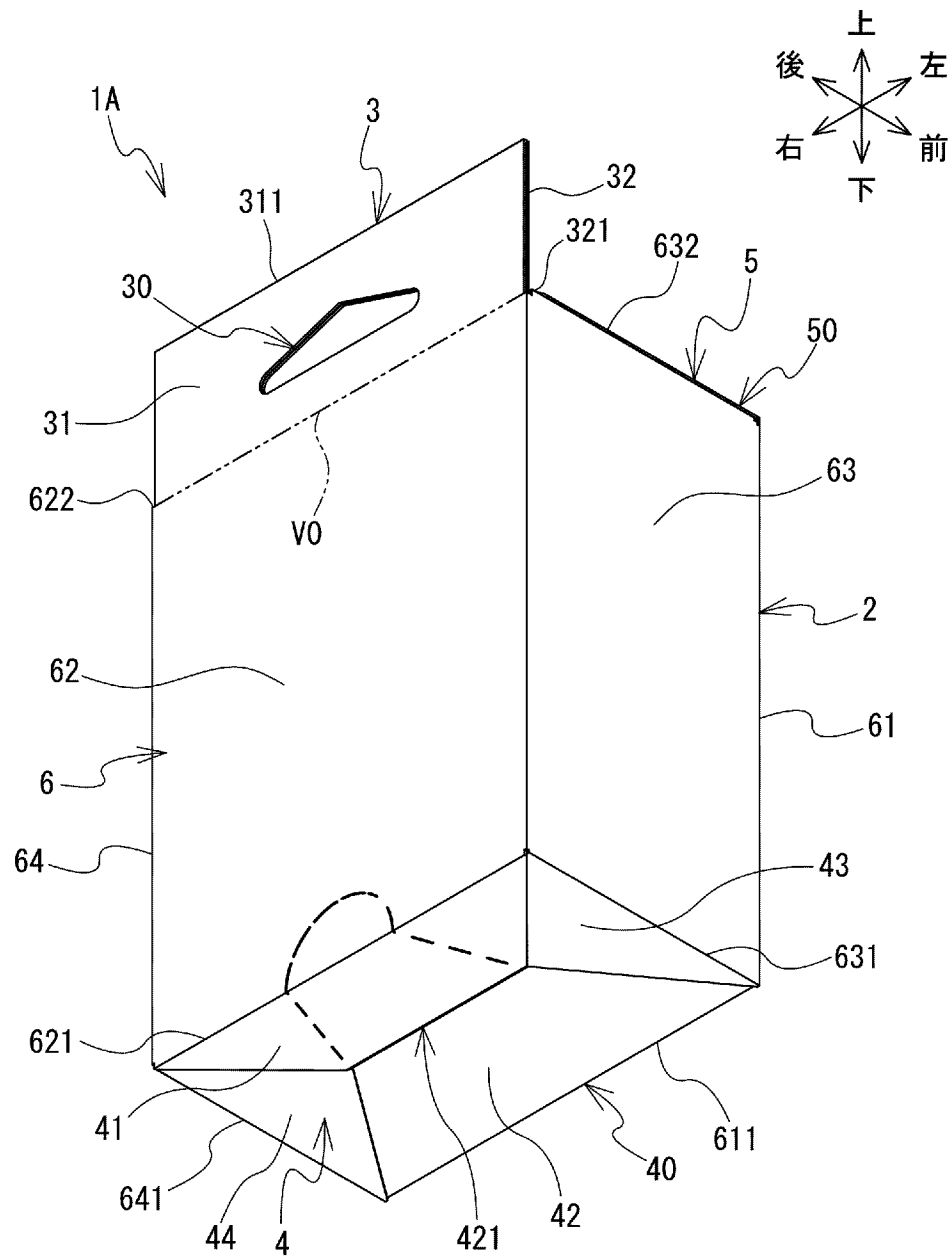
前記印刷カセットは、前記収納箱に、前記第一方向において前記第一カセット壁が前記第一壁と対向する状態で、前記第一壁と前記第二壁と前記周壁とで囲まれた空間に配置され、

前記第一壁には、前記空間に配置された前記印刷カセットを前記収納箱から取り出すための第一ミシン目が設けられること
を特徴とする請求項 25 に記載のシート。

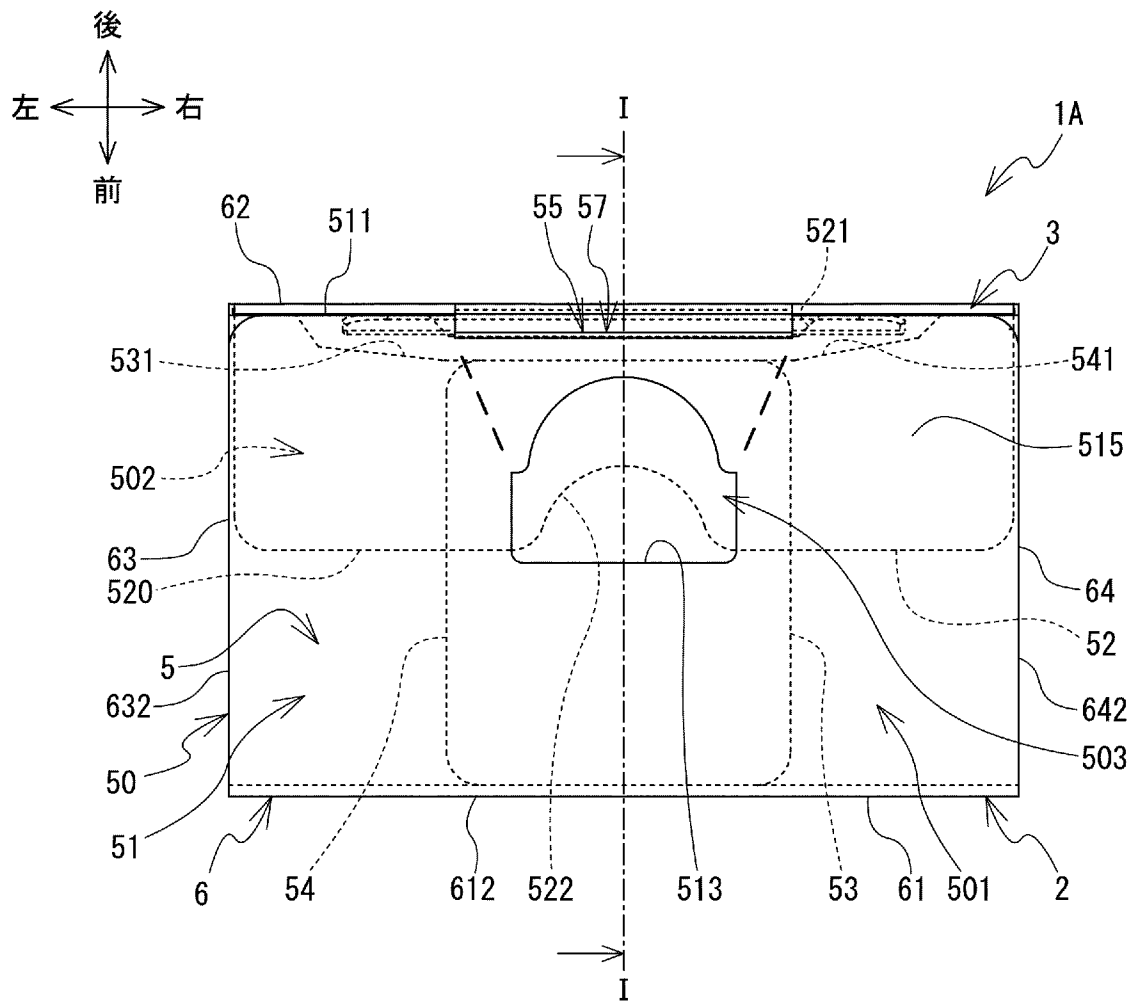
[図2]



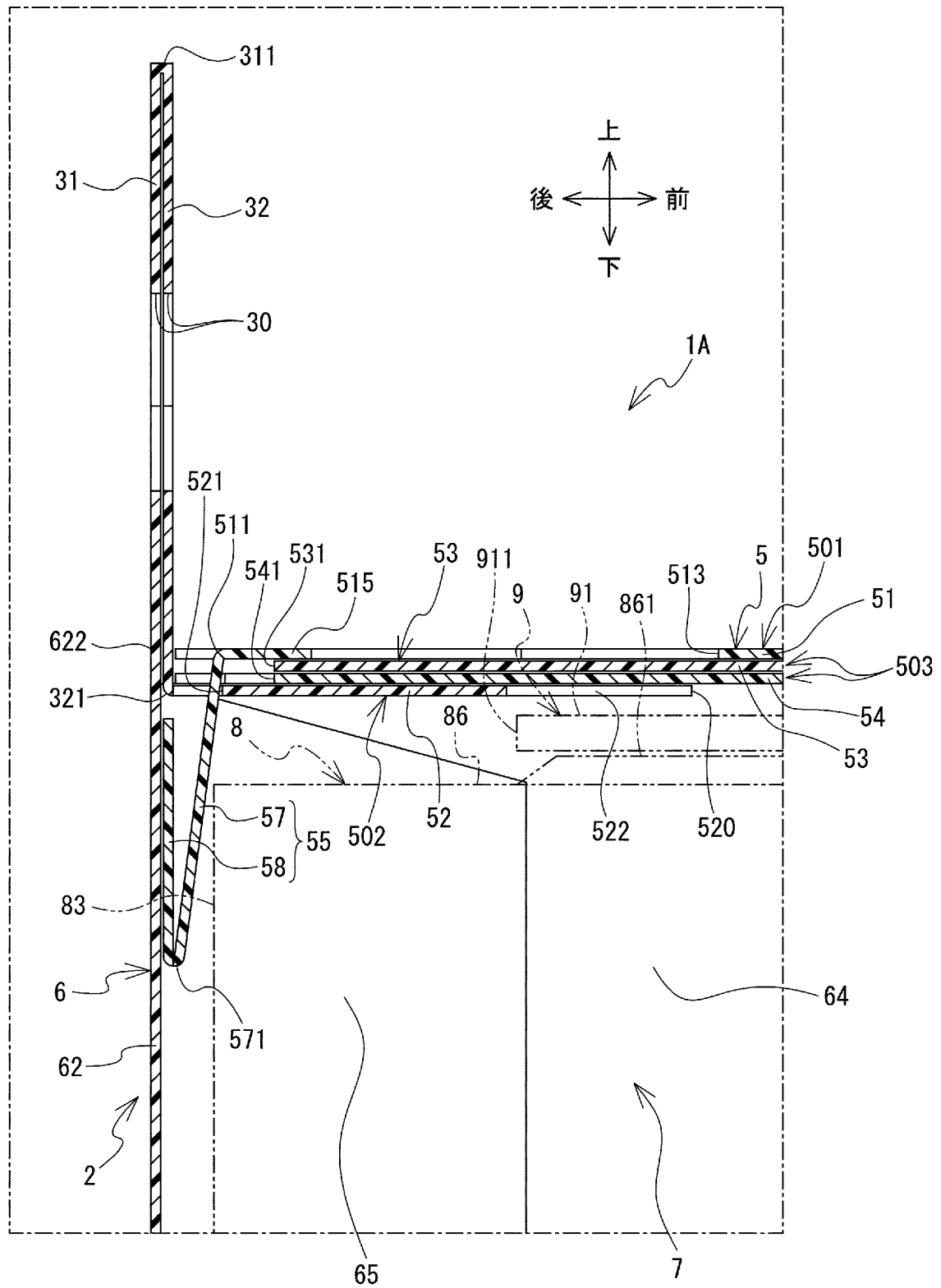
[図3]



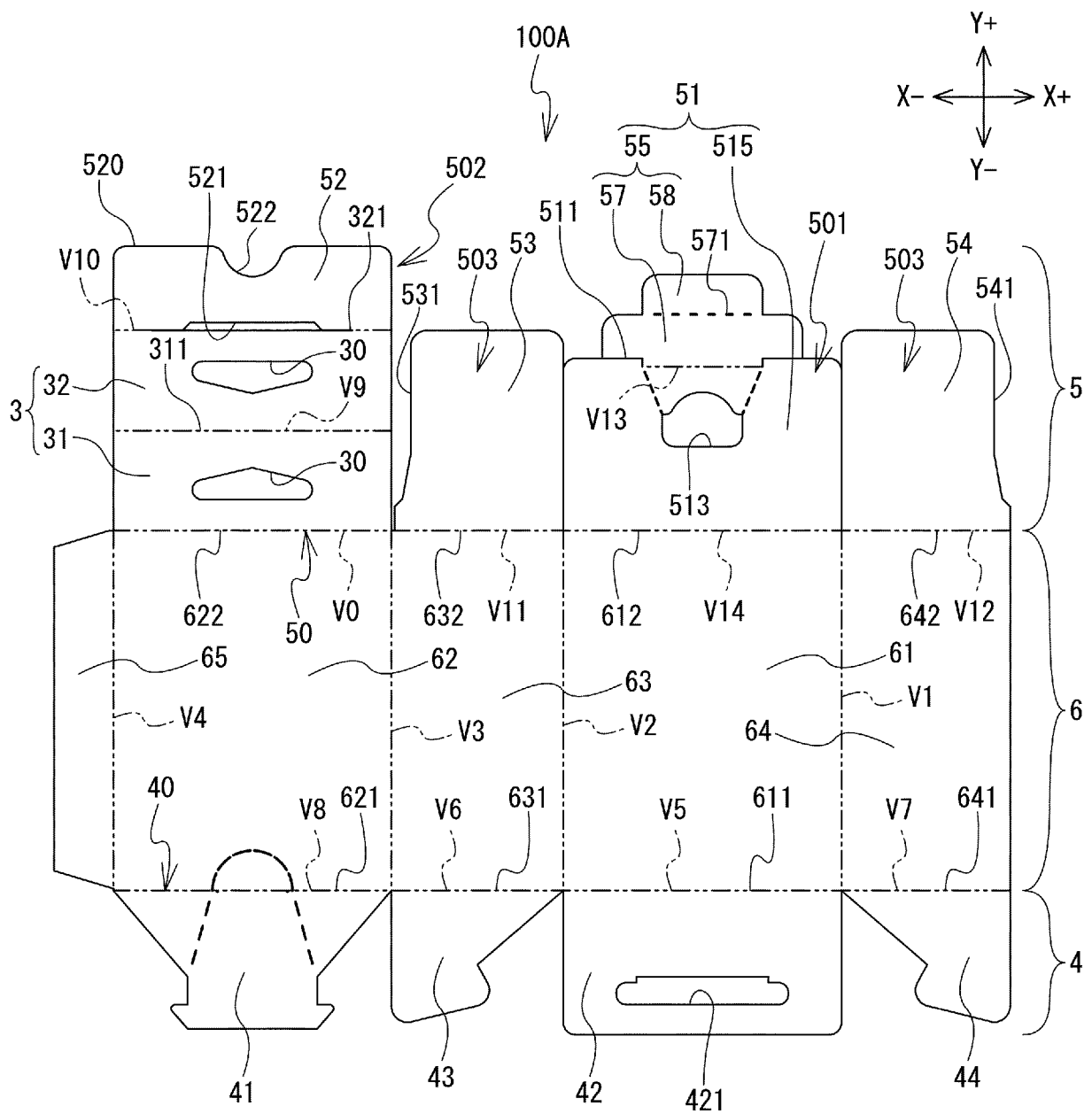
[図4]



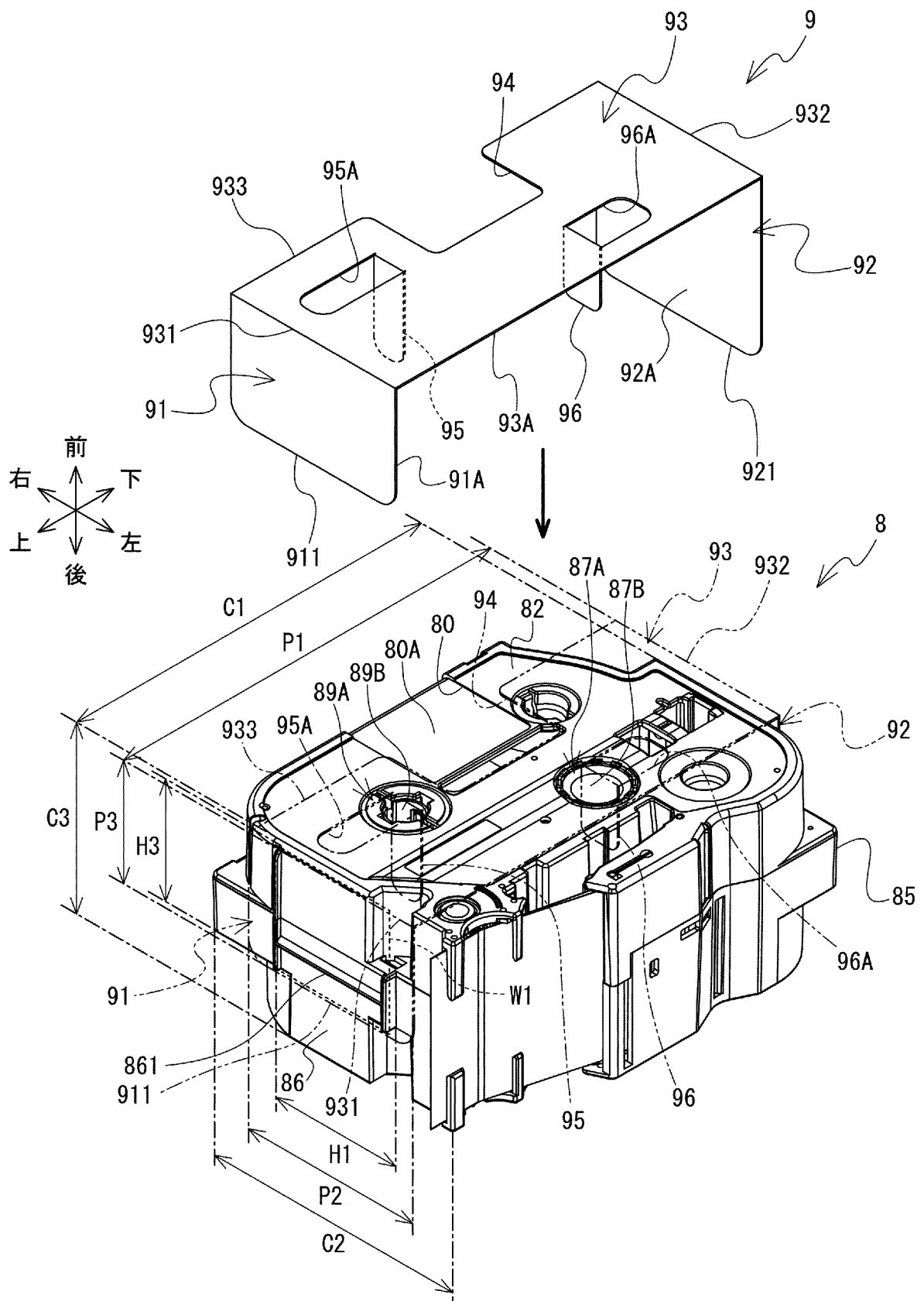
[図5]



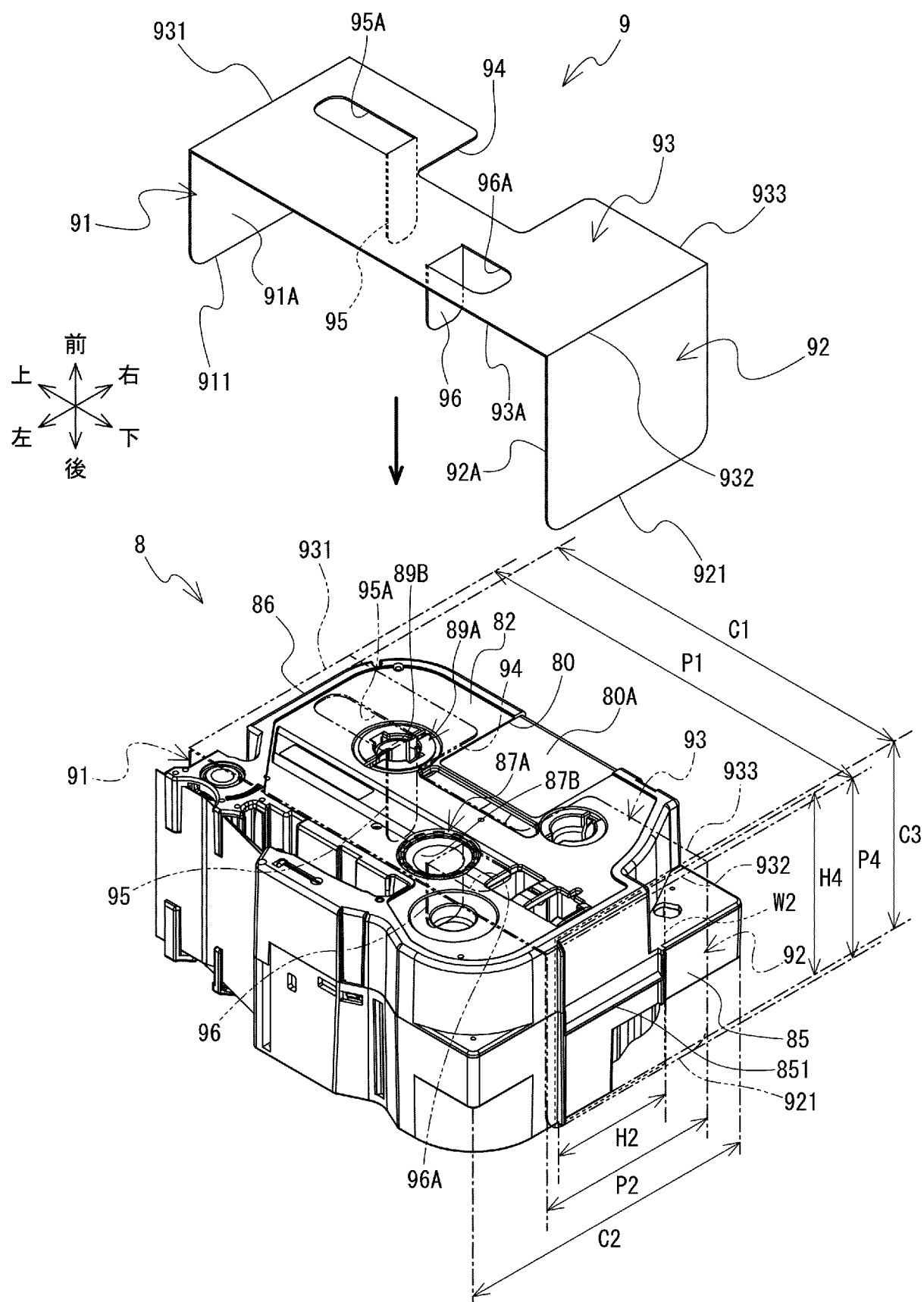
[図6]



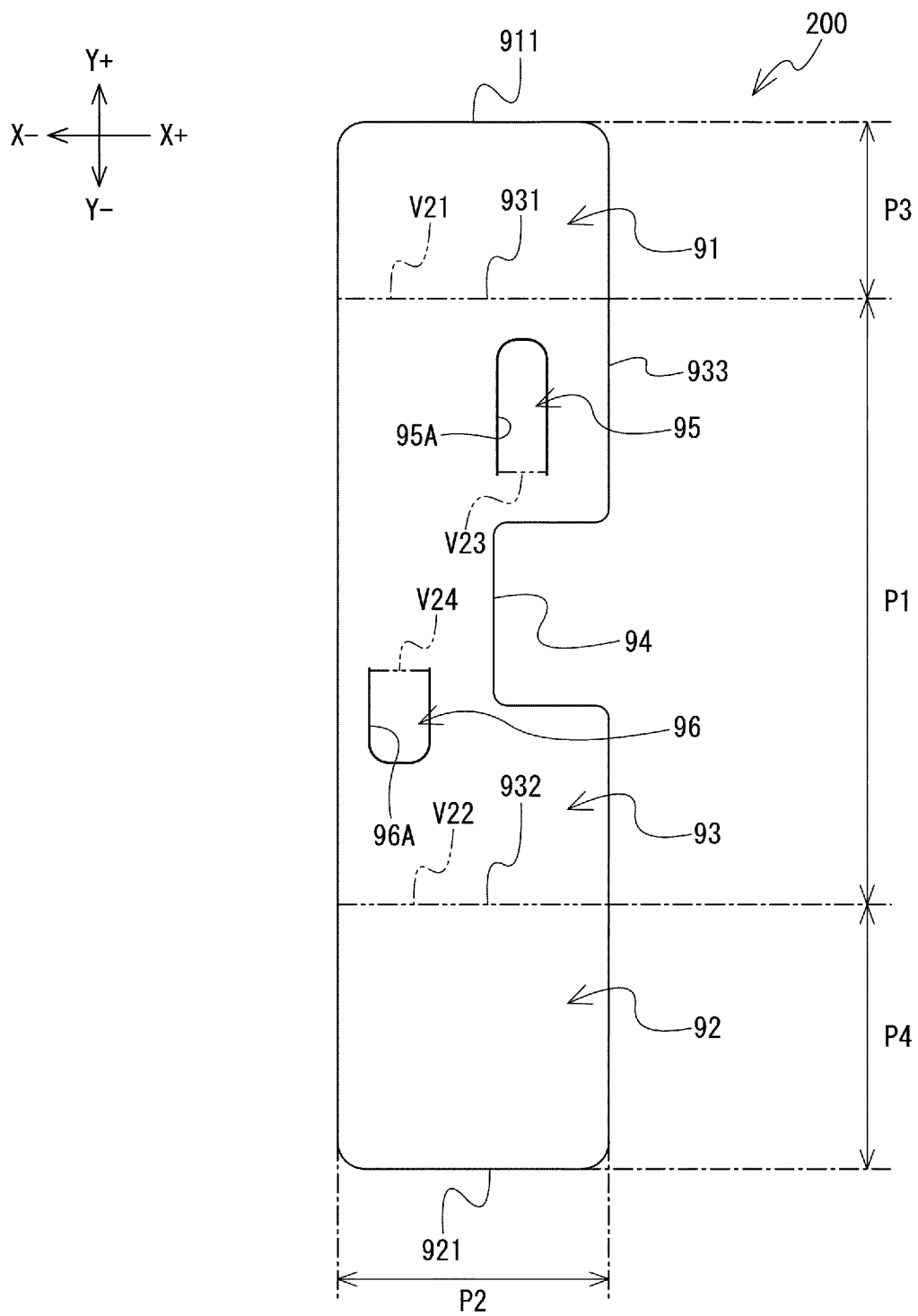
[図7]



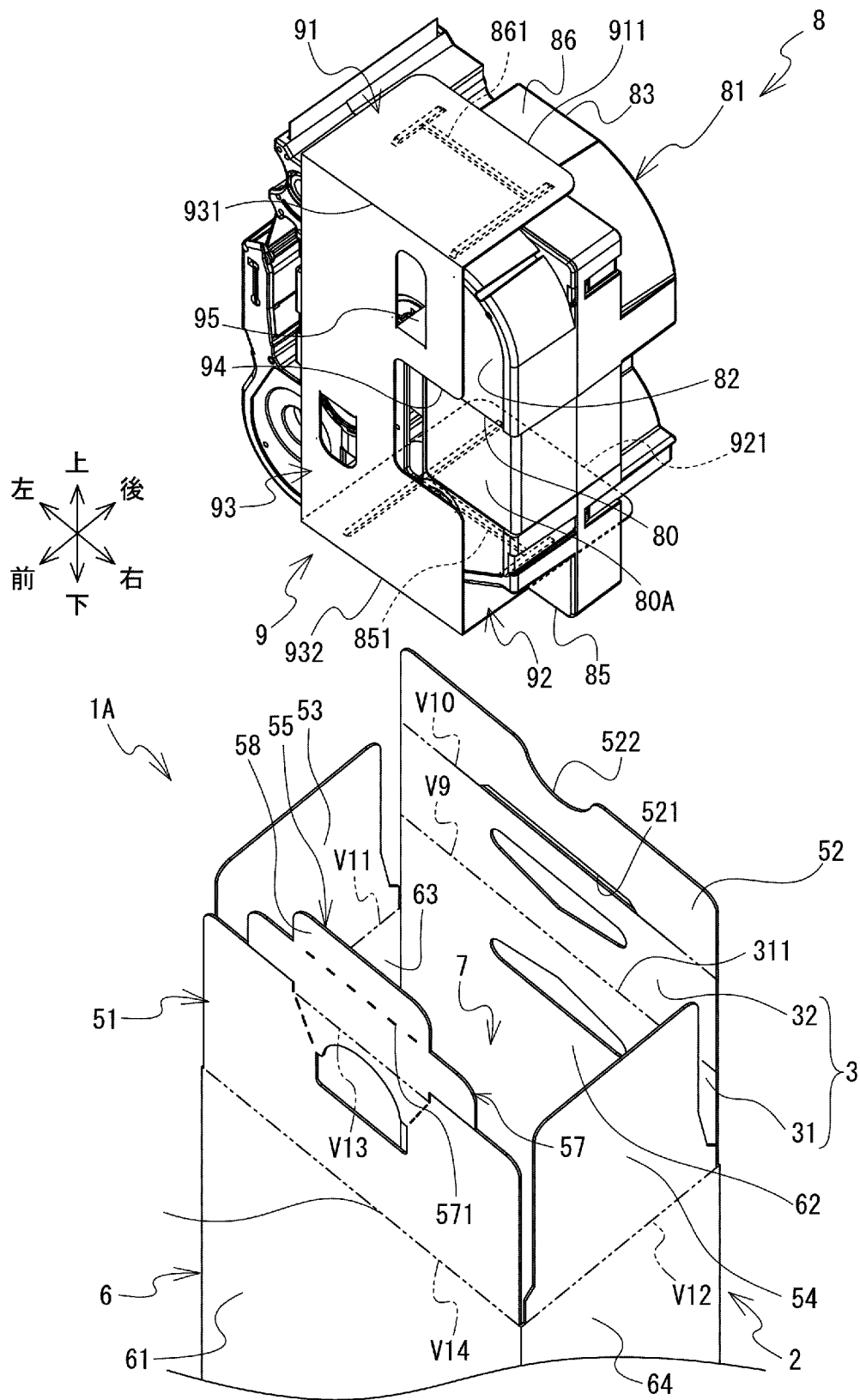
[図8]



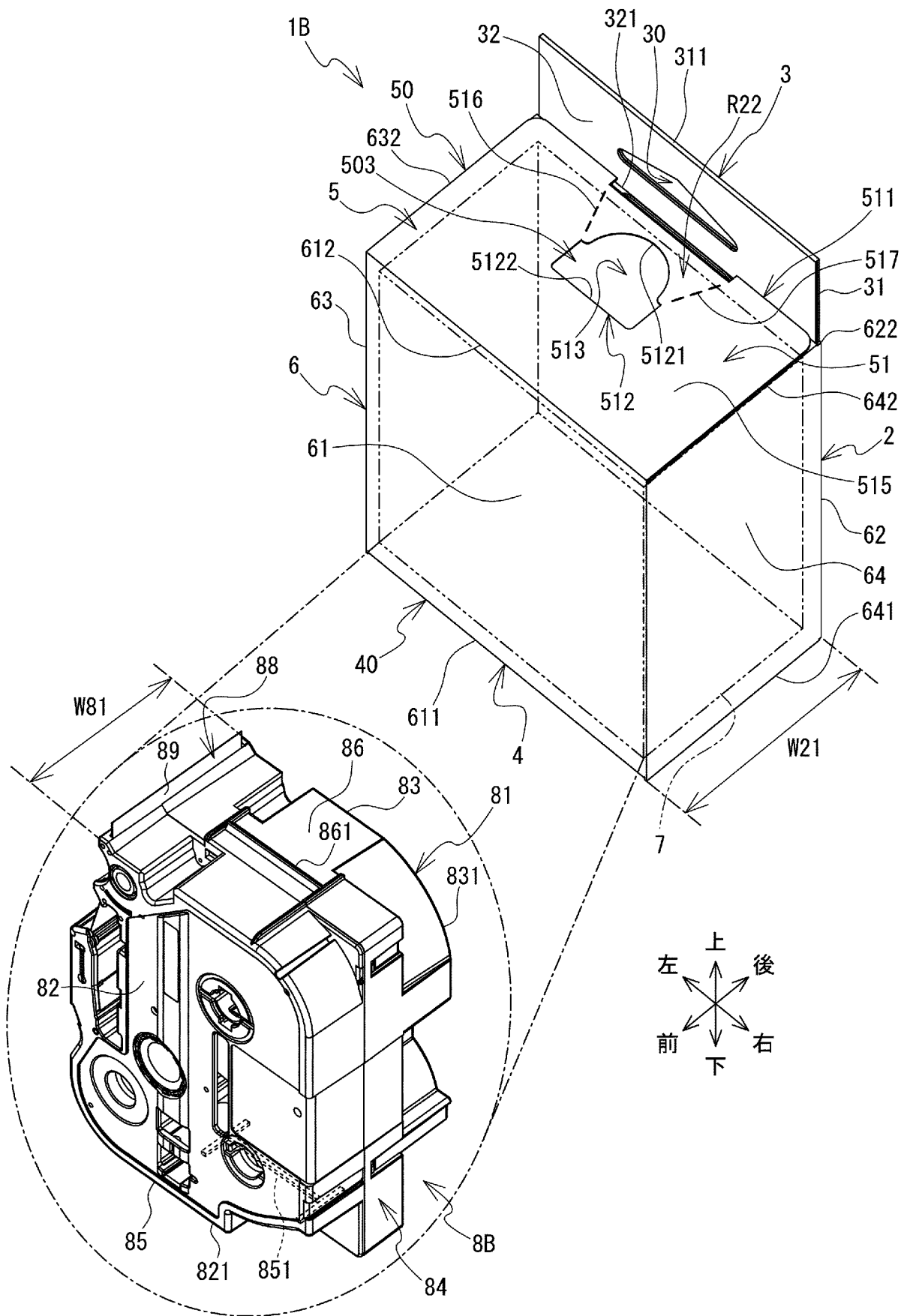
[図9]



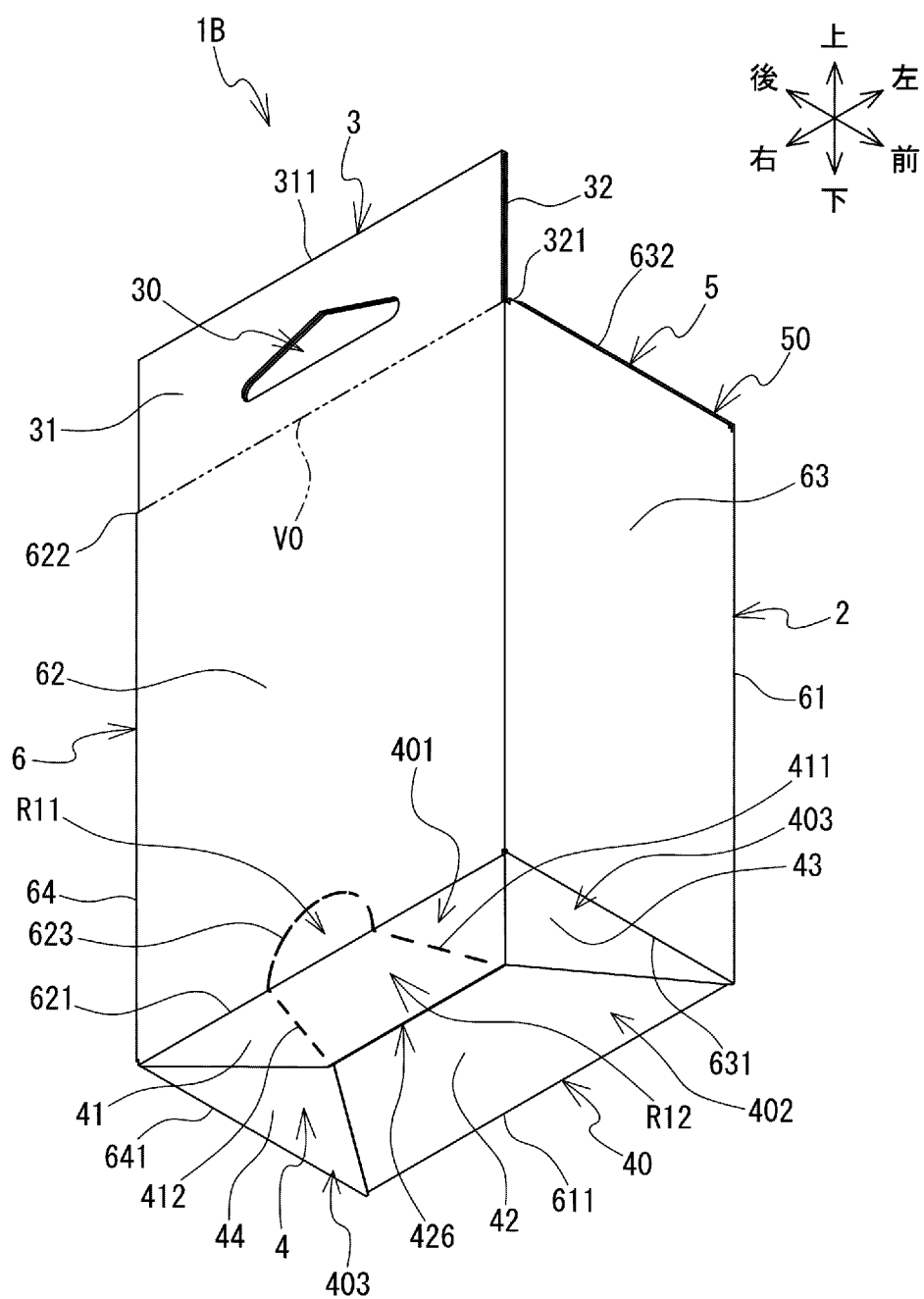
[図10]



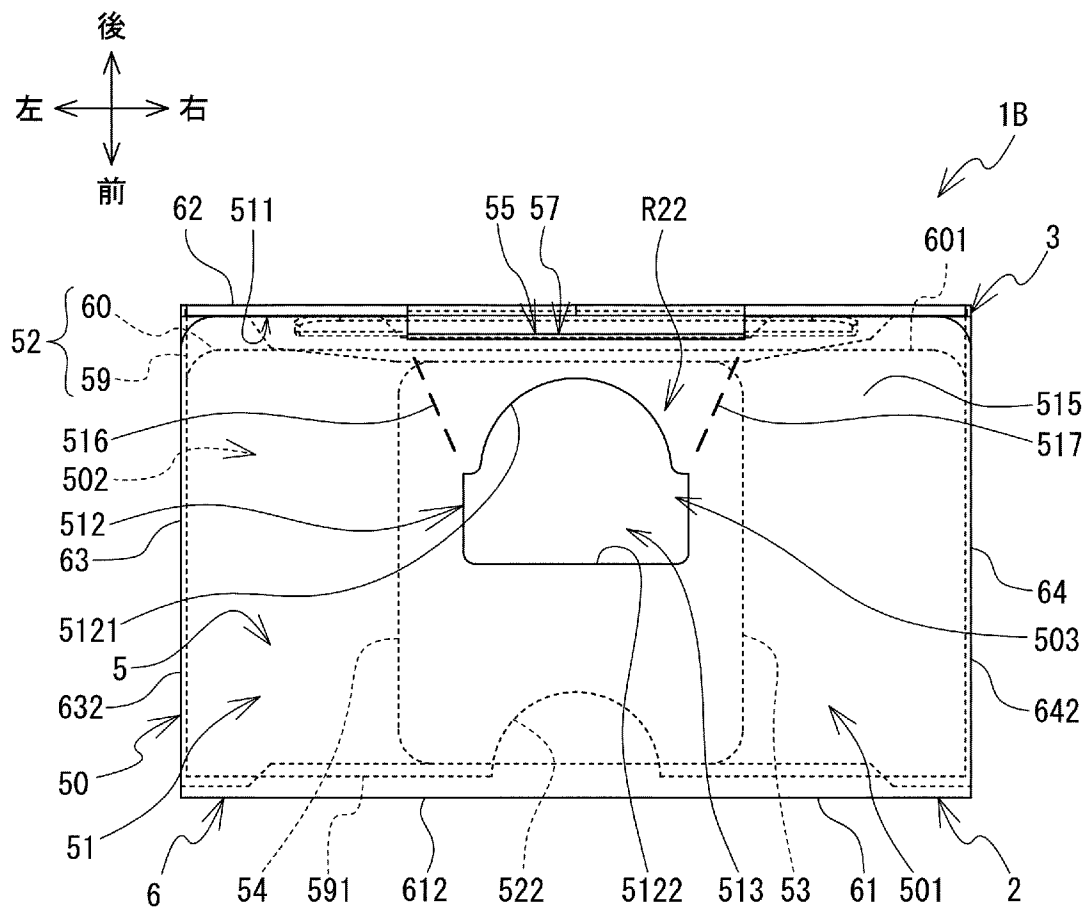
[図12]



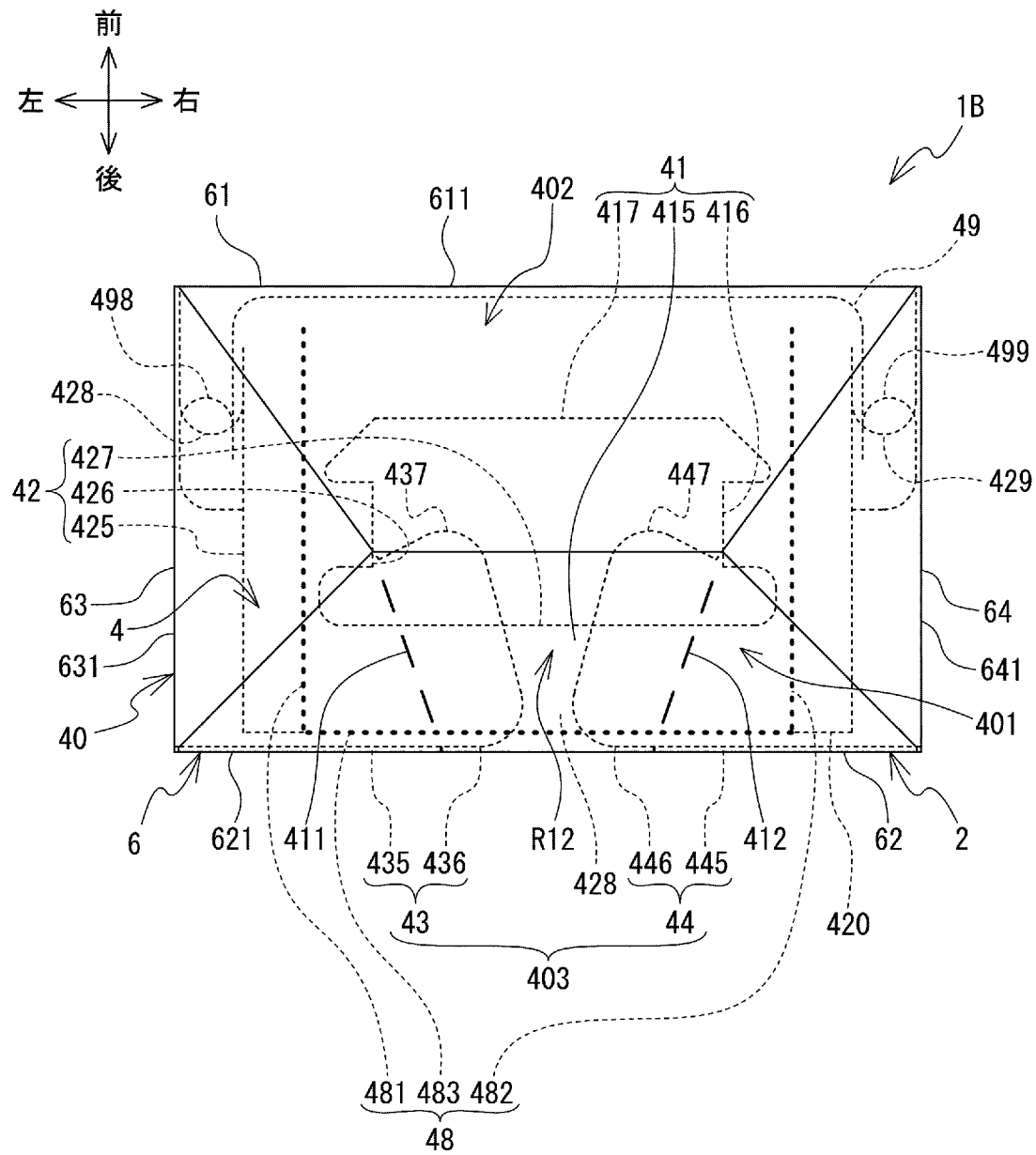
[図13]



[図14]

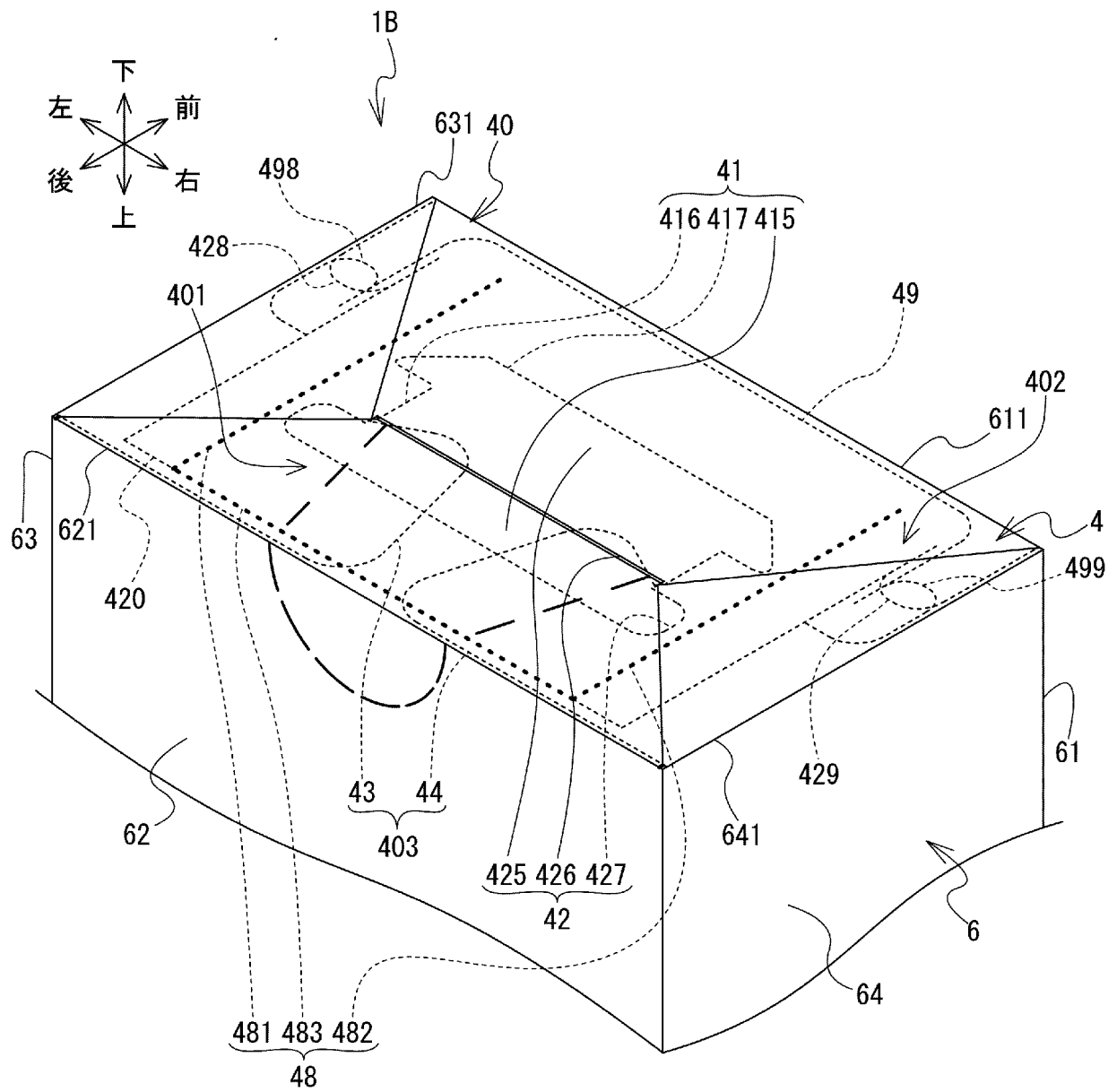


[図15]

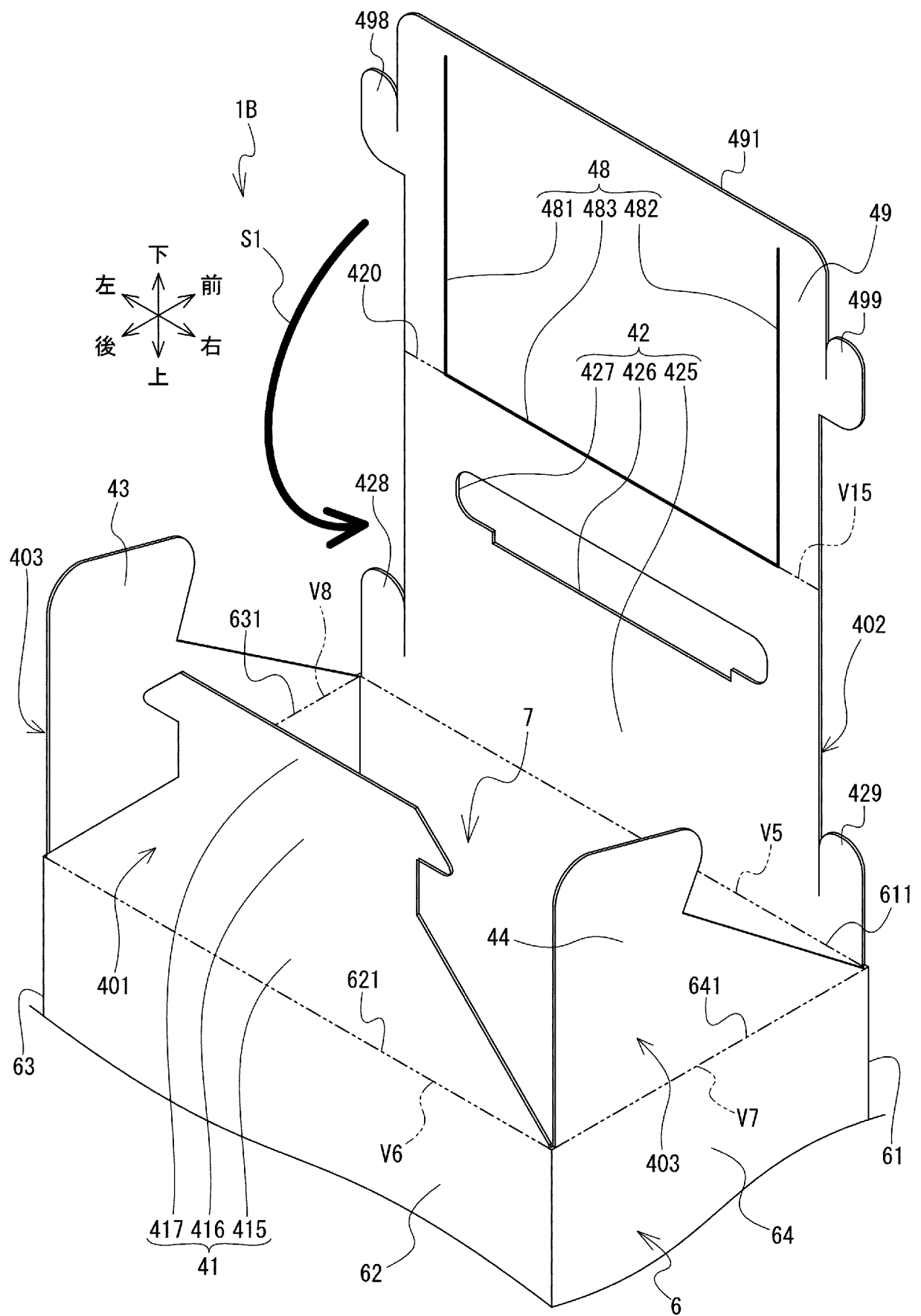


[illegible]

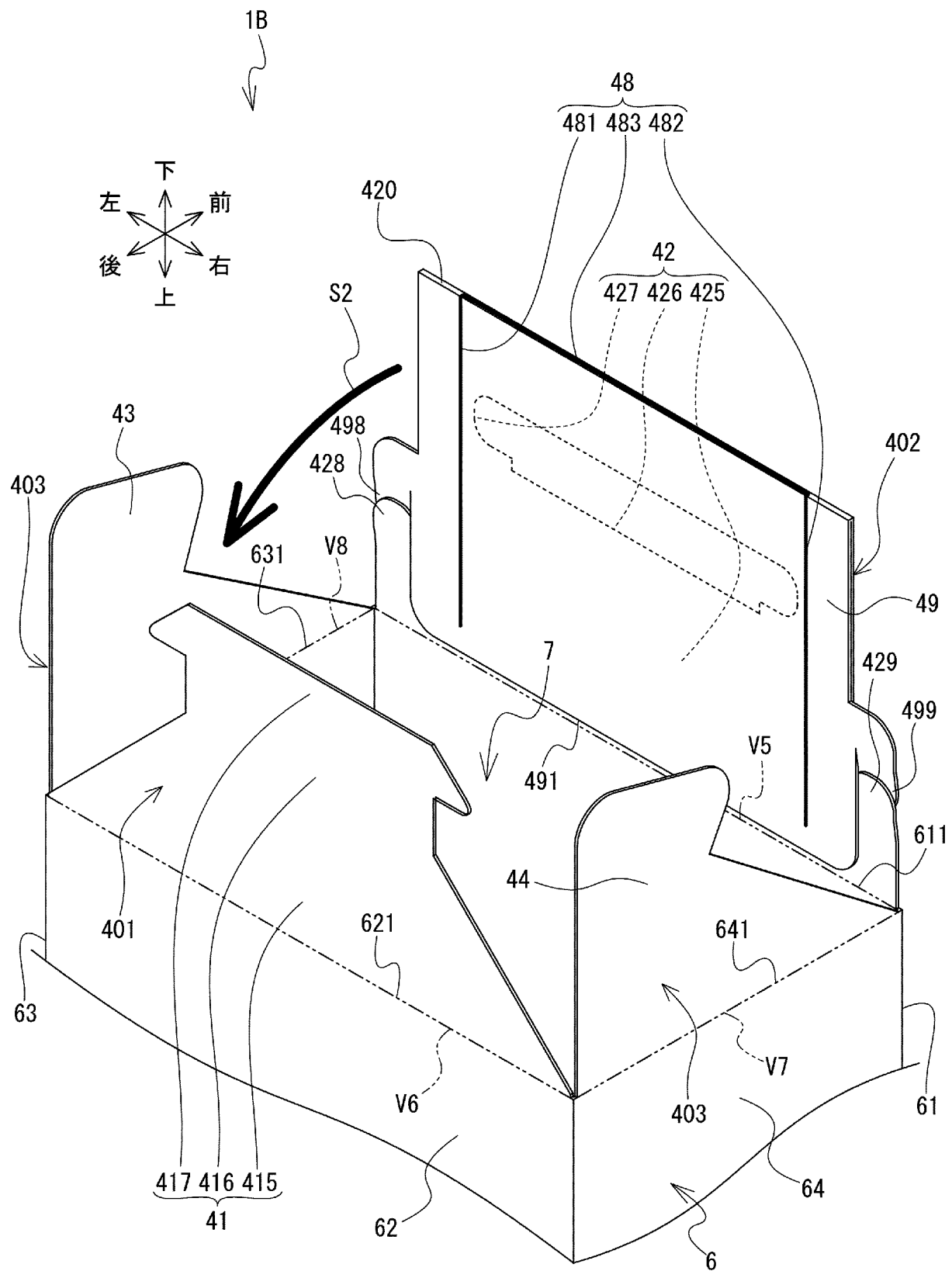
[図17]



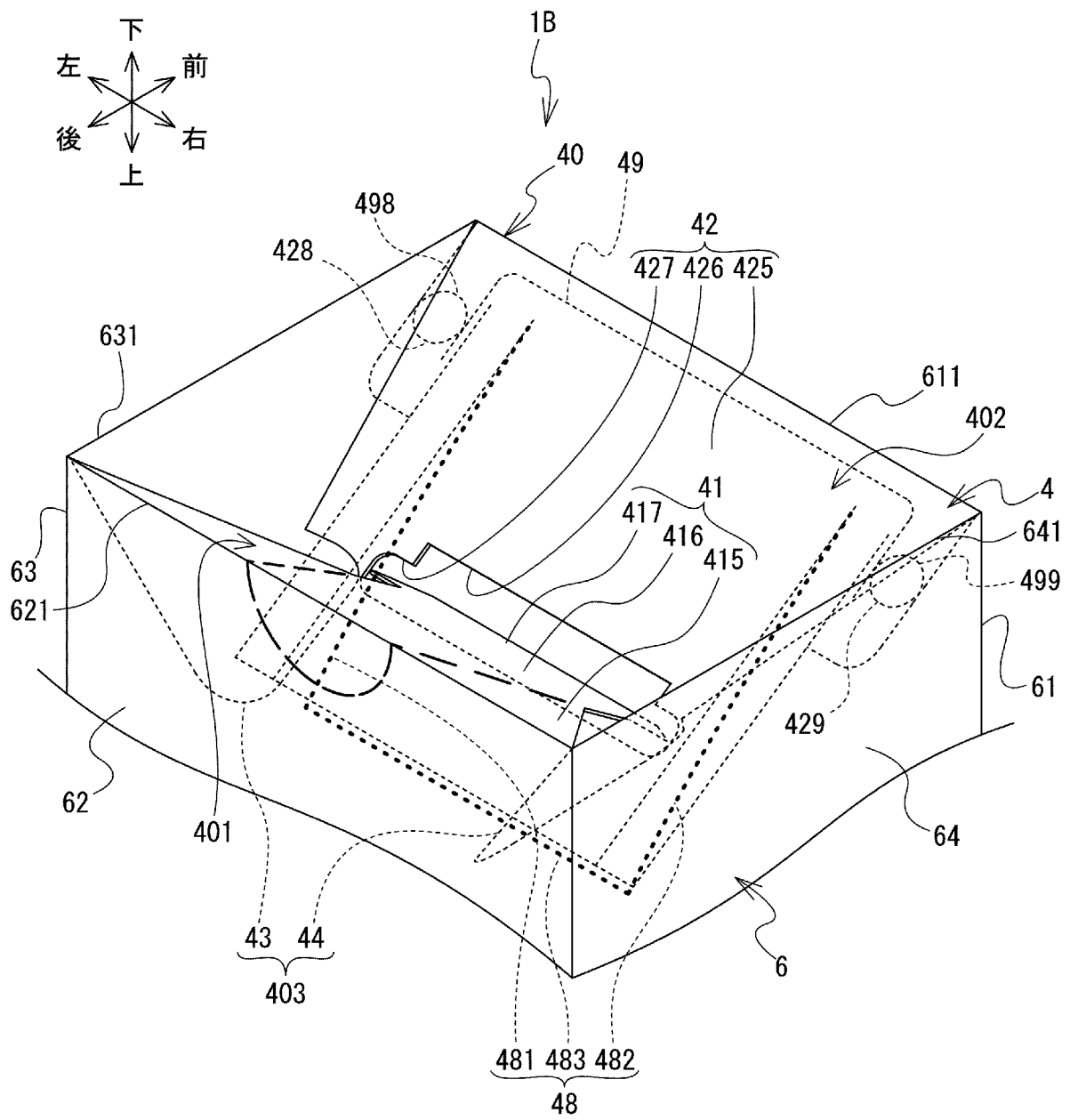
[図18]



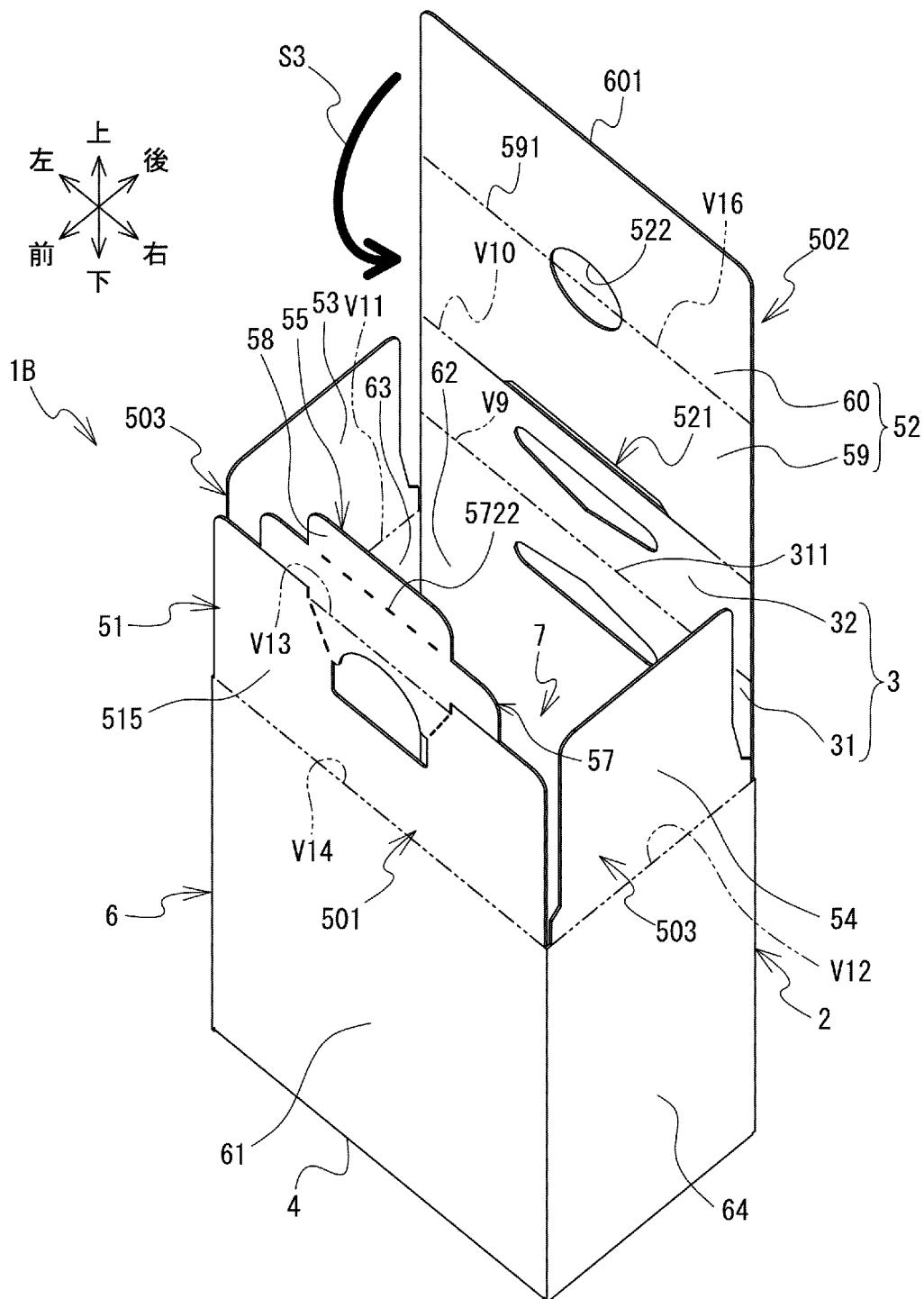
[図19]



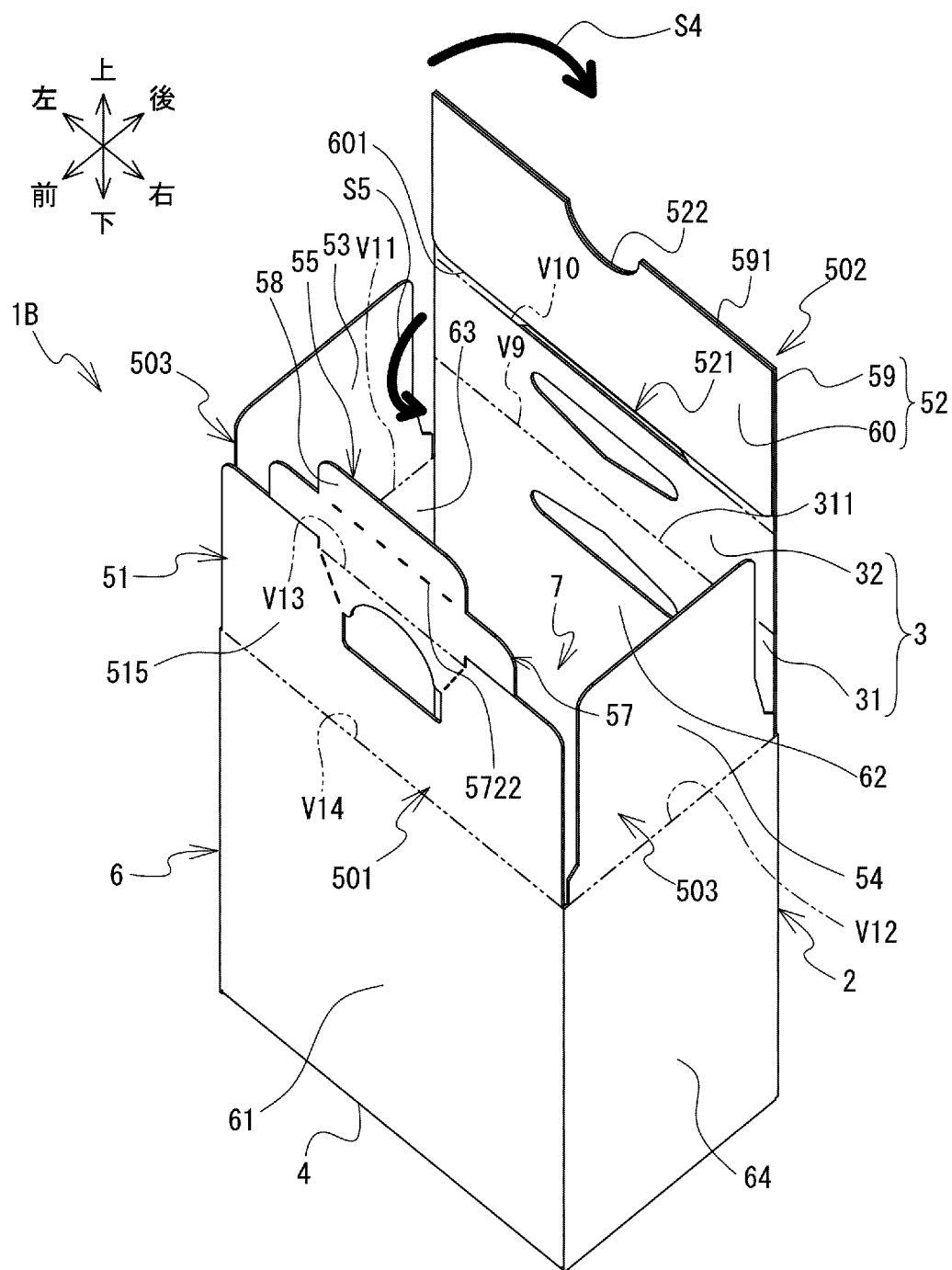
[図20]



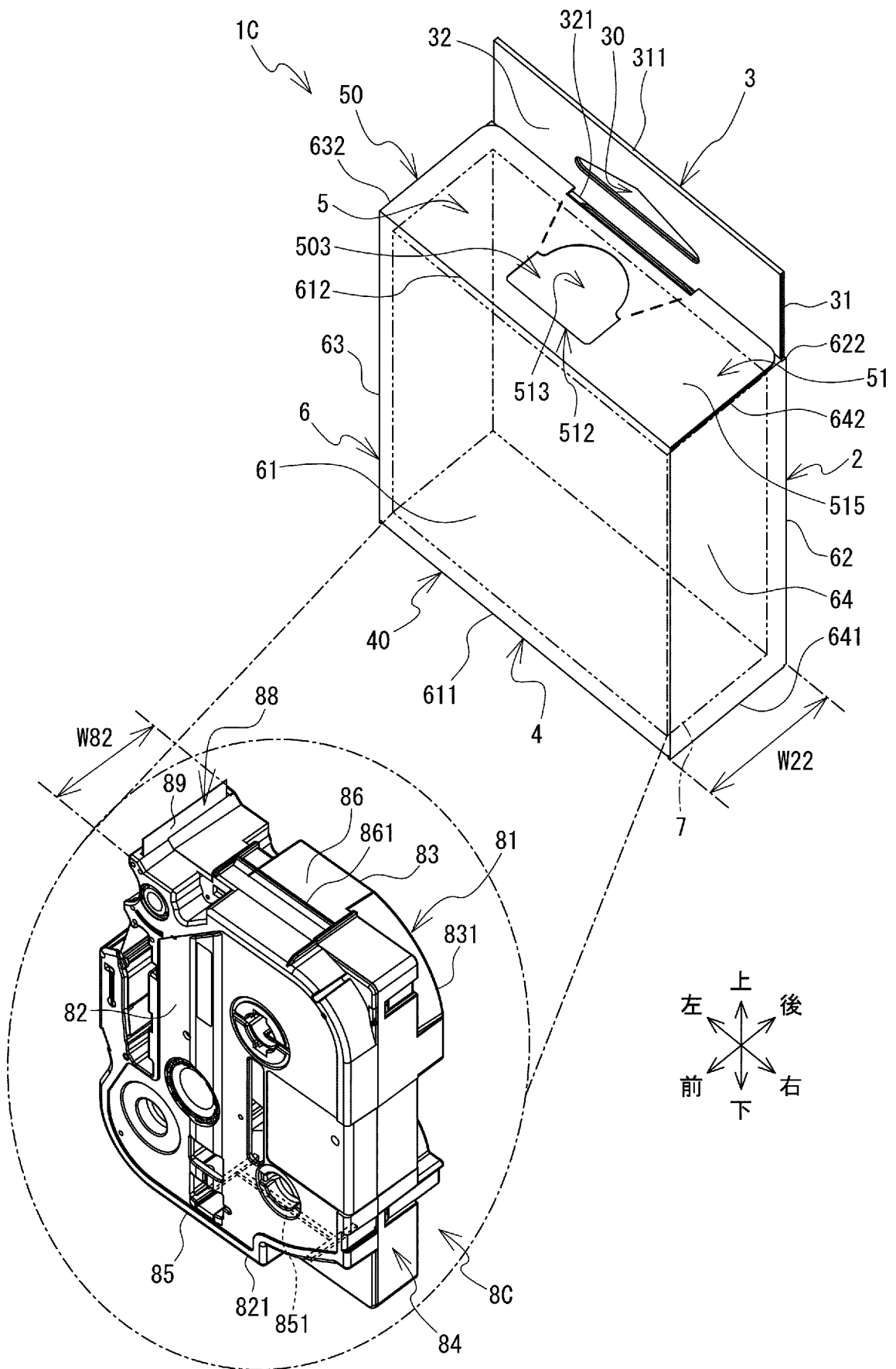
[図21]



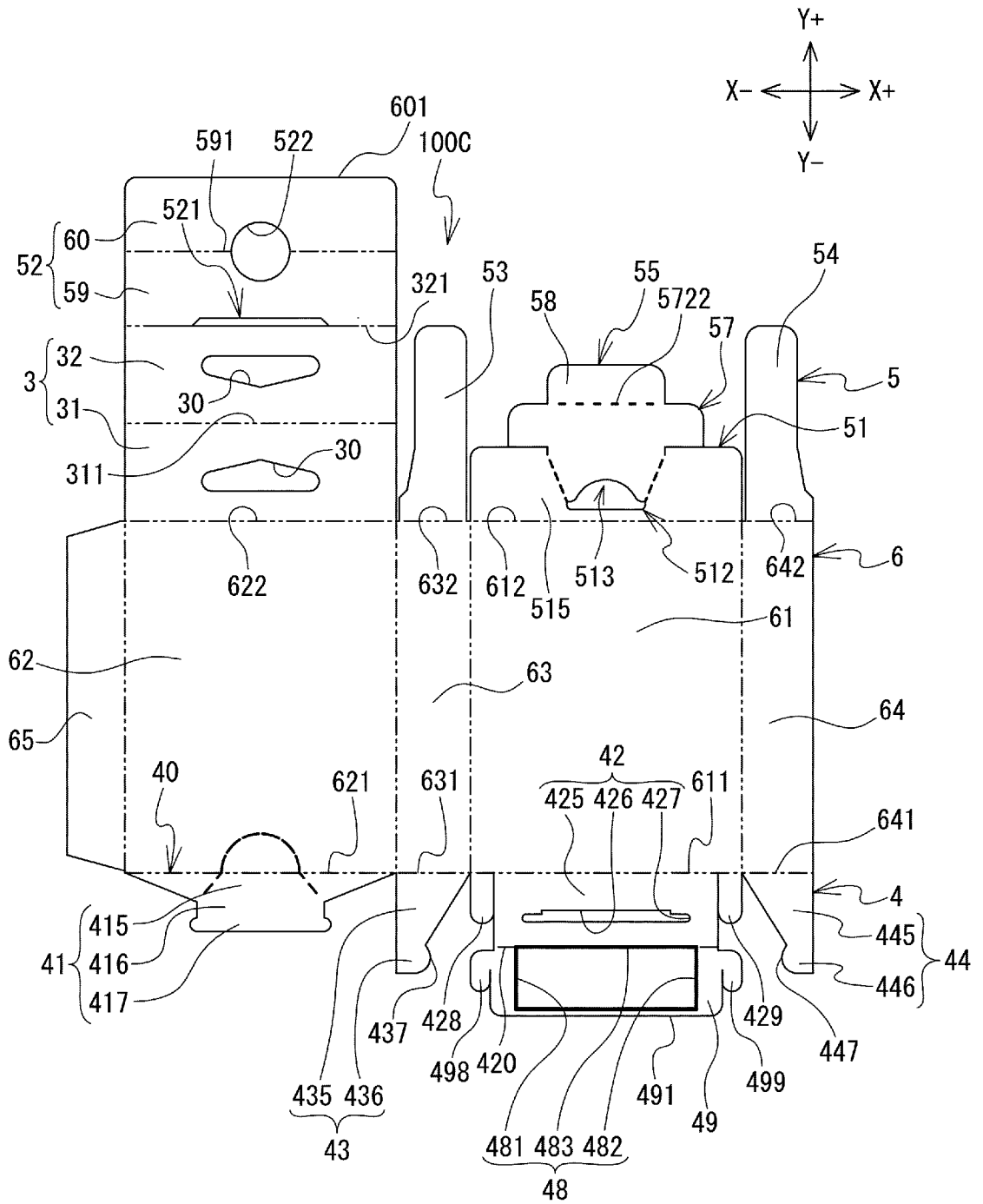
[図22]



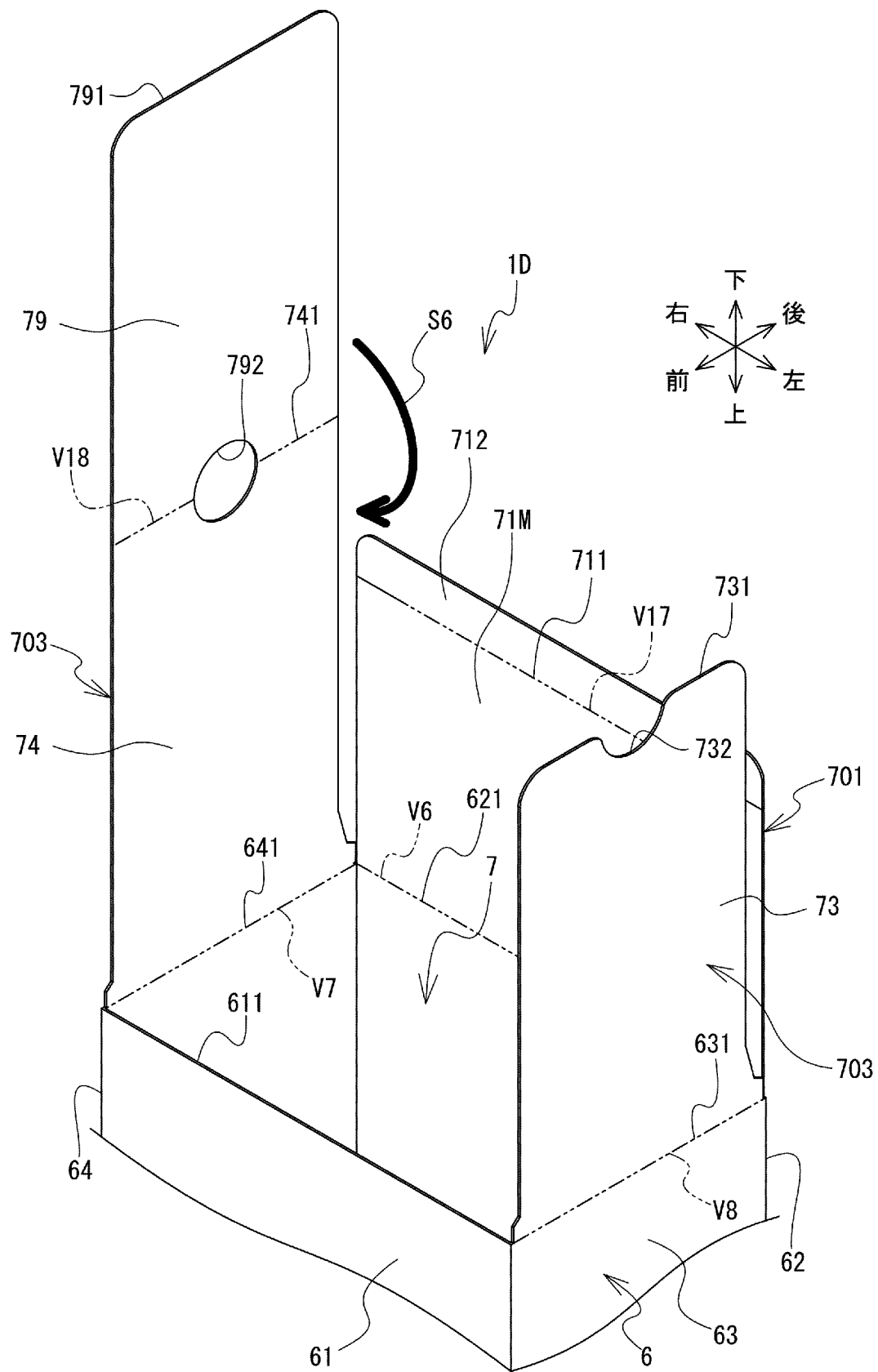
[図23]



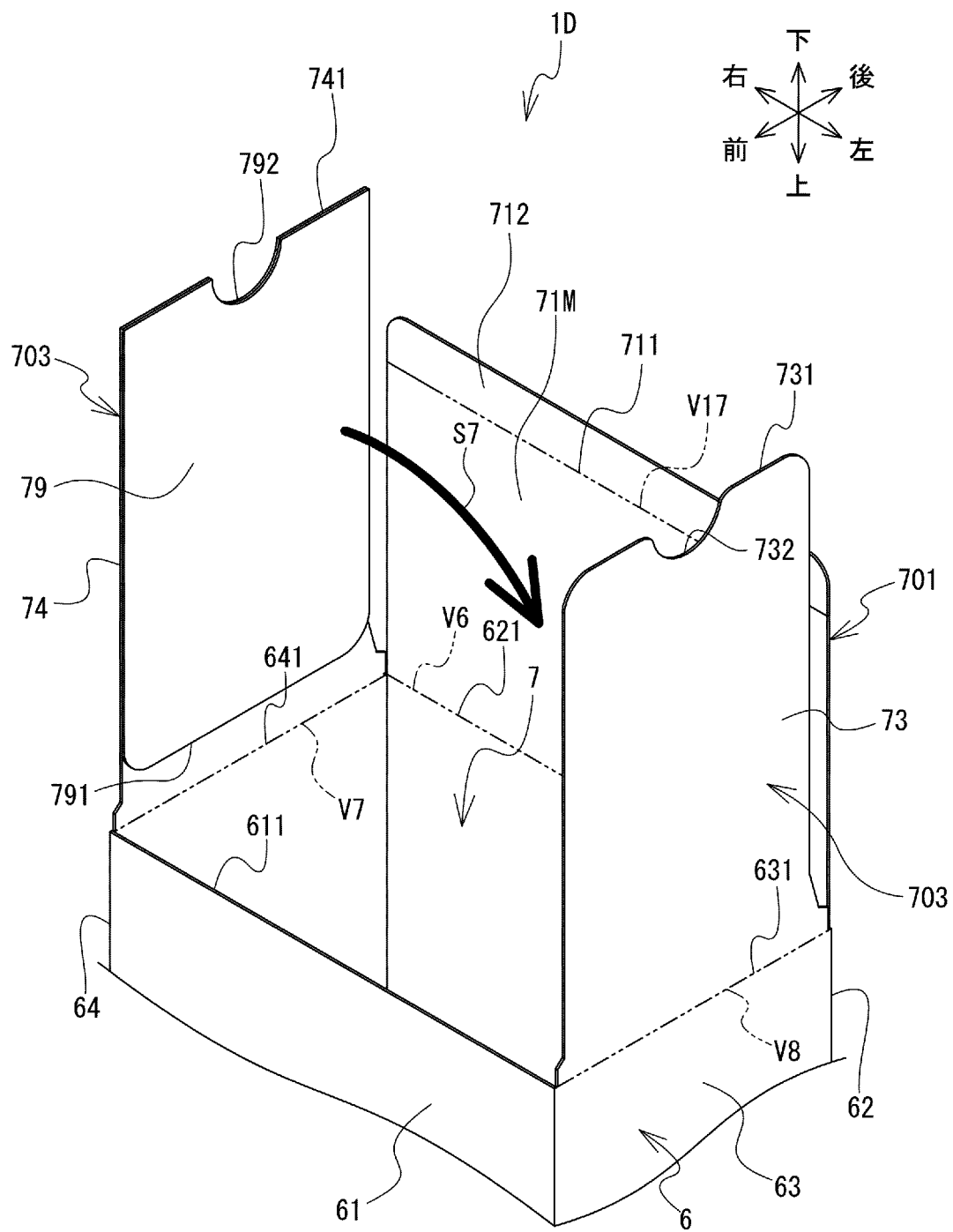
[図24]



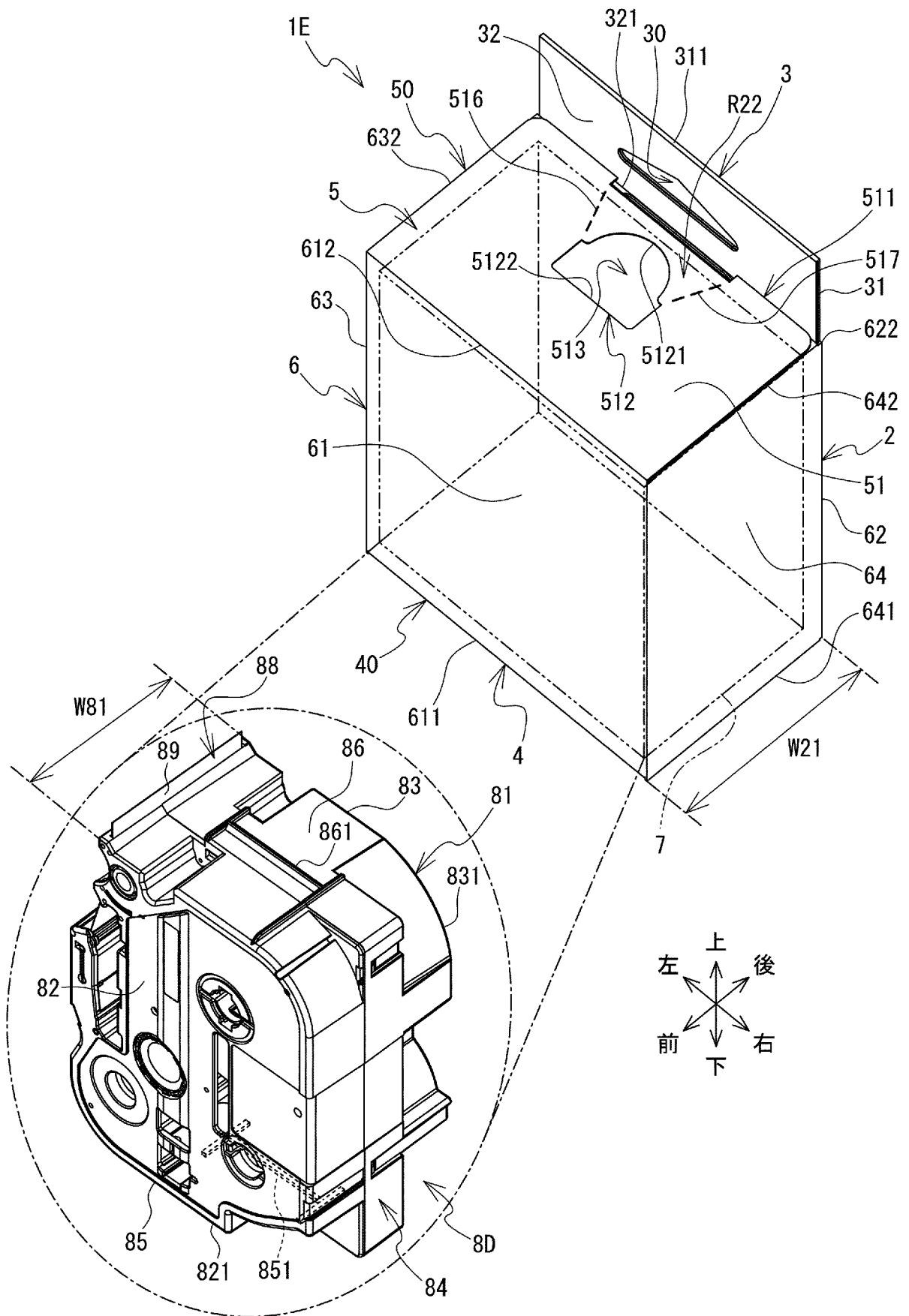
[図25]



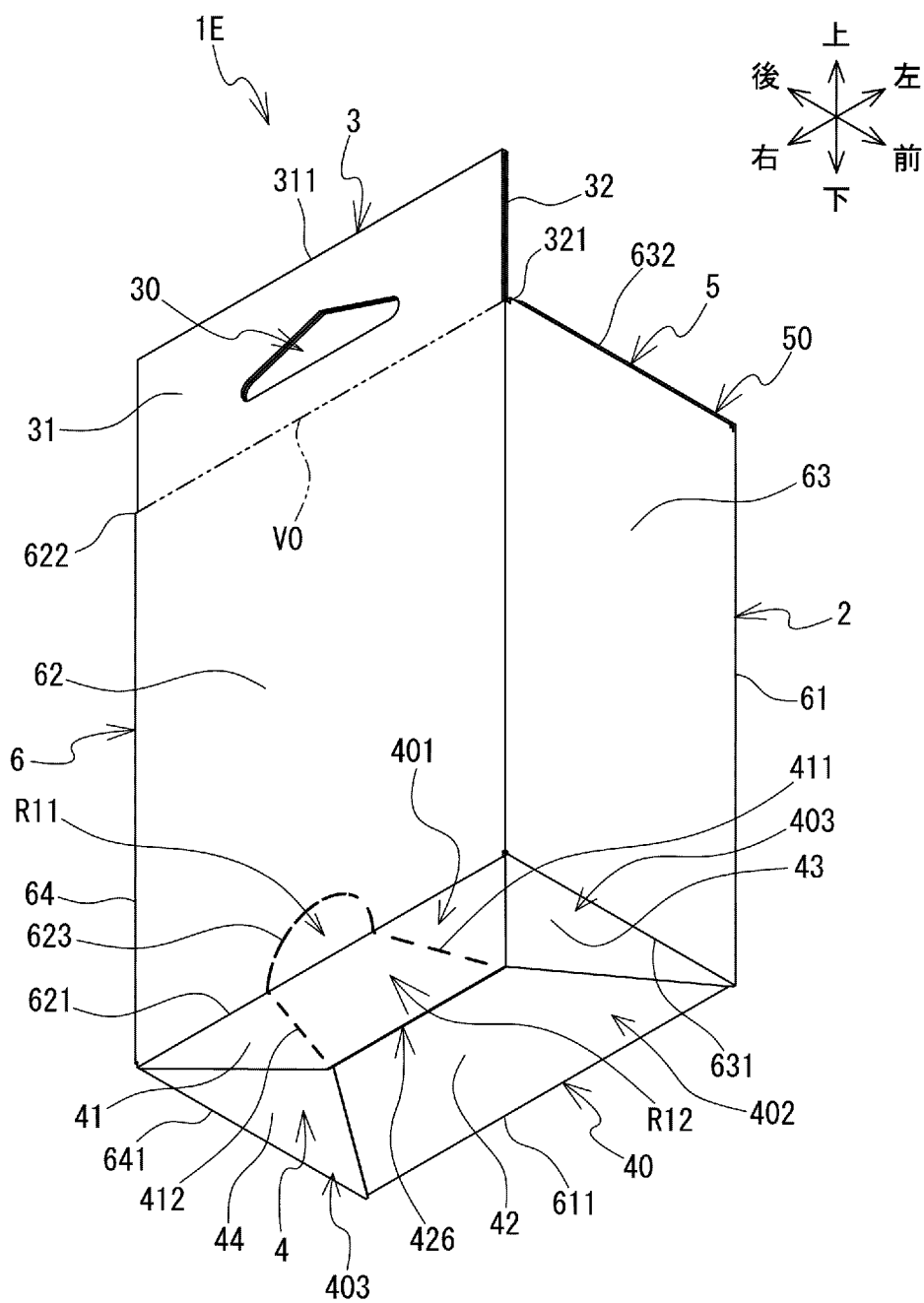
[図26]



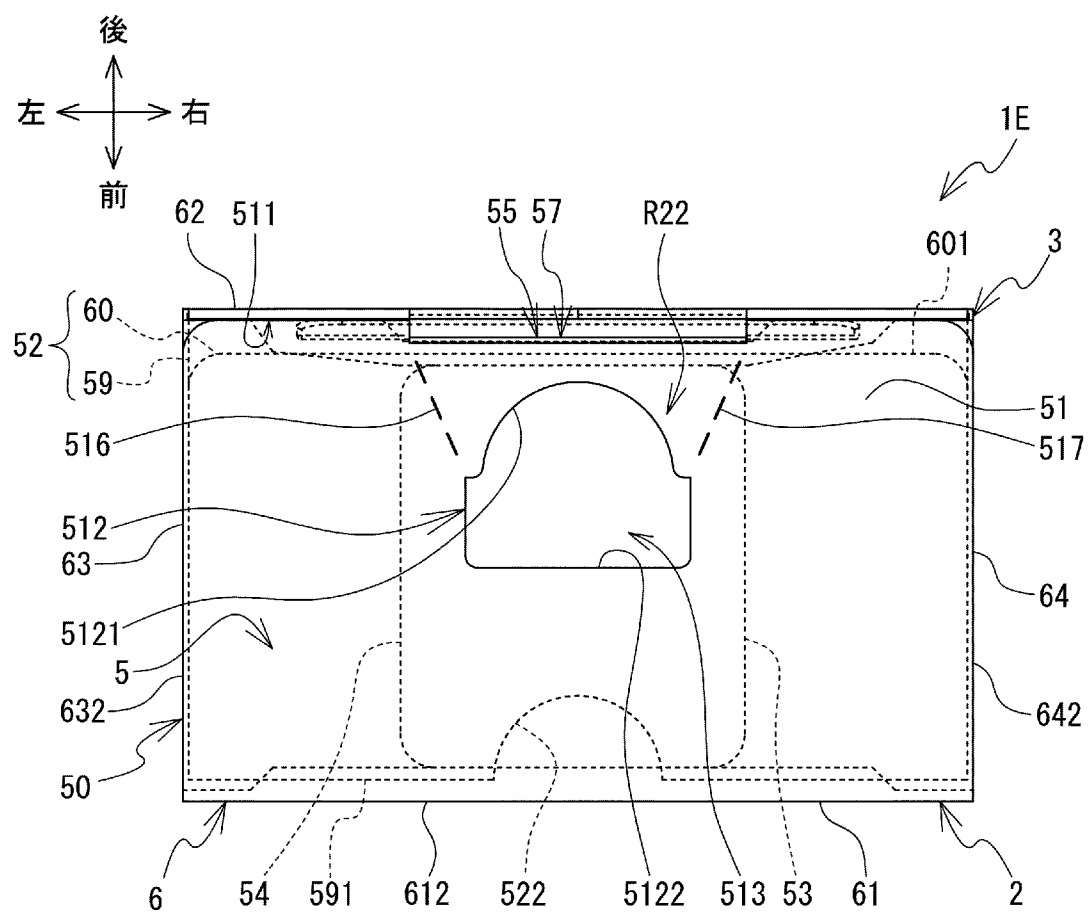
[図27]



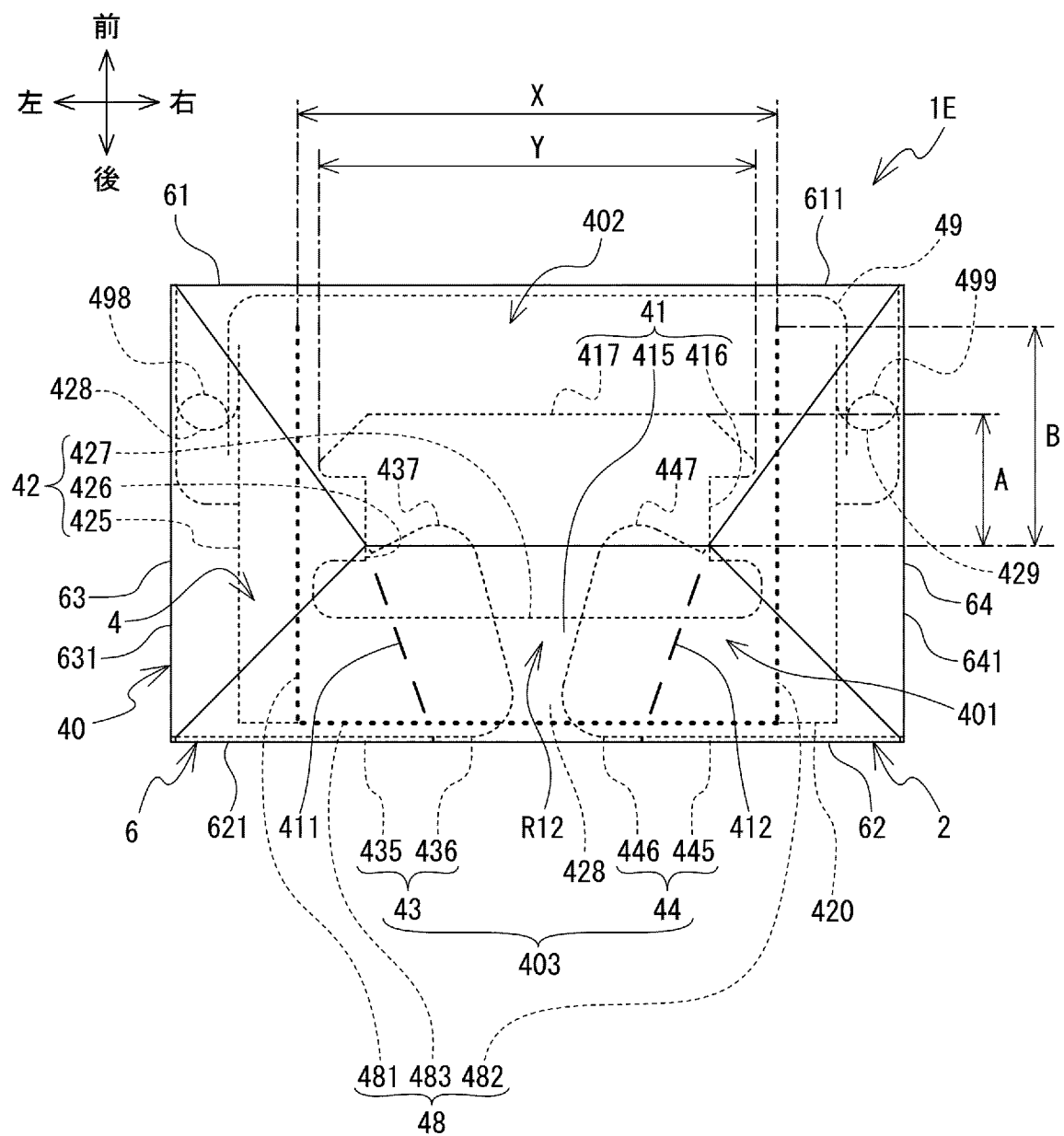
[図28]



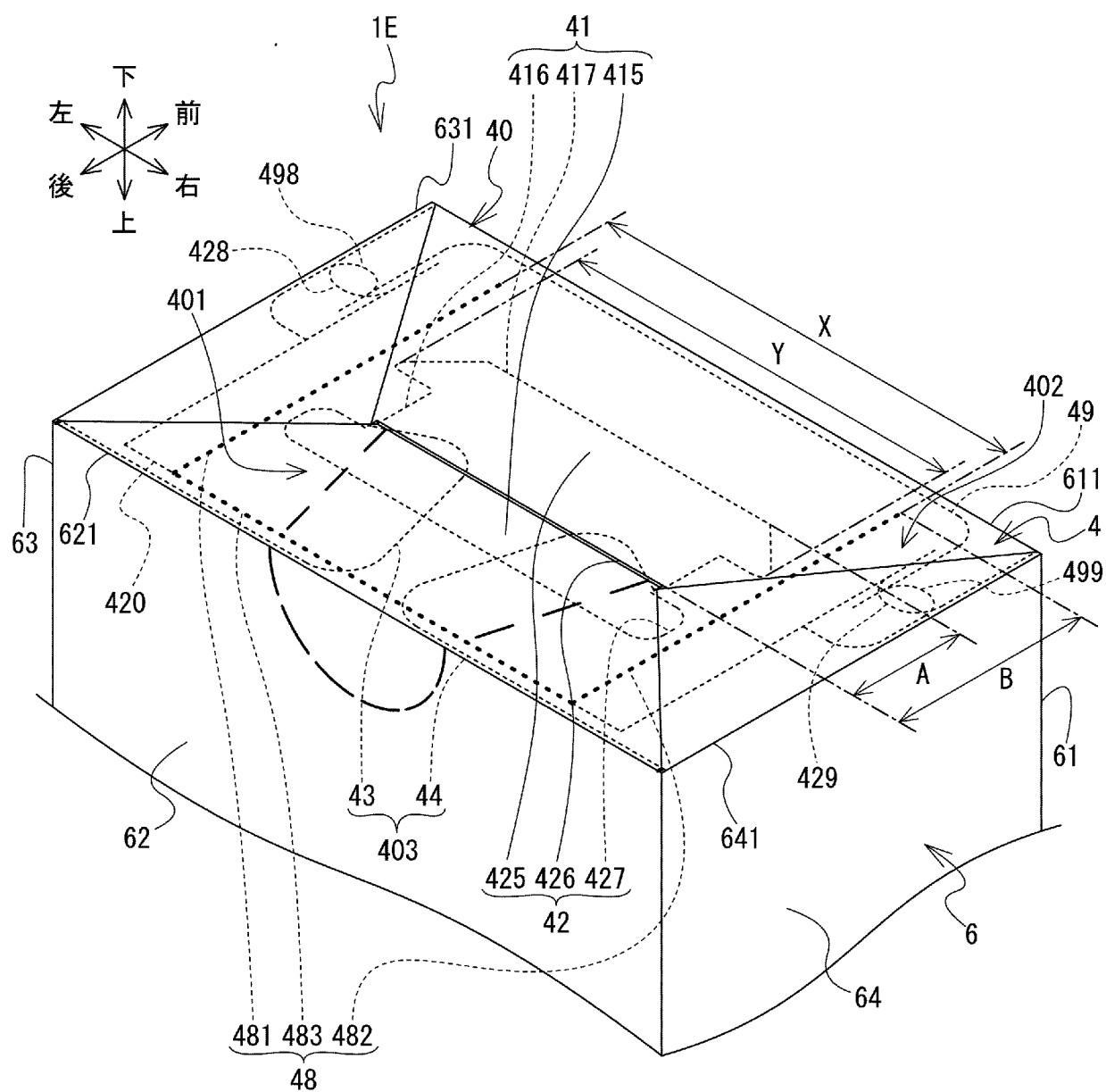
[図29]



[図30]



[図32]



[図33]

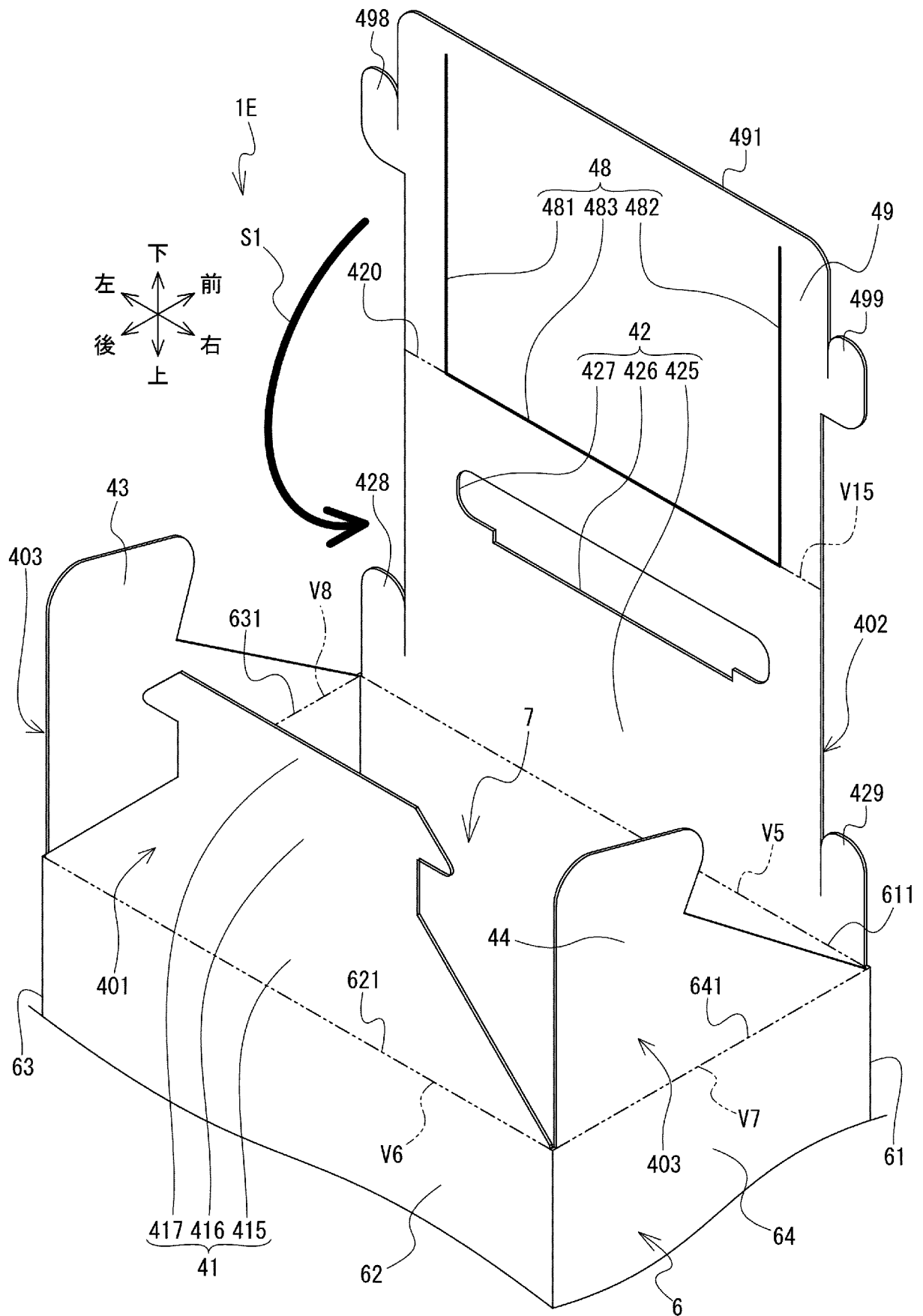
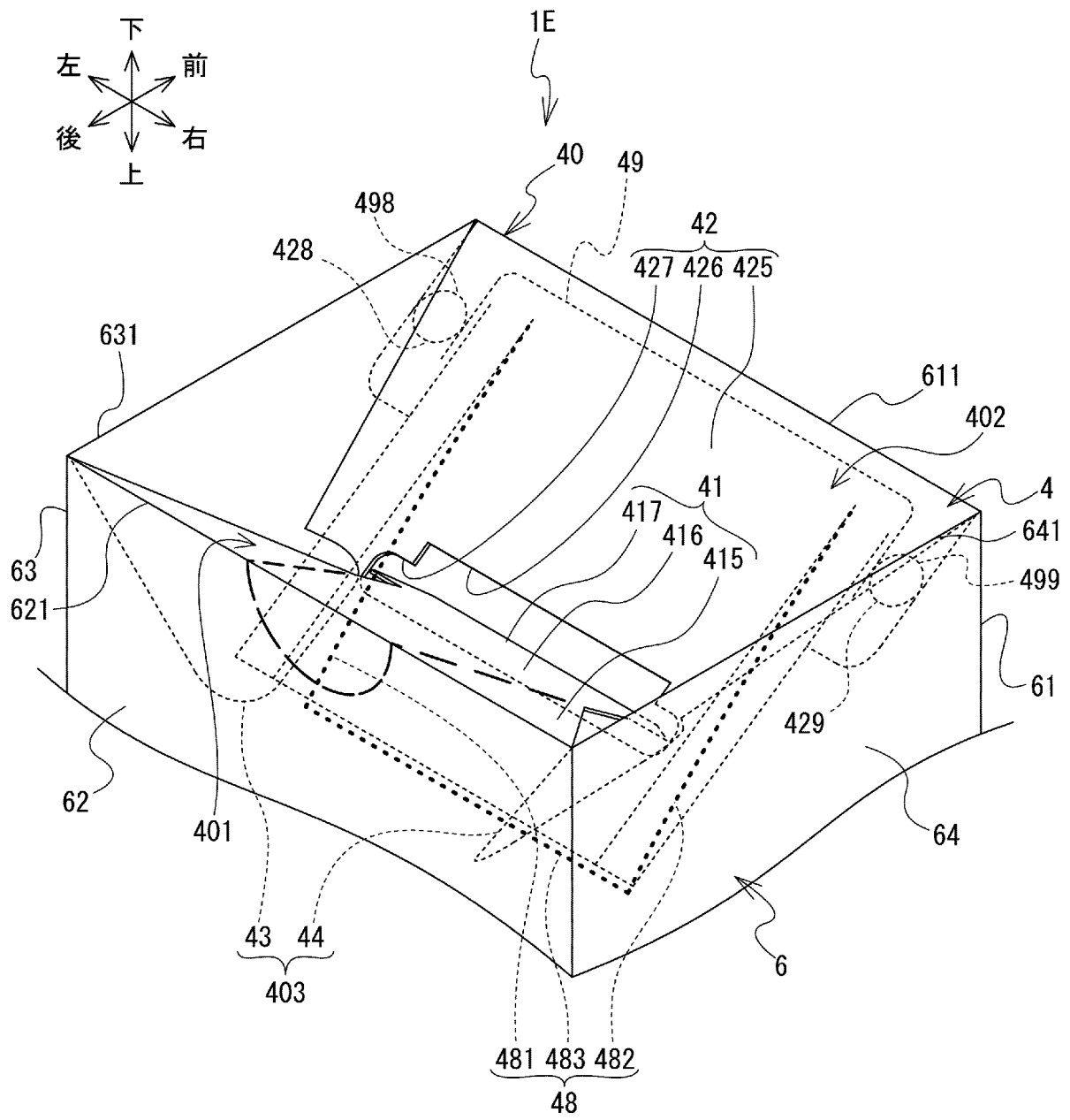
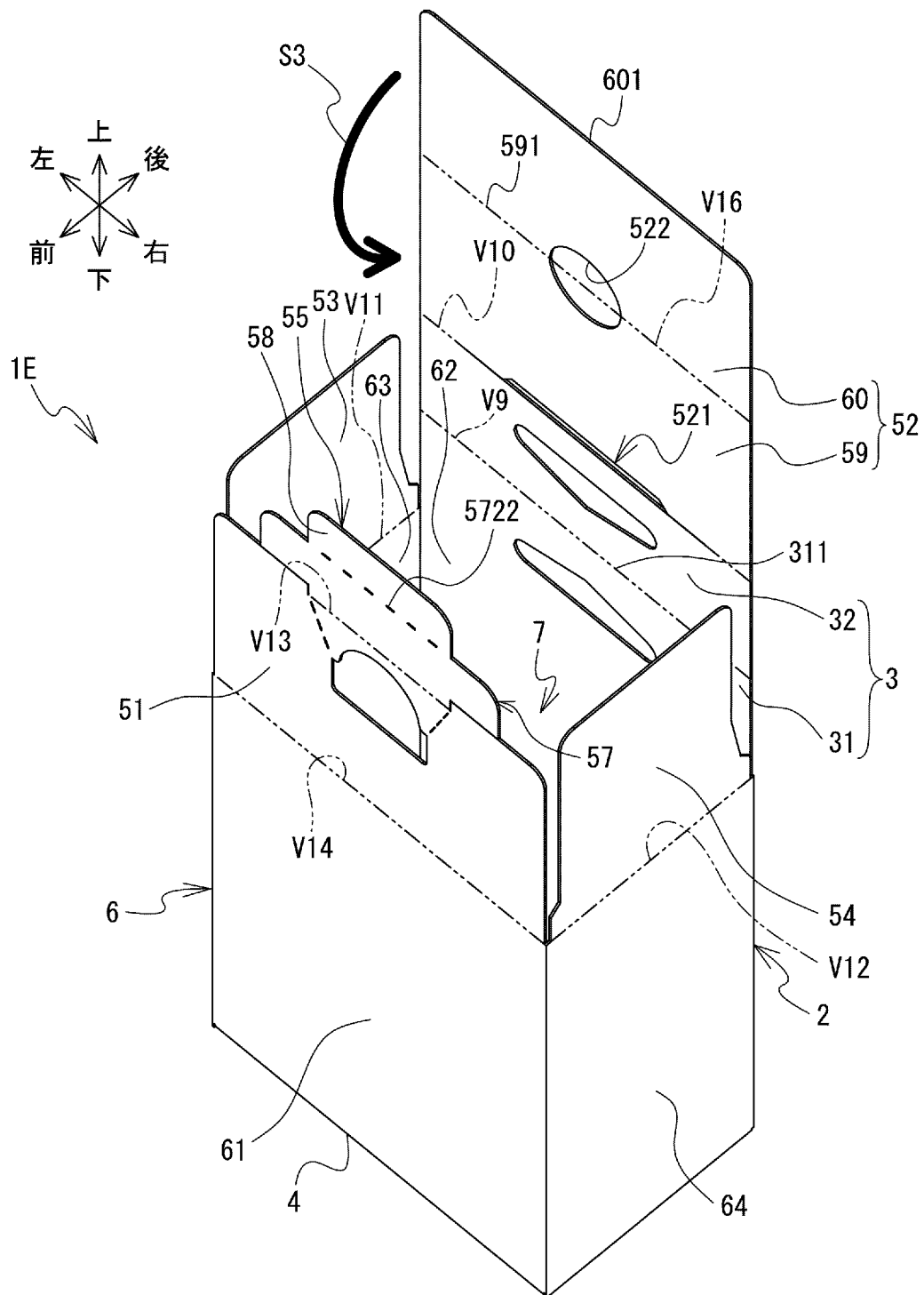


FIG. 1 is a perspective view of a vehicle interior structure 1E. The structure includes a front seat 40 and a rear seat 60. The front seat 40 is positioned in the foreground and includes a seat back 41, a seat cushion 42, and a seat base 43. The rear seat 60 is positioned behind the front seat 40 and includes a seat back 61, a seat cushion 62, and a seat base 63. Various components are labeled with reference numerals, and dashed lines indicate internal structures or hidden parts. A coordinate system is shown in the upper left corner, with arrows pointing in the directions of front, rear, left, right, up, and down.

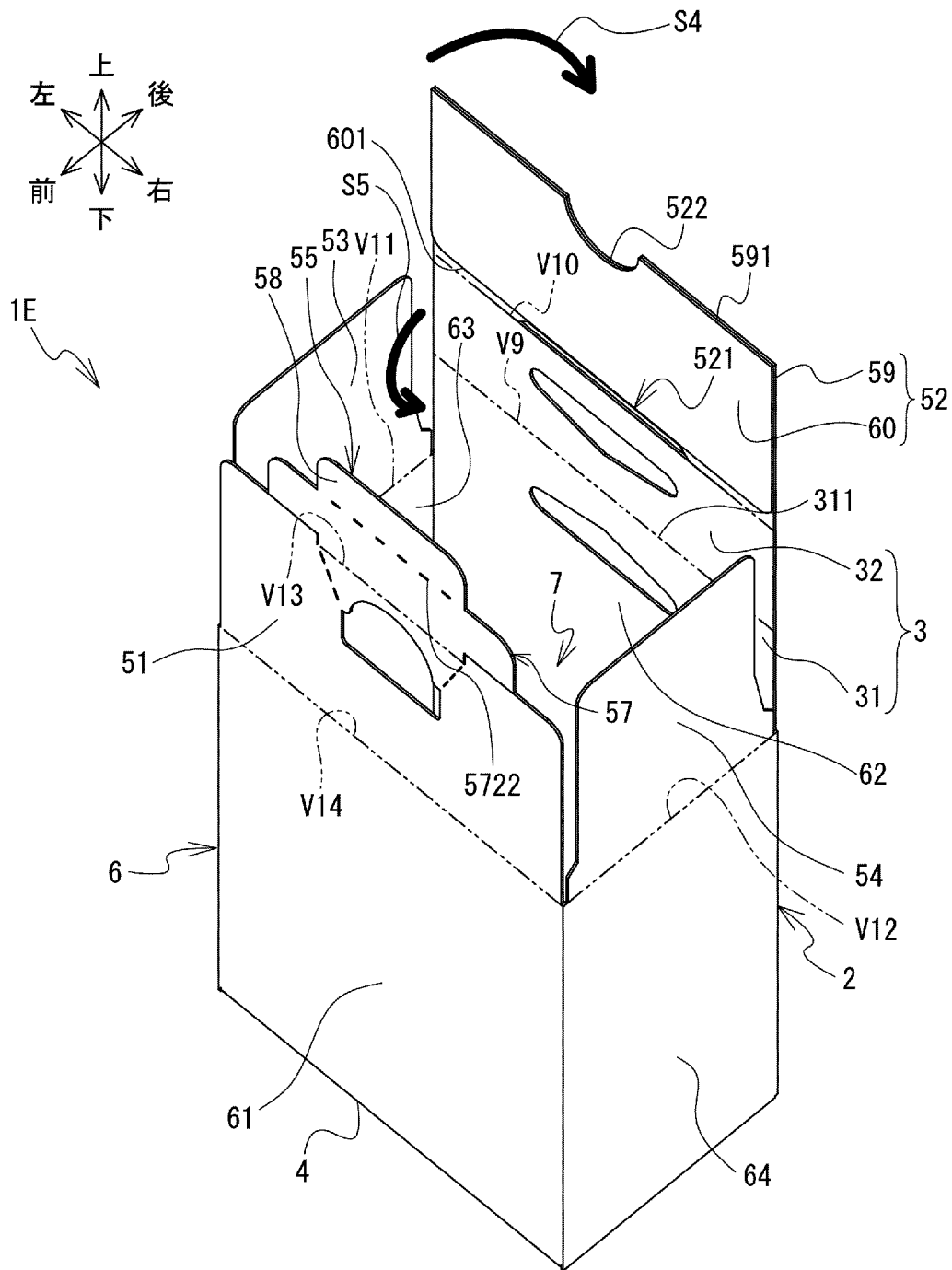
[図35]



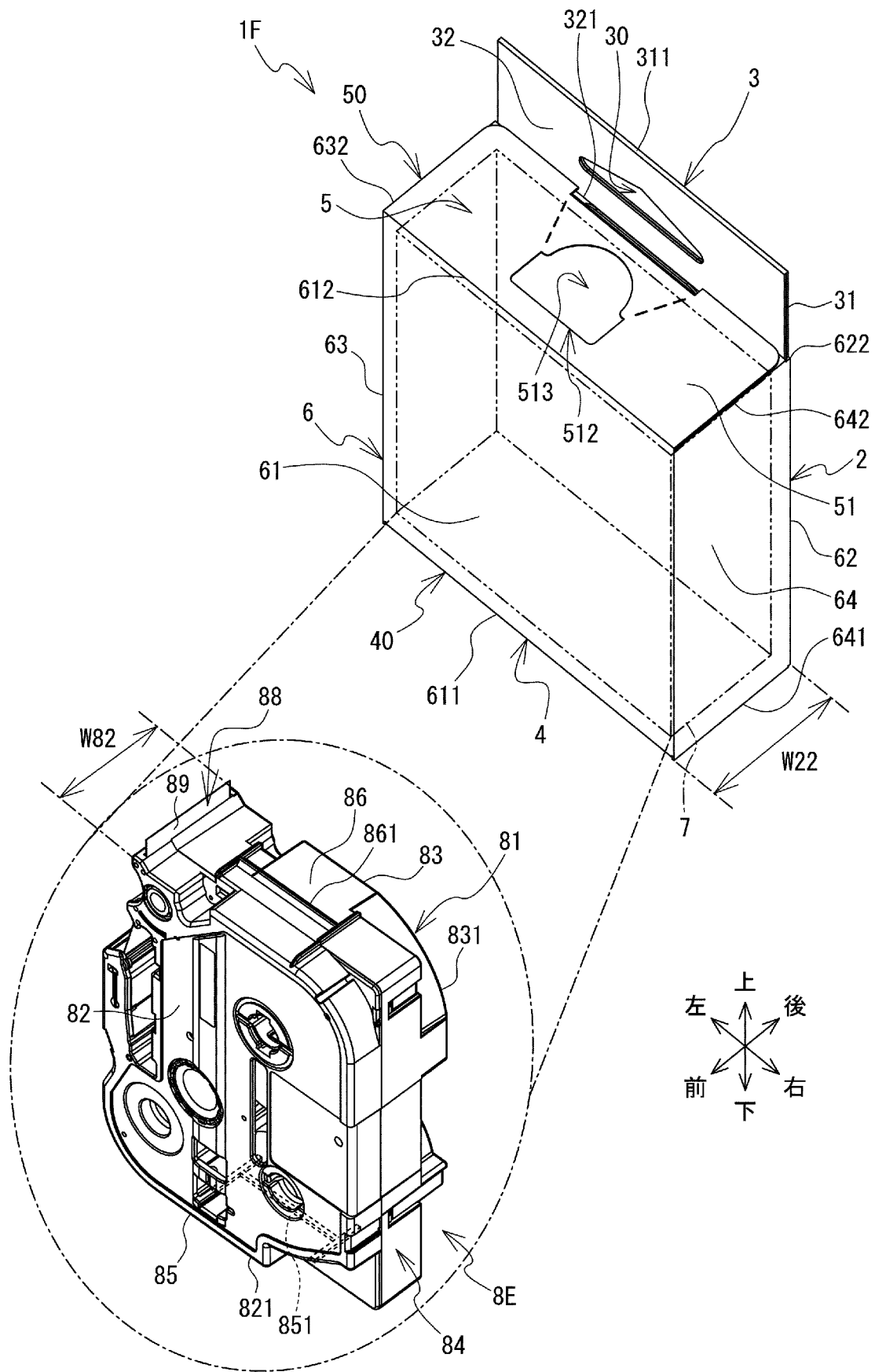
[図36]



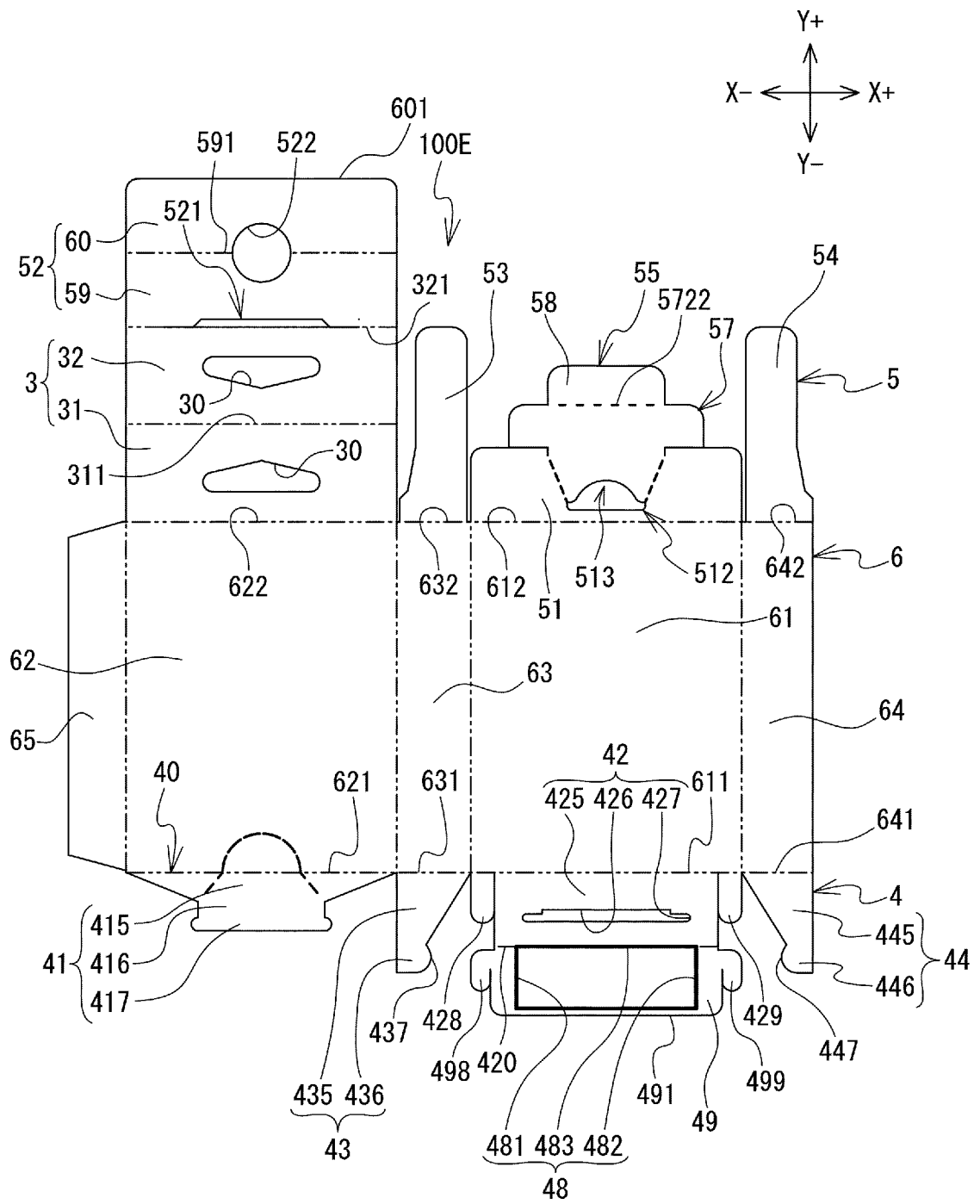
[図37]



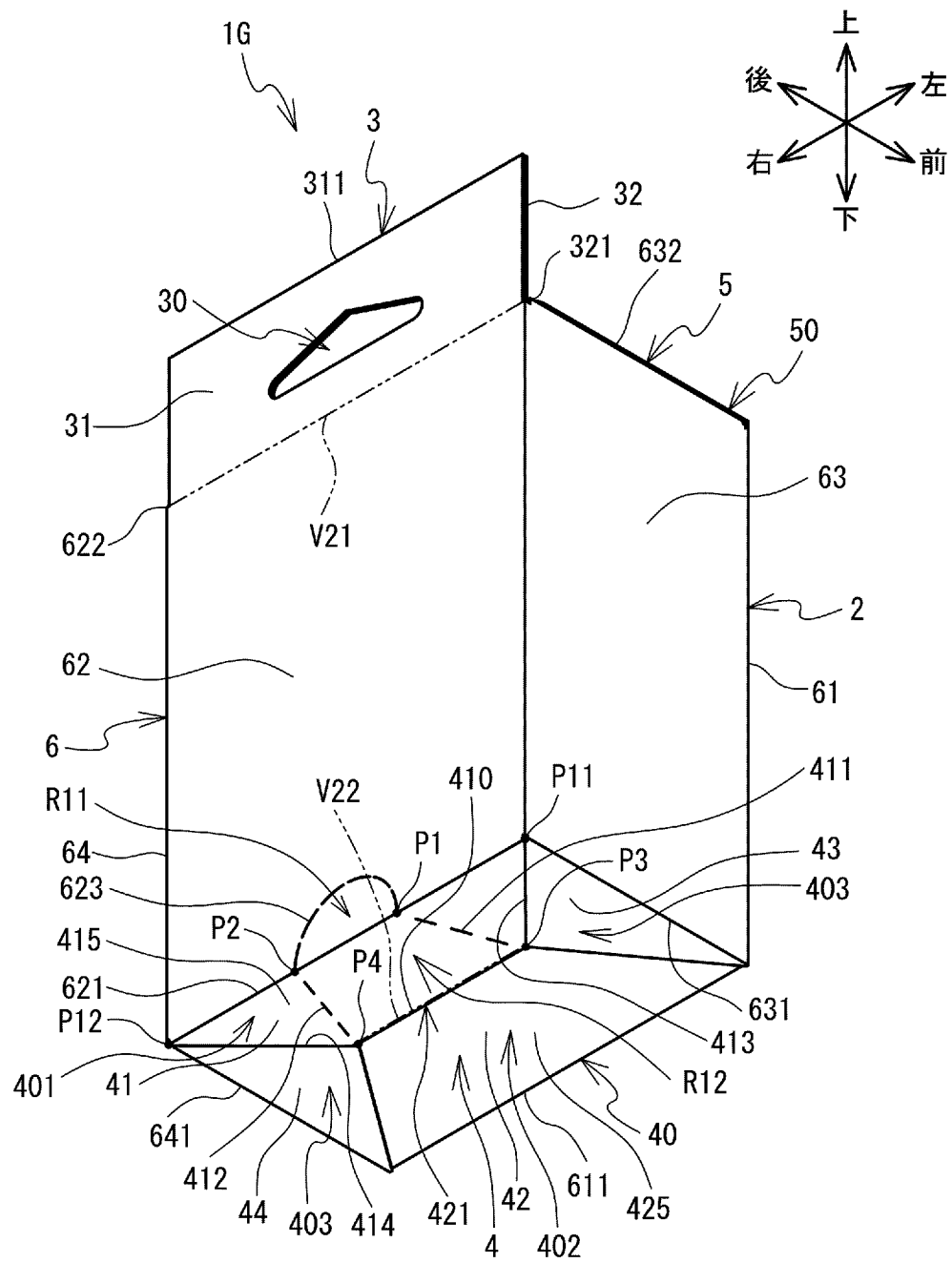
[図38]



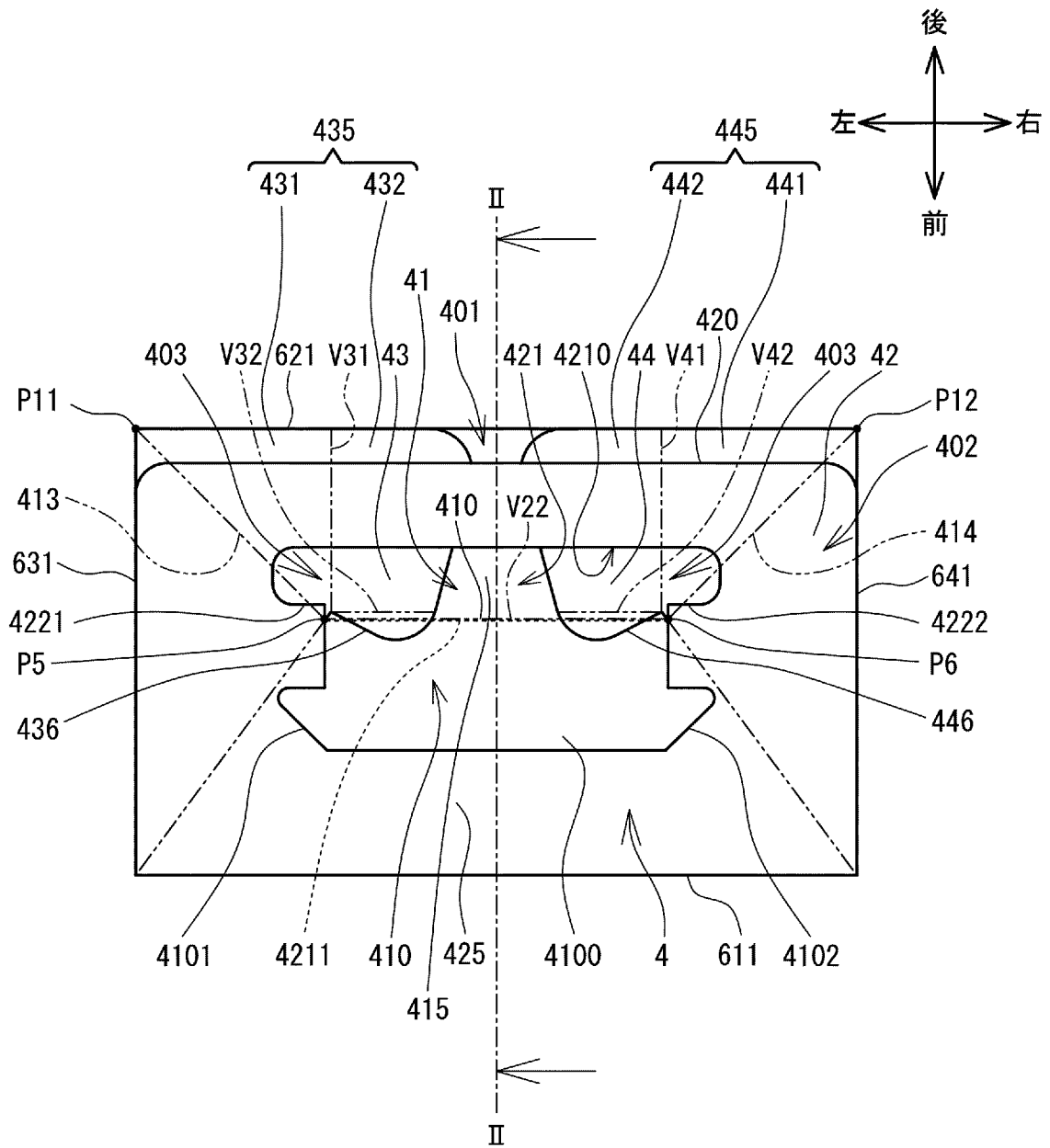
[図39]



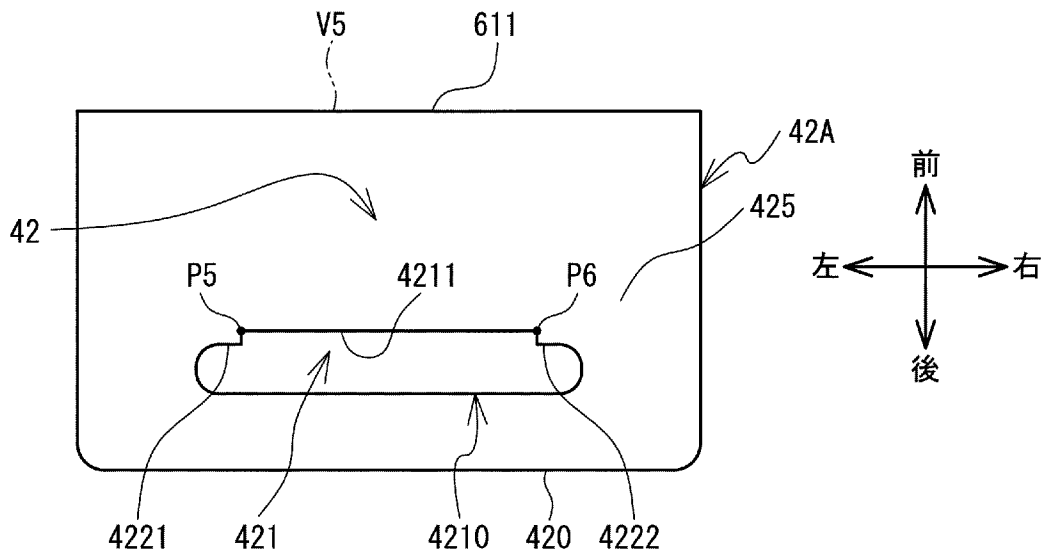
[図41]



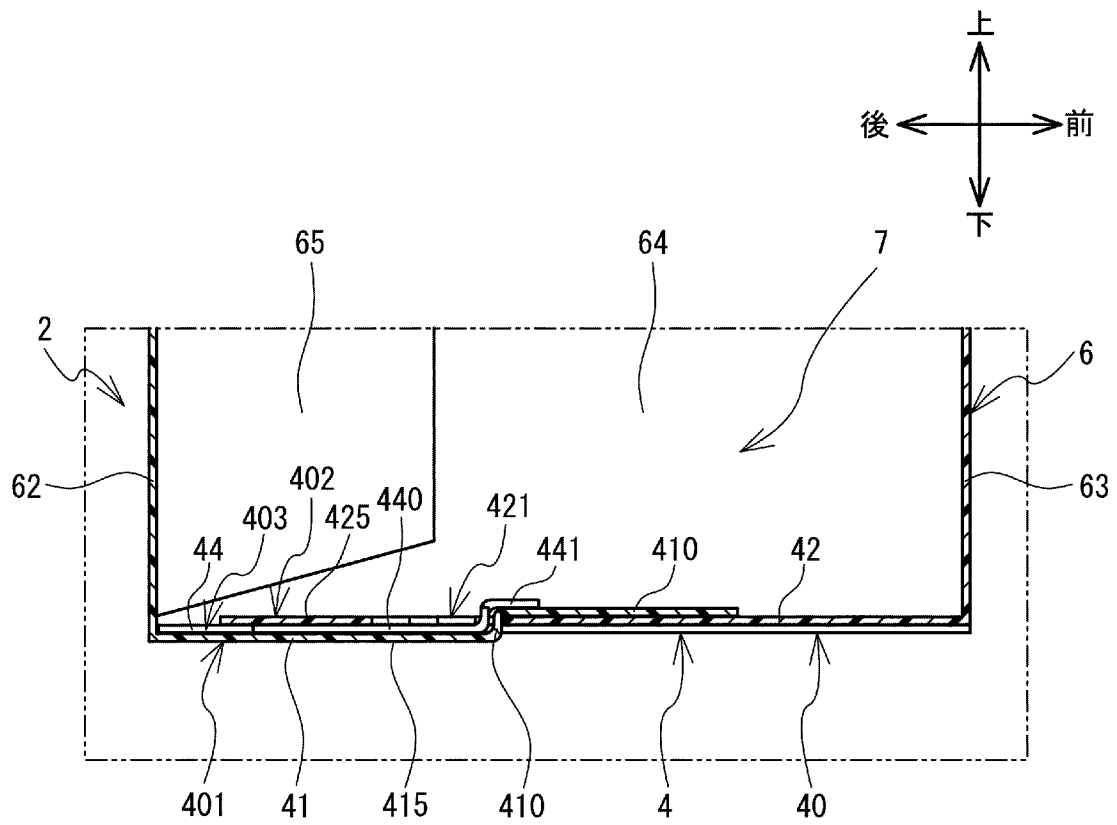
[図42]



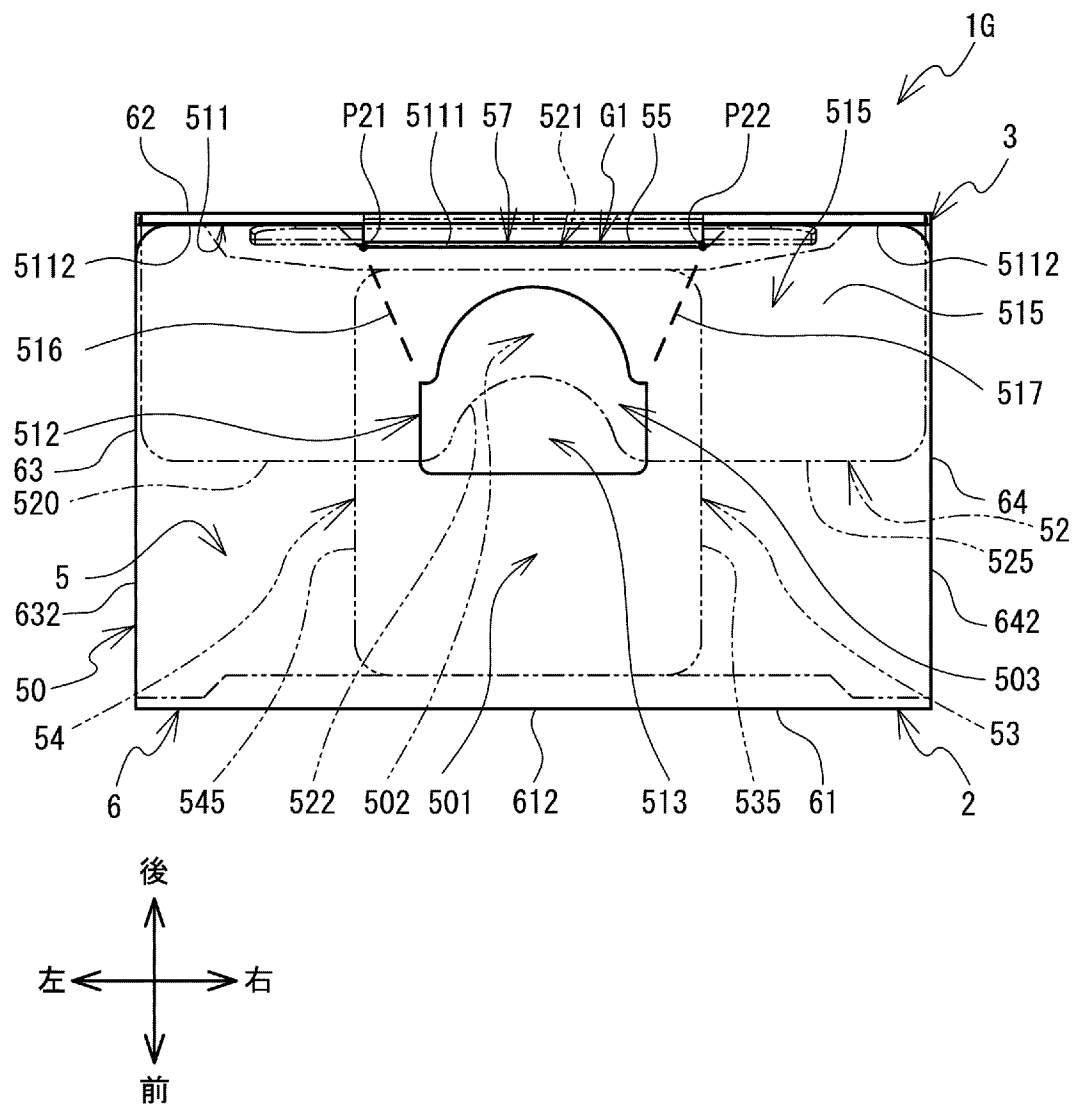
[図43]



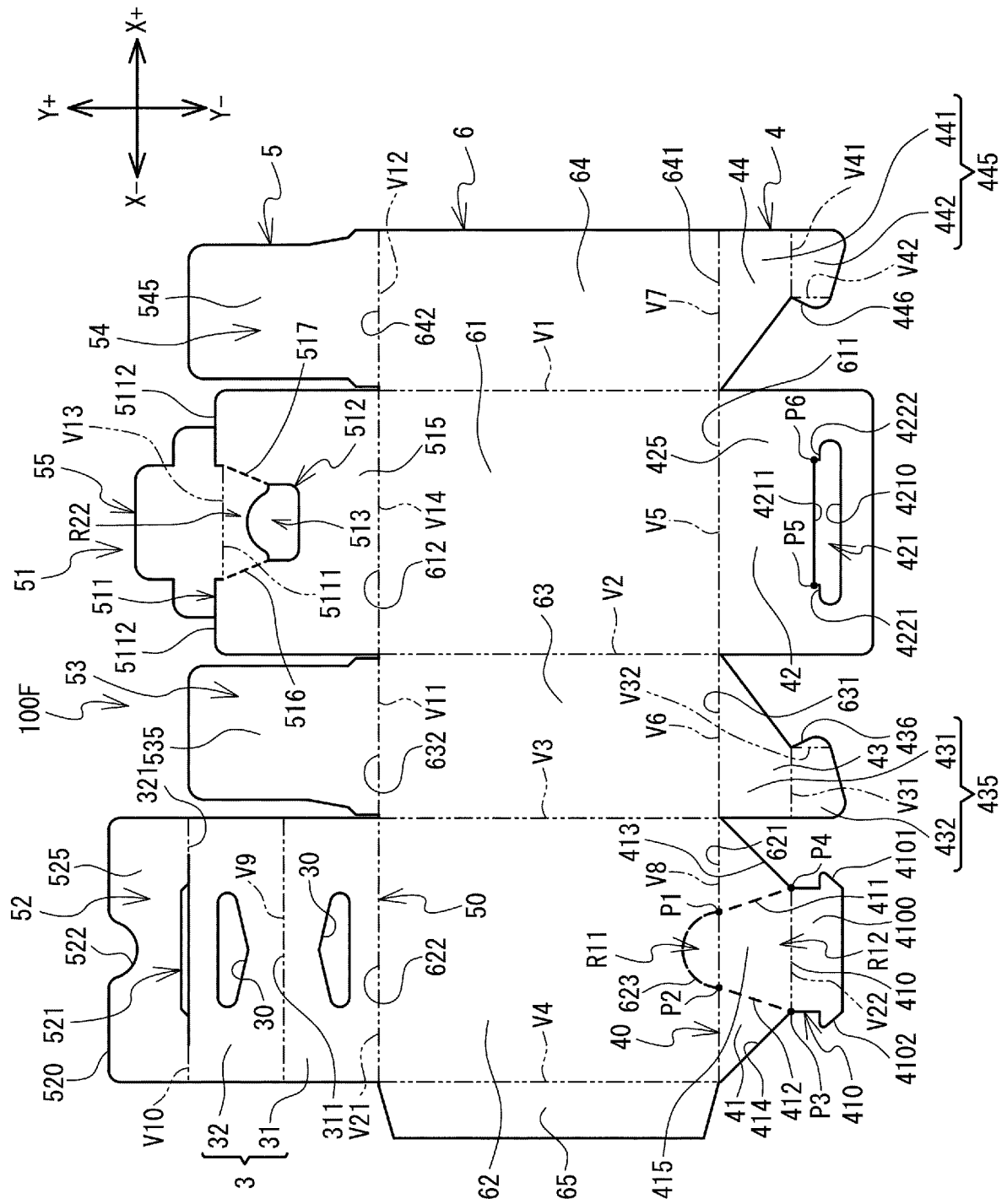
[図44]



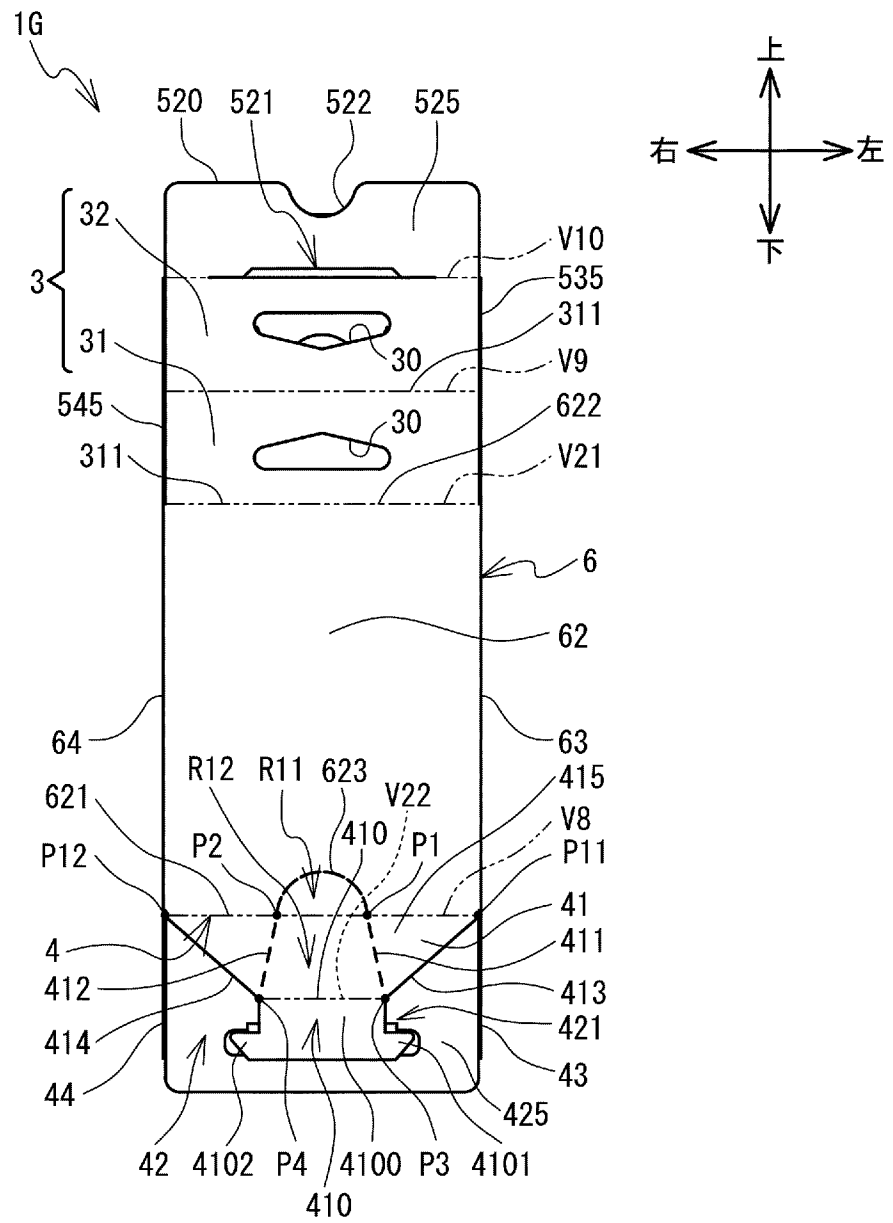
[図45]



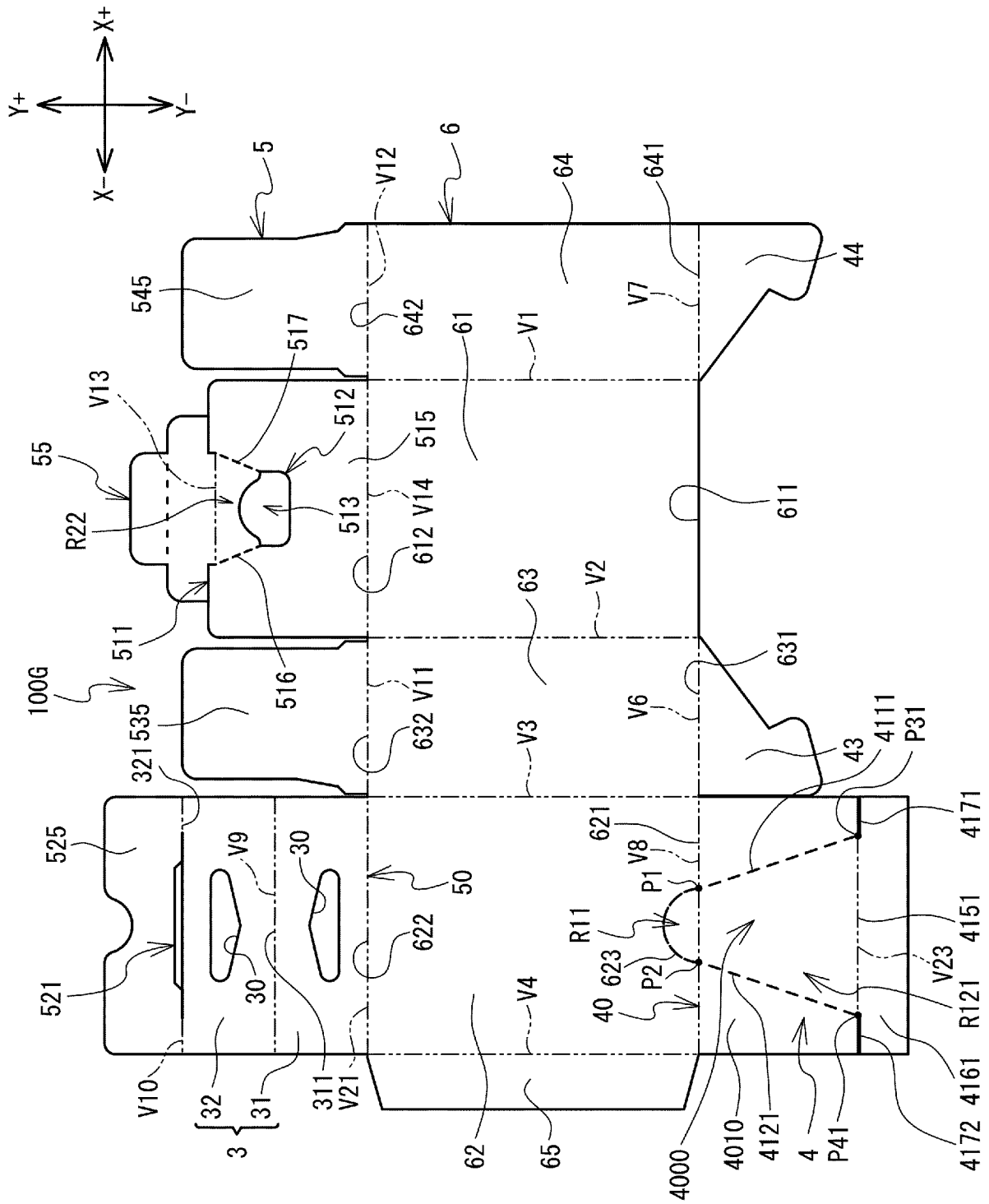
[図46]



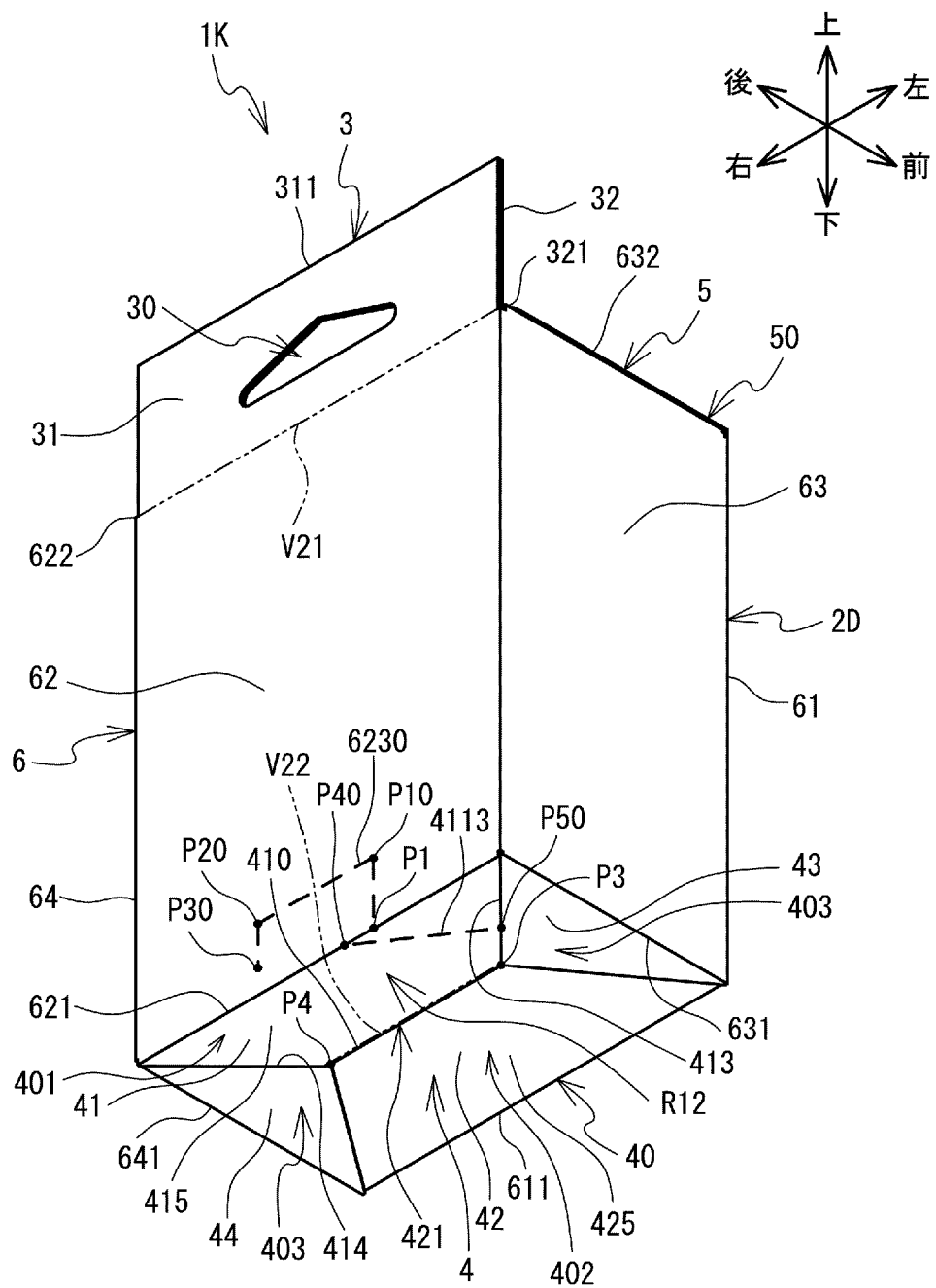
[図48]



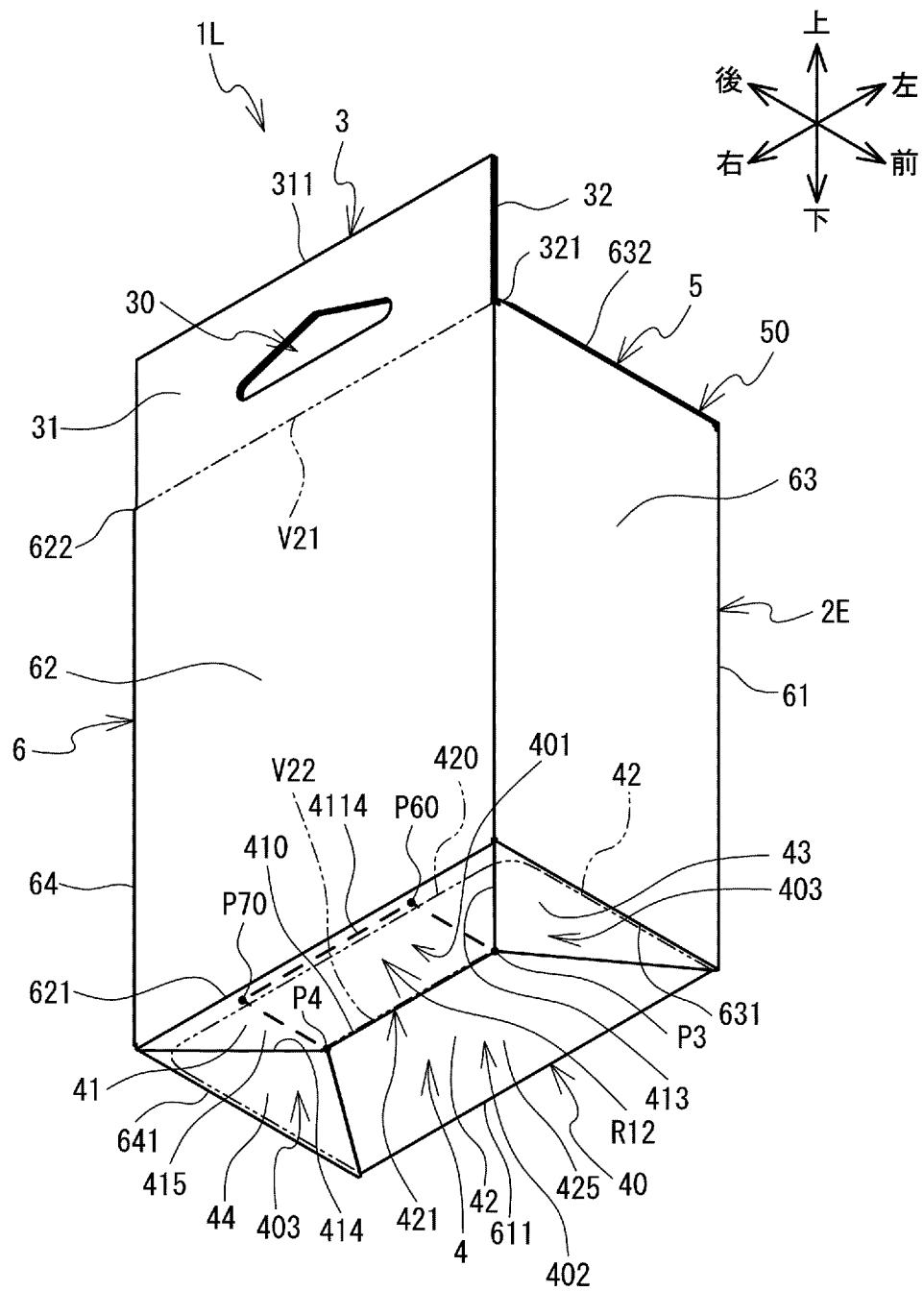
[図51]



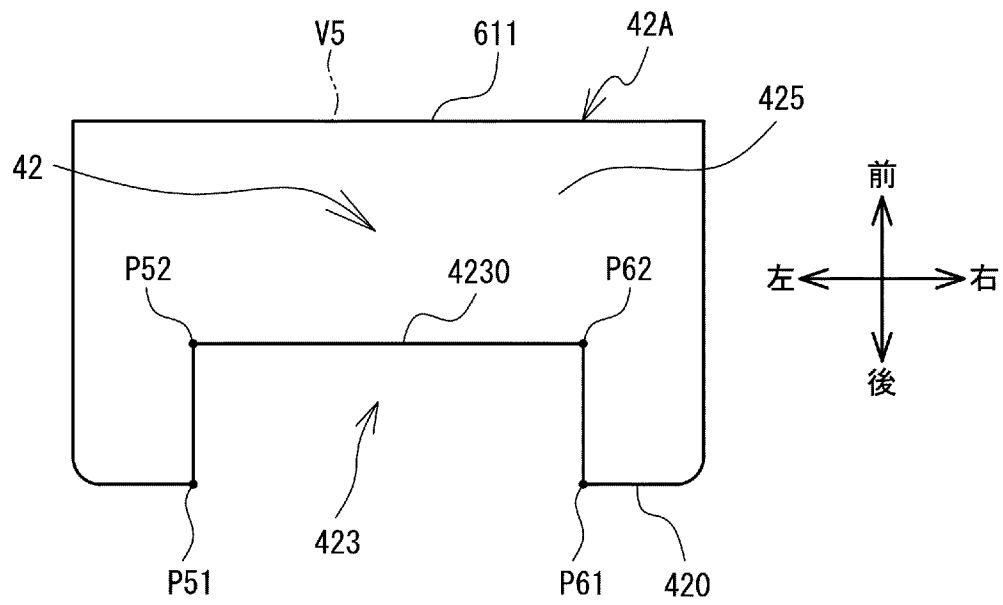
[図53]



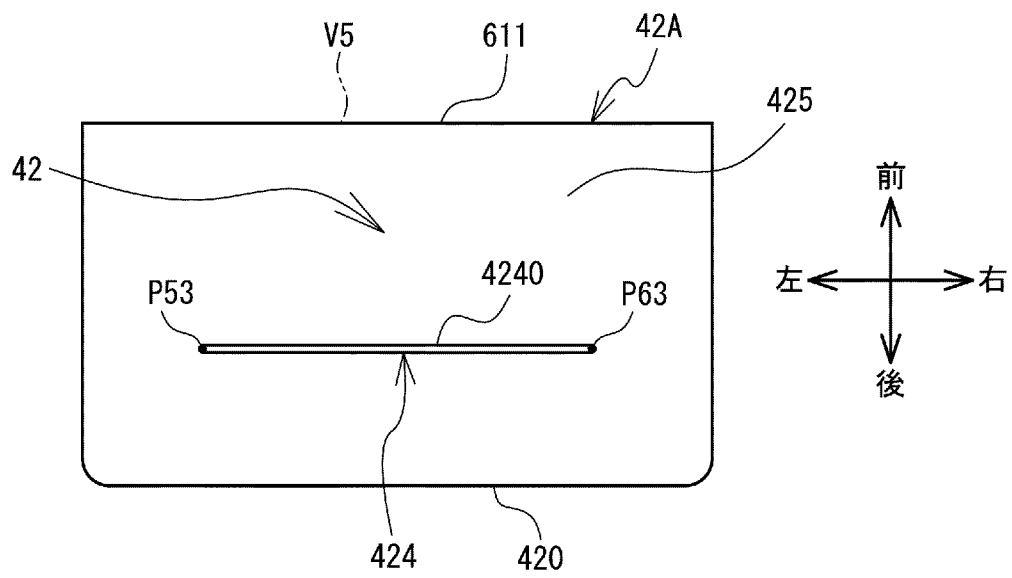
[図54]



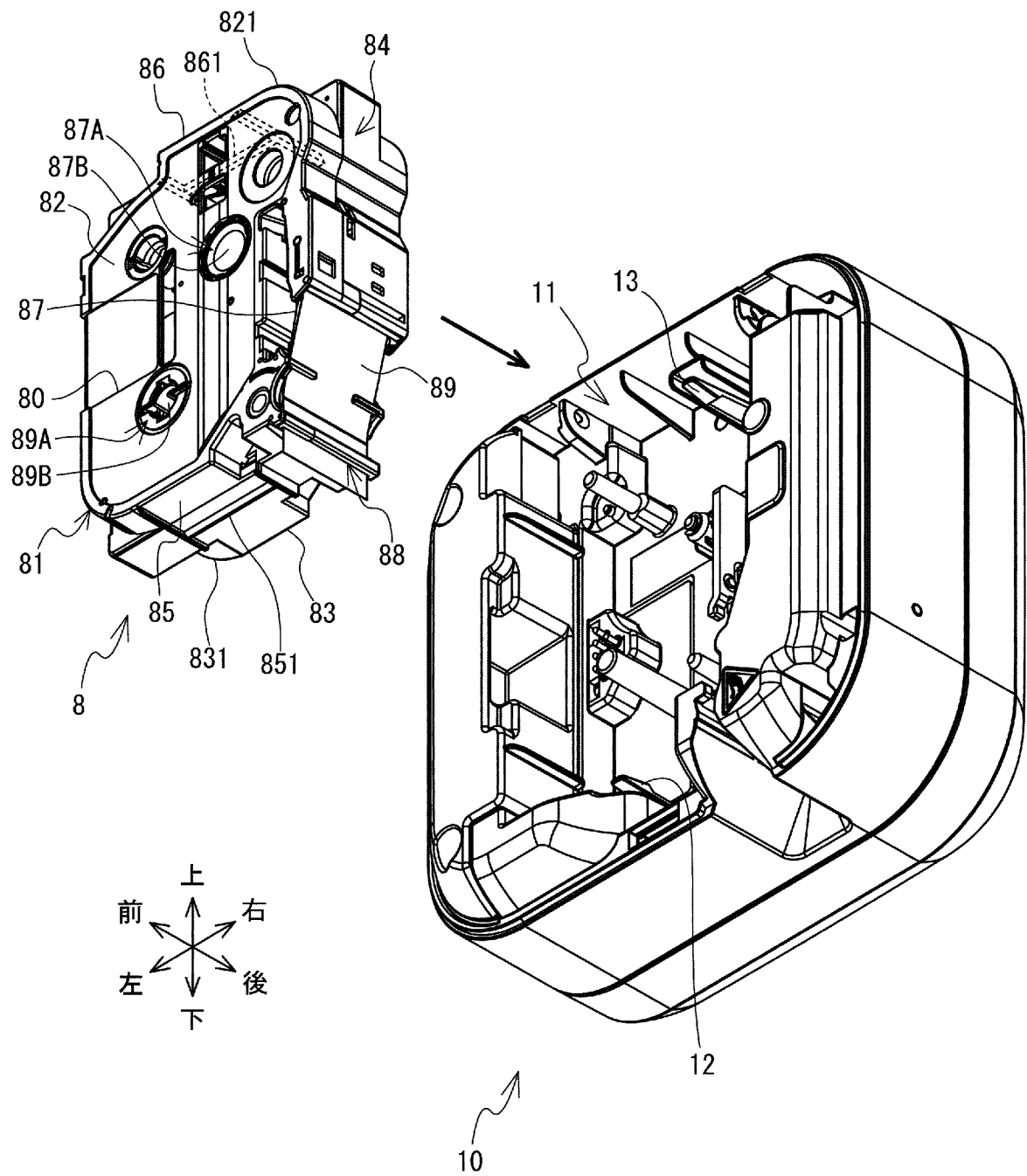
[図55]



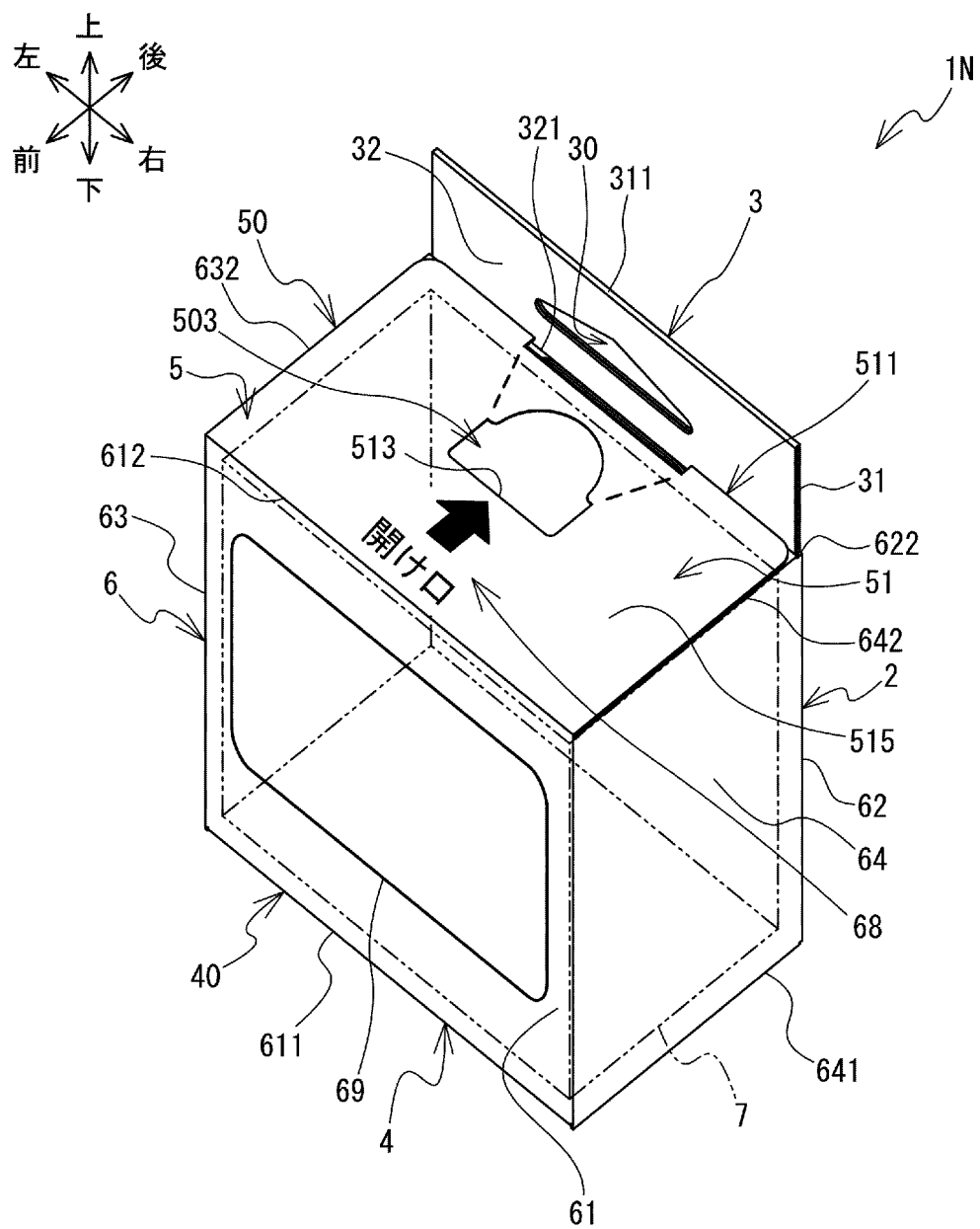
[図56]



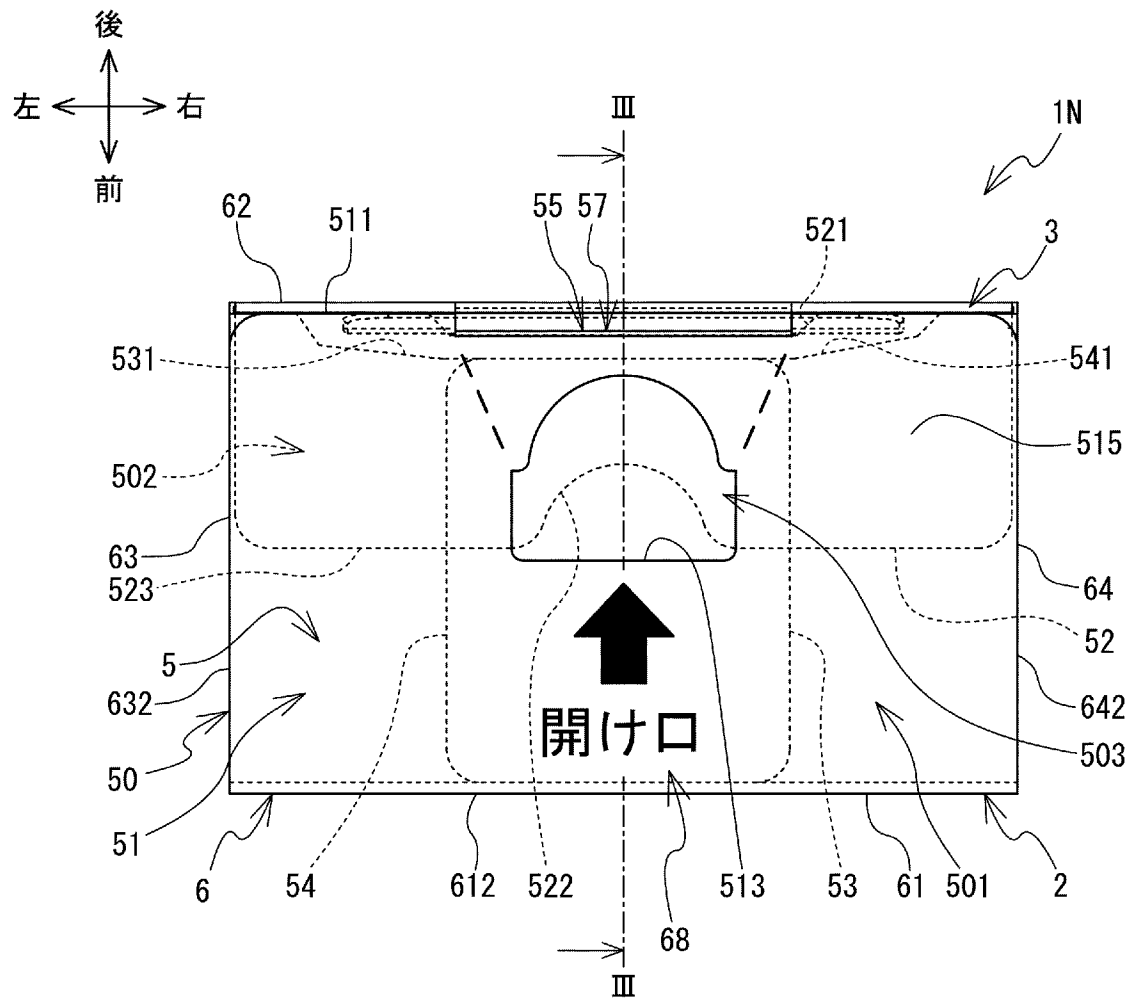
[図57]



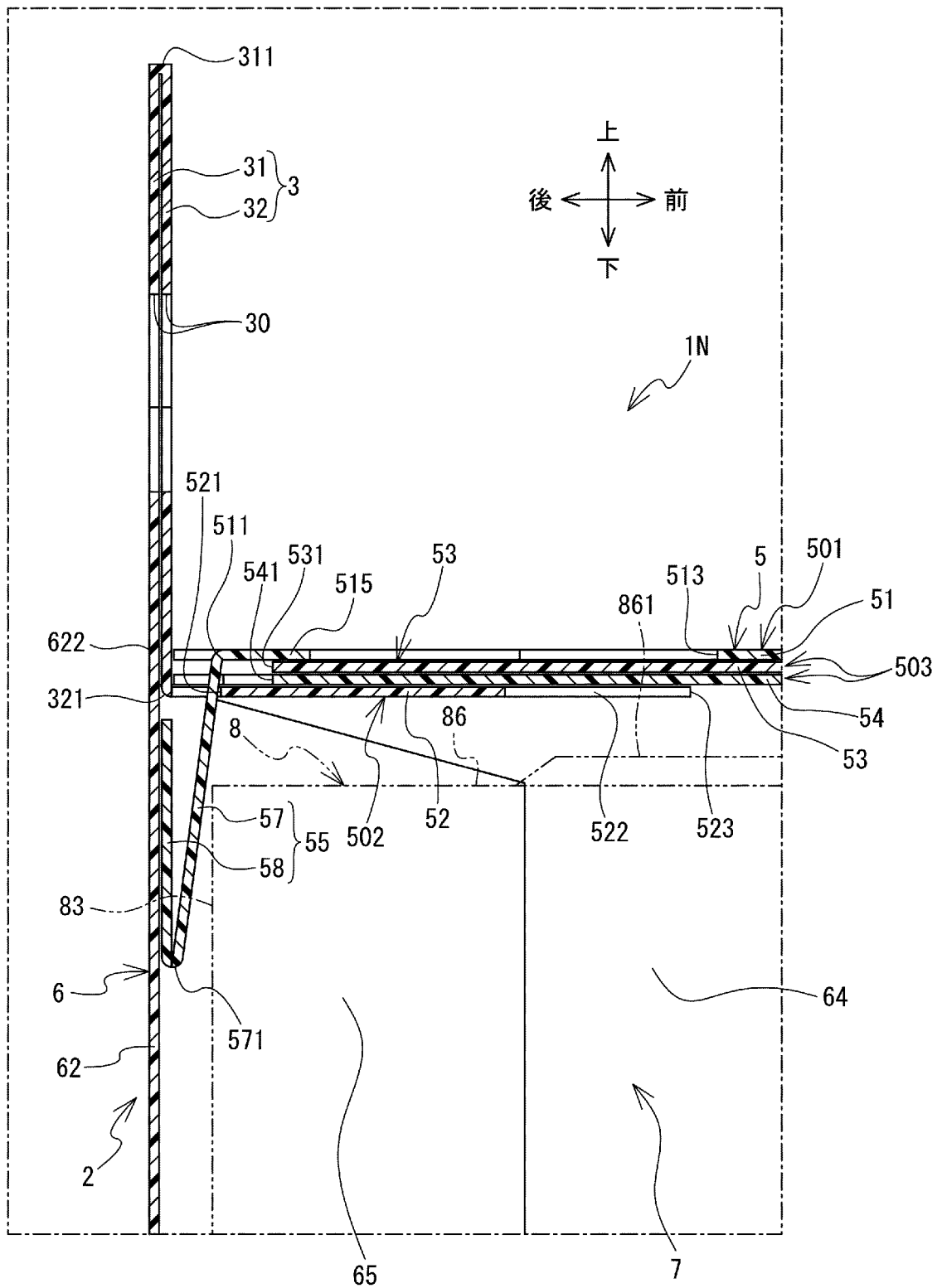
[図58]



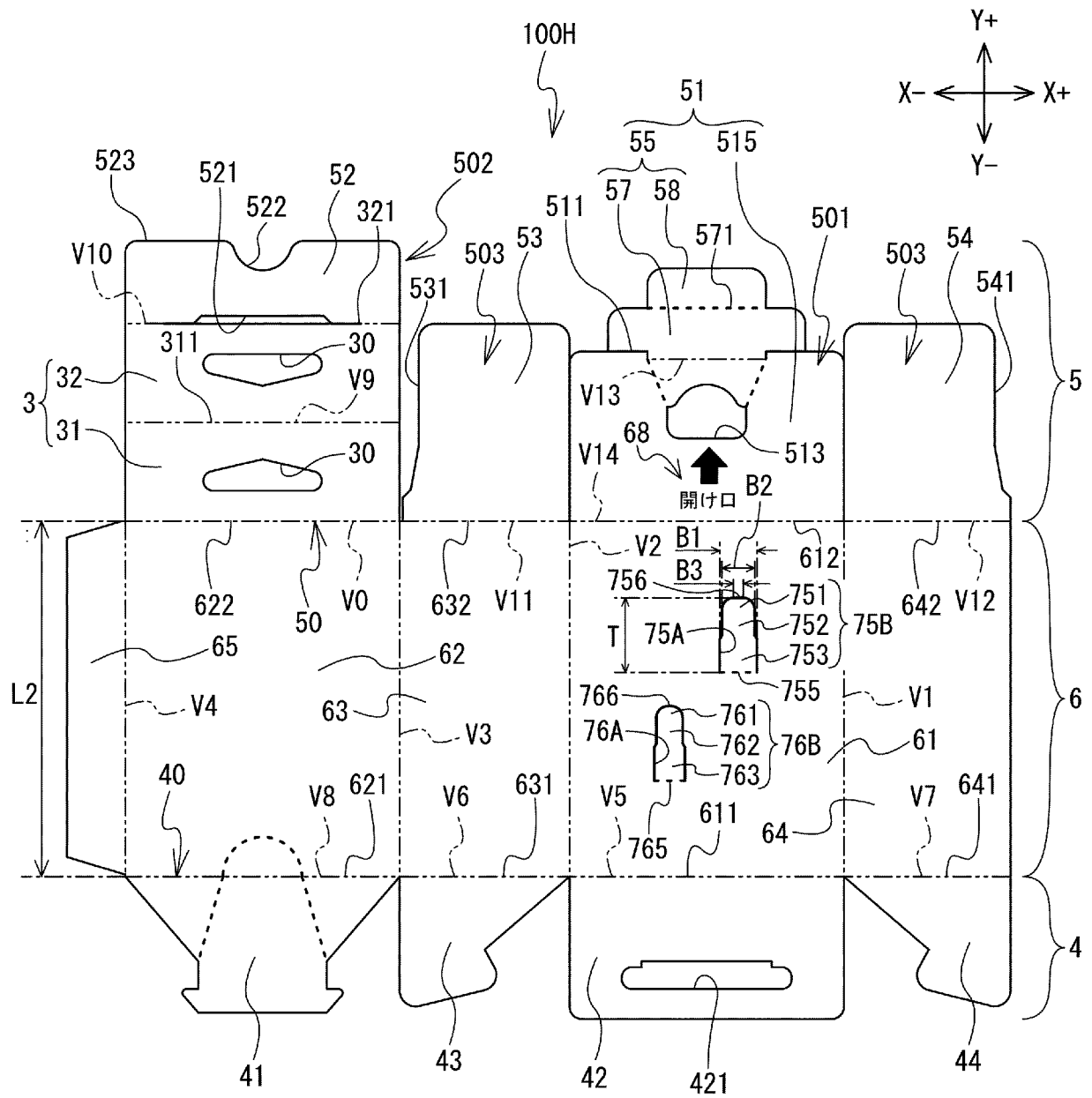
[図60]



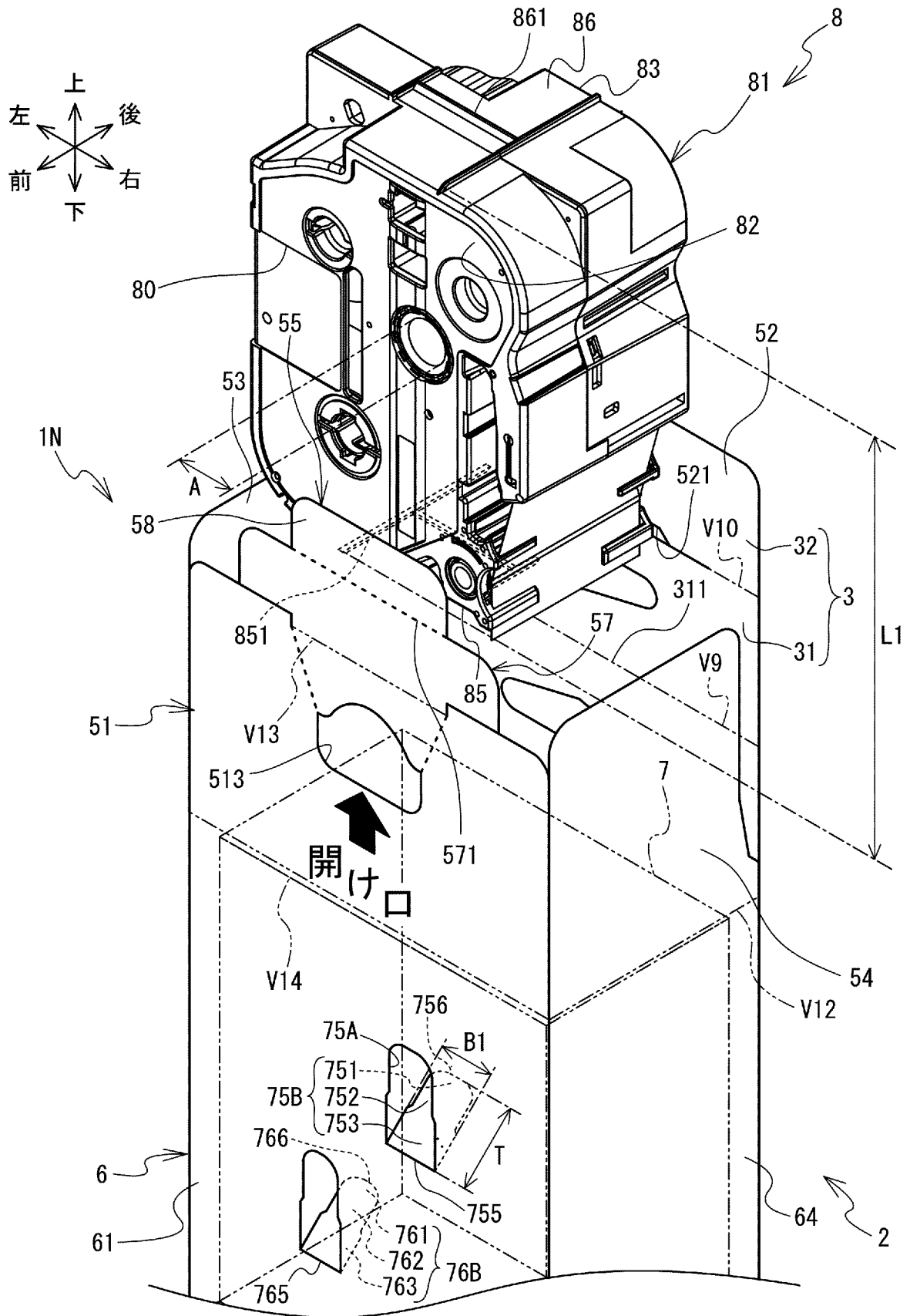
[図61]



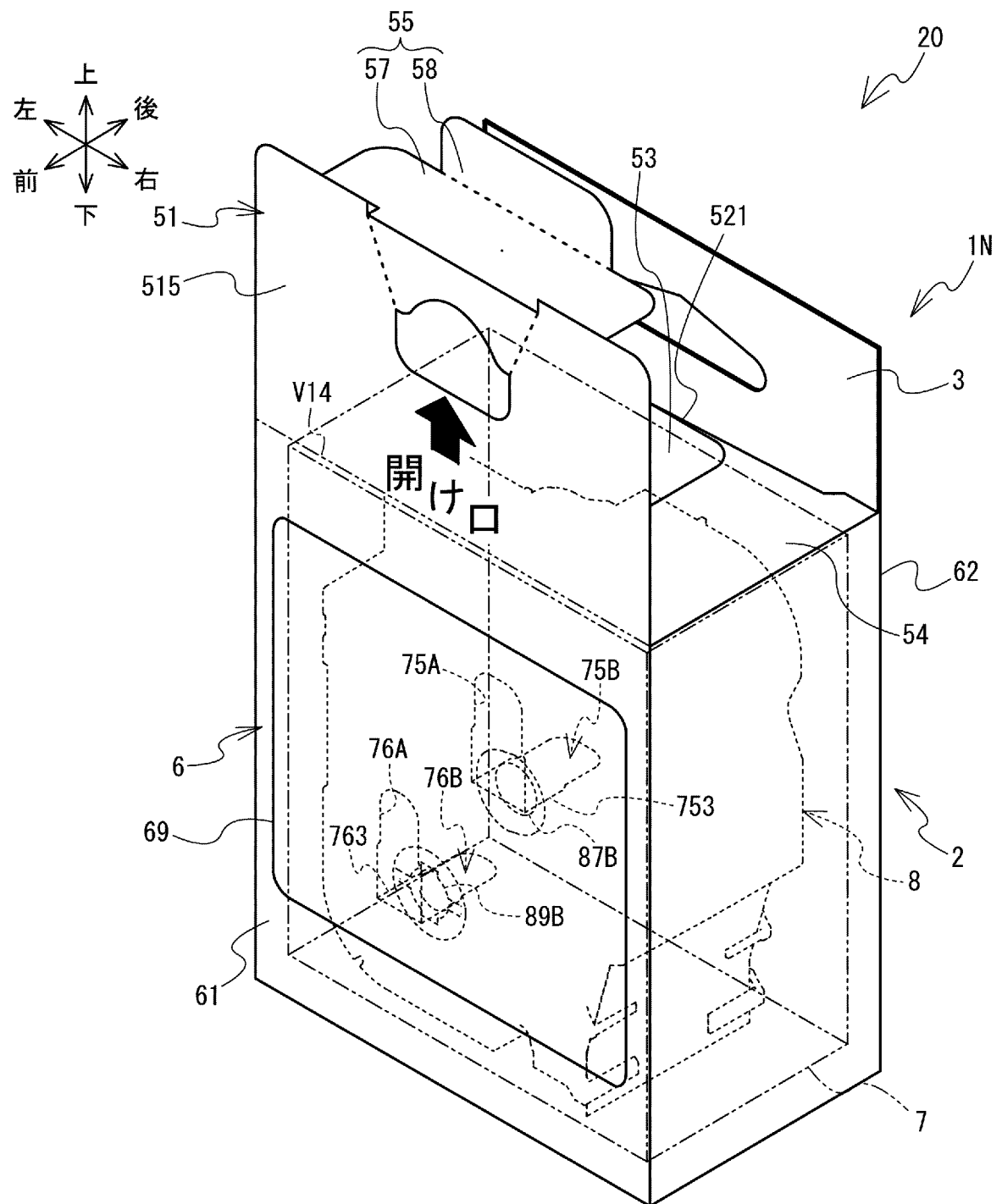
[図62]



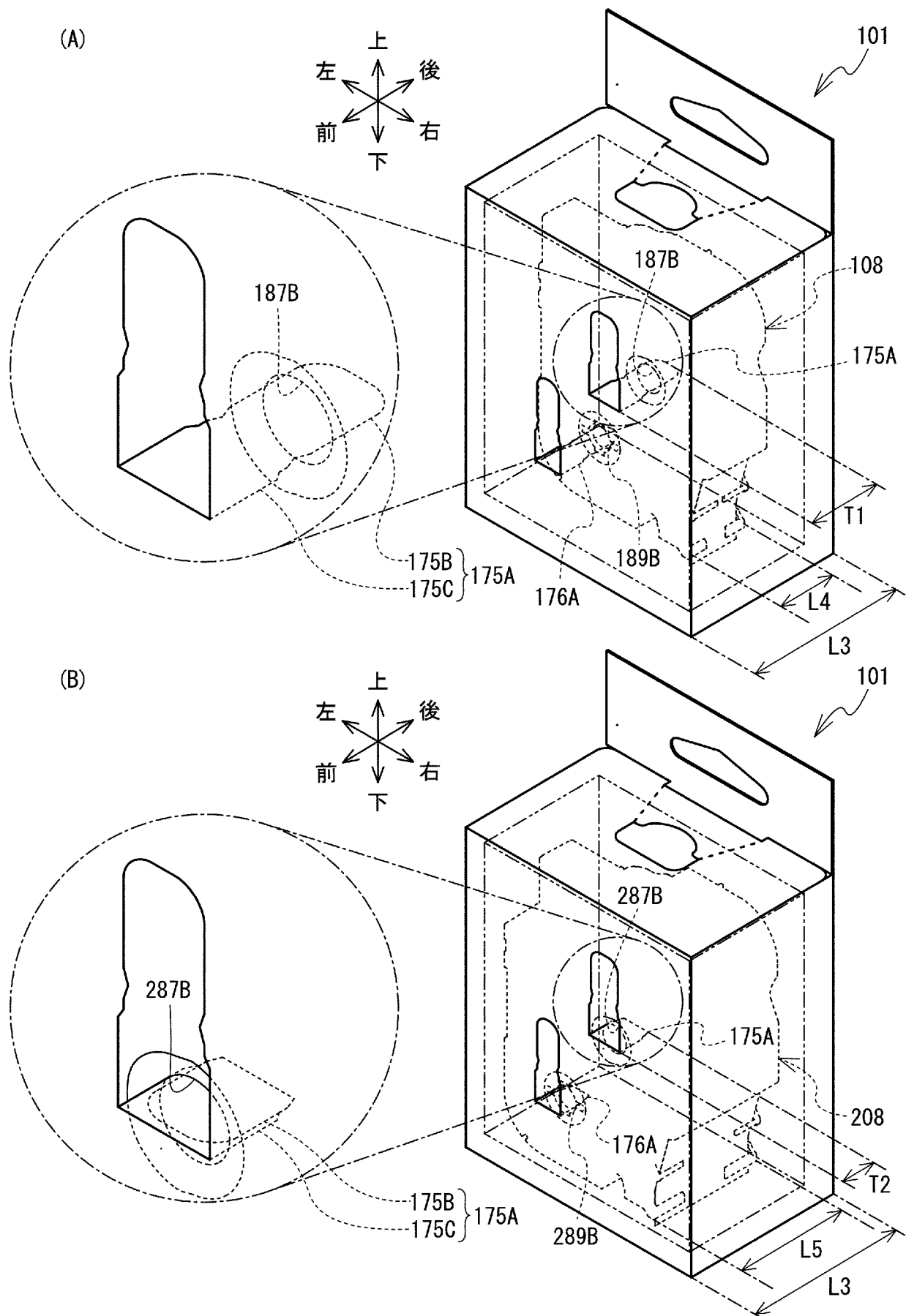
[図63]



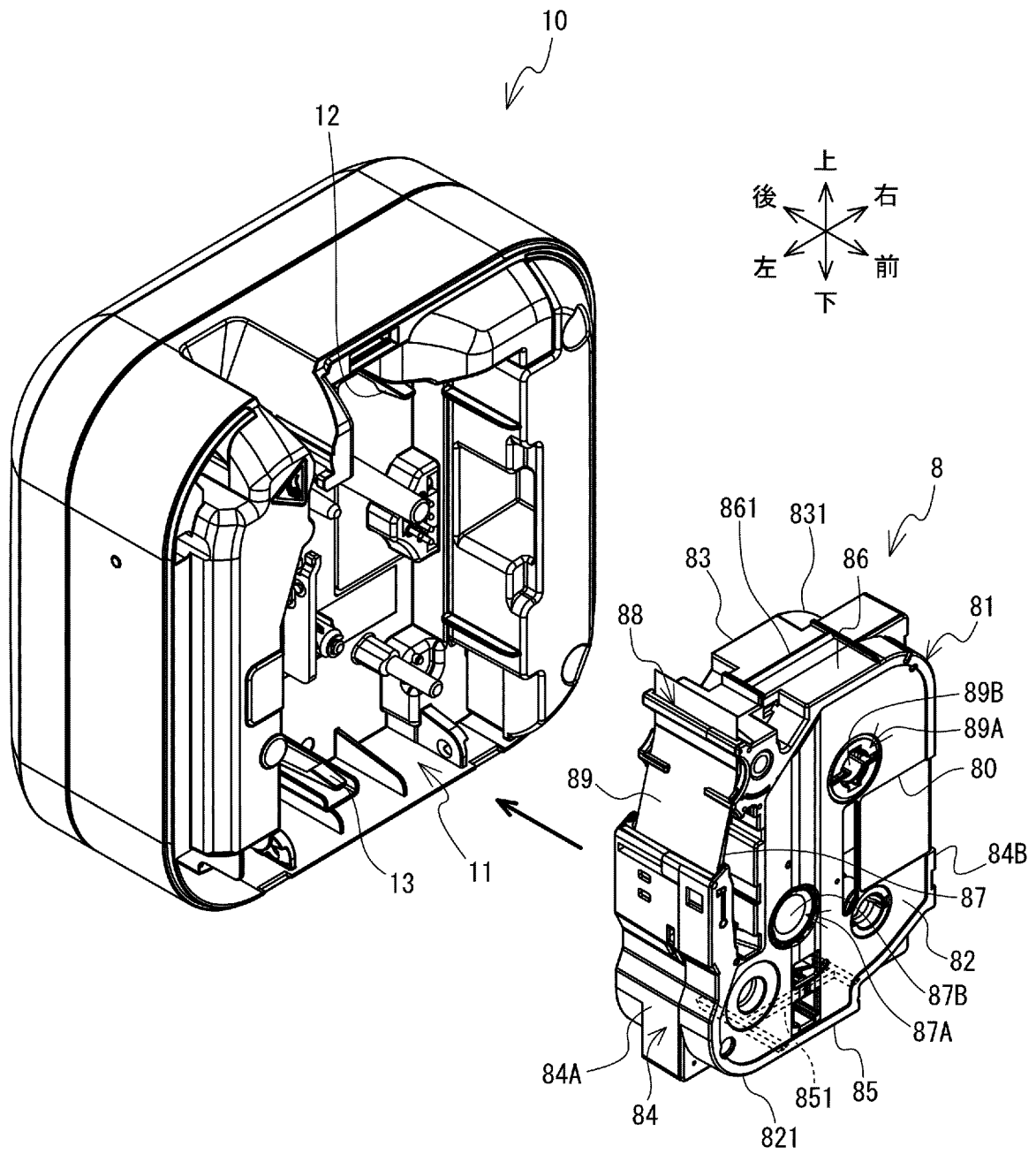
[図64]



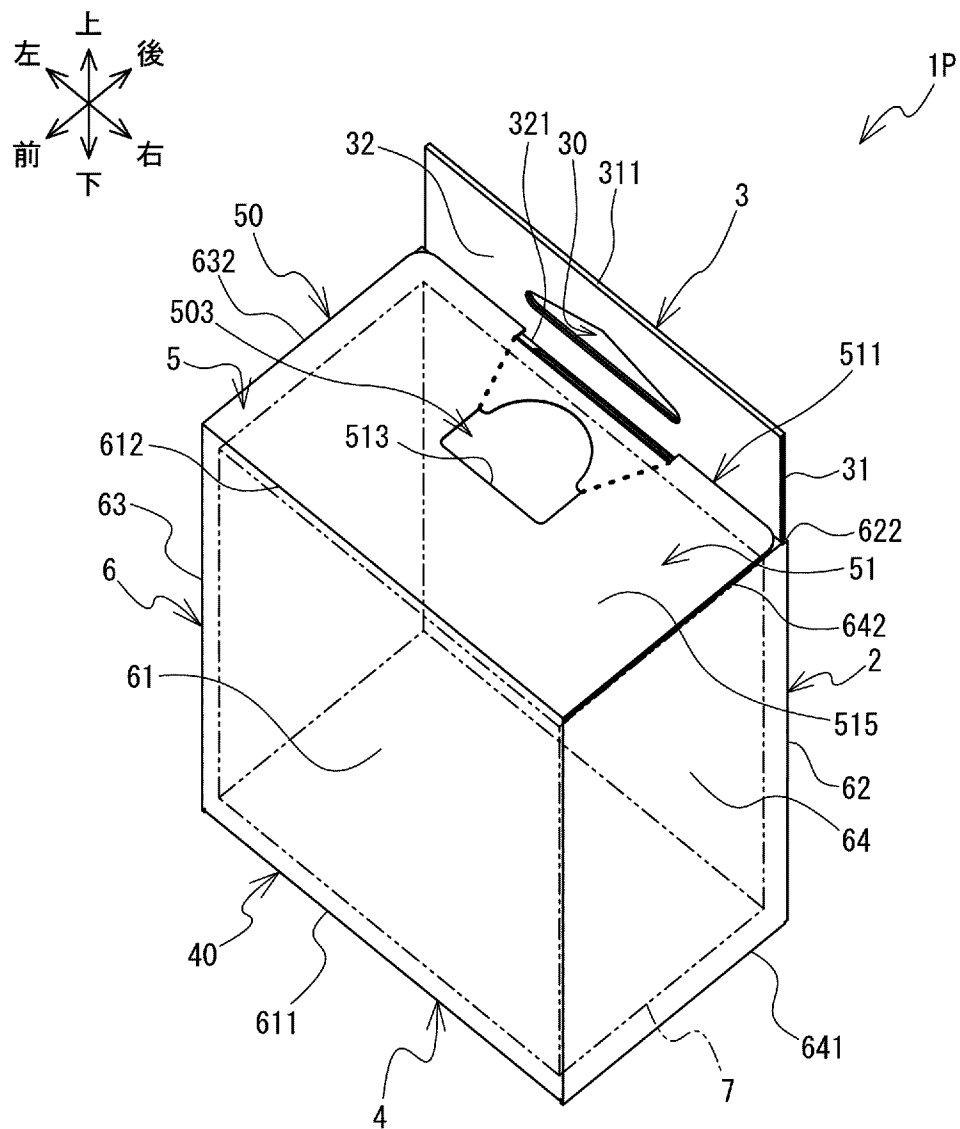
[図65]



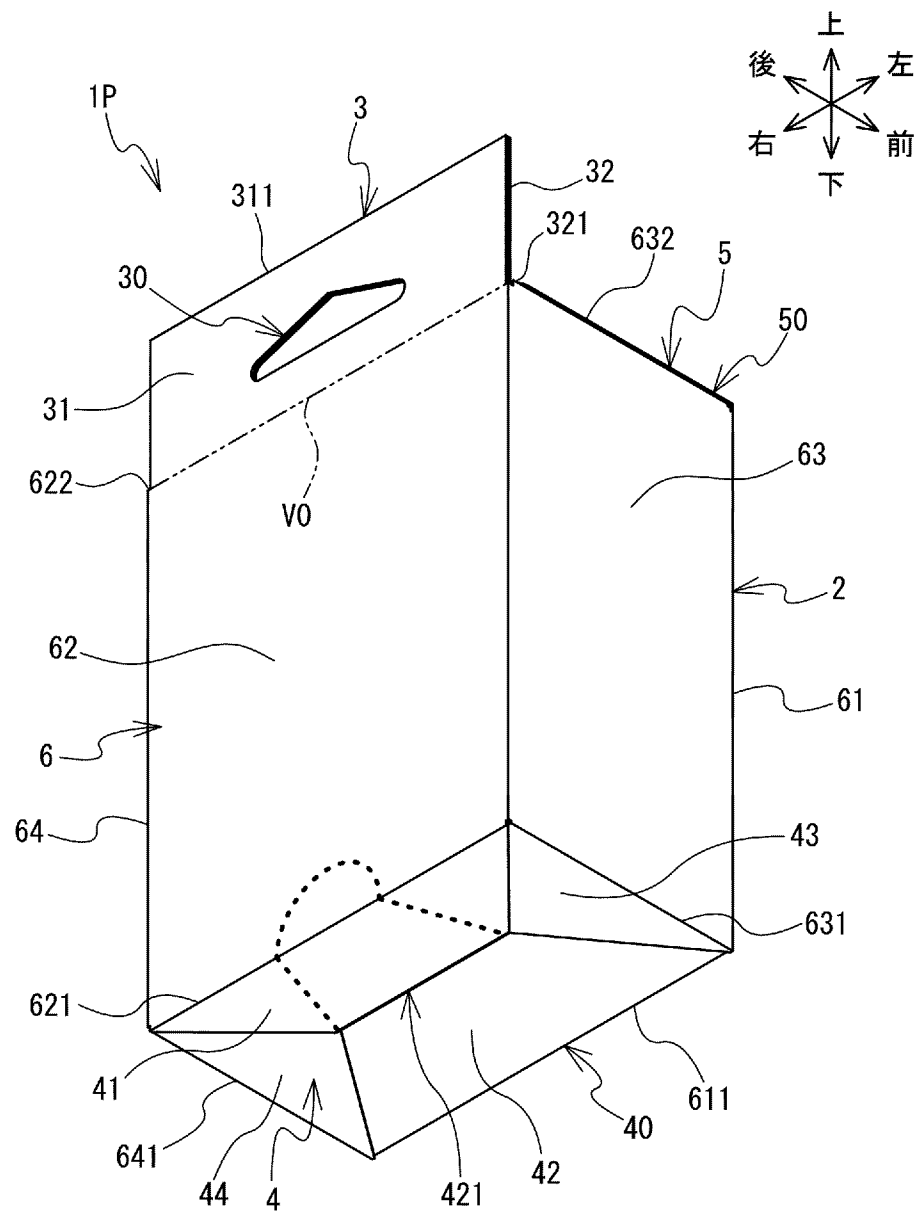
[図66]



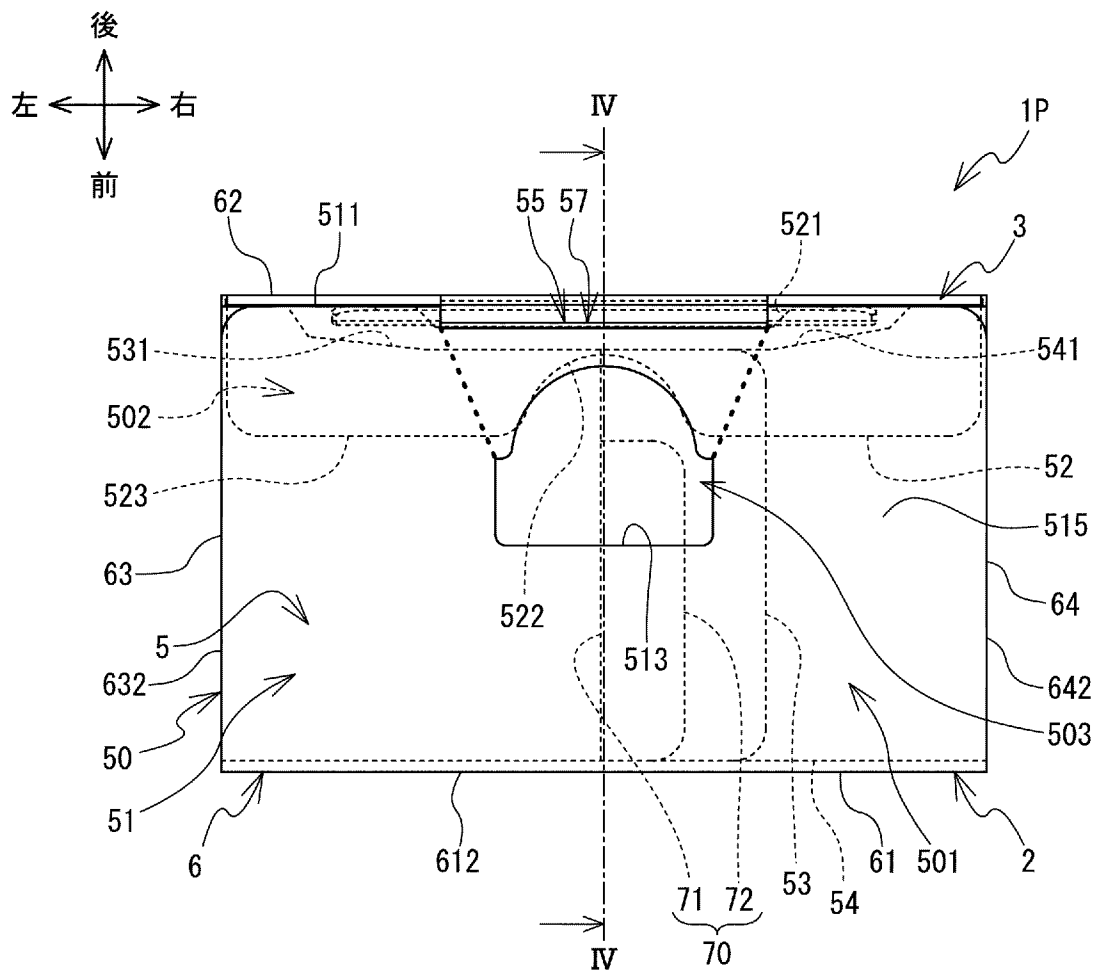
[図67]



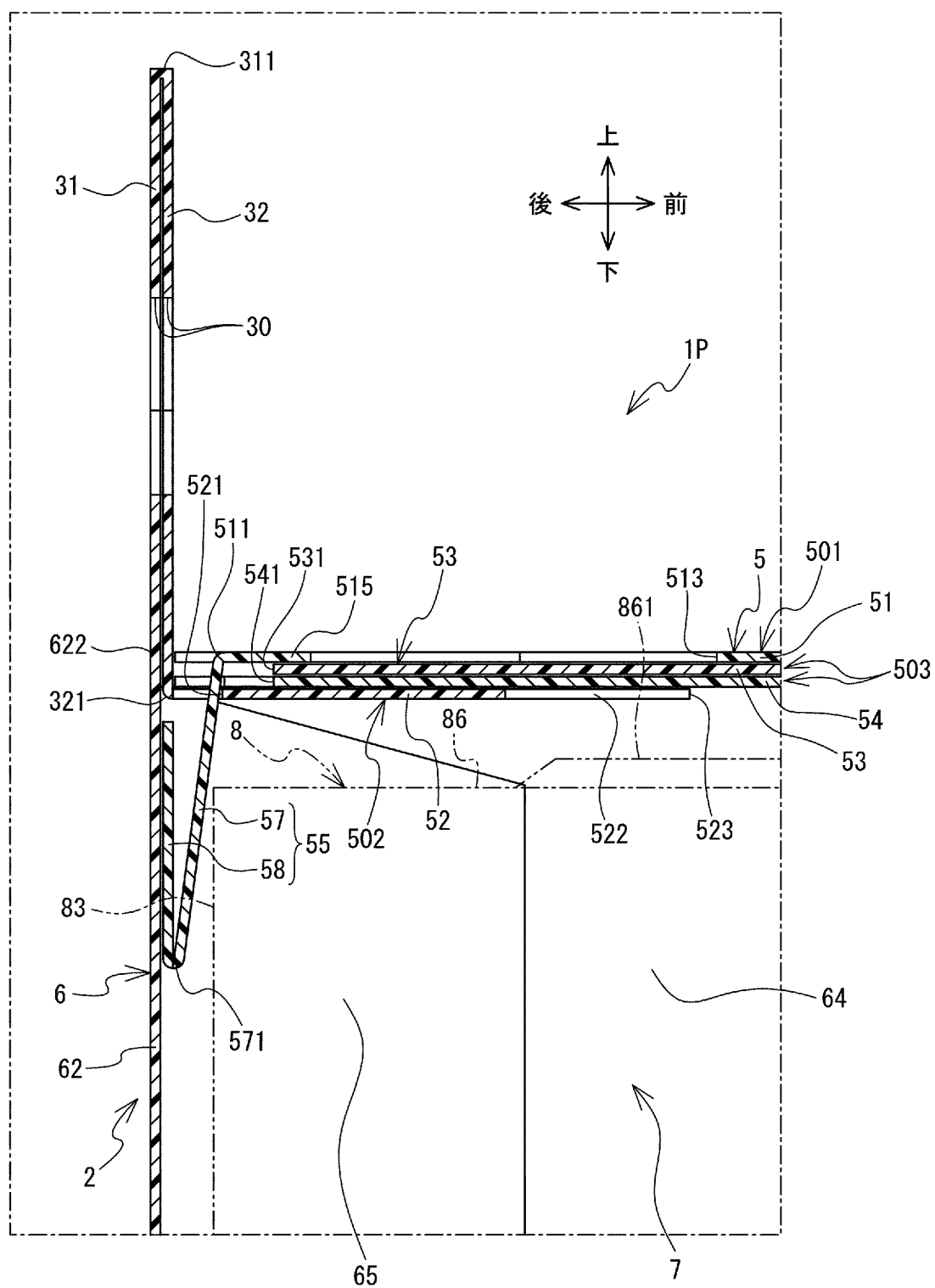
[図68]



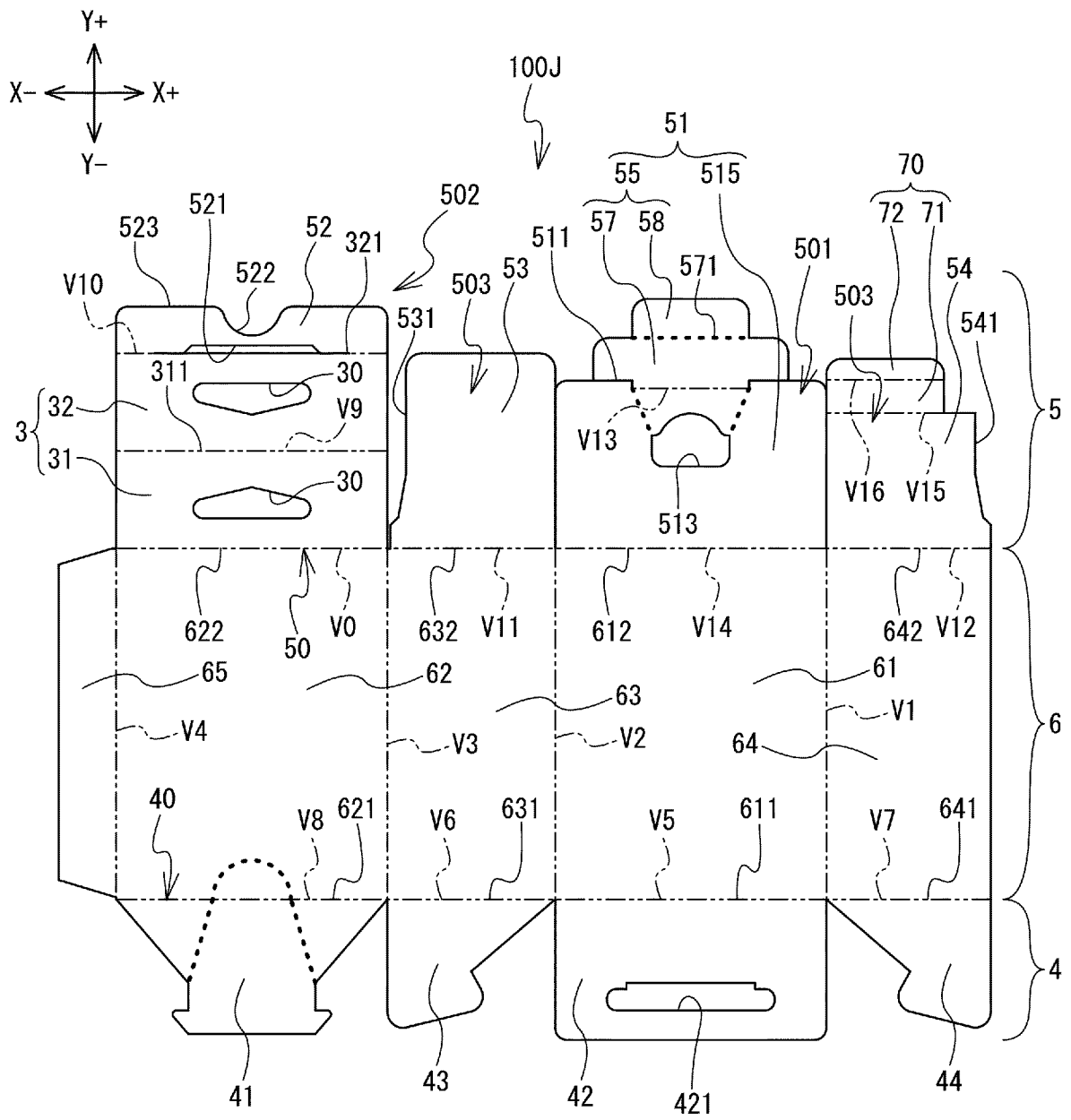
[図69]



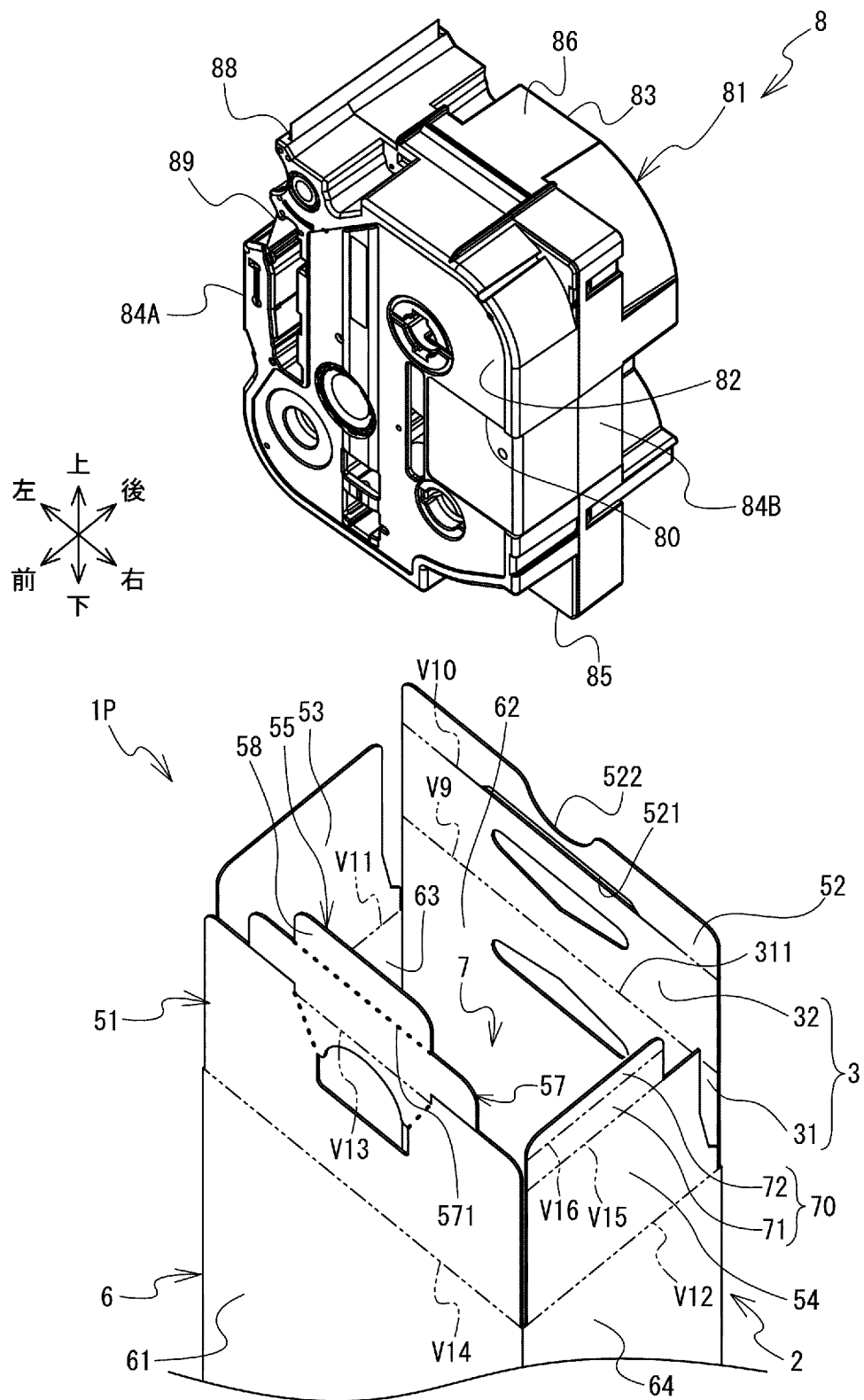
[図70]



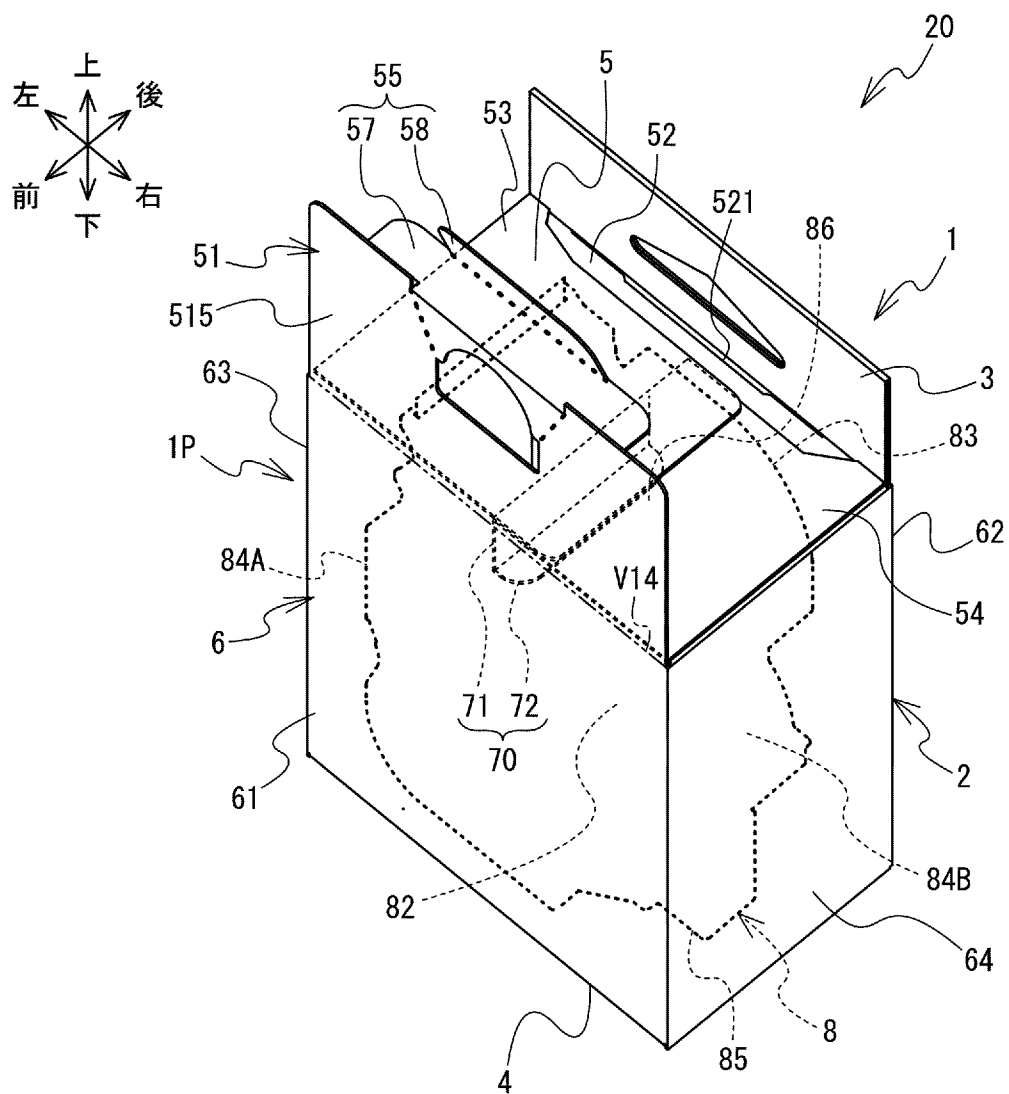
[図71]



[図72]

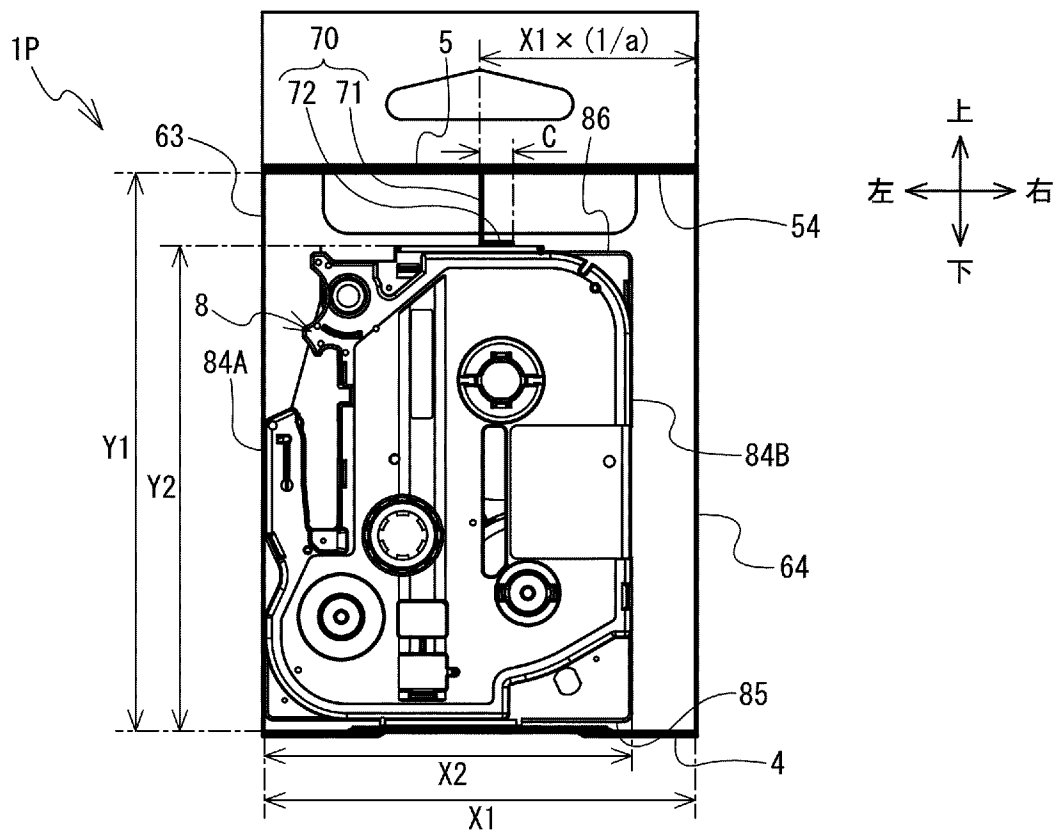


[図73]

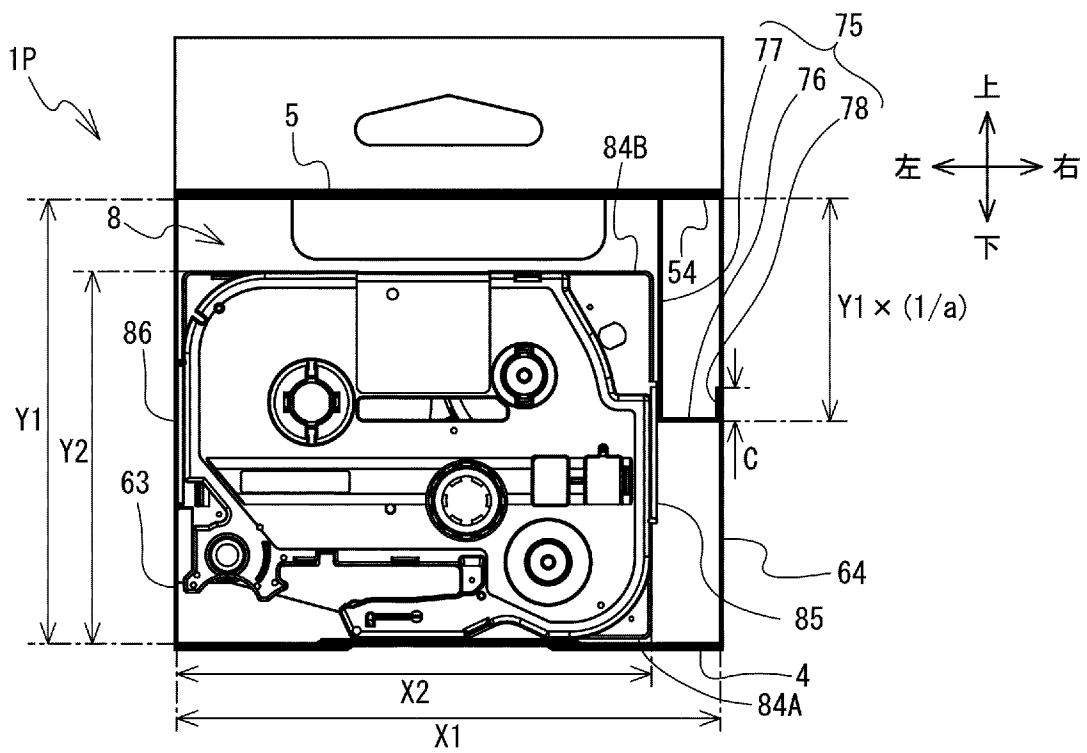


[図74]

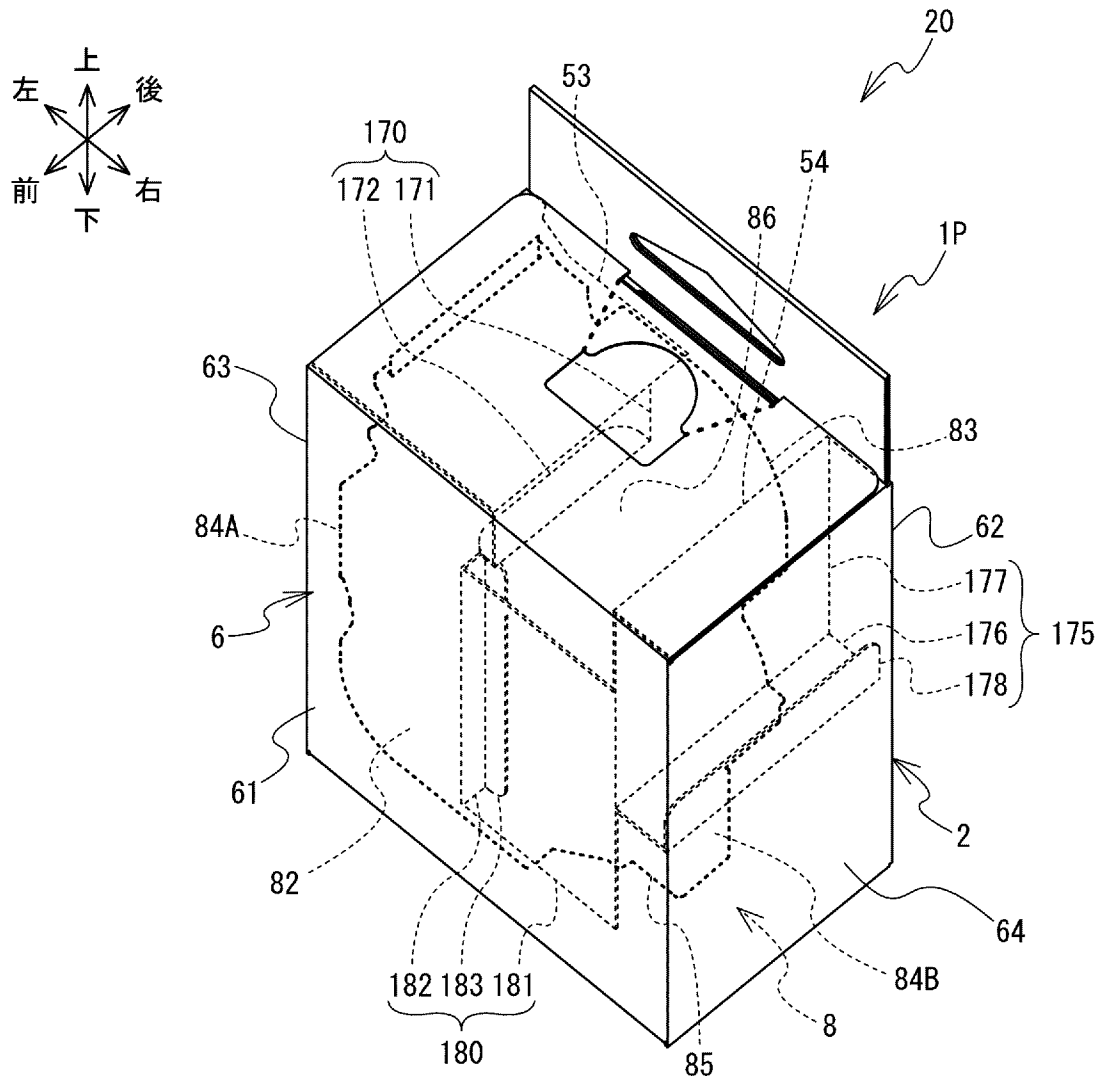
(A)



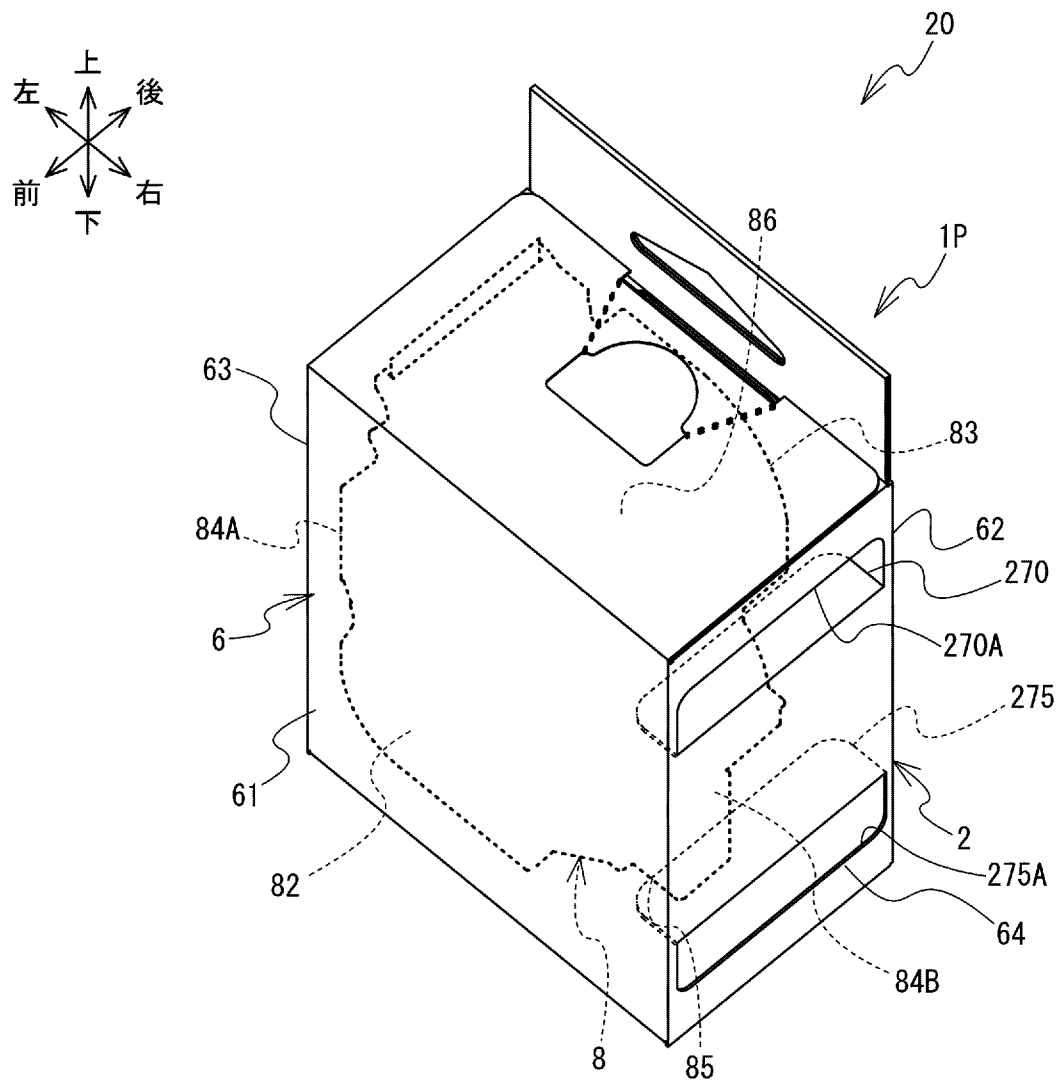
(B)



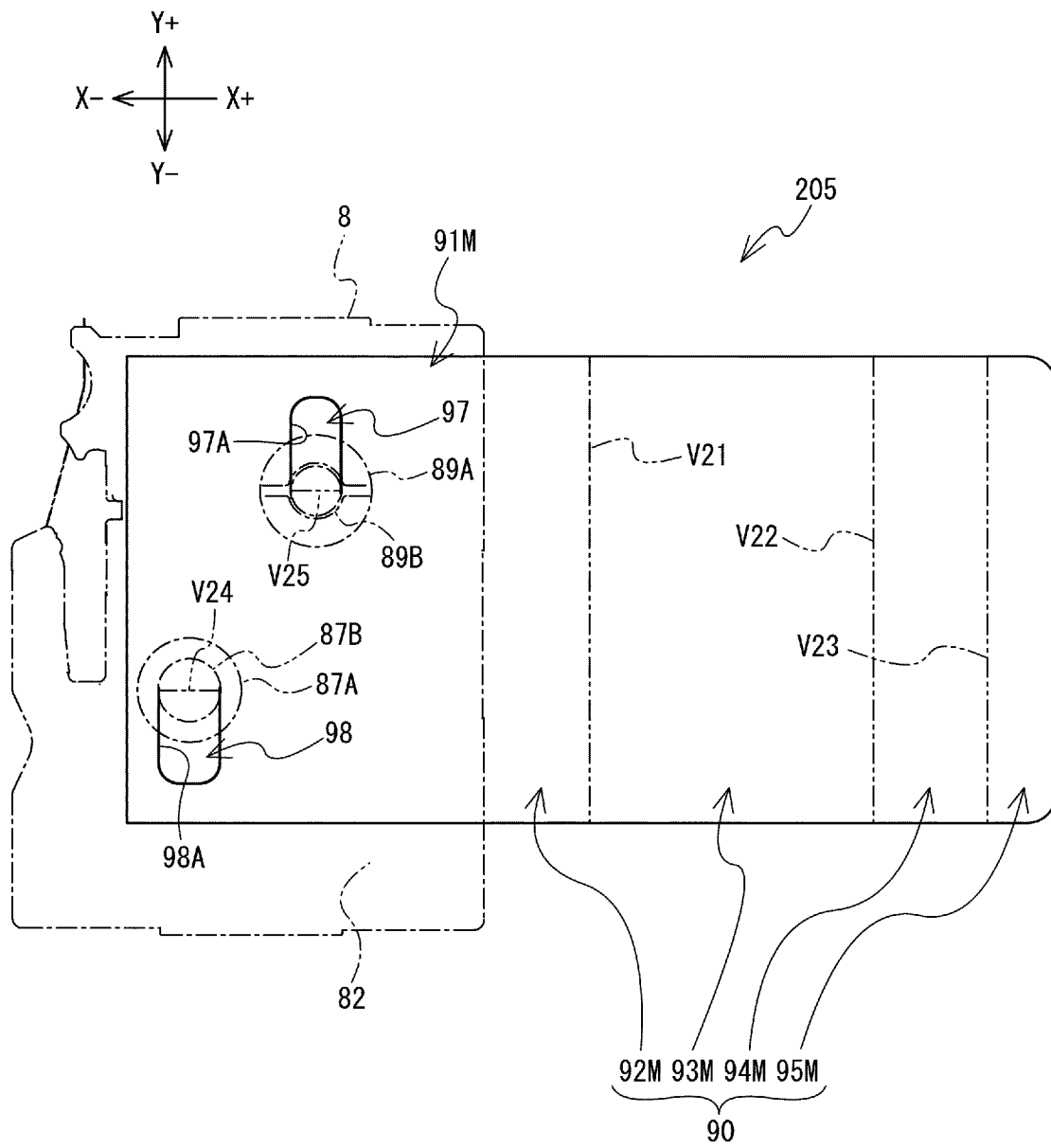
[図75]



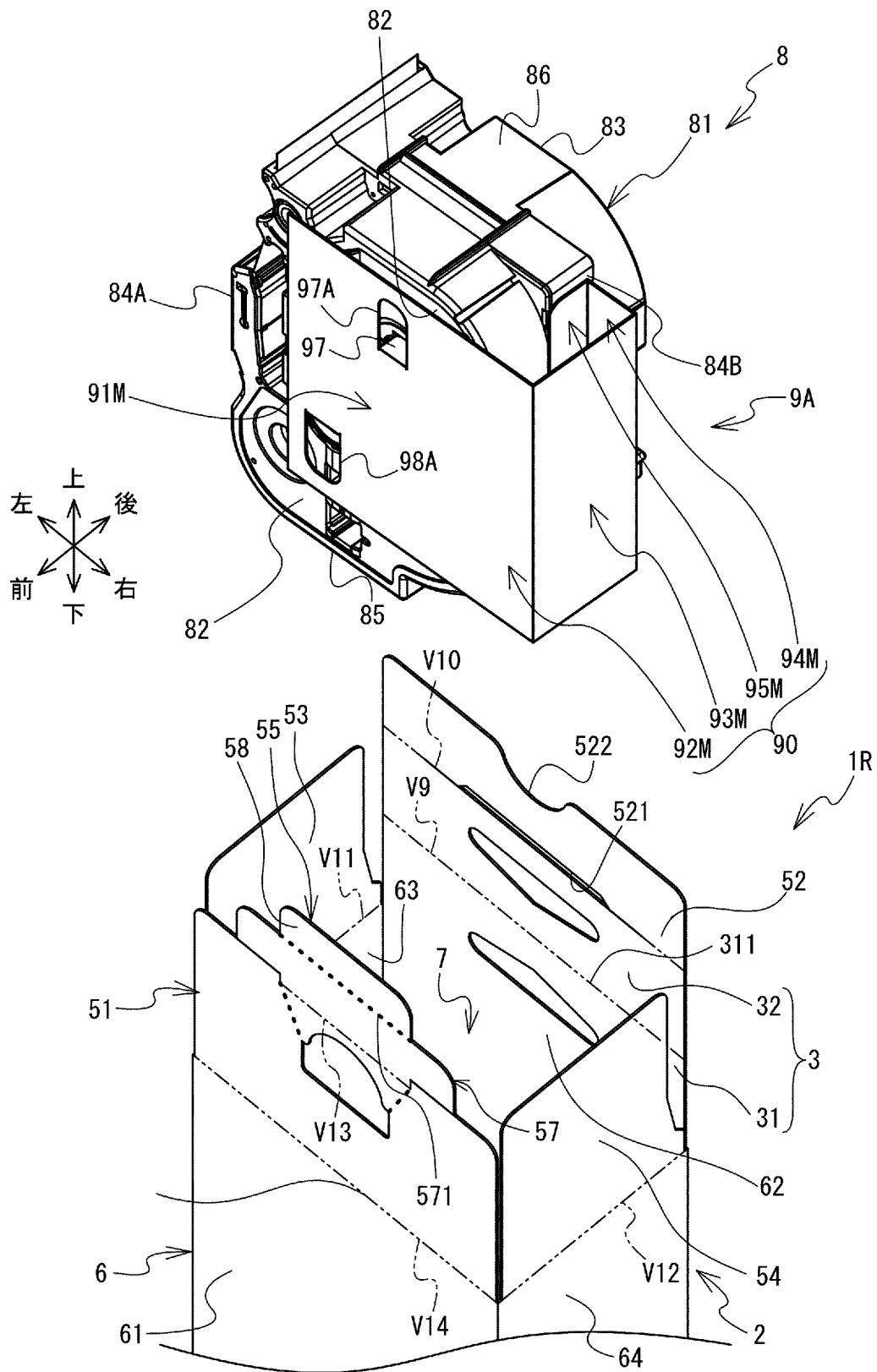
[図76]



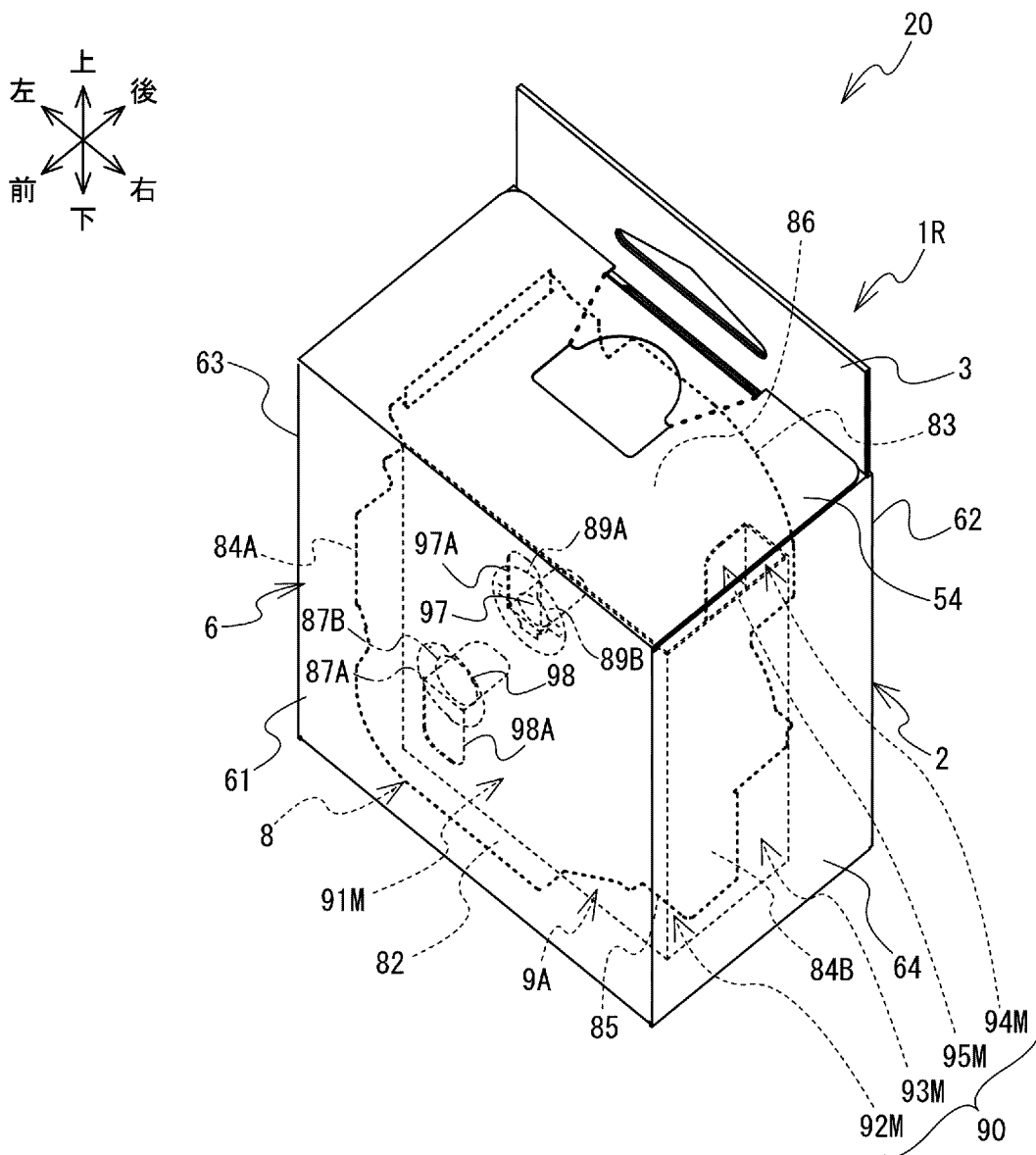
[図77]



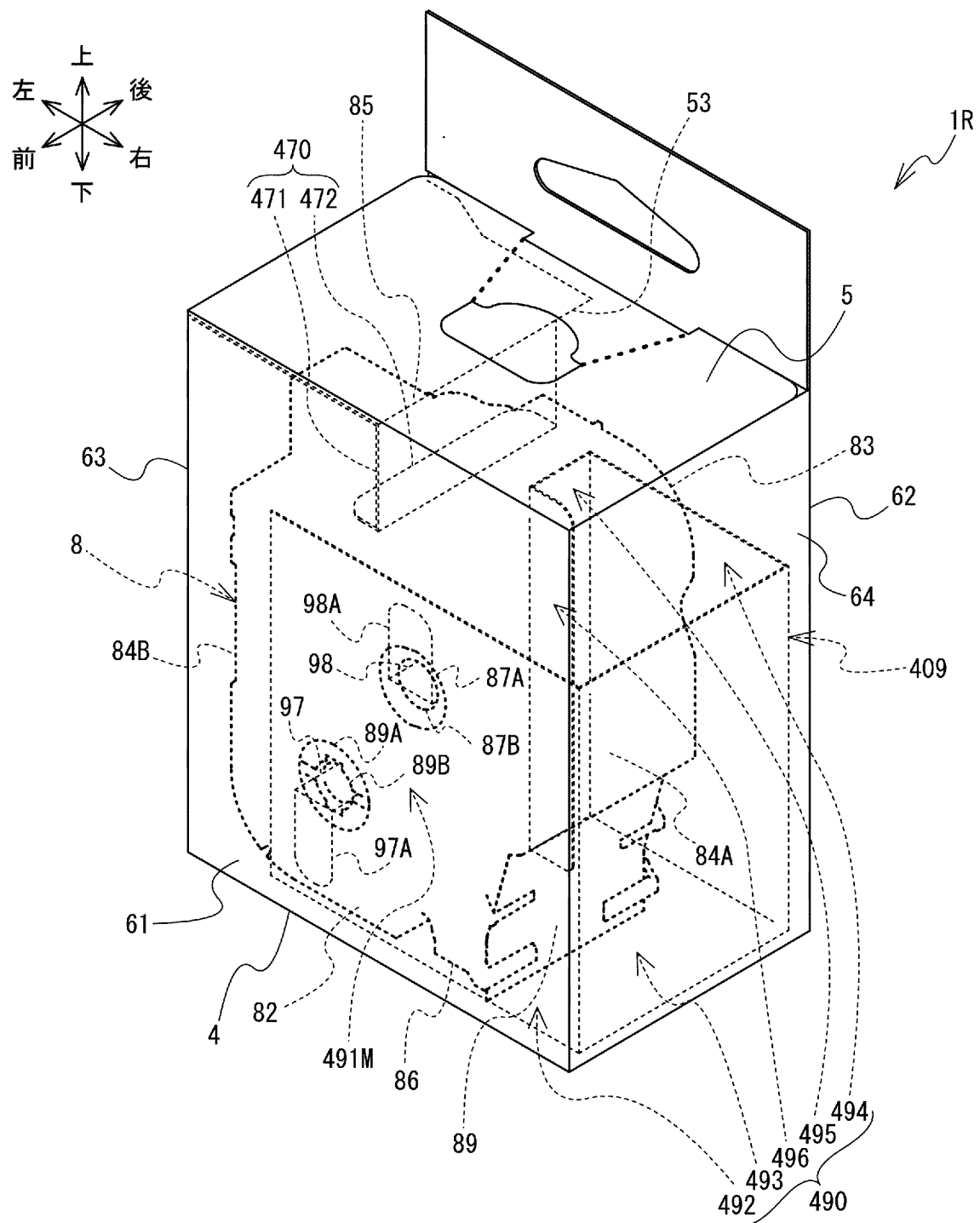
[図78]



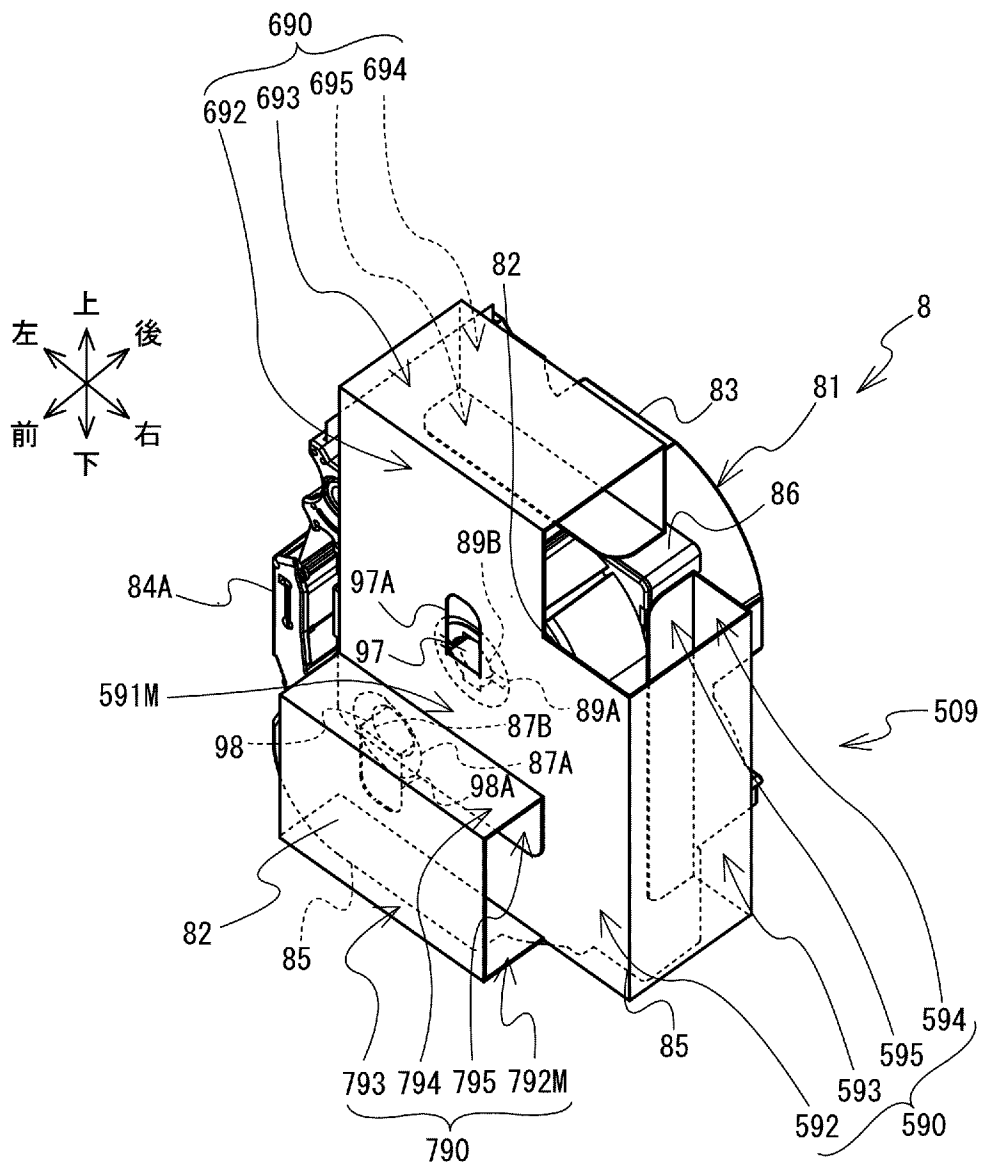
[図79]



[図80]



[図81]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2024/019661

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER B65D 5/56 (2006.01)i; B65D 5/10 (2006.01)i; B65D 5/44 (2006.01)i; B65D 5/52 (2006.01)i; B65D 5/54 (2006.01)i; B65D 75/58 (2006.01)i; B65D 75/62 (2006.01)i; B65D 77/26 (2006.01)i; B65D 85/67 (2006.01)i FI: B65D5/56 D; B65D5/54 301D; B65D5/10 C; B65D5/52 H; B65D75/62 B; B65D75/58; B65D85/67 Z; B65D5/44 E; B65D77/26 A According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC		
B. FIELDS SEARCHED Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) B65D5/56; B65D5/10; B65D5/44; B65D5/52; B65D5/54; B65D75/58; B65D75/62; B65D77/26; B65D85/67 Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Published examined utility model applications of Japan 1922-1996 Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2024 Registered utility model specifications of Japan 1996-2024 Published registered utility model applications of Japan 1994-2024 Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)		
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2012-166822 A (TOPPAN PRINTING CO., LTD.) 06 September 2012 (2012-09-06) paragraphs [0013], [0021], fig. 3-5	1, 25
Y		13, 27
A		2-11
X	JP 2015-164854 A (BROTHER KOGYO KABUSHIKI KAISHA) 17 September 2015 (2015-09-17) paragraphs [0046]-[0047], [0062], fig. 1-4, 6	1, 25
Y		1-4, 12-21, 25-28
A		5-11
Y	JP 7-195808 A (ALPS ELECTRIC CO., LTD.) 01 August 1995 (1995-08-01) paragraphs [0017]-[0026], fig. 1-6	1-4, 13, 25, 27
A		5-11
☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☒ See patent family annex.		
* Special categories of cited documents: “A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance “D” document cited by the applicant in the international application “E” earlier application or patent but published on or after the international filing date “L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) “O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means “P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed “T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention “X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone “Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art “&” document member of the same patent family		
Date of the actual completion of the international search 06 August 2024		Date of mailing of the international search report 13 August 2024
Name and mailing address of the ISA/JP Japan Patent Office (ISA/JP) 3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915 Japan		Authorized officer Telephone No.

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 70546/1983 (Laid-open No. 177069/1984) (DAINIPPON PRINTING CO., LTD.) 27 November 1984 (1984-11-27), specification, p. 3, lines 8-14, fig. 1-2	1-4, 12, 14-21, 26, 28 5-11
Y	JP 2012-525283 A (DYMO) 22 October 2012 (2012-10-22) paragraphs [0013], fig. 1, 4	1, 12, 14-21, 26, 28
Y	JP 2009-154890 A (ONOBÉ PAPER BOX MFG CO., LTD.) 16 July 2009 (2009-07-16) paragraph [0021], fig. 4	13, 18-21, 27
Y	JP 2009-208785 A (BROTHER KOGYO KABUSHIKI KAISHA) 17 September 2009 (2009-09-17) paragraphs [0047], [0055], fig. 1-2, 4, 8-9	14-21, 28

Box No. III Observations where unity of invention is lacking (Continuation of item 3 of first sheet)

This International Searching Authority found multiple inventions in this international application, as follows:

The invention in claims 1-24 has the common technical feature below, which is specified in claim 1.

“A printing cassette storage comprising a printing cassette that is attached to a printing device and used for printing on a printing medium, and a storage box that stores the printing cassette, wherein the storage box or the printing cassette includes a suppression member that suppresses the generation of paper dust from an inner surface of the storage box.”

Here, document 1 (JP 2012-166822 A) and document 2 (JP 2015-164854 A) discloses storing in a storage box via a member for positioning a printing cassette (a toner cartridge in document 1, and a tape cartridge in document 2). The positioning member prevents the box and the printing cassette from rubbing against each other, and thus the positioning member corresponds to a suppression member in the invention in claim 1.

According to this, the above-described common technical feature is the matter described in documents 1 and 2, and thus cannot be said to be a special technical feature.

Then, when the special technical feature of the dependent claim of claim 1 is determined at the time of additional fee payment order, it is considered that seven inventions related to each technical feature to be described below are included.

- Invention 1: invention in claims 1-11 and in claim 25

The invention in claims 2-11 has the common technical feature of providing a paper-made suppression member including a protection portion at a position facing a protrusion of a printing cassette, and is thus classified as invention 1.

The invention in claims 1 and 25 that does not have a special technical feature is classified as invention 1.

- Invention 2: Invention in claim 12 and invention in claim 26

The invention in claims 12 and 26 has the common technical feature of having a coating portion on a storage box, and is thus classified as invention 2.

- Invention 3: Invention in claim 13 and invention in claim 27

The invention in claims 13 and 27 has the common technical feature in which a storage box includes a fold-over flap, and is thus classified as invention 3.

- Invention 4: invention in claims 14-21 and in claim 28

The invention in claims 14-21 and 28 has the common technical feature in which a storage box has perforations, and is thus classified as invention 4.

- Invention 5: invention in claim 22

The invention in claim 22 has the technical feature in which a printing cassette has at least one recess, and a storage box has at least one protrusion piece that is inserted into the recess, and is thus classified as invention 5.

- Invention 6: invention in claim 23

The invention in claim 23 has the technical feature of comprising a pressing portion that is formed by folding a part of a storage box and presses a printing cassette to an inner surface of the storage box, and is thus classified as invention 6.

- Invention 7: invention in claim 24

The invention in claim 24 has the technical feature of having an attachment member that includes a pressing portion that presses a printing cassette to another inner surface opposed to a storage box by coming into contact with the inner surface of the storage box, and thus is classified as invention 7.

In this way, the invention in claim 1 does not have a special technical feature, and inventions 1-7 have little technical relevance to each other. The inventions 1-7 do not have a common special technical feature.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2024/019661

Box No. III Observations where unity of invention is lacking (Continuation of item 3 of first sheet)

1. ☐ As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers all searchable claims.
2. ☐ As all searchable claims could be searched without effort justifying additional fees, this Authority did not invite payment of additional fees.
3. ☒ As only some of the required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.: **Claims 1-11 and 25 (invention 1), claim 12 and 26 (invention 2), claim 13 and 27 (invention 3), and claim 14-21 and 28 (invention 4).**
(315,000 yen was paid for the 3 additional inventions as additional search fee, and thus inventions 2-4 were searched in addition to invention 1.)
4. ☐ No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this international search report is restricted to the invention first mentioned in the claims; it is covered by claims Nos.:

Remark on Protest

- ☐ The additional search fees were accompanied by the applicant's protest and, where applicable, the payment of a protest fee.
- ☐ The additional search fees were accompanied by the applicant's protest but the applicable protest fee was not paid within the time limit specified in the invitation.
- ☒ No protest accompanied the payment of additional search fees.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.
PCT/JP2024/019661

Patent document cited in search report			Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
JP	2012-166822	A	06 September 2012	(Family: none)	
JP	2015-164854	A	17 September 2015	(Family: none)	
JP	7-195808	A	01 August 1995	(Family: none)	
JP	59-177069	U1	27 November 1984	(Family: none)	
JP	2012-525283	A	22 October 2012	US 2012/0057917	A1
				paragraph [0046], fig. 1, 4	
				WO 2010/125126	A1
				CN 102458867	A
JP	2009-154890	A	16 July 2009	(Family: none)	
JP	2009-208785	A	17 September 2009	US 2009/0218389	A1
				paragraphs [0043], [0051], fig. 1-2, 4, 8-9	
				CN 101519144	A

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

B65D 5/56(2006.01)i; B65D 5/10(2006.01)i; B65D 5/44(2006.01)i; B65D 5/52(2006.01)i;
B65D 5/54(2006.01)i; B65D 75/58(2006.01)i; B65D 75/62(2006.01)i; B65D 77/26(2006.01)i;
B65D 85/67(2006.01)i
FI: B65D5/56 D; B65D5/54 301D; B65D5/10 C; B65D5/52 H; B65D75/62 B; B65D75/58; B65D85/67 Z; B65D5/44
E; B65D77/26 A

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

B65D5/56; B65D5/10; B65D5/44; B65D5/52; B65D5/54; B65D75/58; B65D75/62; B65D77/26; B65D85/67

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報1922-1996年
日本国公開実用新案公報1971-2024年
日本国実用新案登録公報1996-2024年
日本国登録実用新案公報1994-2024年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	JP 2012-166822 A（凸版印刷株式会社）06.09.2012（2012-09-06） 段落 [0013]、[0021]、図3-5	1, 25
Y		13, 27
A		2-11
X	JP 2015-164854 A（ブラザー工業株式会社）17.09.2015（2015-09-17） 段落 [0046] - [0047]、[0062]、図1-4、6	1, 25
Y		1-4, 12-21, 25-28
A		5-11
Y	JP 7-195808 A（アルプス電気株式会社）01.08.1995（1995-08-01） 段落 [0017] - [0026]、図1-6	1-4, 13, 25, 27
A		5-11

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☒ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー
“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的技术水準を示すもの
“D” 国際出願で出願人が先行技術文献として記載した文献
“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
“I” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献

“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
“X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
“Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
“&” 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日
06.08.2024

国際調査報告の発送日
13.08.2024

名称及びあて先
日本国特許庁(ISA/JP)
〒100-8915
日本国
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

権限のある職員（特許庁審査官）

森本 哲也 3N 4029

電話番号 03-3581-1101 内線 3361

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y A	日本国実用新案登録出願58-70546号(日本国実用新案登録出願公開59-177069号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム(大日本印刷株式会社) 27.11.1984 (1984-11-27) 明細書第3 ページ第8 - 1 4 行目、第1 - 2 図	1-4, 12, 14- 21, 26, 28 5-11
Y	JP 2012-525283 A (ダイモ) 22.10.2012 (2012 - 10 - 22) 段落 [0 0 1 3]、図1、4	1, 12, 14- 21, 26, 28
Y	JP 2009-154890 A (株式会社小野部製函所) 16.07.2009 (2009 - 07 - 16) 段落 [0 0 2 1]、図4	13, 18-21, 27
Y	JP 2009-208785 A (ブラザー工業株式会社) 17.09.2009 (2009 - 09 - 17) 段落 [0 0 4 7]、[0 0 5 5]、図1 - 2、4、8 - 9	14-21, 28

第III欄 発明の単一性が欠如しているときの意見（第1ページの3の続き）

次に述べるようにこの国際出願に二以上の発明があるとこの国際調査機関は認めた。

請求項1－24に係る発明は、請求項1で特定している事項である、以下の共通の技術的特徴を有している。

「印刷装置に装着されて被印刷媒体への印刷に用いられる印刷カセットと、
前記印刷カセットを収納する収納箱と
を備えた印刷カセット収納体であって、
前記収納箱または前記印刷カセットは、前記収納箱の内面から紙紛が発生することを抑制する抑制部材を有することを特徴とする印刷カセット収納体。」

ここで、文献1（JP 2012-166822 A）及び文献2（JP 2015-164854 A）には、印刷カセット（文献1においてはトナーカートリッジ、文献2においてはテープカートリッジ）を位置決めする部材を介して収納箱に格納ステンが記載されている。位置決めする部材によって、箱と印刷カセットとの擦れが防止されていることから、当該位置決めする部材は、請求項1に係る発明における抑制部材に相当する。

そうしてみると、上述した共通の技術的特徴は、文献1及び文献2に記載されている事項であるから、特別な技術的特徴とはいえない。

そこで、請求項1の従属請求項について手数料の追加納付命令時点での特別な技術的特徴を判断すると、以下に示す各技術的特徴に関連する7の発明が含まれるものと認められる。

- ・発明1 請求項1－11に係る発明、請求項25に係る発明
請求項2－11に係る発明は、印刷カセットの突起部に対向する位置に保護部を備えた紙製の抑制部材を有する、という共通の技術的特徴を有しているため、発明1に区分した。
また、特別な技術的特徴を有しない請求項1、25に係る発明も、発明1に区分した。
- ・発明2 請求項12に係る発明、請求項26に係る発明
請求項12、26に係る発明は、収納箱にコーティング部を有する、という共通の技術的特徴を有しているため、発明2に区分した。
- ・発明3 請求項13に係る発明、請求項27に係る発明
請求項13、27に係る発明は、収納箱が折返しフラップ等を有する、という共通の技術的特徴を有しているため、発明3に区分した。
- ・発明4 請求項14－21に係る発明、請求項28に係る発明
請求項14－21、28に係る発明は、収納箱がミシン目等を有する、という共通の技術的特徴を有しているため、発明4に区分した。
- ・発明5 請求項22に係る発明
請求項22に係る発明は、印刷カセットが少なくとも1つの凹部を有し、収納箱が凹部に挿入される少なくとも1つの突出片を有する、という技術的特徴を有しているため、発明5に区分した。
- ・発明6 請求項23に係る発明
請求項23に係る発明は、収納箱の一部が折り曲げられることによって形成され、印刷カセットを収納箱の内面に押し付ける押し付け部を備える、という技術的特徴を有しているため、発明6に区分した。
- ・発明7 請求項24に係る発明
請求項24に係る発明は、収納箱の内面と接触することにより印刷カセットを収納箱の対向する他の内面に押し付ける押し付け部を備える装着部材を有する、という技術的特徴を有しているため、発明7に区分した。

このように、請求項1に係る発明は特別な技術的特徴を有しておらず、発明1－7は、各々の技術的関連性が低い。さらに、発明1－7は、互いに共通の特別な技術的特徴を有していない。

第Ⅲ欄 発明の単一性が欠如しているときの意見（第 1 ページの 3 の続き）

1. ☐ 出願人が必要な追加調査手数料をすべて期間内に納付したので、この国際調査報告は、すべての調査可能な請求項について作成した。
2. ☐ 追加調査手数料を要求するまでもなく、すべての調査可能な請求項について調査することができたので、追加調査手数料の納付を求めなかった。
3. ☒ 出願人が必要な追加調査手数料を一部のみしか期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、手数料の納付のあった次の請求項のみについて作成した。請求項 1-11、25（発明 1）、請求項 12、26（発明 2）、請求項 13、27（発明 3）及び請求項 14-21、28（発明 4）。
（追加調査手数料として、3 の追加発明分の金額である 315,000 円の納付があったため、発明 1 に加え、発明 2-4 を調査対象とした。）
4. ☐ 出願人が必要な追加調査手数料を期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、請求の範囲の最初に記載されている発明に係る次の請求項について作成した。

追加調査手数料の異議の
申立てに関する注意

- ☐ 追加調査手数料及び、該当する場合には、異議申立手数料の納付と共に、出願人から異議申立てがあった。
- ☐ 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがあったが、異議申立手数料が納付命令書に示した期間内に支払われなかった。
- ☒ 追加調査手数料の納付はあったが、異議申立てはなかった。

国際調査報告
パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2024/019661

引用文献			公表日	パテントファミリー文献	公表日
JP	2012-166822	A	06.09.2012	(ファミリーなし)	
JP	2015-164854	A	17.09.2015	(ファミリーなし)	
JP	7-195808	A	01.08.1995	(ファミリーなし)	
JP	59-177069	U1	27.11.1984	(ファミリーなし)	
JP	2012-525283	A	22.10.2012	US 2012/0057917 A1 段落 [0 0 4 6]、図 1、 4 WO 2010/125126 A1 CN 102458867 A	
JP	2009-154890	A	16.07.2009	(ファミリーなし)	
JP	2009-208785	A	17.09.2009	US 2009/0218389 A1 段落 [0 0 4 3]、[0 0 5 1]、図 1 - 2、4、8 - 9 CN 101519144 A	